

高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊

# 鹿伏・中所遺跡 I

2008.1

香川県教育委員会

高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊

# 鹿伏・中所遺跡 I

2008.1

香川県教育委員会



(1) 鹿伏・中所遺跡周辺 空中写真



(2) II区 第3遺構面 竪穴住居跡群 (東から)





(1) Ⅲ区 竪穴住居跡群 (西から)



(2) I区 堰状遺構02 検出状況





(1) STa02・04・08・09・11 土器棺①



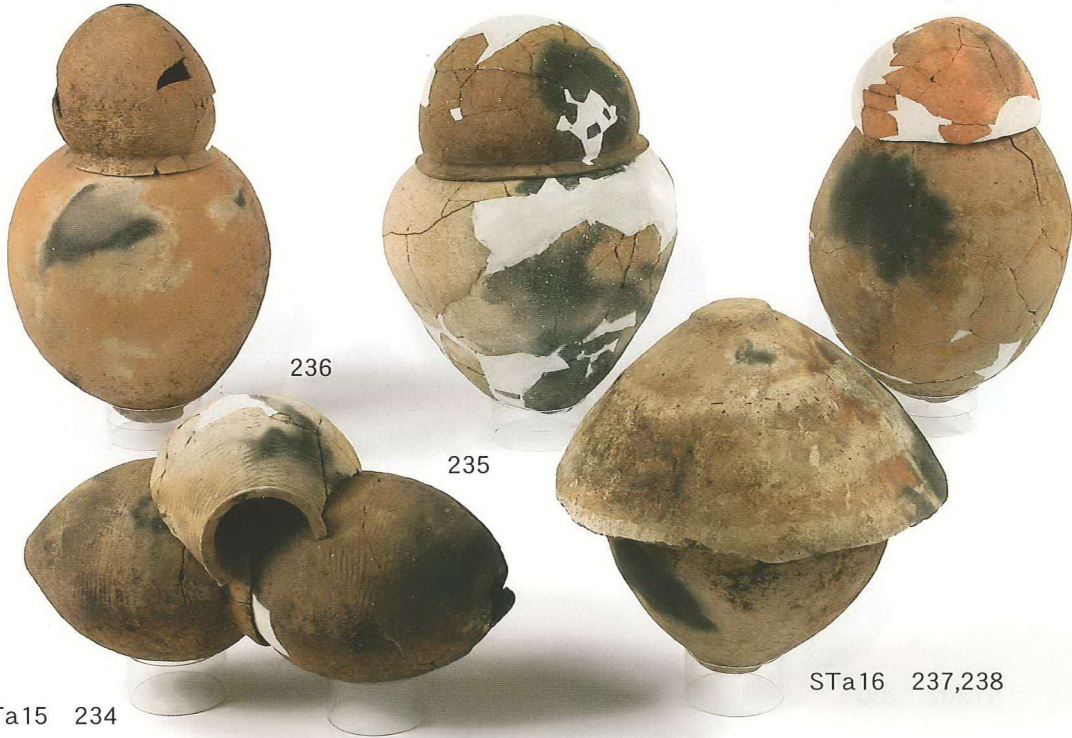
(2) STa02・04・08・09・11 土器棺②

卷頭図版 4

STa17 239,240

STa01 197,198

STa13 227,228



STa15 234

STa16 237,238

(1) STa01・13・15・16・17 土器棺①

STa17 240

STa01 198

STa13 228



STa15 234

STa15 238

STa15 235

(2) STa01・13・15・16・17 土器棺②





堰状遺構出土 柱状木製品

## 序 文

鹿伏・中所遺跡は県立三木高等学校の新設に伴い発掘調査を行った、木田郡三木町平木・同鹿伏に所在する遺跡です。発掘調査は香川県教育委員会からの委託で、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成6年7月から開始し、平成7年9月まで継続して実施しました。

発掘調査の対象となる範囲は広く、弥生時代中期から古墳時代までの遺構と遺物が多量に出土しました。注目されるものとしては、弥生時代の約100棟の住居跡と、当時の墓地と考えられる区域で確認された土器棺墓群などがあります。また、集落のそばには、弥生時代から古墳時代ころの川跡がみつきり、その川跡からは集落で不要になった大量の土器や、水田に水を導くために作られた堰の跡がみつきりました。これらの調査成果から鹿伏・中所遺跡は、三木町における代表的な弥生時代の集落跡であることが分かりました。

整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成18年度から開始し、その成果を「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 鹿伏・中所遺跡Ⅰ」として刊行することになりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの間、香川県教育委員会事務局高校教育課及び関係諸機関、地元関係者各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年1月

香川県埋蔵文化財センター  
所長 渡部 明夫



## 例 言

1. 本報告書は、高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業で、木田郡三木町平木・同鹿伏に所在する鹿伏・中所遺跡（ししぶせ・なかしよいせき）の調査のうちⅠ・Ⅱ・Ⅲ区、南水路②③の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会事務局高校教育課高校新設準備室から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課が調査主体となり、現地調査は平成6・7年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当し、整理作業については香川県埋蔵文化財センターが平成18年度に担当した。
3. 発掘調査の期間及び体制は「第Ⅰ章 第2節 調査の経過」を参照していただきたい。
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）香川県教育委員会事務局高校教育課、香川県土木部建築課、香川県長尾土木事務所、三木町、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。  
本報告書の執筆・編集は西村尋文が担当した。
6. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第Ⅳ系（日本測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。  
SH：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SA：柵列跡 SP：柱穴跡 SK：土坑  
SD：溝状遺構 ST：墓 SX：不整形遺構 SR：自然河川跡
9. 遺物の実測図中に記載している記号は以下の事を表す。  
①土器の実測図中に記載している一点破線は黒斑の範囲を表す。②木製品の一点破線は炭化している範囲を表している。③石器の側縁部に記載している↔はツブレの範囲を表している。④石器の黒く塗りつぶしているのは新しい欠損部分を表す。
10. 報告遺構名は、発掘調査時に各調査区単位で付けられていた遺構記号と番号を、遺構内容を吟味して、a～dの整理区画単位で「01」から始まる通し番号により再整理を行った。また、整理区画単位で通し番号を付けた場合、同一番号が多数生じ遺構の所在地が分からなくなるため、個別の整理区画が分かるように、報告遺構名中に整理区画名を記入し「01」から始まる通し番号を付けることにした。平成18年度の整理区域にあたるⅠ～Ⅲ区、南水路②③は「整理区画a」にあたるため、遺構記号と遺構番号の間に整理区画を表す「a」を記入したのちに、「01」から始まる通し番号を付けた。（例：SBa01）
11. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
12. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
13. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に分析と保存処理を委託した。  
樹種同定……………（株）古環境研究所  
木製品の保存処理・樹種同定……………（株）吉田生物研究所

# 本文目次

第I章 調査の経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第II章 遺跡の立地と環境	
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	9
第III章 調査の成果	
第1節 調査と整理の方法	12
第2節 基本層位	14
第3節 I・II・III区、南水路②③の調査	
1. 概要	16
2. 遺構・遺物	
(1) 竪穴住居跡	19
(2) 掘立柱建物跡・柵列跡	53
(3) 柱穴跡	58
(4) 土坑跡	61
(5) 土器棺墓跡	69
(6) 不整形遺構	85
(7) 溝状遺構	89
(8) 自然河川跡	108
(9) 包含層出土遺物	151
第IV章 自然科学分析	
第1節 鹿伏・中所遺跡における樹種同定I	167
第2節 鹿伏・中所遺跡における樹種同定II	179
第V章 まとめ	181



## 挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図	1	第 51 図	土坑出土遺物(1)	66
第 2 図	調査区割図	3	第 52 図	土坑出土遺物(2)	67
第 3 図	平成18年度整理区域図	5	第 53 図	土器棺墓分布図	70
第 4 図	鹿伏・中所遺跡周辺地形分類図	8	第 54 図	STa01~08平・断面図	73
第 5 図	遺跡分布図	10	第 55 図	STa01~04出土遺物	74
第 6 図	整理区画割図	13	第 56 図	STa05~07出土遺物	75
第 7 図	Ⅱ・Ⅲ区北壁土層図	15	第 57 図	STa09~14平・断面図	77
第 8 図	第 1・2 遺構面概略図	17	第 58 図	STa08~10出土遺物	78
第 9 図	第 3 遺構面概略図	18	第 59 図	STa11・13出土遺物	79
第 10 図	SHa01平・断面図	20	第 60 図	STa12・14・15出土遺物	80
第 11 図	SHa01・03・05・06出土遺物	20	第 61 図	STa15~17平・断面図	83
第 12 図	SHa02・03平・断面図	21	第 62 図	STa12・14・16・17出土遺物	84
第 13 図	SHa03・09出土遺物	22	第 63 図	SXa07~11・13~15平・断面図	86
第 14 図	SHa04・05・06平・断面図	23	第 64 図	不整形遺構出土遺物(1)	87
第 15 図	SHa07平・断面図	24	第 65 図	不整形遺構出土遺物(2)	88
第 16 図	SHa08平・断面図	25	第 66 図	SDa23・31・32・67断面図	92
第 17 図	SHa09平・断面図	26	第 67 図	SDa33・34・37・41~43・48・49・51・53・ 54・56・58・59・62・63・66断面図	93
第 18 図	SHa10平・断面図	28	第 68 図	SDa18・23・24・29・32・41・50・ 52・54・58・59・62出土遺物	94
第 19 図	SHa11平・断面図	29	第 69 図	SDa34出土遺物	95
第 20 図	SHa08~12出土遺物	30	第 70 図	SDa45・47平・断面図	97
第 21 図	SHa10出土遺物	31	第 71 図	SDa47出土遺物(1)	98
第 22 図	SHa12平・断面図(1)	32	第 72 図	SDa47出土遺物(2)	99
第 23 図	SHa12平・断面図(2)	33	第 73 図	SDa23・34・47出土遺物	100
第 24 図	SHa13・14平・断面図	35	第 74 図	SDa64・65断面図	103
第 25 図	SHa13出土遺物(1)	36	第 75 図	SDa64出土遺物(1)	104
第 26 図	SHa13(2)・14出土遺物	37	第 76 図	SDa64(2)・66・67(1)出土遺物	105
第 27 図	SHa15平・断面図	38	第 77 図	SDa67出土遺物(2)	106
第 28 図	SHa15・16・21出土遺物	39	第 78 図	SDa67出土遺物(3)	107
第 29 図	SHa16平・断面図	41	第 79 図	SDa67出土遺物(4)	108
第 30 図	SHa17~20平・断面図	42	第 80 図	SDa59・64・67出土遺物	108
第 31 図	SHa21平・断面図	43	第 81 図	Ⅱ区南壁土層図	109・110
第 32 図	SHa22・23平・断面図(1)	44	第 82 図	SRa01出土遺物(1)	112
第 33 図	SHa22・23平・断面図(2)	45	第 83 図	SRa01出土遺物(2)	113
第 34 図	SHa22・23・25出土遺物	45	第 84 図	SRa01出土遺物(3)	114
第 35 図	SHa24平・断面図	46	第 85 図	SRa01出土遺物(4)	115
第 36 図	SHa25・26平・断面図	47	第 86 図	堰状遺構01~05出土状況図	116
第 37 図	SHa27・28平・断面図	49	第 87 図	堰状遺構01~05平・断面図	117
第 38 図	SHa27・28断面図	50	第 88 図	堰状遺構出土遺物(1)	119
第 39 図	SHa11・13~16・19・28出土遺物	51	第 89 図	堰状遺構出土遺物(2)	120
第 40 図	SHa27・28出土遺物	52	第 90 図	堰状遺構出土遺物(3)	121
第 41 図	SBa01・02平・断面図	54	第 91 図	堰状遺構出土遺物(4)	122
第 42 図	SBa03・04平・断面図	55	第 92 図	堰状遺構出土遺物(5)	123
第 43 図	SBa05・06平・断面図	56	第 93 図	堰状遺構出土遺物(6)	124
第 44 図	SAA01平・断面図	57	第 94 図	堰状遺構出土遺物(7)	125
第 45 図	柱穴平・断面図	58	第 95 図	堰状遺構出土遺物(8)	126
第 46 図	柱穴出土遺物	59	第 96 図	堰状遺構出土遺物(9)	127
第 47 図	SKa05~08・14~16平・断面図	62	第 97 図	Ⅲ区南壁・中央畦土層図	129・130
第 48 図	SKa17~20・23・24・26平・断面図	63	第 98 図	Ⅲ区西壁土層図	131・132
第 49 図	SKa27・28・30・31・33・ 34・36~38平・断面図	65	第 99 図	SRa02 B群・C群出土遺物	134
第 50 図	SKa40平・断面図	66			

第100 図 SRa02 D群出土遺物(1) ……	135	第115 図 SRa03 出土遺物(5) ……	151
第101 図 SRa02 D群出土遺物(2) ……	136	第116 図 包含層出土遺物(1) ……	152
第102 図 SRa02 D群出土遺物(3) ……	137	第117 図 包含層出土遺物(2) ……	153
第103 図 SRa02 D群(4)・北半部(1)出土遺物 ……	138	第118 図 包含層出土遺物(3) ……	154
第104 図 SRa02 北半部出土遺物(2) ……	139	第119 図 包含層出土遺物(4) ……	155
第105 図 SRa02 北半部出土遺物(3) ……	140	第120 図 包含層出土遺物(5) ……	156
第106 図 SRa02 北半部出土遺物(4) ……	141	第121 図 包含層出土遺物(6) ……	157
第107 図 SRa02 北半部(5)・南半部(1)出土遺物 ……	142	第122 図 包含層出土遺物(7) ……	158
第108 図 SRa02 南半部出土遺物(2) ……	143	第123 図 包含層出土遺物(8) ……	159
第109 図 SRa01・02 出土遺物 ……	144	第124 図 包含層出土遺物(9) ……	160
第110 図 SRa03 A群出土遺物(1) ……	146	第125 図 包含層出土遺物(10) ……	161
第111 図 SRa03 A群(2)・03(1)出土遺物 ……	147	第126 図 鹿伏・中所遺跡 第1・2 遺構面 遺構配置図 ……	163・164
第112 図 SRa03 出土遺物(2) ……	148	第127 図 鹿伏・中所遺跡 第3遺構面遺構 配置図 ……	165・166
第113 図 SRa03 出土遺物(3) ……	149		
第114 図 SRa03 出土遺物(4) ……	150		

## 表 目 次

第1 表 鹿伏・中所遺跡調査工程表 ……	4	第7 表 竪穴住居跡時期別一覧 ……	181
第2 表 鹿伏・中所遺跡整理事業工程表 ……	5	第8 表 鹿伏・中所遺跡出土土器観察表 ……	185
第3 表 平成6年度調査体制 ……	6	第9 表 鹿伏・中所遺跡出土木製品観察表 ……	216
第4 表 平成7年度調査体制 ……	6	第10 表 鹿伏・中所遺跡出土石器観察表 ……	219
第5 表 平成18年度調査体制 ……	6	第11 表 鹿伏・中所遺跡遺構別石器組成表 ……	222
第6 表 堰状遺構一覧 ……	115	第12 表 鹿伏・中所遺跡出土鉄器観察表 ……	226

## 図 版 目 次

巻頭図版1 (1)鹿伏・中所遺跡周辺 空中写真 (2)Ⅱ区 第3遺構面 竪穴住居群(東から)	図版 8 (1)Ⅱ区 第3遺構面 土器棺墓群 全景 (北西から) (2)Ⅱ区 北壁面 基準土層(南西から)
巻頭図版2 (1)Ⅲ区 竪穴住居跡群(西から) (2)Ⅰ区 堰状遺構02 検出状況	図版 9 (1)Ⅲ区 第1遺構面 全景(南から) (2)Ⅲ区 第3遺構面 全景(南から)
巻頭図版3 (1)StA02・04・08・09・11 土器棺① (2)StA02・04・08・09・11 土器棺②	図版 10 (1)Ⅲ区 第3遺構面 竪穴住居跡群 全景 (西から) (2)Ⅲ区 第3遺構面 竪穴住居跡群 全景 (北から)
巻頭図版4 (1)StA01・13・15・16・17 土器棺① (2)StA01・13・15・16・17 土器棺②	図版 11 (1)Ⅰ区SHa01全景(西から) (2)Ⅰ区SHa02全景(北から) (3)Ⅰ区SHa03全景(北から)
巻頭図版5 堰状遺構出土 柱状木製品	図版 12 (1)Ⅱ区SHa08(北東から) (2)Ⅱ区SHa09(東から)
写真図版：遺構	図版 13 (1)Ⅱ区SHa09炭化材 出土状況(南から) (2)Ⅱ区SHa10(東から)
図版 1 鹿伏・中所遺跡周辺 空中写真	図版 14 (1)Ⅱ区SHa11(南から) (2)Ⅱ区SHa11炭化材 出土状況(南から)
図版 2 Ⅱ区 第3遺構面 空中写真	図版 15 (1)Ⅱ区SHa12 2次床面(南から) (2)Ⅱ区SHa12 1次床面(北から)
図版 3 Ⅲ区 第3遺構面 空中写真	図版 16 (1)Ⅱ区SHa12壁溝①(東から) (2)Ⅱ区SHa12炉跡(西から)
図版 4 (1)Ⅰ区 東半分 第3遺構面 全景① (南から) (2)Ⅰ区 東半分 第3遺構面全景② (南から)	
図版 5 (1)Ⅰ区 西半分 第3遺構面 全景(東から) (2)Ⅰ区 西半分 第2遺構面 全景(南から)	
図版 6 (1)Ⅱ区 第3遺構面 全景(東から) (2)Ⅱ区 第3遺構面 全景(南西から)	
図版 7 (1)Ⅱ区 第3遺構面 東端部 全景(北東から) (2)Ⅱ区 土器棺墓群 全景(北から)	



- 図版 16 (3)Ⅱ区SHa12壁溝②(東から)  
(4)Ⅱ区SHa12遺物出土状況(北から)  
(5)Ⅱ区SHa13・14(南から)
- 図版 17 (1)Ⅱ区SHa13遺物出土状況(南から)  
(2)Ⅱ区SHa14・15(南西から)
- 図版 18 (1)Ⅱ区SHa16(南東から)  
(2)Ⅱ区北壁土層,SHa16周辺(南から)
- 図版 19 (1)Ⅲ区SHa22(西から)  
(2)Ⅲ区SHa25・26・27(北から)
- 図版 20 (1)Ⅲ区SHa28(北から)  
(2)Ⅲ区SHa28炉跡(西から)  
(3)Ⅲ区SHa28,P05(南西から)
- 図版 21 (1)Ⅱ区SBa05・06(南から)  
(2)Ⅰ区SPa08(北から)
- 図版 22 (1)Ⅱ区STa01(南から)  
(2)Ⅱ区STa02(北から)  
(3)Ⅱ区STa03(北から)  
(4)Ⅱ区STa04(北から)  
(5)Ⅱ区STa05・06(北から)  
(6)Ⅱ区STa07(南から)  
(7)Ⅱ区STa08(北から)  
(8)Ⅱ区STa09(北から)
- 図版 23 (1)Ⅱ区STa10(南から)  
(2)Ⅰ区STa11(南から)  
(3)Ⅰ区STa11細部①(南から)  
(4)Ⅰ区STa11細部②(南から)  
(5)Ⅰ区STa11細部③(北から)  
(6)Ⅰ区STa11蓋取り外し状況(東から)  
(7)Ⅰ区STa12(東から)  
(8)Ⅱ区STa13(北西から)
- 図版 24 (1)Ⅱ区STa15(北西から)  
(2)Ⅱ区STa15上位甕取り外し状況(北西から)  
(3)Ⅰ区STa14(南から)  
(4)Ⅱ区STa16(北西から)  
(5)Ⅱ区STa17(北から)  
(6)Ⅰ区SKa05・07(東から)  
(7)Ⅰ区SKa06(南西から)  
(8)Ⅱ区SKa16(西から)
- 図版 25 (1)Ⅱ区SKa20(北西から)  
(2)Ⅱ区SKa25(南東から)  
(3)Ⅱ区SKa37(東から)  
(4)Ⅱ区Sxa09(南から)  
(5)Ⅰ区SDa31・33・36~38(東から)
- 図版 26 (1)Ⅲ区SDa34土層断面(東から)  
(2)Ⅱ区SDa47遺物出土状況①(西から)
- 図版 27 (1)Ⅱ区SDa47遺物出土状況②(西から)  
(2)Ⅱ区SDa32土層断面(北から)  
(3)Ⅰ区SDa33土層断面(東から)  
(4)Ⅱ区SDa50(西から)  
(5)Ⅲ区SDa35・64土層断面(東から)
- 図版 28 (1)Ⅱ区SRa01土層断面(北から)  
(2)Ⅰ区堰状遺構02~04検出状況①(西から)

- 図版 29 (1)Ⅰ区堰状遺構02~04検出状況②(北西から)  
(2)Ⅰ区堰状遺構02(西から)
- 図版 30 (1)Ⅰ区堰状遺構03・04①(北から)  
(2)Ⅰ区堰状遺構03・04②(北西から)  
(3)Ⅰ区堰状遺構04細部①(北東から)  
(4)Ⅰ区堰状遺構04細部②(東から)  
(5)Ⅰ区堰状遺構04細部③(西から)  
(6)Ⅰ区堰状遺構04細部④(西から)
- 図版 31 (1)Ⅲ区SDa66・67,SRa02合流部(北東から)  
(2)Ⅲ区SRa02 D群(東から)
- 図版 32 (1)Ⅲ区SRa02 B群(南東から)  
(2)Ⅲ区SRa03 A群(北から)  
(3)Ⅲ区南壁土層(北から)
- 写真図版：遺物
- 図版 33 SHa12 41  
SHa13 55・57・60・62・64
- 図版 34 SHa13 65・76・80  
SHa15 89  
SHa16 98・99  
SHa28 124・127
- 図版 35 SHa28 130・131  
SPa08 154  
SKa08 176  
SKa37 192
- 図版 36 STa02 200  
STa04 204・205  
STa08 212・213  
STa09 214・215  
STa11 223・224
- 図版 37 STa01 197・198  
STa13 227・228  
STa15 234・235・236  
STa16 237・238  
STa17 239・240
- 図版 38 STa01 197・198
- 図版 39 STa04 204・205
- 図版 40 STa02 200  
STa06 209・210
- 図版 41 STa08 212・213
- 図版 42 STa09 214・215
- 図版 43 STa10 219・220
- 図版 44 STa11 223・224・226
- 図版 45 STa13 227・228
- 図版 46 STa12 230  
STa14 232・233
- 図版 47 STa15 234・235・236
- 図版 48 STa15 234・235・236
- 図版 49 STa16 237・238
- 図版 50 STa17 239・240
- 図版 51 SDa47 351・352・353・354・358  
SDa58 313
- 図版 52 SDa47 365・367・372・375・369

- 図版 53 SDa47 376・383  
           SDa64 386・407  
           SDa66 410  
           SDa67 424  
 図版 54 SDa67 431・432・433・434・  
           435・444  
 図版 55 SDa67 445・447・448・454・  
           455・456・457・458・459・460  
 図版 56 SDa67 462・463・464・466  
           SRa01 483・495・501・525・528  
 図版 57 SRa01 532・534・541・542・  
           543・544・545  
 図版 58 SRa02 615・621・623・634・  
           635・636  
 図版 59 SRa02 637・639・640・641・642  
 図版 60 SRa02 651・654・655・656・  
           657・660  
 図版 61 SRa02 661・669・672・674・  
           675・678・680  
 図版 62 SRa02 684・685・686・687・688・  
           689・690・692・698・703・708  
 図版 63 SRa02 715・718・723・724・  
           730・733・739・747  
 図版 64 SRa02 752・768  
           SRa03 800・801・802・803  
 図版 65 SRa03 805・821・822・828・  
           830・833・834  
 図版 66 SRa03 838・841・847・848・  
           849・850  
 図版 67 SRa03 855・859・862・864・  
           866・867  
 図版 68 包含層 874・882・894・945・946  
 図版 69 堰状遺構02 567  
           堰状遺構03 561・563  
           堰状遺構04 562  
 図版 70 堰状遺構03 569・570  
 図版 71 堰状遺構02 571  
           堰状遺構03 573・577  
           堰状遺構04 574・575・578  
 図版 72 堰状遺構03 580・581  
           堰状遺構04 579・585  
 図版 73 堰状遺構03 580・581  
           堰状遺構04 579・585  
 図版 74 堰状遺構03 580・581  
           堰状遺構04 579・585  
 図版 75 堰状遺構01~04 584  
           堰状遺構02 582  
           堰状遺構03 583  
 図版 76 堰状遺構01~04 584  
           堰状遺構02 582  
           堰状遺構03 583  
 図版 77 堰状遺構01~04 584  
           堰状遺構02 582  
 図版 78 堰状遺構02 586・597・599・601  
 図版 79 堰状遺構03 607  
           堰状遺構04 610  
 図版 80 堰状遺構02 600  
           堰状遺構04 612・614  
 図版 81 SHa03 18  
           SHa10 50  
           SHa28 140  
           SPa29 164  
 図版 82 SHa03 19  
           SHa10 46・47・48・49  
           SHa11 141  
           SHa19 142  
           SKa17 195  
           SKa33 196  
           STa12 243  
           SXa09 280  
           SDa47 470・471  
           SDa59 474  
           包含層 970・971・972・973・  
           974・975・976・977・978・  
           979・980  
 図版 83 SHa09 20  
           SHa15 143  
           SHa16 144  
           SDa23 473  
           包含層 981・982・983  
 図版 84 SHa13 145  
           SDa64 475  
           SDa67 476  
           SRa02 794  
           包含層 984・985  
 図版 85 SXa09 282  
           包含層 997・998  
 図版 86 SHa10 52・53  
           SRa01 790  
 図版 87 SHa10 51  
           STa14 246  
           SXa04 279  
           SXa05 281  
           SDa47 472  
           SRa02 792・793  
           包含層 986・988・989・990・  
           991・994・995・996  
 図版 88 SDa34 467  
           包含層 992

# 第 I 章 調査の経緯と経過

## 第 1 節 調査に至る経緯

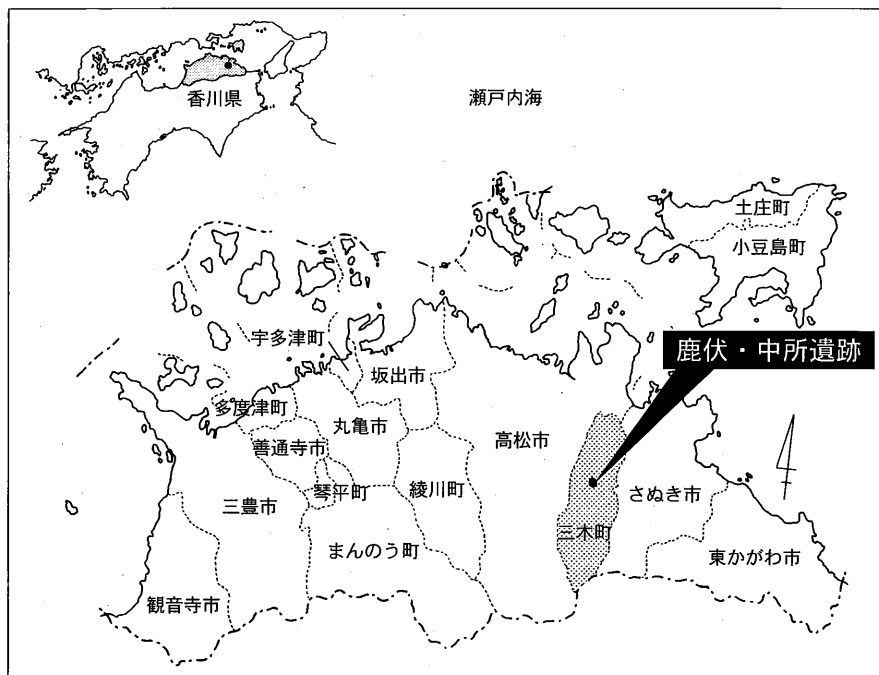
香川県教育委員会事務局高校教育課高校新設準備室（以下準備室と略称）は、木田郡三木町平木・同鹿伏において、平成8年度の開校を目標に県立高校を建設する計画をたてた。

この計画の照会を受けた香川県教育委員会事務局文化行政課（以下文化行政課と略称）は、予定地周辺が遺跡密度の高い地域である事と、工事範囲がかなり広範囲に及ぶ事から、予定地内に未周知の埋蔵文化財包蔵地が所在する可能性が高いものと判断し、準備室と協議を重ね、試掘調査を実施する事で合意に達した。

その合意を受けて文化行政課は、予定地内の埋蔵文化財の有無と範囲を確認するため、用地の準備が整った平成6年の初頭に試掘調査を実施した。その結果工事予定地の約4割、面積にして15,391㎡の範囲で、弥生時代中期～後期の遺構密度の高い集落跡を確認し、埋蔵文化財の保護措置が必要であることが判明した。

開校までの工事工程を考慮すれば、試掘調査が終了した時点から、開校時まで、2ヵ年程度の期間しか確保できないため、少なからず発掘調査期間に影響がでることが予想された。そのため、文化行政課と準備室は、建設工事を担当する県土木部建築課及び造成工事を担当する県土木部長尾土木事務所と、その対策の協議を重ねた。

その結果、工事の実施設計が暫定的で、校舎の位置や規模が不確定なところもあったが、とりあえずⅠ期工事で最も工事を急ぐ、北校舎・管理棟・外周水路部分より調査を開始する事になり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（以下、センターと略称）を発掘調査の担当として、平成6年6月より7年度の上半期にかけて発掘調査を実施する事になった。



第 1 図 遺跡位置図



## 第2節 調査の経過

### 1. 発掘調査の経過

#### 平成6年度の調査

平成6年度の発掘調査は6月から準備にかかり7月から開始した。発掘調査は2班体制で実施する事になり、そのうち第1班は、発掘調査の掘削作業を土木業者に請負わせる工事請負調査班、第2班は機動性を持たせた直営調査班として調査を実施した。対象となる調査面積は13,041㎡である。各班の分担と担当は以下のとおりである。

第1班（担当：西村、中西、森澤）－Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ区、東水路③

第2班（担当：古野、高月、松尾）－Ⅳ～Ⅵ・Ⅷ区、北水路①②、東水路①②⑤、南水路①

発掘調査はⅠ期工事のうち最も工事を急ぐ、北校舎、管理棟、東水路区域にあたる、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区、東水路①～③⑤区を7月から着手した。この区域は集落跡のほぼ中央部分から南半部にあたり、弥生時代中期～古墳時代前期前半の数十棟の竪穴住居跡を主体にした居住域と、十数基の土器棺群で構成される墓域、自然河川等を確認した。平成6年度の調査区の中で最も注目される区域であった。

これらの調査区の中でⅡ・Ⅲ区は、集落跡の展開する微高地の南半部にあたり、弥生時代中期～古墳時代前期初頭頃の竪穴住居跡と掘立柱建物跡を主体とする集落域を検出した。注目されるのは、Ⅱ区の南東部で確認できた、土器棺を埋葬主体とした土器棺墓群である。

Ⅲ区は集落跡が展開している微高地の南西端部にあたり、弥生時代後期後半頃の埋没自然河川を検出した。この自然河川跡からは、集落から廃棄されたと考えられる大量の弥生時代後期後半前後の土器が出土した。

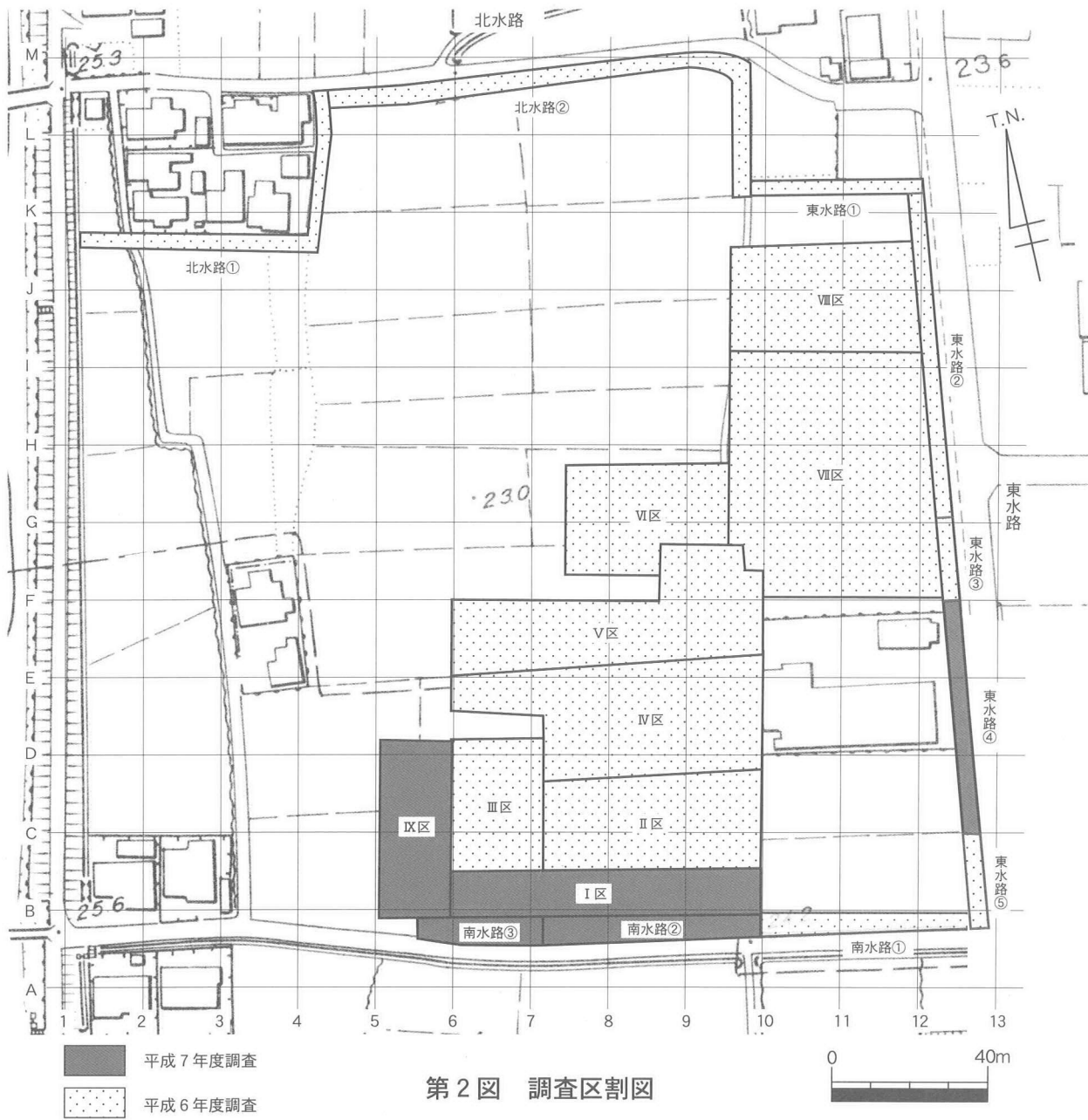
11月以降より、機械棟・浄化槽・体育館・プールの区域にあたる、Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ区の調査に移行した。この区域は集落の北半部にあたり、竪穴住居跡と掘立柱建物跡を中心にした居住域を確認した。注目されるのはⅦ区の掘立柱建物群である。他の調査区では、主に竪穴住居跡が住居の主体を占めていたが、このⅦ区では掘立柱建物跡が主体を占めている点である。

なお、調査区のほぼ全域には、弥生時代後期後半前後の遺物を多量に含む、厚さ約0.5mの遺物包含層が広範囲に広がっており、その上面には古墳時代前期後半以降の遺構面が検出された。そのため延べ調査面積は対象面積の2倍になった。

#### 平成7年度の調査

平成7年度の発掘調査は、4月当初より開始し同年9月末日に終了した。発掘調査は直営調査班の1班をあてた。平成7年度の調査区は、微高地の南辺から古川の氾濫原にあたるⅠ・Ⅸ区と、南水路②③、東水路④である。調査対象面積は2,350㎡である。なお、平成7年度の調査区も、6年度の調査区同様に、調査区のほぼ全域に、弥生時代後期後半前後の遺物を多量に含む、厚さ約0.5mの遺物包含層が広がっており、その上面には古墳時代前期後半以降の遺構面が検出された。そのため延べ調査面積は対象面積の2倍になった。

発掘調査は南校舎部分に当たるⅠ区、南水路②③から開始し、次に自転車置場部分にあたるⅨ区へと広げ、最後に用地内に残る店舗の移転の問題で、昨年度着手できなかった東水路④の調査



第2図 調査区割図

を実施した。




平成7年度の発掘調査は、台風シーズンと重なり調査が難航する時期もあったが、当初の予定どおり同年9月末日に終了した。

I区、南水路②③からは、昨年度に調査を実施した、II区より広がる弥生時代中期～古墳時代前期初頭の集落域及び土器棺墓群で構成される墓域、微高地の南西辺を流れる弥生時代後期後半～古墳時代前期前葉の自然河川跡を検出した。IX区は、昨年度のIII区から続く、微高地の西辺を流れる自然河川跡と溝跡群を検出した。東水路④からも竪穴住居跡を中心にした集落域を確認した。

注目されるのはI区の河川跡の河床面で検出した堰状遺構と、IX区の河川跡と溝跡群から出土した大量の廃棄された土器群である。I区の堰状遺構は合計5基検出した。使用される部材には建築部材を杭に転用したものが多数認められ、その中には住居跡の柱材と考えられる部材も確認できる。これらの木製品は、当時の住居構造を探るうえで重要な資料になった。IX区は850㎡の小区画ながら、検出された河川跡及び溝跡群の上面から、集落域より廃棄されたと考えられる弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の土器が約280箱出土した。検出した河川跡と溝跡群は、昨年度のIII区から続く遺構で、III区の遺物を含めると約430箱を数える。その出土量は、平成6・7年度の全ての調査区より出土した遺物（約960箱）の45%を占める数になった。これらの資料は、高松平野東部の弥生土器の地域性を検討するうえで、大変重要な資料になった。

第1表 鹿伏・中所遺跡調査工程表

地区	面積 (㎡)	施設名	平成6年度									平成7年度															
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9										
I区、南水路②③	1,320	南校舎																									
II区	1,430	管理棟																									
III区	890	管理棟																									
IV区	1,600	管理棟																									
V区	1,700	北校舎																									
VI区	997	機械棟、浄化槽																									
VII区	3,434	体育館																									
VIII区	1,290	プール																									
IX区	850	自転車置場																									
北水路	960	外周水路																									
東水路①～③⑤	560	外周水路																									
東水路④	180	外周水路																									
南水路①	180	外周水路																									
	15,391																										

調査担当  :平成6年度 1班 西村・中西・森澤  
 :平成6年度 2班 古野・高月・松尾  
 :平成7年度 西村・中村・松尾



## 2. 整理作業の経過

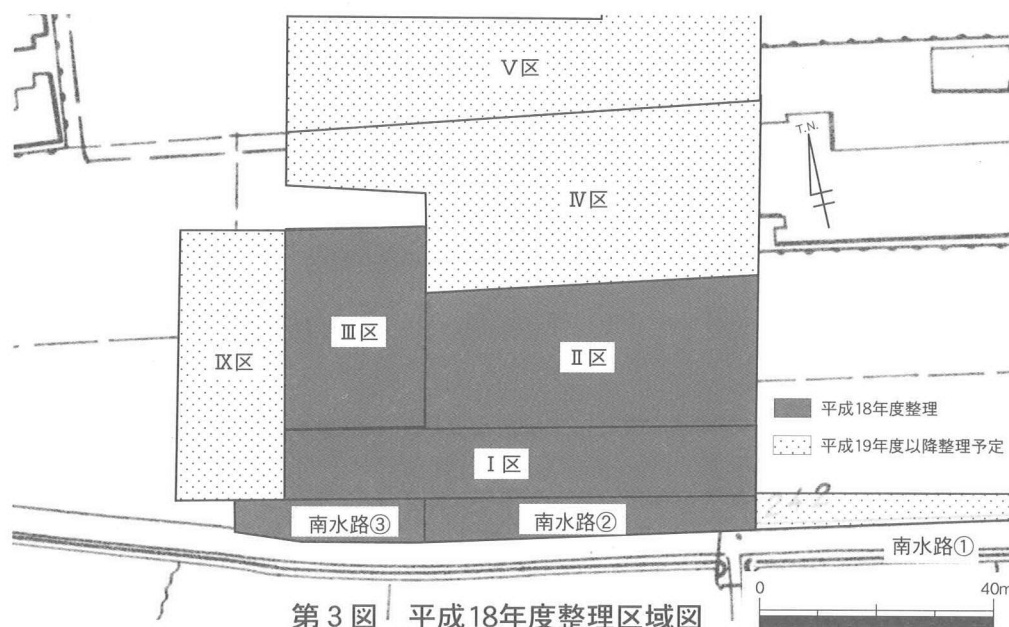
鹿伏・中所遺跡の整理作業は、調査終了時より11年後の、平成18年度から継続して進めることになった。初年度の平成18年度は平成6・7年度に発掘調査を実施した、調査対象地の南端部にあたるⅠ・Ⅱ・Ⅲ区、南水路②③を整理作業の対象地区とした。整理担当は専門職員1名と整理作業員6名で実施した。

整理作業の対象地区は微高地上に展開している集落域の南半部より、低湿地部にいたる地域であり、遺構密度も高く、出土遺物も豊富な地域である。整理対象となる地区の面積は3,640㎡、出土遺物は340箱を数える。全ての調査区と平成18年度の整理対象地区を比較すれば、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区の整理対象地区は出土遺物の35%、調査対象面積の25%を占め、小面積ながら出土遺物の多い地区といえる。そのため、整理作業を進める上で課題となったのは、多量の出土遺物の図化、特にⅠ区の堰状遺構から出土した多量の木製品、Ⅰ・Ⅲ区の自然河川と溝群に廃棄された大量の土器の図化であった。

なお、出土遺物のうち木製品については、樹種同定を実施し、また、その一部については保存処理を外注した。

第2表 鹿伏・中所遺跡整理作業工程表

作業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺構図面整理												
遺物接合・復元												
遺物実測	土器											
	木製品											
	石器											
遺物観察表												
挿図レイアウト												
浄書												
遺物写真												
原稿執筆												
編集												
遺物台帳・遺物収納												



第3図 平成18年度整理区域図

### 3. 調査体制

発掘調査及び整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第3表 平成6年度調査体制

香川県教育委員会事務局文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

区分	役職	氏名	区分	役職	氏名
埋蔵文化財	課長	高木 尚	調査	所長	松本 豊胤
	主幹	小原 克己		次長	真鍋 隆幸
	係長	源田 和幸		係長	土井 茂樹 (～5.31)
	主任主事	櫻木 新士 (～5.31)		係長	前田 和也 (6.1～)
	主任主事	星加 宏明 (6.1～)		係長	今田 修
	主事	藤原 和子 (～5.31)		主査	大西 健司
	主事	高倉 秀子 (6.1～)		参事	糸目 末夫
	係長	藤好 史郎		主任文化財専門員	渡部 明夫
	主任技師	國木 健司		文化財専門員	西村 尋文
	主任技師	森下 英治		文化財専門員	高月 計
				文化財専門員	中西 昇
				主任技師	古野 徳久
		調査技術員	森澤 千尋		
		調査技術員	松尾 歩		

第4表 平成7年度調査体制

香川県教育委員会事務局文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

区分	役職	氏名	区分	役職	氏名
埋蔵文化財	課長	高木 尚 (～10.23)	調査	所長	大森 忠彦
	課長	藤原 章夫 (10.24～)		次長	真鍋 隆幸
	主幹	小原 克己		参事	別枝 義昭
	課長補佐	高木 一義		係長	前田 和也
	係長	源田 和幸 (～5.31)		主査	大西 健司 (～5.31)
	係長	山崎 隆 (6.1～)		主任主事	西川 大 (6.1～)
	主査	星加 宏明		参事	糸目 末夫
	主事	高倉 秀子 (6.1～)		係長	大山 真充
	副主幹	渡部 明夫		文化財専門員	西村 尋文
	主任技師	森下 英治		文化財専門員	中村 昭浩
	技師	塩崎 誠司		調査技術員	松尾 歩

第5表 平成18年度調査体制

香川県教育委員会事務局文化行政課

香川県埋蔵文化財センター

区分	役職	氏名	区分	役職	氏名
文化財グループ	課長	三谷 雄治	資料普及課	所長	渡部 明夫
	副主幹	河内 一裕		次長	榊原 正人
	副主幹	谷主 安昌		総務課長	野口 孝一
	主任	林 照代		主任	嶋田 和司
	主事	脇 悠介		主任	田中 千晶
	課長補佐	藤好 史郎		資料普及課長	廣瀬 常雄
	主任	山下 平重		主任文化財専門員	西村 尋文
	文化財専門員	信里 芳紀		整理職員	池田 梨沙
					岡野 雅子
					葛西 薫
					門脇 範子
					小林 里美
			森川 理恵		

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

高松平野は、香川県のほぼ中央部の瀬戸内海沿岸に位置する沖積平野である。西を五色台山塊、東を立石山・雲附山、南を日山・上佐山等に隔てられ、平野の南方には、香川県と徳島県とを隔てる阿讃山脈が東西に広がり、その山稜裾部から平野部に向かい多くの丘陵が細長く延びる。この丘陵間に東より新川・春日川・香東川・本津川等の河川が北流し、主にその河川堆積層により高松平野は形成されている。

鹿伏・中所遺跡の所在する木田郡三木町周辺は、高松平野の東部に位置する。北西約4.0kmには立石山、北東4.0kmには雲附山、西約6.0kmには上佐山、南約9.0kmには高仙山、東約1.5kmには白山が位置し、また、調査地の西0.2kmには新川が隣接し北流している。新川は三木町の南端部徳島県との県境に近い標高627mを測る高仙山周辺を水源とし、北流し高松平野の東部の沖積地を春日川と共に形成し瀬戸内海に注ぐ。遺跡周辺における新川は、条里地割に向きを揃え北流し、三木町平木下所のあたりで西へ屈曲気味に向きをかえている。条里地割に向きを揃えて北流する区間は、江戸時代に新川の付け替え工事を実施した区域にあたり、本遺跡に集落が営まれていた弥生時代頃の新川は、三木町下高岡ないし中井戸方面から香川大学農学部方面に向けて延びていた可能性が考えられている。

鹿伏・中所遺跡は新川が形成した扇状地と、遺跡の東方に位置する白山から西へ延びる低丘陵の、先端部分の微高地が接する地域に広がる遺跡である。微高地上からは弥生時代中期前葉～古墳時代前期前葉の集落が広がり、微高地の北辺部（Ⅷ区、北水路①②、東水路①②）及び南西辺部（Ⅰ・Ⅲ・Ⅸ区、南水路②③）は湿地状を呈し、また、南西辺部には複数の弥生時代後期後半～古墳時代前期前半頃の自然河川を検出している。

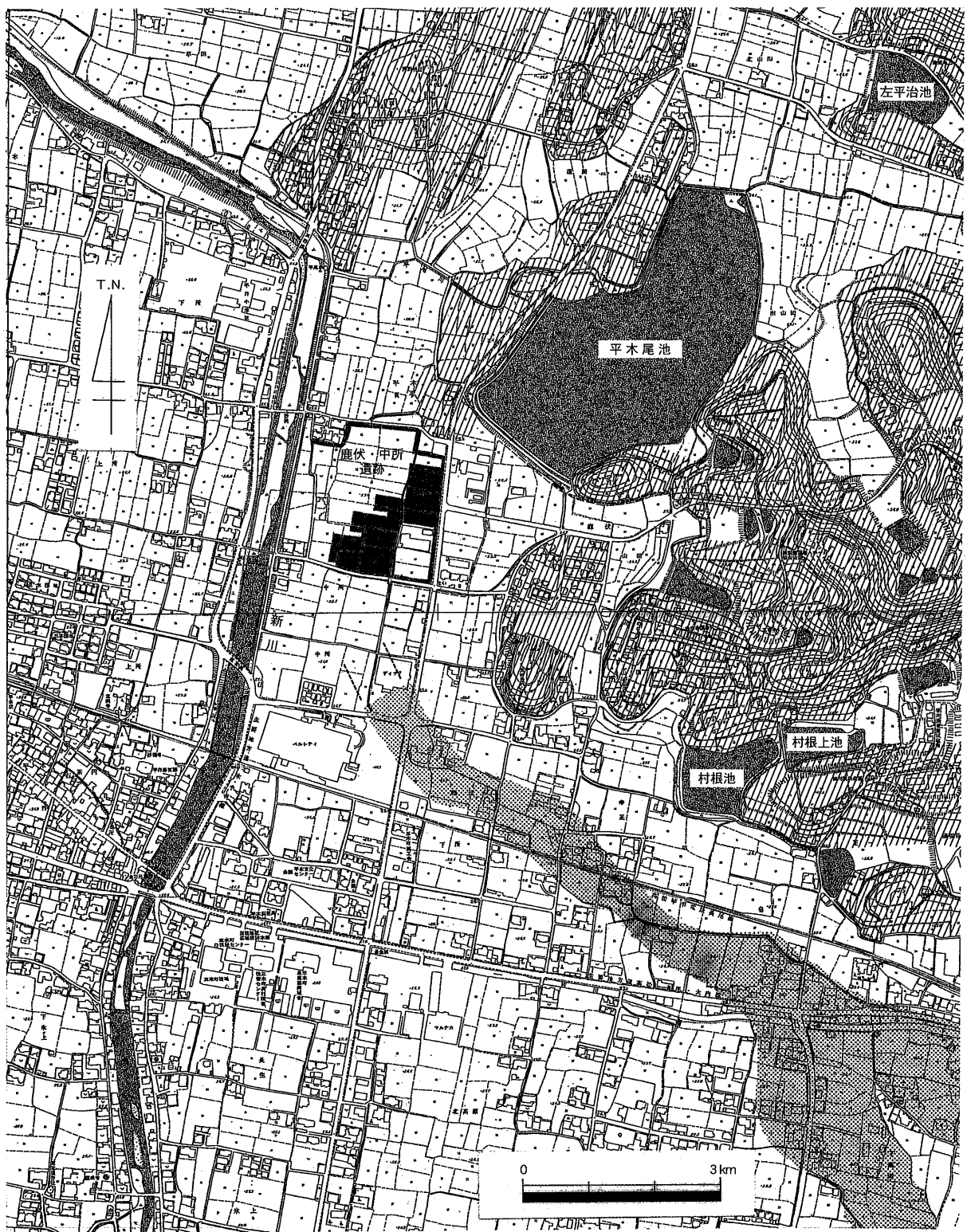
遺跡周辺の地形は、条里型地割が広範囲に及び市街化も進んでいる。そのため、旧地形の復元が困難であり、詳細な点は問題を残すが、埋没河川、開析谷、段丘、山地・丘陵等に分けられ、それを第4図にまとめた。



遺跡の北・東方面には複数の段丘面が広がり、遺跡はその段丘面間に所在する開析谷の谷口部分にあたる。おそらく、遺跡の北辺部で確認した低湿地部は、「平木尾池」周辺の開析谷の延長部分にあたる可能性が高い。遺跡の南西辺部で確認した複数の自然河川については、現地形でその痕跡を探るには無理なところがあるが、遺跡の南東にある天神神社の南には、三木町中井戸あたりより、北西方面に延びる幅約10m前後の小規模な埋没河川の跡が地図上で確認できる。この河川を北西に延長した場合、遺跡の南西辺部に達するため、この河川が遺跡の南西辺部で検出した自然河川の一部に当たる可能性が考えられる。なお、この河川の近くには、ほぼ同じ方向に、新川の支流である「古川」が流れていることから、古川の旧流路の可能性も、先の河川と合せて考慮する必要がある。天神神社の南にあたる三木町鹿伏東の古川の堤防付近からは、弥生時代前期の土器が採集されており、おそらくこの頃は、この河川が機能していた可能性が考えられる。

(参考文献) 三木町 1978 「第1章 三木町のあけぼの」『三木町史』

金田章裕 1992 「第2章 第1節 地理的環境」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会

高橋 学 1992 「第4章 第1節 高松平野の環境復原」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会



-  段丘・山地
-  埋没自然河川

第4図 鹿伏・中所遺跡周辺地形分類図



## 第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する三木町は、弥生時代前期より古墳時代をへて古代～中世にいたるまで著名な遺跡が多数位置している。特に、最近の大規模開発に伴う発掘調査の成果により実態が明らかになりつつある。次に時代順に遺跡を概観する。

### <旧石器時代～縄文時代>

従来、三木町内の旧石器時代の資料は皆無であったが、本遺跡から出土した翼状剥片及び翼状剥片石核をはじめ、少量であるが資料は増えている。例えば、七つ塚古墳から出土した翼状剥片、池戸八幡周辺で採集されたナイフ形石器の調整剥片等があげられる。縄文時代も同様に皆無に近いが、隣接する高松市十川町の十川東・平田遺跡（24）からは縄文草創期の有舌尖頭器が出土している。また、不明瞭なところもあるが、尾端遺跡（25）、西浦谷遺跡（7）からは縄文時代の落とし穴状の遺構を数基検出している。

### <弥生時代>

弥生時代になれば遺跡数は増えてくる。弥生時代前期では本遺跡をはじめとして、本遺跡より南東に位置する鹿伏東古川堤防では、河川工事の際に遠賀川式土器が出土している。また、農学部遺跡（19）、福万遺跡（27）、砂入遺跡（20）等で前期の新段階の土器が出土している。特に農学部遺跡では、敷地の南半部に同時期の集落跡が展開している可能性が指摘されている。弥生時代中期では、北方の丘陵地帯の西浦谷遺跡、白山2・3遺跡（16・17）で弥生時代中期後半の数棟の竪穴住居跡、平野部では本遺跡の竪穴住居跡などの集落跡が明らかになってきている。また、白山1遺跡（15）では扁平鈕式銅鐸が出土しているのは著名である。なお、南方の丘陵地帯の西土居遺跡（43）では、同時期の多量の土器が出土している。弥生時代後期になると調査例も急増する。本遺跡をはじめとして、西浦谷遺跡、池戸鍋淵遺跡（11）、砂入遺跡、西土居遺跡等である。中でも本遺跡は、弥生時代中期中葉～古墳時代前期までの竪穴住居跡が約80棟、掘立柱建物跡を約20棟検出しており、当地域の拠点集落跡の一つにあげられる。弥生時代後期～終末の墳墓の調査例では、北方の丘陵地帯では、石蓋土壙が検出された西尾遺跡（23）、配石土壙墓が確認された白山3遺跡、本遺跡のすぐ東に位置し多くの土壙墓群を検出した天神山古墳群（14）、方形台状墓で土壙墓群を検出した西土居古墳群（44）、方形台状墓で土壙を主体部とする山大寺池西丘上1号墳（42）等、調査例は増加している。特に天神山古墳群で検出した土壙墓群は、本遺跡との関連で注目される。

### <古墳時代>

古墳時代前期～中期前半の古墳の実態は不明な点が多いが、唯一前期初頭に位置付けられる池戸八幡神社1号墳（12）がある。この古墳は前方後円形の墳丘をもつ弥生時代の墳丘墓である可能性が指摘されており注目される。古墳時代中期後半では権八原古墳群（10）の群集墳の調査例がある。古墳時代後期になると各地の丘陵部に古墳群が築造される。主な分布地域では、①白山一帯 ②鍛冶池一帯 ③諏訪山・カンカン山一帯 ④田中地区の蛇の角古墳群 ⑤田中の雷八幡神社一帯 ⑥朝倉の中谷古墳群 ⑦四十塚古墳群（32）等に分かれるが未調査の古墳がほとんどで、その実態は明らかになっていない。



- |               |              |                   |
|---------------|--------------|-------------------|
| 1. 鹿伏・中所遺跡    | 16. 白山2遺跡    | 31. 出之山南古墳        |
| 2. 前田城跡       | 17. 白山3遺跡    | 32. 四十塚古墳         |
| 3. 平尾1～3号墳    | 18. 串田城跡     | 33. 上田中城跡         |
| 4. 平尾小1～11号墳  | 19. 農学部遺跡    | 34. 雷塚古墳          |
| 5. 塚谷古墳       | 20. 砂入遺跡     | 35. 公淵池1号窯        |
| 6. 小谷窯跡       | 21. 西尾天神社古墳  | 36. 公淵池2号窯        |
| 7. 西浦谷遺跡      | 22. 鯉宇神社経塚   | 37. 公淵池3号窯        |
| 8. 香蓮寺        | 23. 西尾遺跡     | 38. 中坪城跡          |
| 9. 始覚寺跡       | 24. 十川東・平田遺跡 | 39. 長楽寺跡          |
| 10. 権八原古墳群    | 25. 尾端遺跡     | 40. 旧長楽寺跡         |
| 11. 池戸鍋淵遺跡    | 26. 南天枝遺跡    | 41. 上高岡廃寺         |
| 12. 池戸八幡神社1号墳 | 27. 福万遺跡     | 42. 山大寺池西丘上古墳1～3号 |
| 13. 高岡城跡      | 28. 十河城跡     | 43. 西土居遺跡群        |
| 14. 天神山古墳群    | 29. 鷺池南古墳    | 44. 西土居古墳群        |
| 15. 白山1遺跡     | 30. 出之山北塚    |                   |

第5図 遺跡分布図 (1/40,000)

## <古代>

古代の遺跡は白鳳期から奈良時代にかけて建立されたと考えられる始覚寺（9）、香華寺（8）、上高岡廃寺（41）、長楽寺（39）等の古代寺院がある。集落跡の調査も最近増加している。主なものでは7～8世紀頃の南天枝遺跡（26）、尾端遺跡（25）等の集落跡がある。これらの2遺跡は、長楽寺と同様に吉田川水系の遺跡であり、今後その関係が注目される。北方の丘陵地帯では7世紀を中心に操業した須恵器窯の小谷窯跡（6）が最近調査され、須恵器の産地同定を検討するうえで重要な資料になっている。

また、三木町の平野部は比較的条里型地割が良く残っている地域である。高松平野の条里制を研究した金田氏はこの地域の注目される特徴として「白山」を基点にして条里方向が大きく変化する事に着目し、古代南海道の推定ラインの検討を加えている（金田1988）。なお、先に紹介した尾端遺跡は山田郡と三木郡の郡境に隣接する遺跡で、調査地内に東西の坪境線がとおる。調査からは坪境線に符合する古代の溝が検出され、当地域の条里型地割の施工時期を検討する上で重要な調査成果になっている。

## <中世>

中世の三木町は守護の細川氏のもと、東讃の守護代に任じられた安富氏の領域となる。その後、三木町は長宗我部氏が讃岐に侵攻するまでの長期の間、主に安富氏の統治下におかれる。文献によれば、天正年間の長宗我部氏の侵攻に際して安富氏は、高松市十河城跡（28）に拠点を置く十河氏を中心とした反長宗我部勢力に組するようである。そして、長宗我部氏の十河城攻め際には、三木町は戦場と化すようである。また、三木町周辺には当時の城館跡が多数存在する。主なものでは、高松市の十河城跡、前田城跡（2）、神内城跡、由良山城跡、三谷城跡、三木町内では高岡城跡（13）、平木城跡、大畠城跡、串田城跡等であるが、何れも調査例が乏しく不明な点が多い。また、城館同様に集落跡の調査例も少ない。南天枝遺跡（26）の中世集落、同遺跡に隣接する高松市十川東・平田遺跡（24）の調査例が知られている程度であり、今後の資料増加に期待されるところである。

（参考文献）

三木町教育委員会 1998 「西浦谷遺跡」『三木町内遺跡発掘調査報告書』

三木町教育委員会 1999 「西土居遺跡群」『西土居工業団地用地造成に伴う埋蔵文化財調査概報』

三木町教育委員会 2001 「天神山古墳群」

香川県 1988 『香川県史 第1巻 原始・古代』 四国新聞社

香川県 1988 『香川県史 第2巻 中世』 四国新聞社

金田章裕 1988 「第六章条里と村落生活 第四節 調庸と交通」『香川県史 第1巻 原始・古代』 香川県  
香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター 1995 平成6年度「肥松林遺跡 鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター 1996 平成7年度「鹿伏・中所遺跡」  
『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター 1997 「南天枝遺跡・尾端遺跡」  
『平成8年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター 1998 「尾端遺跡」  
『平成9年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』

香川県教育委員会 2003 『香川県中世城館詳細分布調査報告』



## 第三章 調査の成果

### 第1節 調査と整理の方法

#### 1. 調査の方法

予定地内を調査するにあたり、まず事業予定地全体に南東隅を基点とする20mメッシュのグリッドを設定した。グリッドの方向は、予定地周辺には条里地割が良く残っている事と、旧地形を把握しながら調査を進めたほうが得策と判断し、予定地周辺の地割方向に揃える事にした。

グリッド基点は国土座標第IV系の座標値を使用し、座標北の方向に1, 2, 3・・・西の方向にA, B, C・・・と付し、各交点をA2, B2等のように呼称することにした。また、20mメッシュのグリッドの呼称は南西隅の交点名による。なお、調査地内に設置する基準点については、数地点に限り測量業者に委託し設置した。

調査区全体の図化は測量業者に委託し、航空測量により実施した。撮影の回数は平成6年度－6回、平成7年度－4回を数える。その撮影した空中写真を基に1/20・1/50の縮尺で必要箇所を図化し、それを編集し1/100の全体図を作成した。また、遺物の出土状況図、土層断面図等の実測図等については、手描きの実測図により担当職員が対応した。

#### 2. 調査区の設定

事業予定地は新川が形成した扇状地と、「白山」から西に延びる低丘陵の先端が交わる微高地上に位置する。遺跡は「学園通り」を東限とし、南北約225m、東西約230mを測る。その事業地の中で調査対象地は、地下遺構に影響が及ばない運動場部分を除き、校舎・体育館・プールの構造物が建築される区域と、事業地の外周を巡る外周水路に限り、調査を実施する事になった。調査の対象となる面積は15,391㎡を測る。

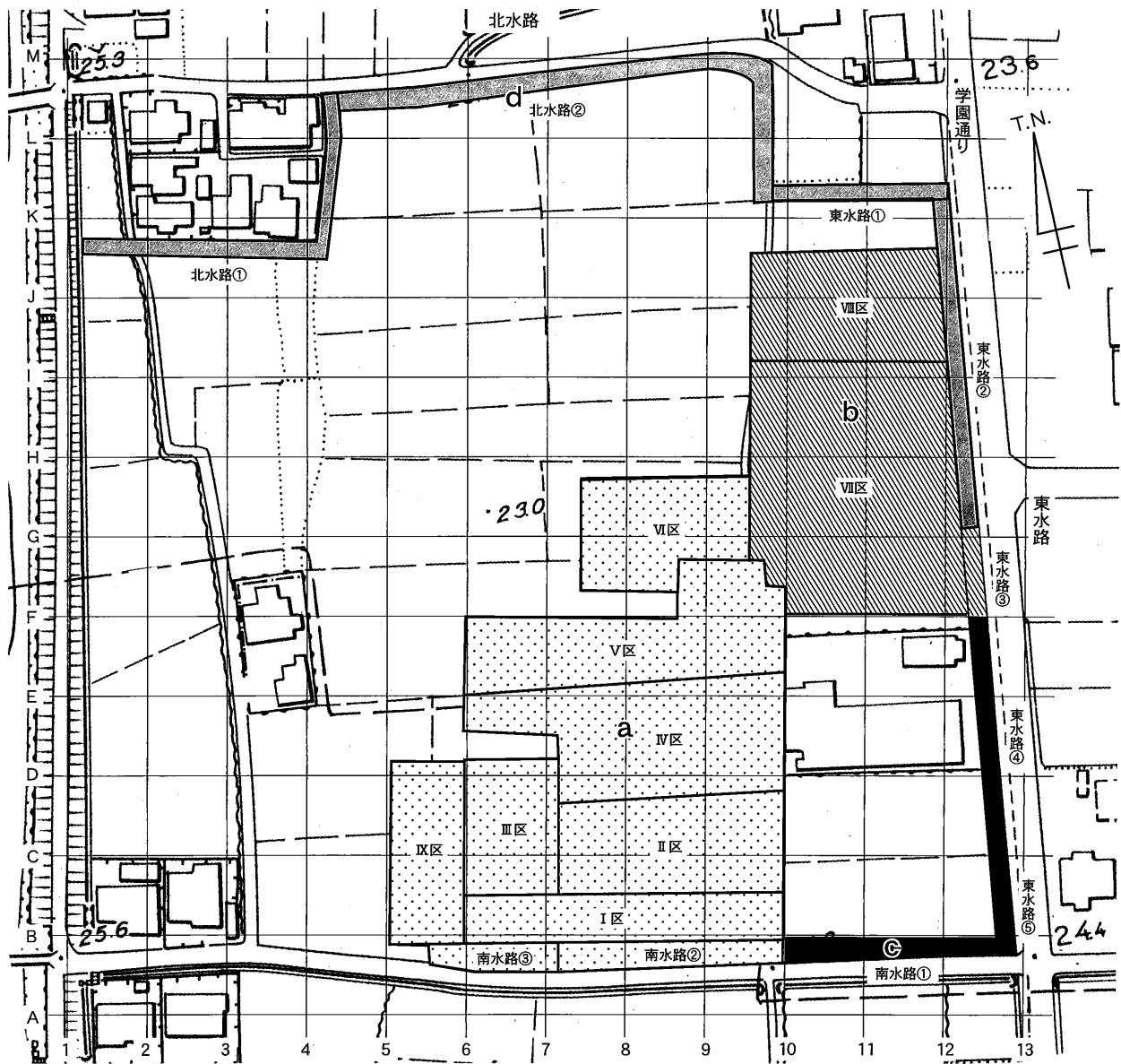
調査区は、南校舎をI区、管理棟をII～IV区、北校舎をV区、機械棟・浄化槽棟をVI区、体育館をVII区、プールをVIII区、自転車置場をIX区に分けて調査区を設定した。





外周水路については、事業地が南北方向の方形に近い形を呈している事もあり、事業地の北辺部を画する水路を北水路①②、同様に南辺部を南水路①～③、東辺部を東水路①～⑤に分けて調査区を設定した。なお、西辺部と南辺部の一部は保護措置の必要な範囲より外れるため、調査の対象より除外した。

#### 3. 整理作業の方法

調査は、広い調査対象地を2ヵ年（延べ26ヶ月）にわたり、複数の班で実施してきている関係上、多数の職員が調査に関与し、遺跡内容が分かりにくい状況になっている。また、整理作業に際しては、発掘調査を直接担当した1名の職員が、数ヶ年で実施することになった。そこで、計画的に整理作業を実施していく都合上、整理対象地区を新たに「a～d」までの整理区画（第6図参照）に区分し、それを基に長期計画を作成し作業を進めることにした。

報告遺構名は、発掘調査時に各調査区単位で付けられていた遺構記号と番号を、遺構内容を吟



-  : 整理区画 a (I・II・III区と南水路②③は、平成18年度整理区域)
-  : 整理区画 b
-  : 整理区画 c
-  : 整理区画 d

第6図 整理区画割図

味して「01」から始まる通し番号により再整理を行った。なお、本遺跡の整理対象地はかなり広範囲で遺構の数も多い。今後継続する整理作業の際に、報告遺構番号の混乱が予想されるため、先述した「a～d」までの整理区画単位で、遺構番号を付けるほうが混乱を防げるものと考えた。そこで、報告遺構名中に整理区画を表す記号を明記した後に「01」から始まる通し番号を付けることにした。平成18年度の整理区域にあたるⅠ～Ⅲ区、南水路②③については、整理区画「a」にあたるため、遺構記号と遺構番号の間にアルファベットの小文字「a」を記入し「01」番より番号を付した。(例：SBa01)

遺物の写真撮影については、土器棺や、木製品等かなり大型の遺物が対象になる事から当初より難航することが予想された。そのため一般の業者と写真撮影の委託契約を結び、年度末に実施した。また、堰状遺構から出土した木製品についても、業者と委託契約を結び、樹種鑑定を実施しすると共に、その一部を保存処理に外注した。

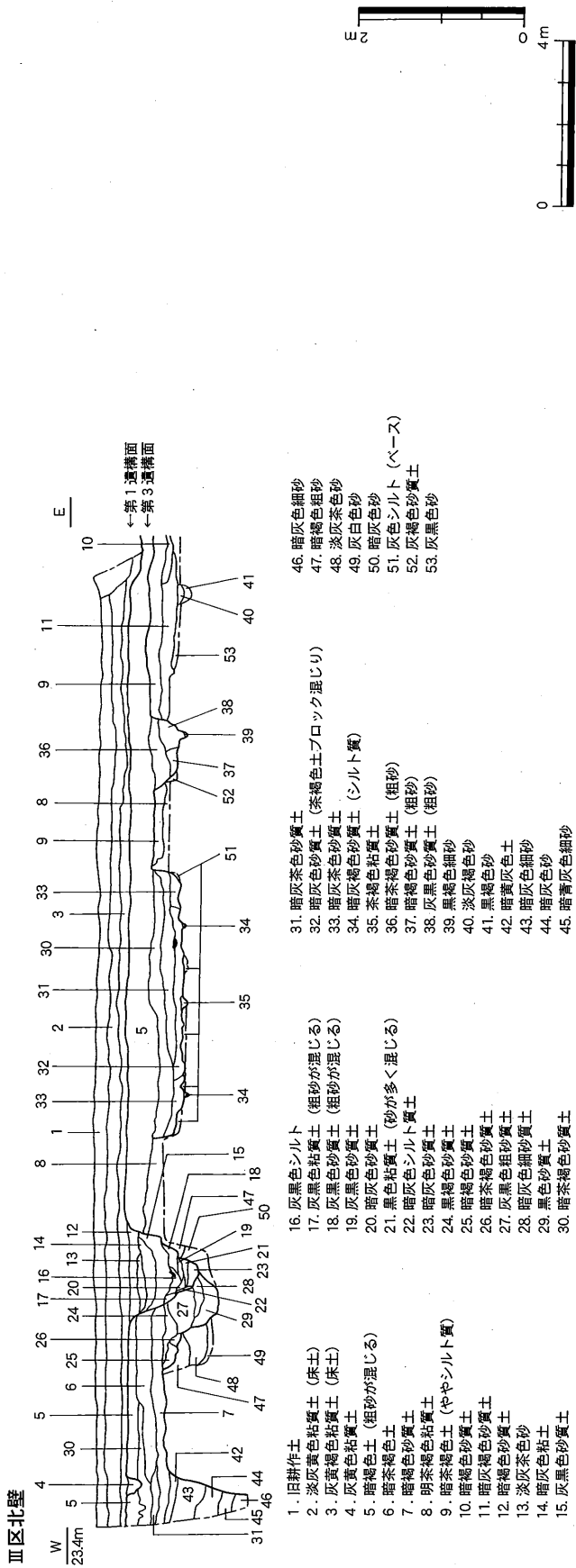
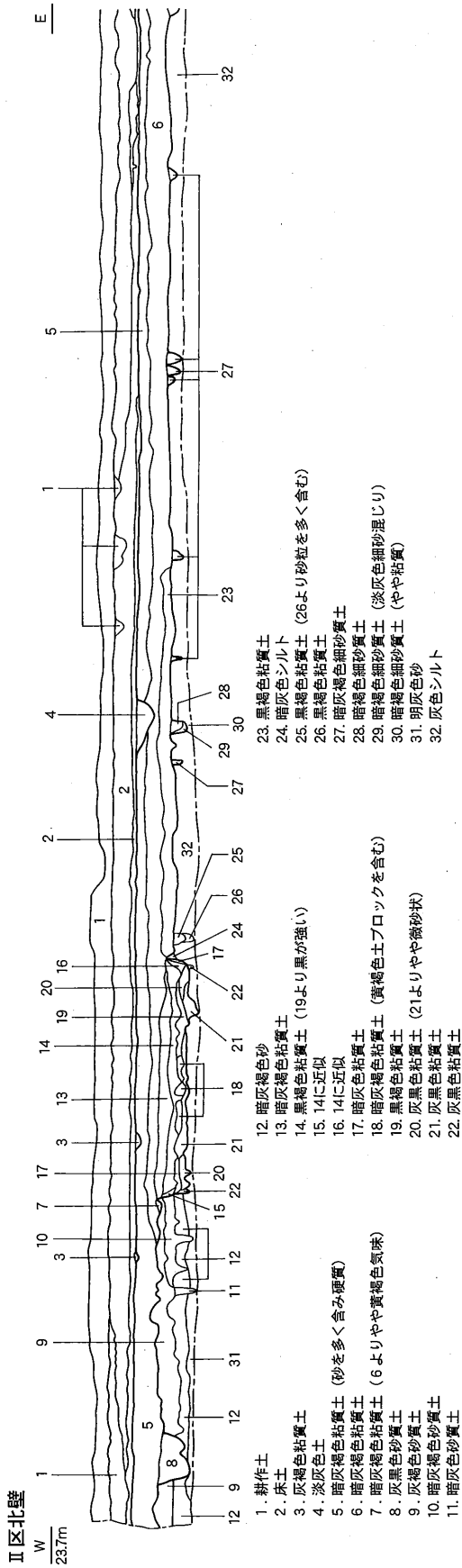
## 第2節 基本層位

鹿伏・中所遺跡から西へ約100m隔てた地点には新川が北流している。新川は三木町の南端部徳島県との県境に近い、標高627mを測る高仙山周辺を水源とし、北流し高松平野の東部の沖積地を、春日川と伴に形成し、高松市内で瀬戸内海に注ぐ。鹿伏・中所遺跡は新川が形成した沖積地と、遺跡の東方に位置する白山から延びてくる低丘陵の先端部分の微高地が接する地域に展開している遺跡である。そのため調査区には、集落跡が展開している微高地の区域と、微高地の南西辺及び北辺部には旧新川の支流が形成した沖積地の区域とに分かれる。平成18年度の整理対象地区は、微高地の南半部と南西辺にあたる低湿地の区域を含んでいる。

微高地上の旧地盤はT.P. 約23.4mを測り、旧状はほぼ全面農地であった。微高地の全域には、弥生時代後期後半前後の土器を含む、層厚約0.5mを測る褐色系の粘質土(第7図5・6層等)が広がり、その上面と下面とで、遺構面を2面確認した。上面を第1遺構面、下面を第3遺構面と呼ぶ。第1遺構面上は、T.P. 平均23.0mを測り、古墳時代前期前半以降の遺構が展開している。第3遺構面上は、T.P. 平均22.5mを測り、弥生時代中期～古墳時代前期前半頃の遺構が展開している。本遺跡の遺構の大部分はこの遺構面上で検出した。なお、微高地上のベースとして捉えた土層は地点によりかなり土質が異なり、微高地の北半部Ⅱ区周辺では黄灰・灰色系のシルト、低湿地部に隣接するⅠ区周辺では灰色系のシルト(32層)ないし砂質土がベースになる。

微高地の南西辺部にあたる低湿地部では旧古川から派生する小規模な自然河川と、大型の溝状遺構等を検出している。微高地から続く第1遺構面は低湿地の上面まで及び、第3遺構面は若干レベルを下げながらも続き、低湿地部の主要な遺構の大部分がこの遺構面上に広がっている。Ⅰ区では第1遺構面と第3遺構面の中間に第2遺構面を確認した。この遺構面上からは複数の溝状遺構を検出している。この遺構面はⅢ区まで及ぶが、明瞭に区分できていないところがある。

なお、Ⅰ・Ⅲ区に広がる低湿地部の第1遺構面上には、洪水砂と考えられる約0.5mの淡褐色の粗砂が堆積している(第97図15・16・18層等)。ラミナ状の堆積も確認できることより、



第7図 II・III区北壁土層図 (水平1/160、垂直1/80)



短期間に堆積したことは間違いなく、この粗砂により低湿地部は現地盤の高さ近くまで埋まっている。そのため、低湿地部を埋める大きな洪水が、この遺跡に及んだことは確かであろう。

### 第3節 I・II・III区、南水路②③の調査

#### 1. 概要

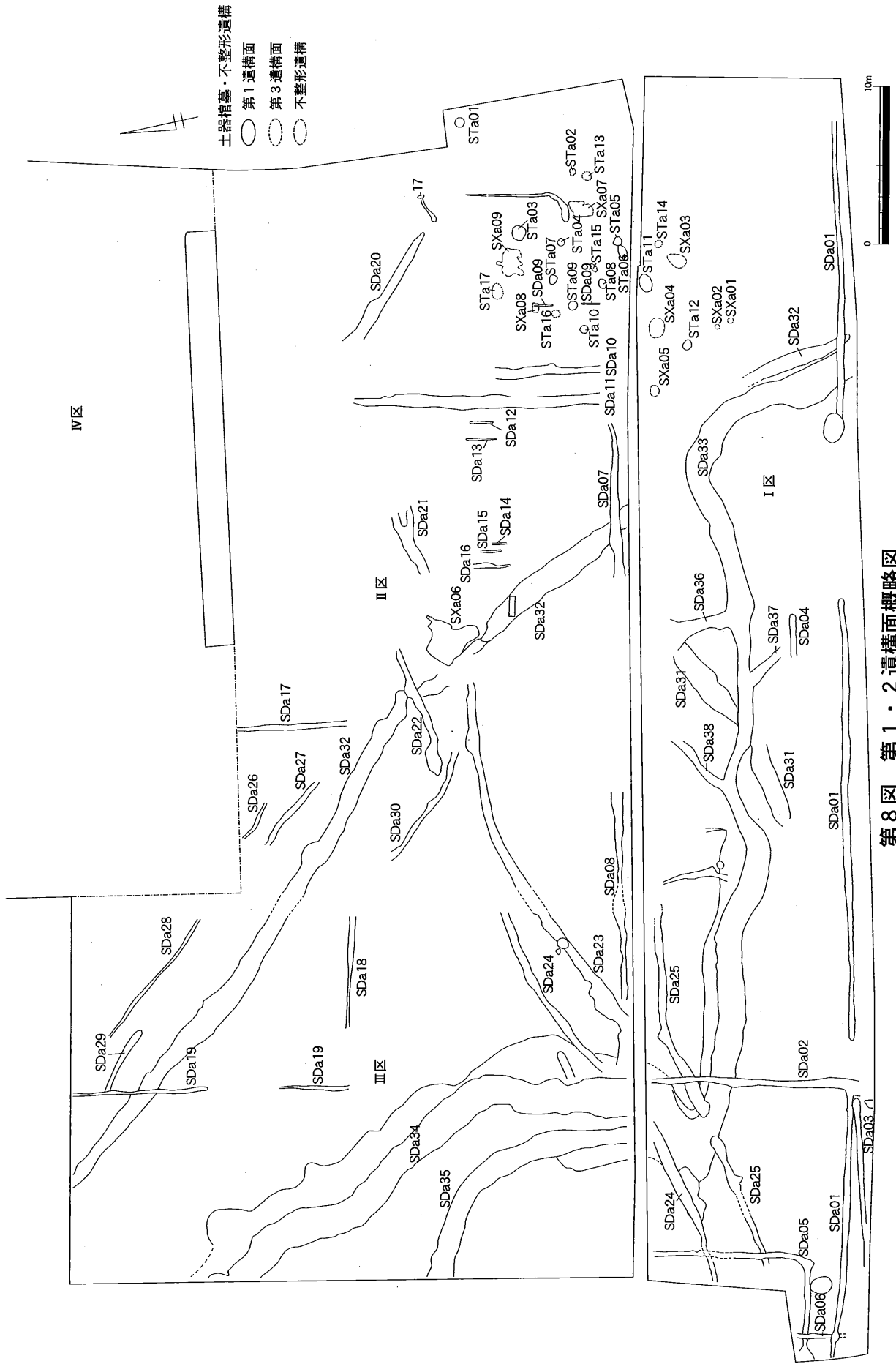
調査地は新川が形成した扇状地と、「白山」から西に延びる低丘陵の先端が交わる微高地上に位置し、その微高地上に弥生時代中期中葉～古墳時代前期前半の集落跡が広がっている。集落跡の範囲は南北160m、東西140mの範囲で確認した。なお、この集落跡の東辺については調査対象地より外れるため詳細は分からないが、あと100m程度延長し、天神山古墳群が所在する丘陵の裾付近にまで広がる可能性がある。

鹿伏・中所遺跡の集落跡が広がる微高地上のほぼ全域には、弥生時代後期後半前後の遺物を多量に含む、約0.5mの遺物包含層が広がっており、その上面と下面とで、遺構面を2面確認した。上面を第1遺構面、下面を第3遺構面と呼ぶ。第1遺構面上は、T.P. 平均23.0mを測り、古墳時代前期後半以降の遺構が展開している。第3遺構面上は、T.P. 平均22.5mを測り、弥生時代中期～古墳時代前期前半頃の遺構が展開している。本遺跡の遺構の大部分はこの遺構面上で検出した。微高地上の集落跡では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡を中心とした居住域と、土器棺墓群からなる墓域を確認した。竪穴住居跡は80棟以上、掘立柱建物跡は20棟以上を数える。土器棺墓群は集落の南東辺にあたるI・II区、南水路②③に集中し、19基を検出した。

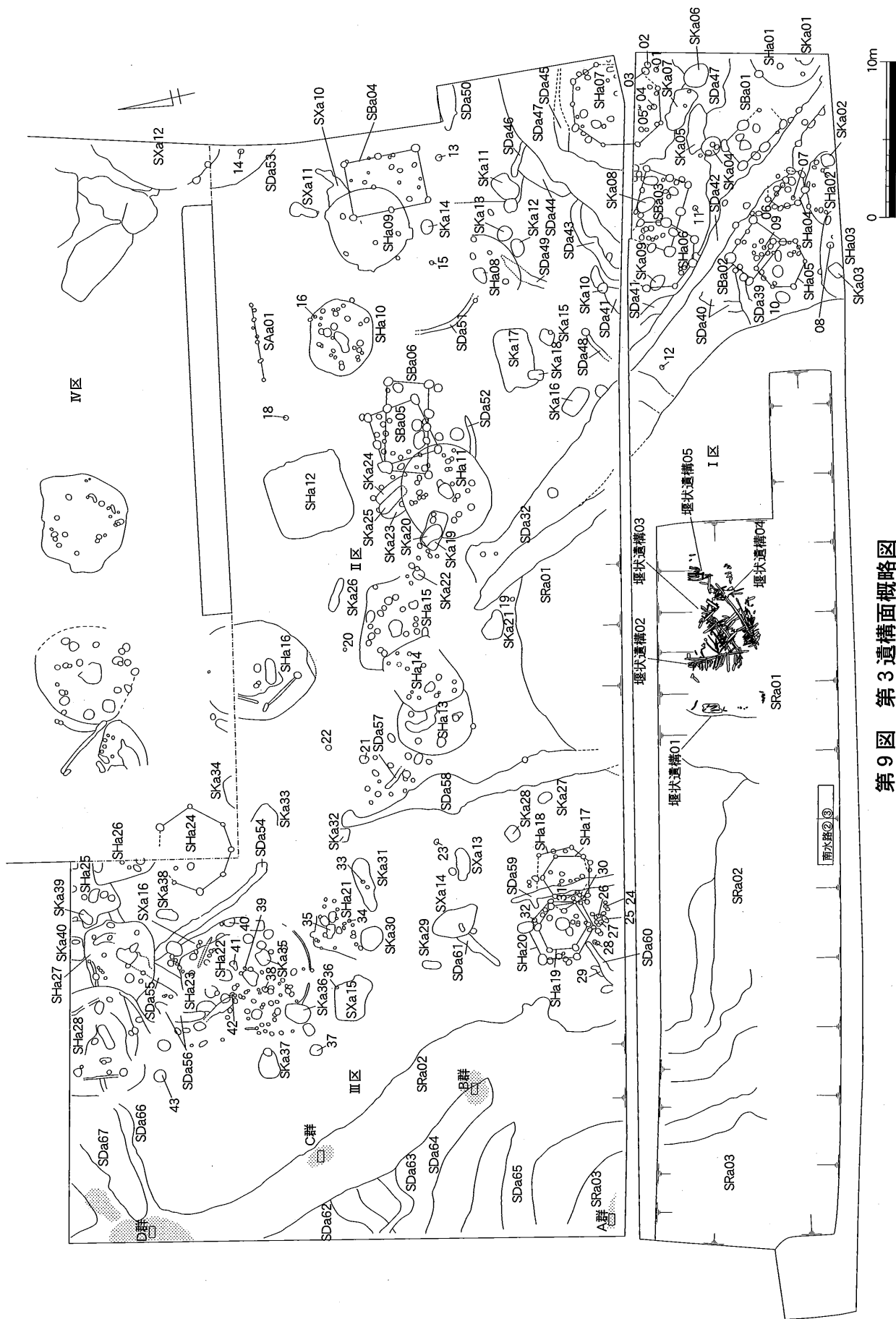
微高地の北辺部及び南辺部では低湿地状を呈し、南西辺部にあたるI・III・IX区等の低湿地部では、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半頃の小規模な3条の自然河川と、河川の河床近くに築かれた堰状遺構及び大型の溝状遺構等を検出している。また、この河川からは集落からの廃棄遺物が多量に出土している。微高地から続く第1遺構面は低湿地部の上面まで及び、第3遺構面は若干レベルを下げながらも広がり、低湿地部の主要な遺構の大部分がこの遺構面上に展開している。I区では第1遺構面と第3遺構面の中間に第2遺構面を確認した。この遺構面上からは複数の溝状遺構を検出している。この遺構面はIII区まで及ぶが、III区では明瞭に区分できていないところがある。

これらの集落規模及び遺構内容等より、本遺跡は三木町周辺に所在する同時期の遺跡の中でも、代表的な拠点集落の一つにあげられる。

平成18年度の整理の対象となるのは、先述した微高地の南辺部から低湿地部にあたる、I・II・III区、南水路②③の調査区である。これらの調査区からは、弥生時代中期中葉～古墳時代前期前半の竪穴住居跡28基、掘立柱建物跡6基、土器棺墓17基、溝状遺構67条、自然河川3条等を検出した。また、先述したように自然河川跡からは、集落から廃棄されたと考えられる大量の弥生時代後期後半～古墳時代前期前半頃の土器が出土した。なお、自然河川の河床面からは、杭状の木製品を組んだ5基の堰状遺構を検出した。



第8図 第1・2遺構面概略図



第9図 第3遺構面概略図

## 2. 遺構・遺物

### (1) 竪穴住居跡

#### SHa01 (第10・11図)

I区東端部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。平面形は円形を呈し、径約4.6mを測る。東半部は調査区より外れるため、約1/2を検出した。面積は推定で17.2㎡を測る。床面までの深さは約0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれ上層は暗灰褐色粘質土、下層は暗灰色粘質土を呈する。

床面上では外周に壁溝が巡り、柱穴3基と不整形な土坑1基を検出した。壁溝は幅約0.2m、深さ約0.1mを測る。検出された柱穴のうち主柱穴と特定できるものはないが、P02は配置的に主柱穴の可能性をもつ。径0.4m、深さ0.1mを測る。土坑SKa01は床面の南寄りの位置で約1/2を検出した。長径約0.8m、深さ5cmを測る。この土坑はこの住居跡に伴う炉跡の可能性がある。

出土遺物としては、少量の弥生時代中期中葉の土器とサヌカイト製の石器類が出土した(第11図1～4)。1～3は壺の口縁部と頸部片である。出土遺物は少ないが、この住居は弥生時代中期中葉以降の住居跡と考えられる。

#### SHa02 (第12図)

I区東端部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。なお、この住居跡の西辺部はSHa03に切られている。平面形は円形を呈し、径約4.8mを測る。南半部は調査区より外れるため、約1/2弱を検出した。面積は推定で24.6㎡を測る。床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は上下2層に分かれ上層は暗灰褐色粘質土、下層は黒色粘質土を呈する。

床面上では複数の柱穴と隅丸方形の土坑1基を検出した。検出された柱穴のうち主柱穴と特定できないが、P01～P04は配置的に主柱穴の可能性をもつ。径0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。土坑SKa02は床面の東寄りの位置で検出した。長径約0.8m、深さ0.2mを測る。

出土遺物としては、少量の弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した。出土遺物が少量でこの住居の時期の決め手は少ないが、SHa02を切り込んでいるSHa03の時期を考慮すれば、弥生時代中期中葉以降の可能性が考えられる。

#### SHa03 (第11～13図)

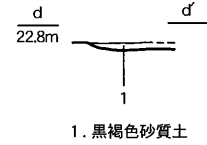
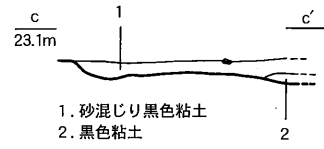
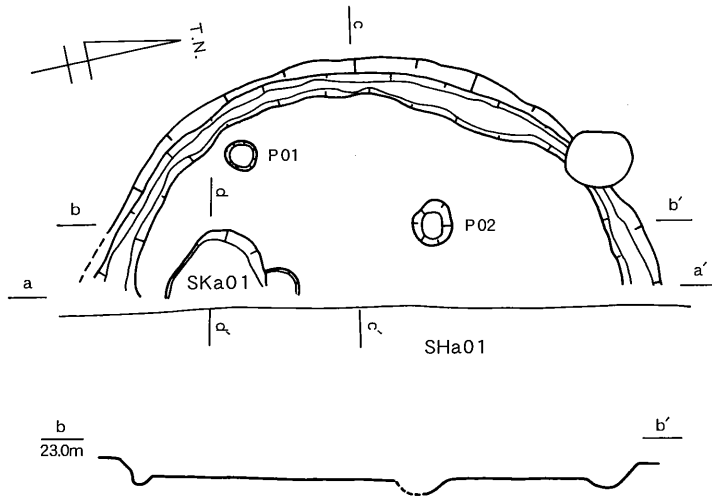
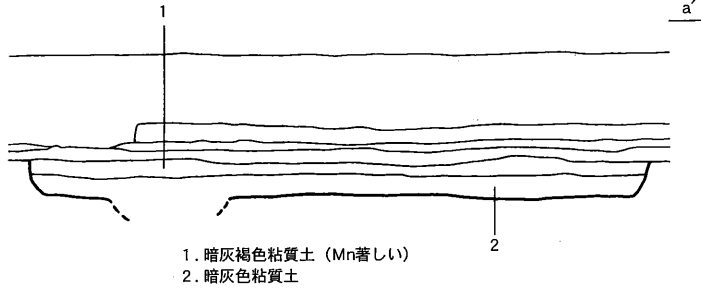
I区東端部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。南半部は調査区より外れ、北辺部の一部を検出した。そのため、この住居跡は不明な点が多い。なお、この住居跡の東辺部はSHa02を切り込んでいる。平面形は不整形な円形ないし隅丸方形の住居跡と考えられ、径約5.5m以上を測り、比較的大型の住居跡である。床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は上下2層に分かれ上層は暗黒褐色砂混じり粘土、下層は暗黒色砂混じり粘土を呈する。

床面上では外周を巡る壁溝と、柱穴と土坑1基を検出した。壁溝は住居跡のプランと僅かに食い違うため、建て替えの可能性も考えられる。幅約0.2m、深さ約0.1mを測る。検出された柱穴のうち主柱穴と特定できるものはない。土坑SKa03は隅丸方形を呈し、床面の西寄りの位置で検出した。長径約0.9m、短径約0.7m、深さ0.2mを測る。この土坑の主軸方向は住居跡のプランと食い違うため、住居跡に伴うものとは考えがたい。

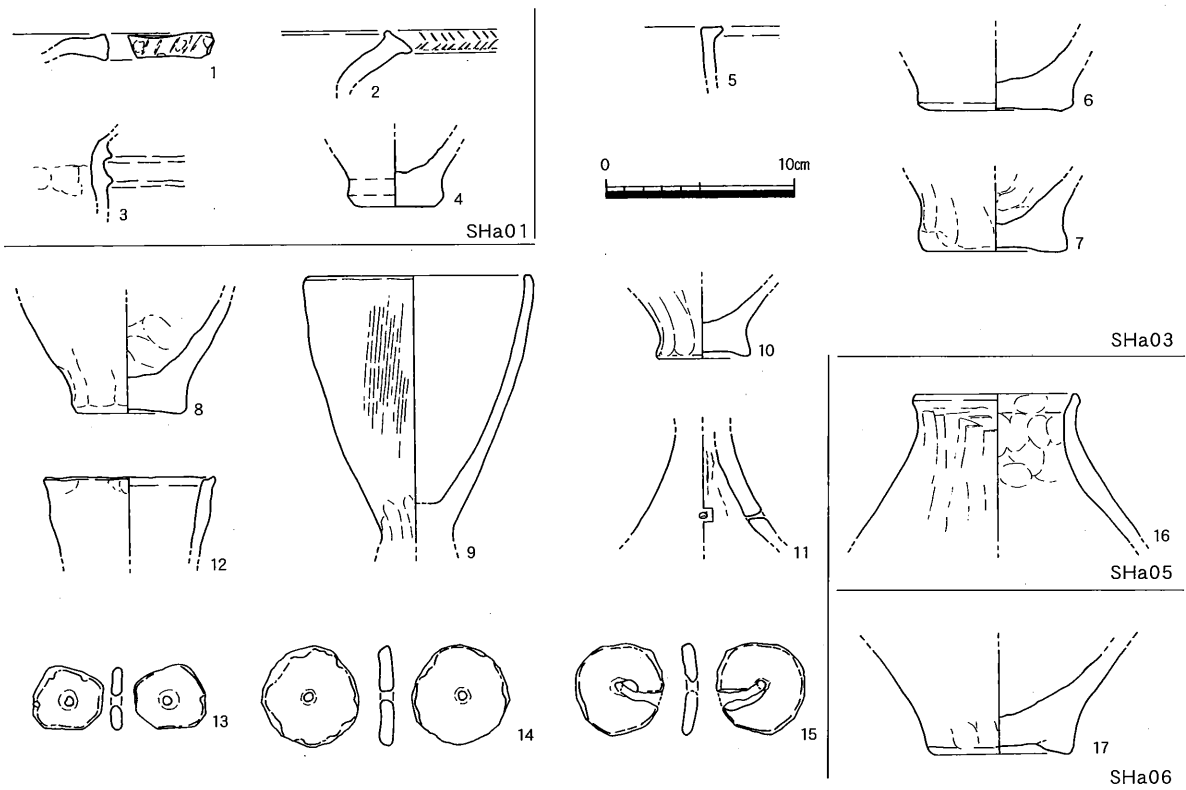
出土遺物としては少量の弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した。特にサヌカイト製の石



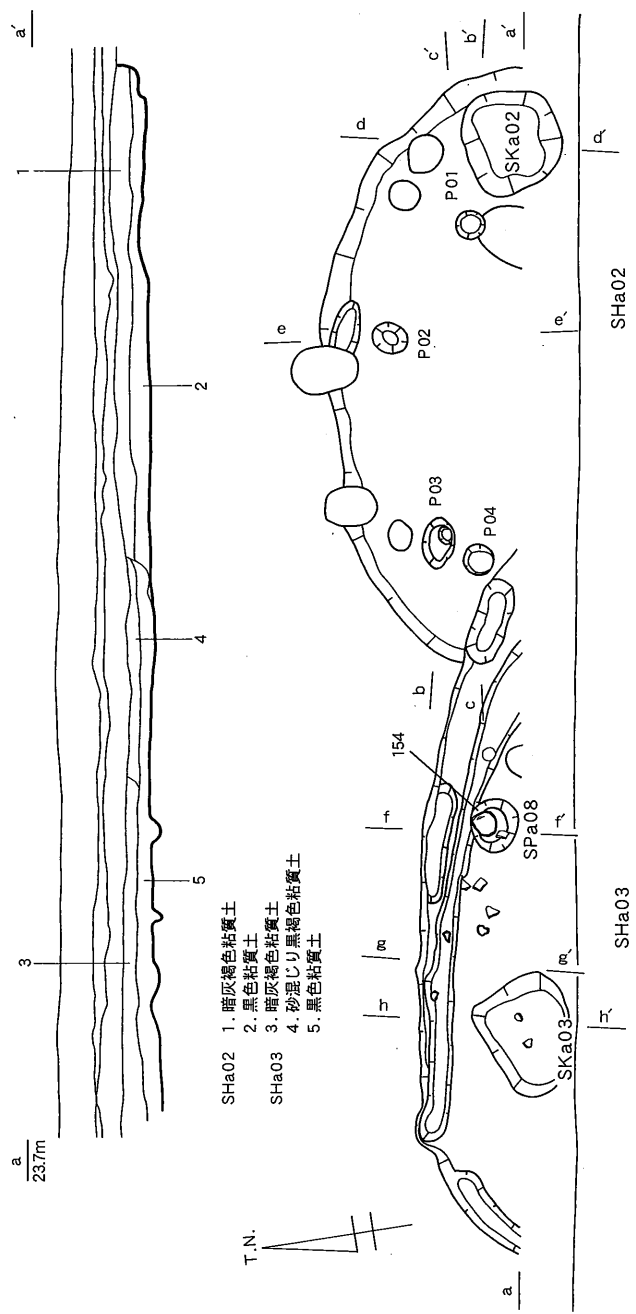
a  
24.1m



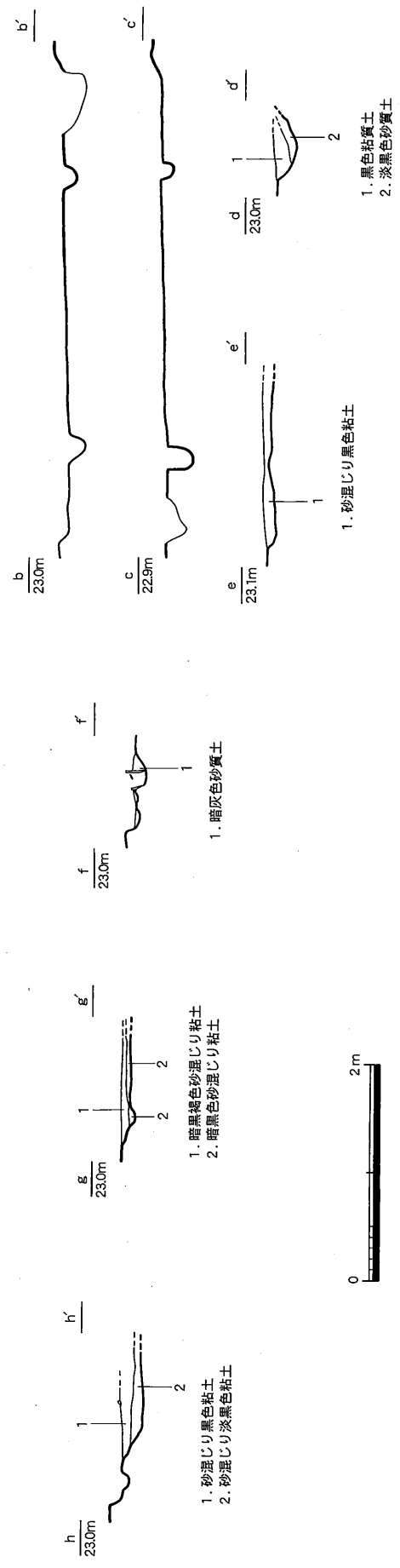
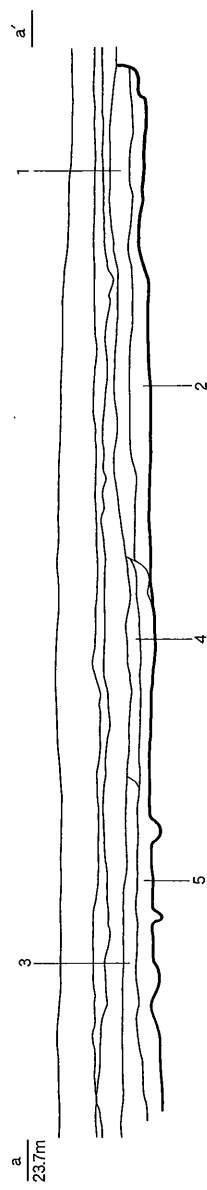
第10図 SHa01平・断面図



第11図 SHa01・03・05・06出土遺物



- SHa02 1. 暗灰褐色粘質土  
 2. 黒色粘質土  
 SHa03 3. 暗灰褐色粘質土  
 4. 砂混じり黒褐色粘質土  
 5. 黒色粘質土



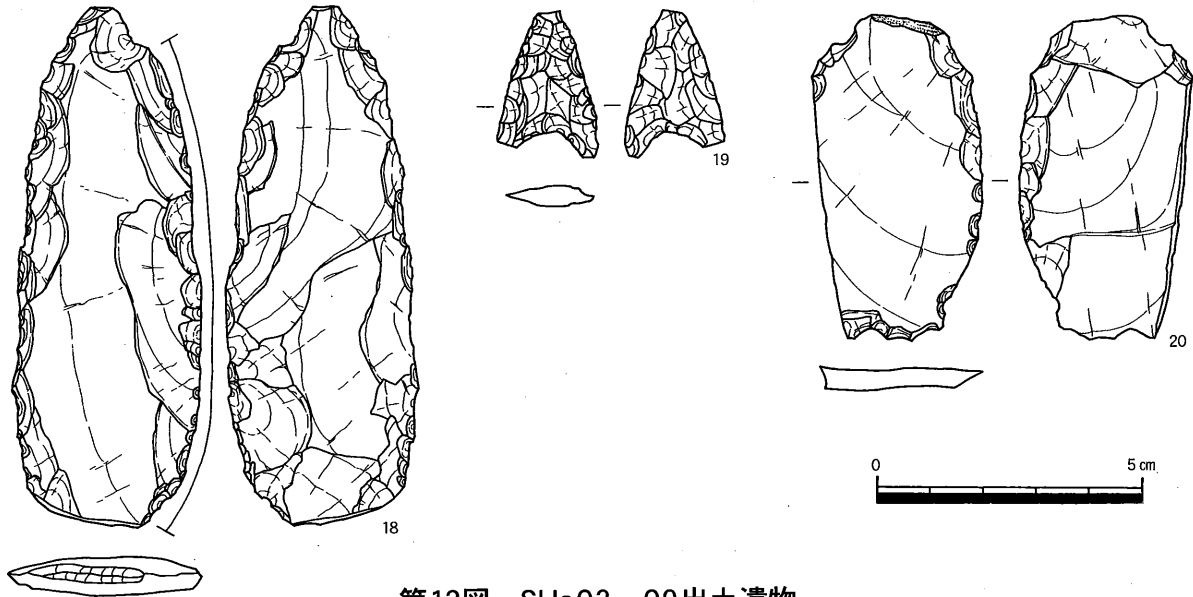
1. 暗黒褐色砂混じり粘土  
 2. 暗黒色砂混じり粘土

1. 暗灰色砂質土

1. 砂混じり黒色粘土

1. 黒色粘質土  
 2. 淡黒色砂質土

第12図 SHa02・03平・断面図



第13図 SHa03・09出土遺物

器類の数は多く、剥片が主ではあるが66点を数え、Ⅰ～Ⅲ区の住居跡の中で2番目に出土数が多い。おそらく、住居内で石器を作っていたものと考えられる。(第11・13図5～15、18・19)。5は逆L字型の甕の口縁部である。6～8は甕の底部である。11は高杯の脚部で、おそらく混入品であろう。13～15は土製の紡錘車である。18はサヌカイト製の槍先形石器である。器面の調整状況より未製品の可能性が高い。19はサヌカイト製の石鏃である。

出土遺物の特徴からこの住居跡は、弥生時代中期前葉以降の時期が考えられ、Ⅰ～Ⅲ区で最も古い住居跡といえる。

#### SHa04 (第14図)

Ⅰ区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け支柱穴だけを残す。なお、この住居跡の東辺部はSDa42に切られている。平面形はおそらく円形を呈し、径2.9m以上、検出面積は3.8㎡を測る。支柱穴と考えられるのは、P01～P05である。径約0.2m、深さ0.1～0.2mを測る。

出土遺物としては少量の弥生土器片のみで、住居跡の詳細な時期については問題を残す。

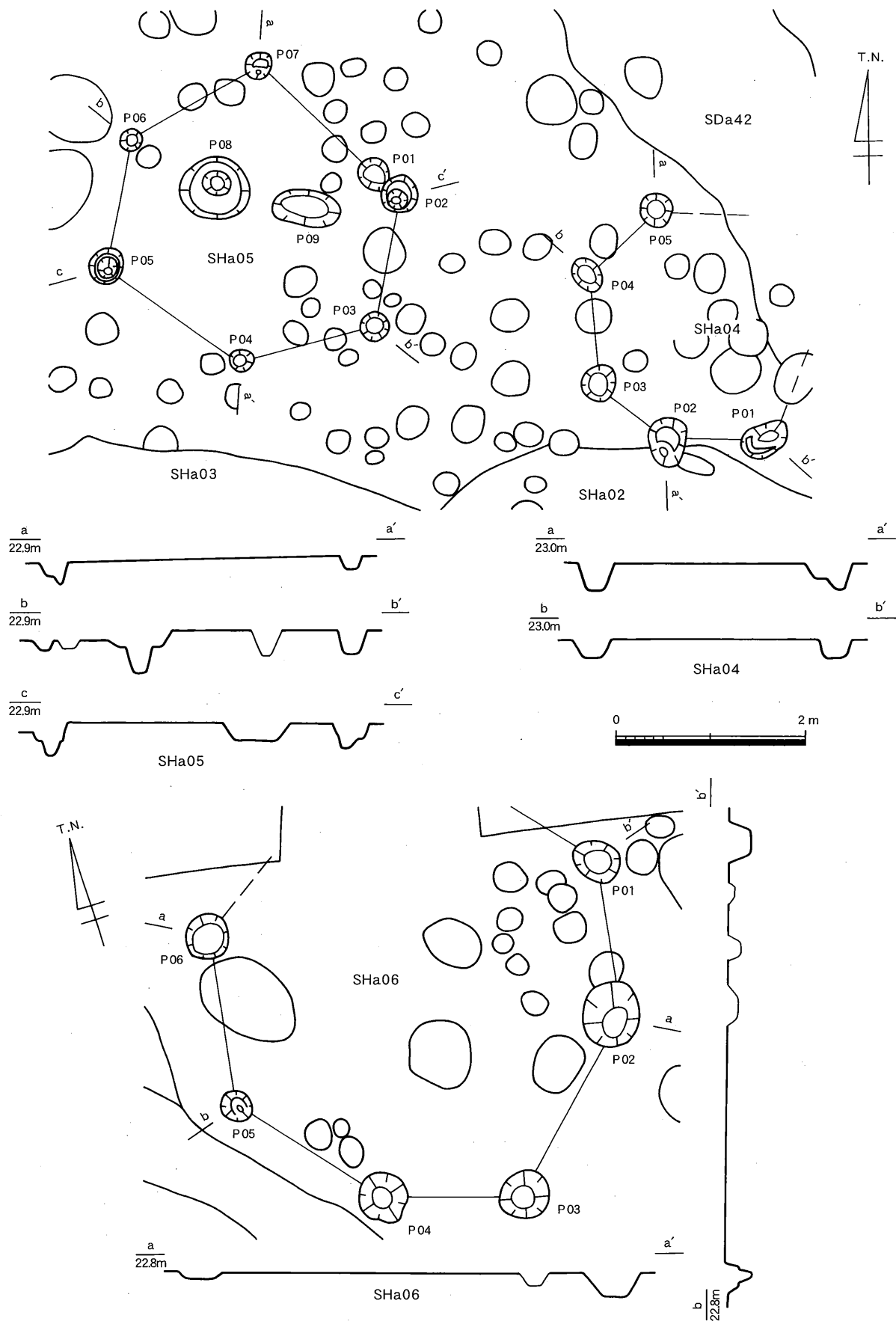
#### SHa05 (第11・14図)

Ⅰ区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け支柱穴だけを残す。平面形はおそらく円形を呈し、径3.4m以上、検出面積は6.4㎡を測る。支柱穴と考えられるのは、P01～P07である。径約0.2m、深さ0.1～0.2mを測る。なお、床面上に位置するP08・09は炉跡の可能性はある。

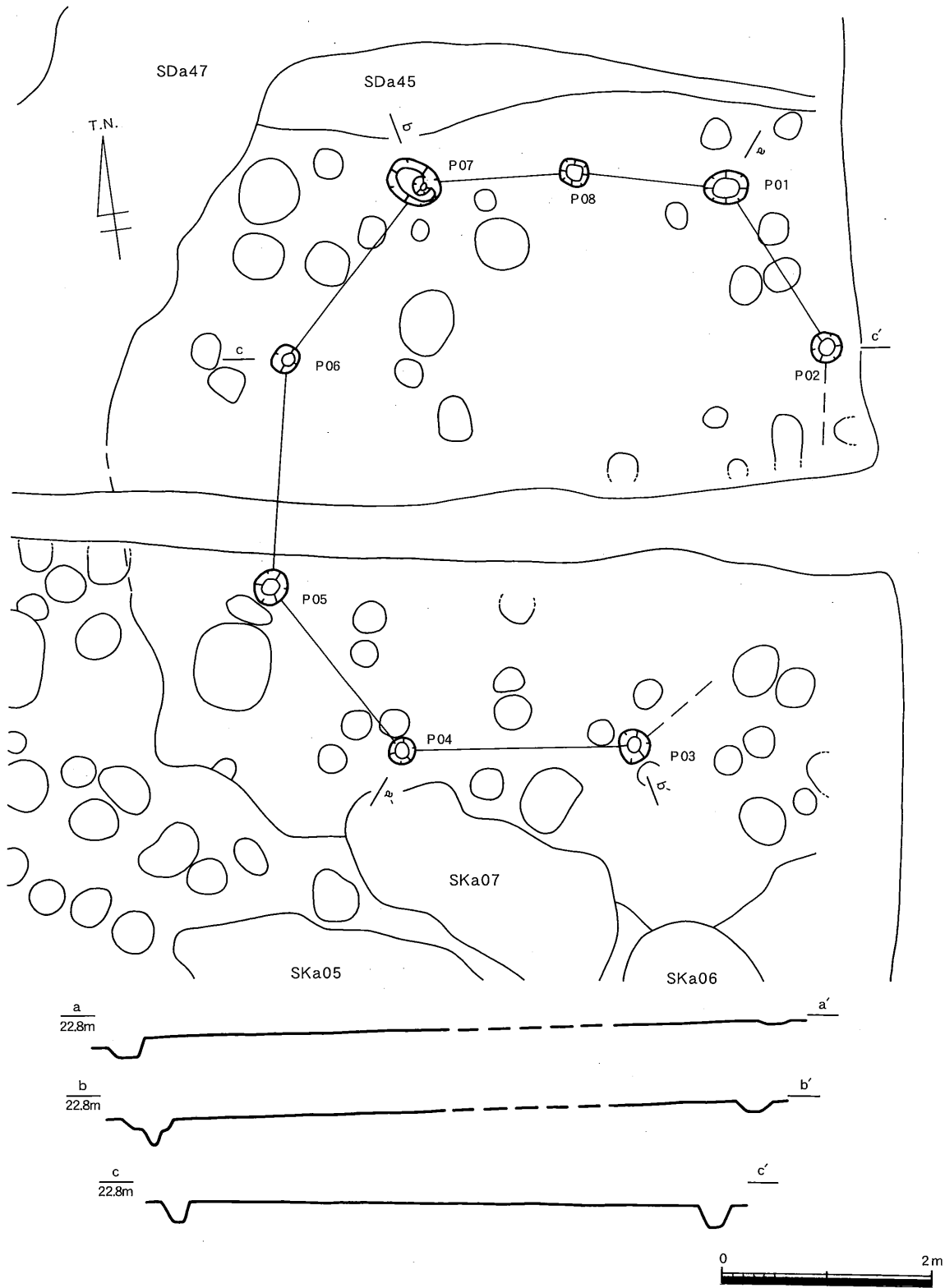
出土遺物としては少量の弥生土器片のみで(第11図16)、住居跡の詳細な時期については問題を残す。

#### SHa06 (第11・14図)

Ⅰ区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け支柱穴だけを残す。平面形はおそらく円形を呈し、径4.7m以上を測る。支柱穴は8基のうちP01～P06の6基を検出した。径約0.3～0.7m、深さ0.1～0.25m、



第14图 SHa04·05·06平·断面图



第15図 SHa07平・断面図



検出面積は13.5㎡を測る。

出土遺物としては、少量の弥生土器片が出土した（第11図17）。出土遺物が少なく住居跡の詳細な時期については問題を残す。

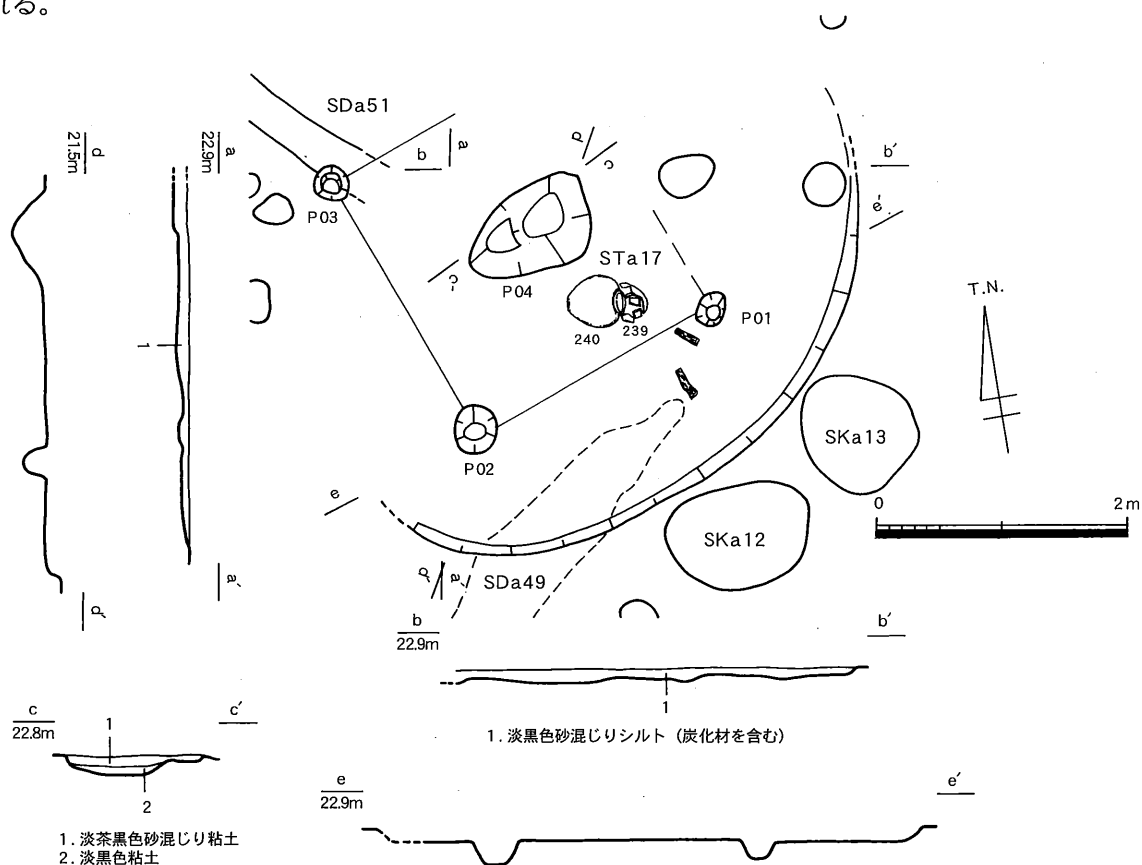
#### SHa07（第15図）

I・II区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け支柱穴だけを残す。平面形はおそらく円形を呈し、径5.8m以上、検出面積は23.7㎡を測る大型の住居跡である。支柱穴は本来9基と考えられるが、P01～P08の8基を検出した。径約0.2～0.5m、深さ約0.1mを測る。構造上この住居跡は平地式住居の可能性が高い。なお、この住居跡の外周には住居を囲うようにSDa45・47が巡る。その配置状の特徴より、SDa45・47は住居跡を区画した溝の可能性はある。

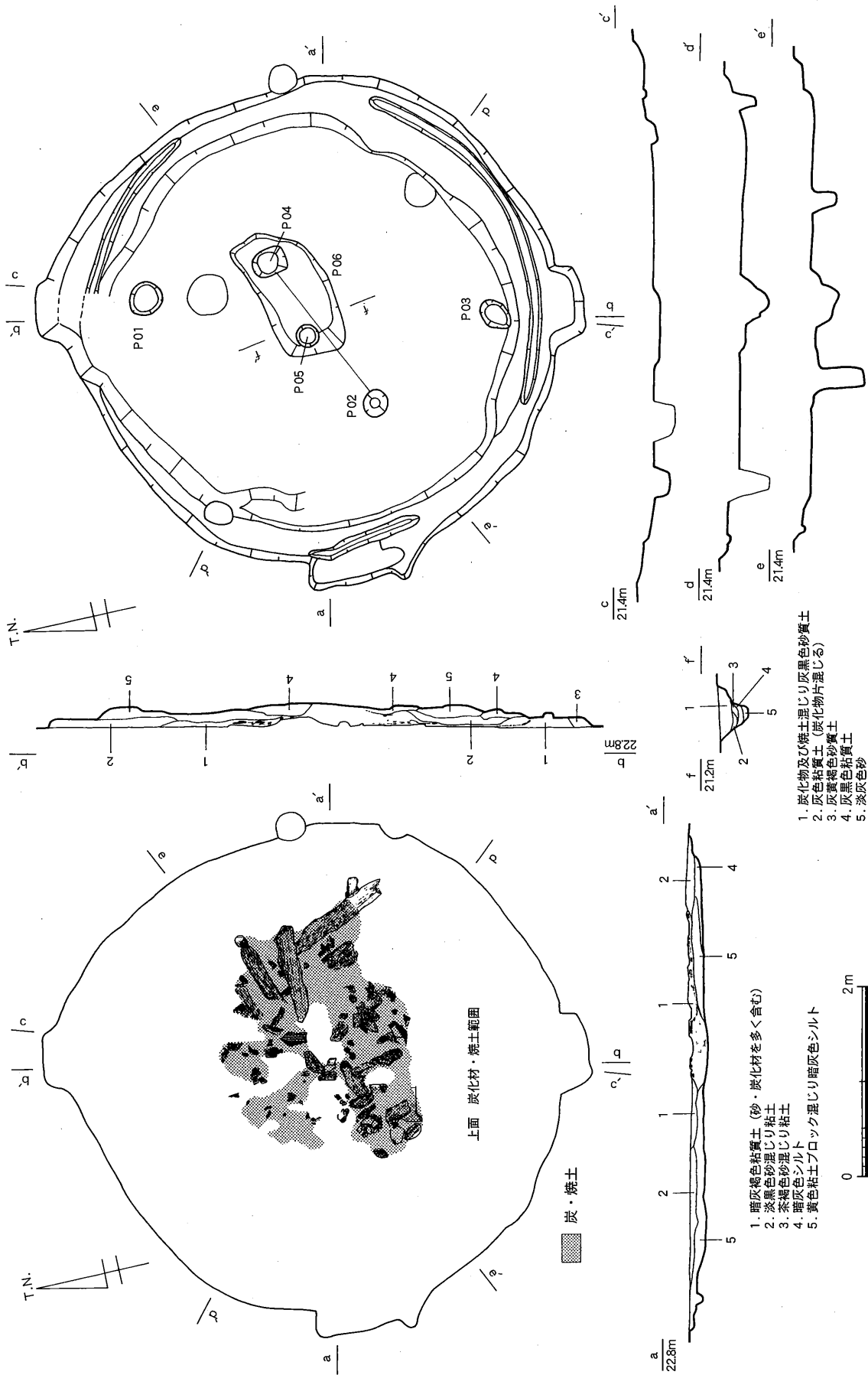
出土遺物としては、少量の弥生土器片のみで、住居跡の詳細な時期については問題を残すが、住居跡の外周を巡るSDa45・47の時期に類似する事が考えられる。しかし、SDa45・47は弥生時代中期中葉に掘削された後に、弥生時代後期後半に改修されており、この住居がどの段階に共存するのかは問題を残す。

#### SHa08（第16・20図）

II区東端部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の上面にはSTa17が切り込んでいいる。平面形は円形を呈し、径約4.8m以上を測る。南東半部の約1/2弱を検出した。面積は推定で23.0㎡を測る。床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は炭化材片を含む淡黒色砂混じりシルトである。なお、この住居跡は床面上で炭化材片が出土したため、焼失家屋と考えられる。



第16図 SHa08平・断面図



1. 炭化物及び焼土混じり灰黒色砂質土
2. 灰色粘質土 (炭化物片混じる)
3. 灰黄褐色砂質土
4. 灰黒色粘質土
5. 淡灰色砂

1. 暗灰褐色粘質土 (砂・炭化材を多く含む)
2. 淡黒色砂混じり粘土
3. 茶褐色砂混じり粘土
4. 暗灰色シルト
5. 黄色粘土ブロック混じり暗灰色シルト

第17図 S-Ha09平・断面図

床面上には、複数の柱穴と不整形楕円形状の土坑1基を検出した。検出された柱穴のうち配置の上で支柱穴と特定できるのはP01～P03である。径0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。土坑(P04)は床面の中央で検出した炉跡と考えられる。長径1.1m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。

出土遺物としては少量の弥生土器片が出土した(第20図21)。出土遺物が少量で、時期決定には問題を残すが、住居の上面から、弥生時代後期後半のSTa17が切り込んでいることから、弥生時代中期頃の可能性が高い。

#### SHa09 (第13・17・20図)

Ⅱ区東端部の第3遺構面上で検出した、焼失家屋の竪穴住居跡である。平面形は円形を呈し四方向に短い張り出しを検出した。四方向の張り出しのうち東端部は残りが悪いが、他は幅0.5～0.8m、長さ0.2m程を測る。住居跡は径約5.1m、面積は21.2㎡を測る。床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は5層に細分され、上層部分では炭化材を多量に含む。

住居の上面からは炭化材が多量に出土した。床面上では外周を壁溝が部分的に巡り、中央に炉跡と考えられる不整形な土坑と複数の柱穴を検出した。なお、この住居跡の床面の外周には幅の狭いベッド状の遺構を検出した。この施設は地山を削り出したもので、幅約0.3mを測る。壁溝は幅15cm、深さ5cmを測る。中央の炉跡P06は不整形な楕円形状を呈する土坑で、両端部の底部には柱穴P04・05を検出した。埋土は5層に細分され、炭化物及び焼土片を多量に含んでいる。長径1.5m、短径0.7m、深さ約0.3mを測る。柱穴は床面上で5基を検出しその中で、支柱穴はP02・04の2支柱穴が考えられる。

出土遺物としては少量の弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した(第13・20図20、22～24)。20は板状の素材をもちいた、外湾刃状の刃部をもつサヌカイト製の削器である。22は弥生時代前期後半の甕の口縁部で混入品である。23・24は弥生時代後期前半の甕である。24は形態・技法等で下川津B類の甕に類似する。

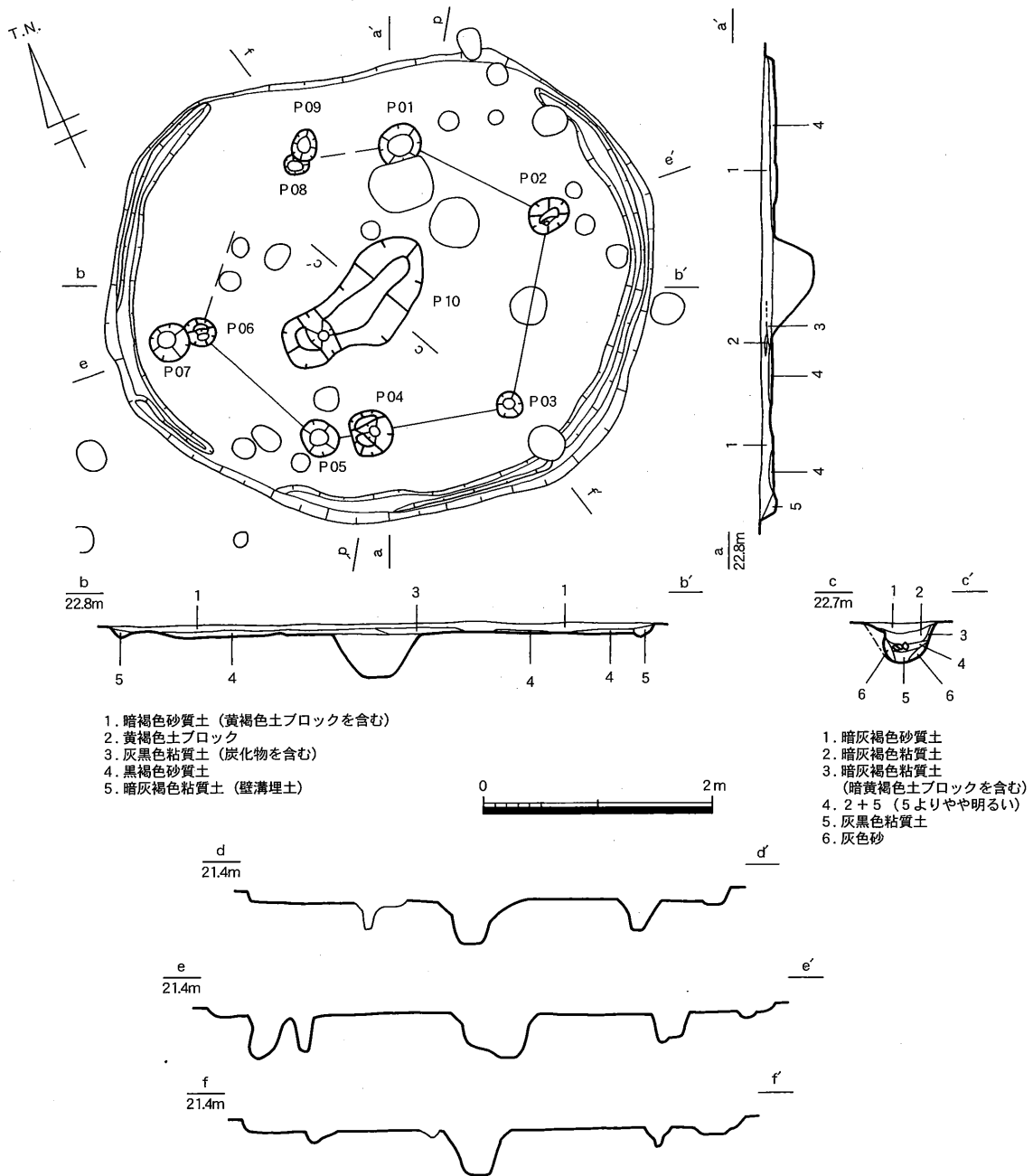
出土遺物からこの住居跡は、弥生時代後期前半以降の住居と考えられる。

#### SHa10 (第18・20・21図)

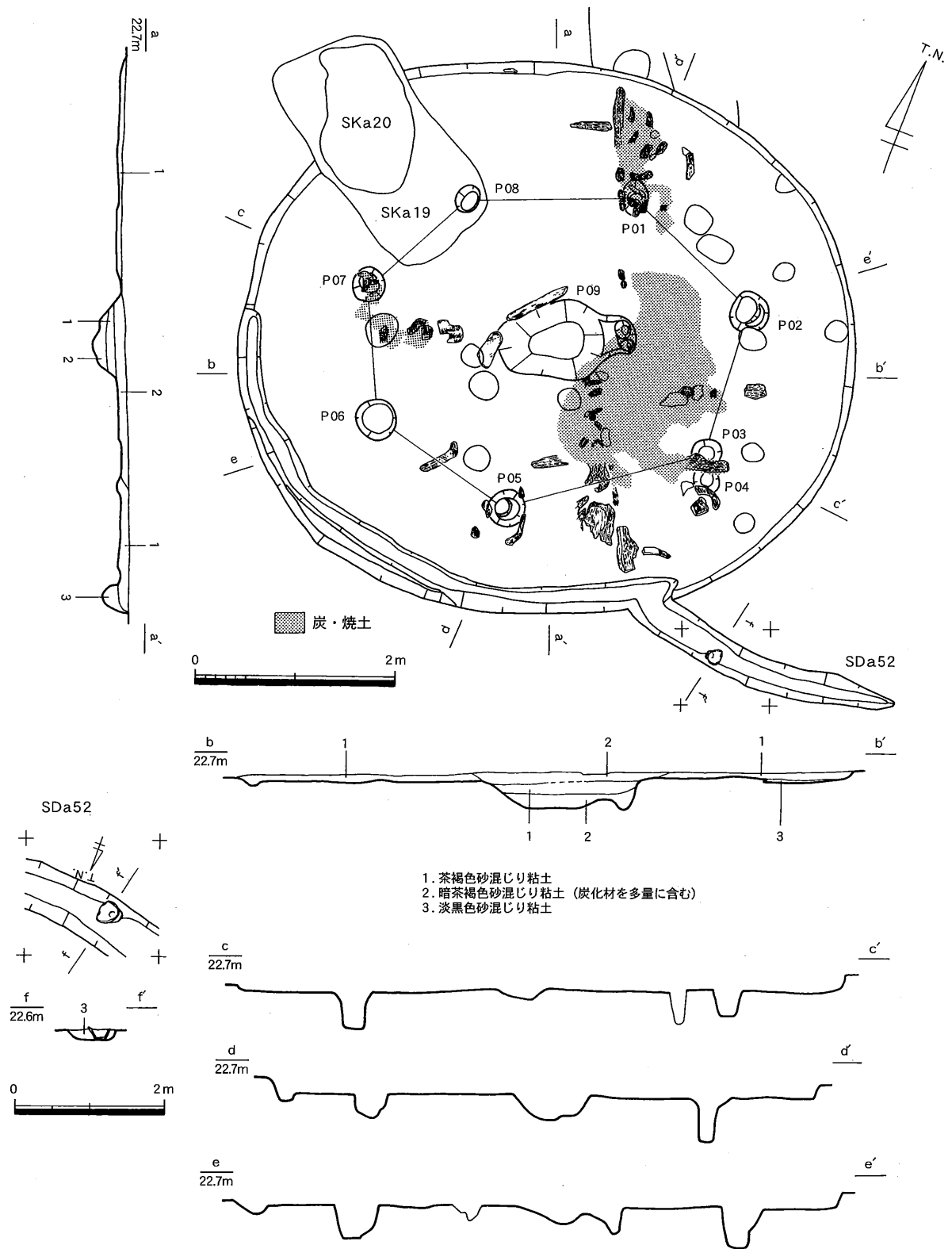
Ⅱ区東部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。平面形は楕円形状を呈し、長径4.9m、短径4.0m、面積は16.0㎡を測る。床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は5層に細分される。

床面上では外周を壁溝が巡り、中央に炉跡と考えられる不整形な土坑と複数の柱穴を検出した。壁溝は一部を欠くがほぼ全周している。幅15cm、深さ5cmを測る。中央の炉跡P10は不整形な長楕円形状を呈する土坑で、底部の両端部には浅い窪みを検出した。埋土は6層に細分され、部分的にベースの小ブロックを含んでいる。長径1.5m、短径0.5m、深さ約0.3mを測る。柱穴は床面上で多数検出したが、支柱穴と考えられるのは、六角形状の配置が復元できるP01～P09である。これらの柱穴は互いに切り合うものがあるため建て替えの可能性はある。径約0.1～0.2m、深さ約0.15～0.4mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した。特にサヌカイト製の石器類の数は多く、石核・剥片等を含めると90点を数え、Ⅰ～Ⅲ区の住居跡の中で最も出土数が多い。おそらく、住居内で石器を作っていたものと考えられる(第20・21図25～28、46～54)。27は退化した凹線文を端部に施した高杯の杯部上半部である。46～49は石鏃、50は器面の調整状

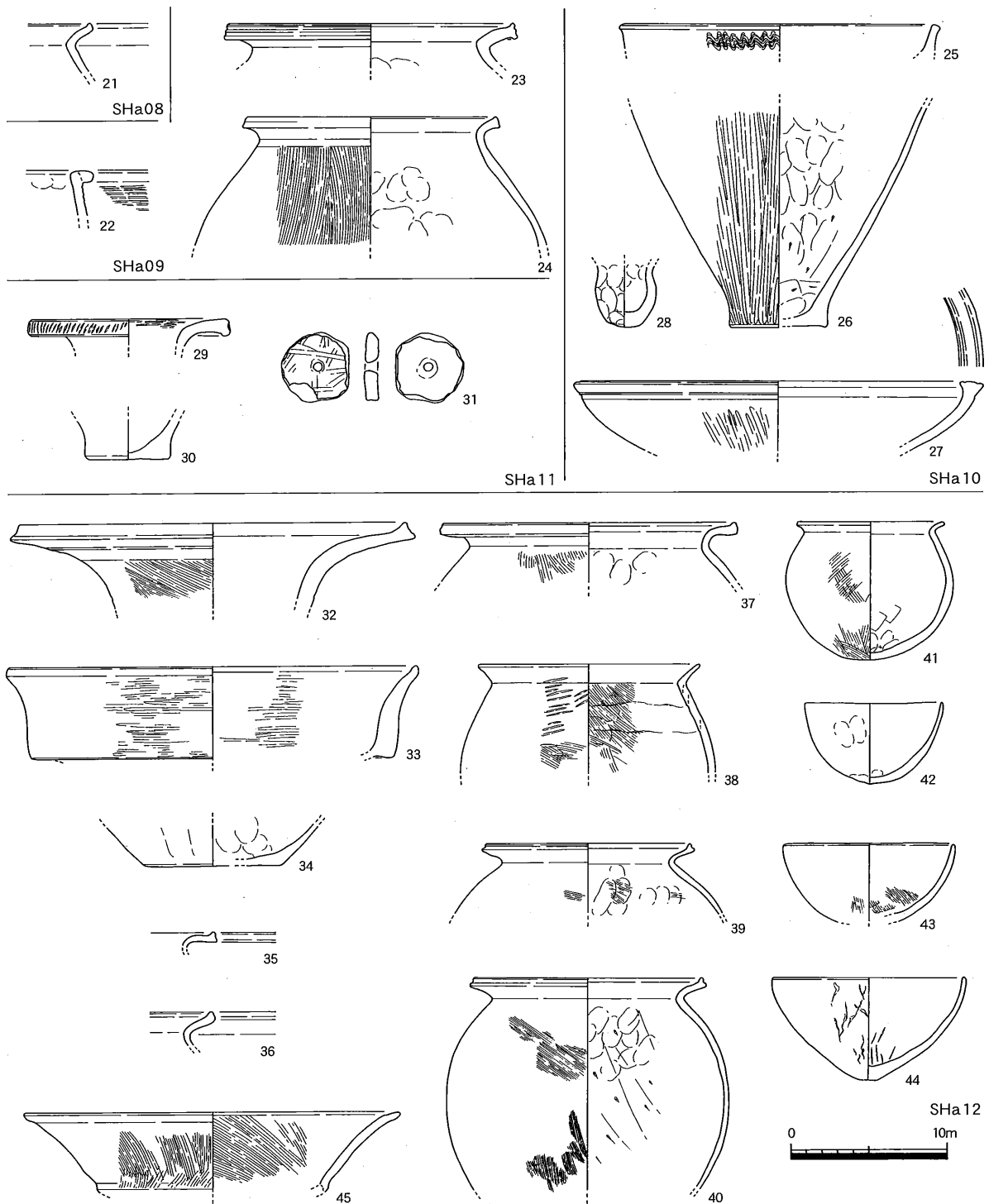


第18図 SHa 10平・断面図

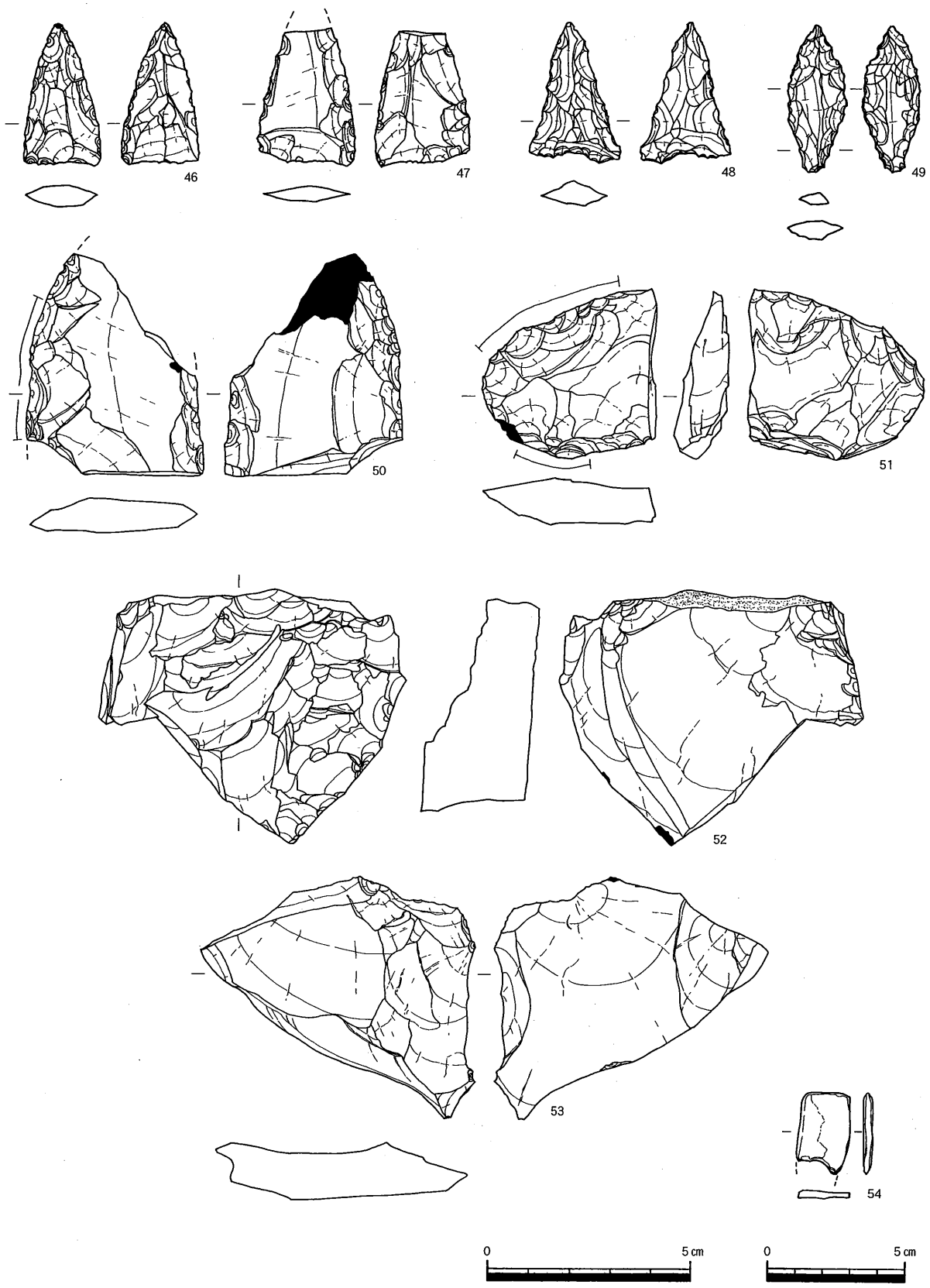


第19図 SHa11平・断面図





第20図 SHa08~12出土遺物



第21图 SHa10出土遺物

況より槍先形石器の未製品に分類した。51は楔形石器、52・53はサヌカイト製の板状の素材に加工を加えた未製品で、二次加工のある剥片に分類した。54は柱状片刃石斧の細片である。

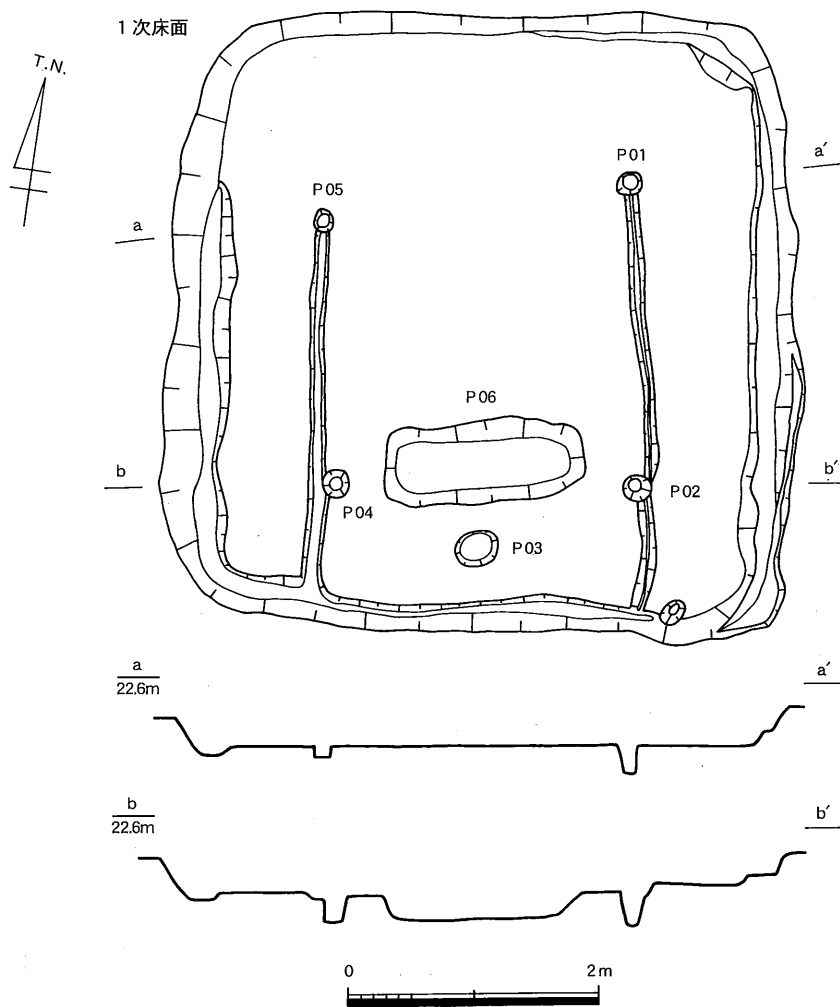
時期の決め手になる土器の出土が少ないが、この住居跡は弥生時代中期後半以降の可能性が考えられる。

SHa11 (第19・20・39図)

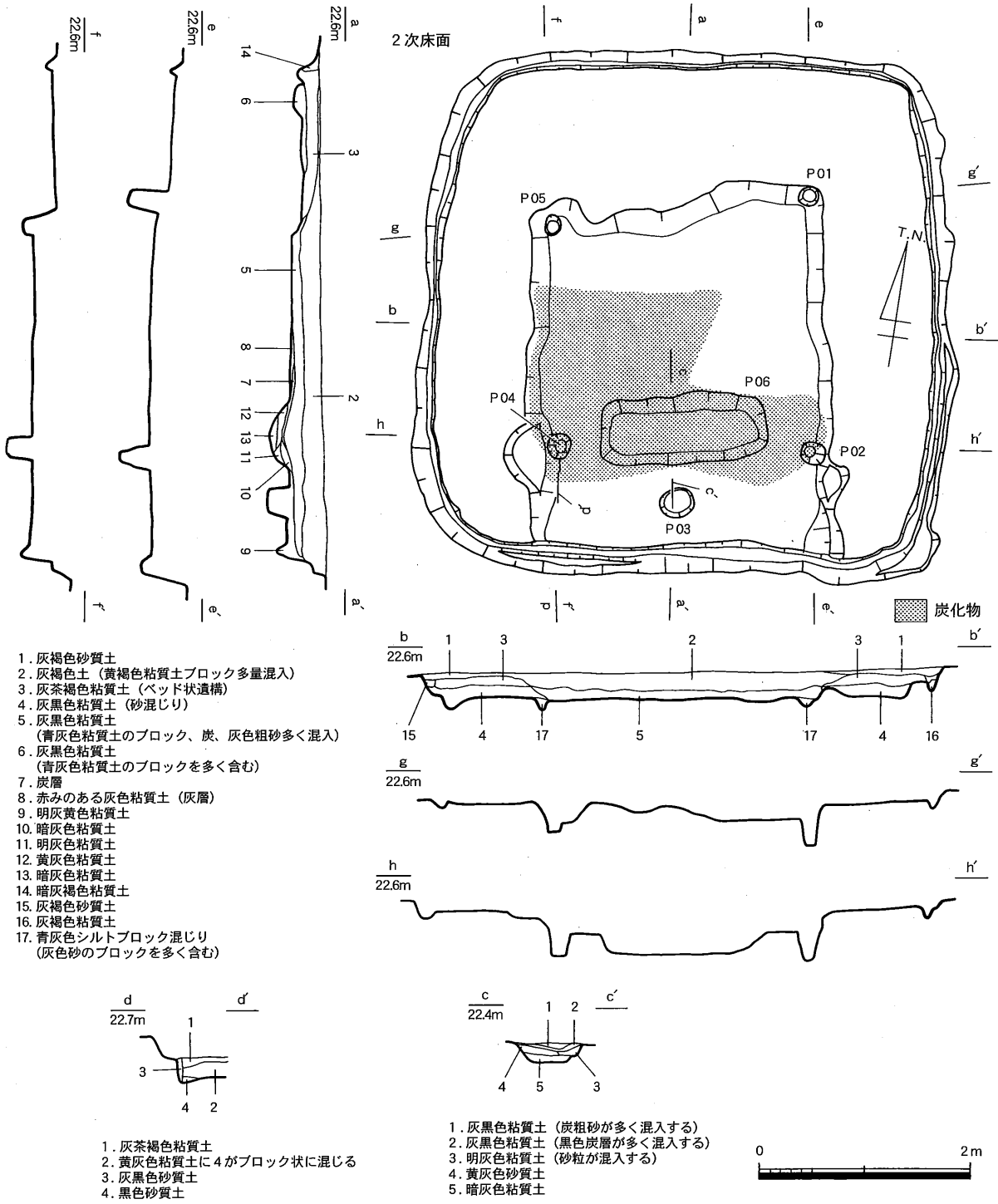
Ⅱ区の中央第3遺構面上で検出した焼失家屋の竪穴住居跡である。なお、この住居跡は、SKa23～25を切り込み、SKa19・20、SBa05・06に切られている。平面形は円形状を呈し、長径6.2m、短径5.6m、面積は30.0㎡を測る。床面までの深さは約0.15mを測る。埋土は3層に細分される。

住居の上面には炭化材と炭が広範囲に広がっていた。床面上では南半部の外周を壁溝が巡り、中央に炉跡と考えられる不整形な土坑と複数の柱穴を検出した。

壁溝は南半部の外周を巡り住居跡外のSDa52へ続く。幅2.0m、深さ0.1mを測る。中央の炉跡P09は不整形な長楕円形状を呈する土坑で、東端部は小さく窪む。埋土は単層で炭化物を含む。長径1.4m、短径0.8m、深さ約0.35mを測る。柱穴は床面上で多数検出したが、支柱穴と考えられるのは、七角形状の配置が復元できるP01～P08である。これらの柱穴は一部切り合うもの



第22図 SHa12平・断面図 (1)



第23図 SHa12平・断面図(2)

があるため、建て替えの可能性はある。径約0.2m、深さ約0.3mを測る。

出土遺物としては弥生時代中期中葉頃の土器とサヌカイト製の石器類が出土した。サヌカイト製の石器類の数は多く、剥片等を含めると56点を数える（第20・39図29～31、141・146）。29は壺の口縁部である。141はサヌカイト製の石錐、146は楔形石器である。

出土遺物よりこの住居跡は、弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SHa 12（第20・22・23図）

Ⅱ区の中央第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡は、明らかに建て替えが認められる住居跡である。平面形は隅丸形状を呈し、径約5.0m、面積は26.2㎡を測る。床面までの深さは約0.3mを測る。埋土は17層に細分される。

床面は2次期の床面を確認した。上層にあたる2次床面からは、壁溝、ベッド状遺構、床面南よりに炉跡、支柱穴を検出した。壁溝は全周を巡り、一部側板の痕跡を確認できた。幅約0.1m、深さ約0.1mを測る。ベッド状遺構は、南辺を除く三辺で「コ」の字状に配している。幅約1.0m、高さ0.2mを測る。炉跡P06は床面の南よりの位置で検出した。住居跡の向きに揃えた東西主軸で、長楕円形状を呈する。埋土は5層に細分され炭化物を含む。長さ1.6m、幅0.7m、深さ0.2mを測る。なお、この炉跡から掻き出したものと考えられる薄い炭層を、床面上で広範囲に確認した。柱穴は床面上で5基検出した。その中で支柱穴と考えられるのは、方形状の配置が復元できるP01・02・04・05である。径約0.2m、深さ約0.2mを測る。

下層にあたる1次床面からは、壁溝、ベッド状遺構に伴う側板痕を確認した。なお、この床面に伴う炉跡、支柱穴等については、新たに検出できないことから、2次床面と同位置の可能性が高い。壁溝はほぼ全周を巡り、幅約0.2m、深さ約0.1mを測る。ベッド状遺構に伴う側板痕は南北方向の東西二辺で確認した。長さ約3.0m、幅約0.1m、深さ5cmを測る。

出土遺物としては弥生土器、土師器とサヌカイト製の石器類が出土した。サヌカイト製の石器類は剥片等を含めると11点を数える（第20図32～45）。32～38は弥生時代後期後半の土器であり、おそらく混入した遺物であろう。39～42・45は古墳時代前期初頭頃の土師器である。39～41は甕で、体部は球体化し、39・40の底部は丸底化しているものと考えられる。38は弥生土器に区分したが、土師器に含めるものかもしれない。45は土師器高杯の杯部である。

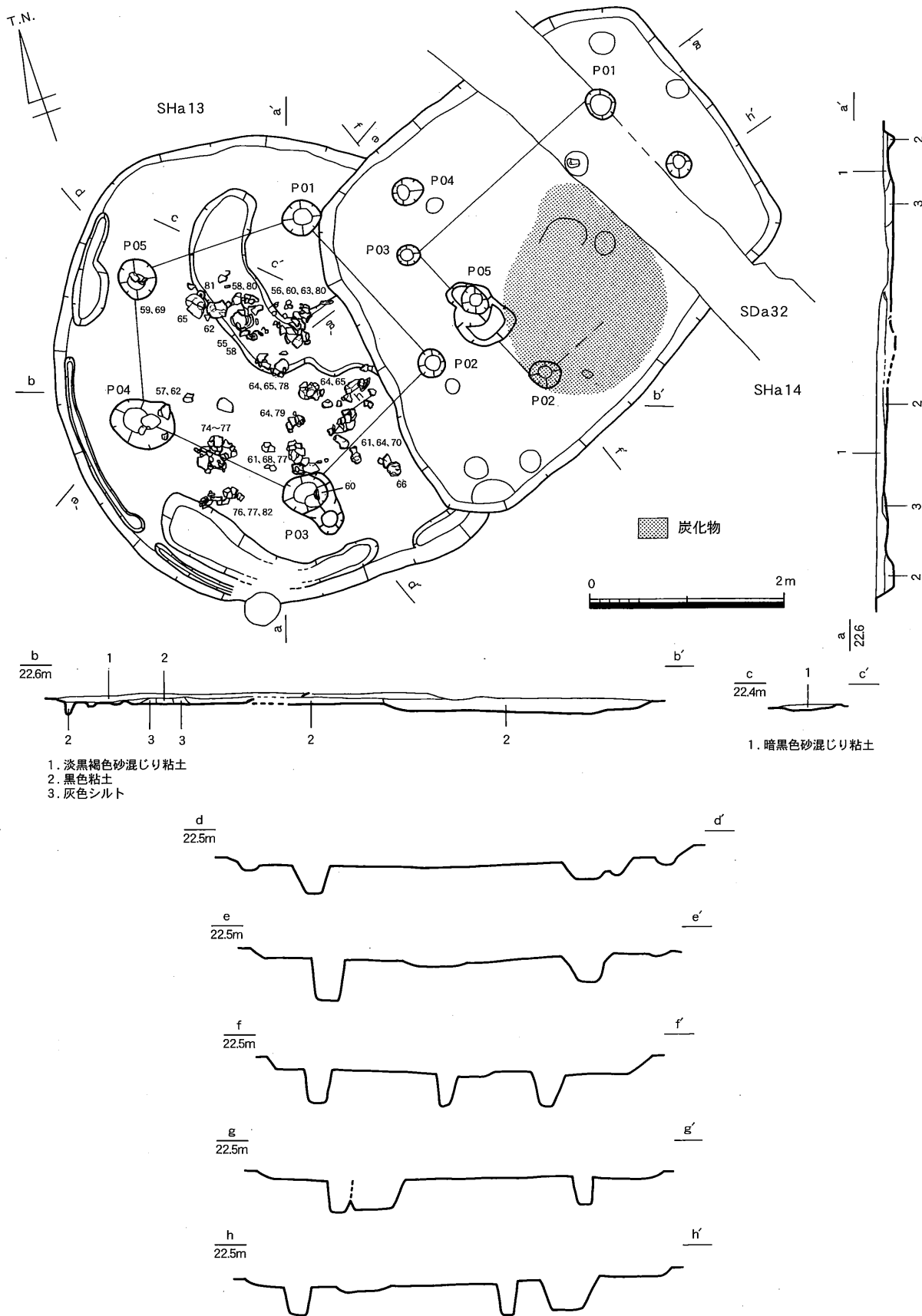
出土遺物よりこの住居跡は古墳時代前期初頭以降の時期が考えられる。

#### SHa 13（第24～26・39図）

Ⅱ区の西半部、第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡は、東半部をSHa14に切られている。平面形は円形状を呈し、径約5.2m、推定面積は20.3㎡を測る。床面までの深さは約0.1mを測る。埋土は3層に細分される。

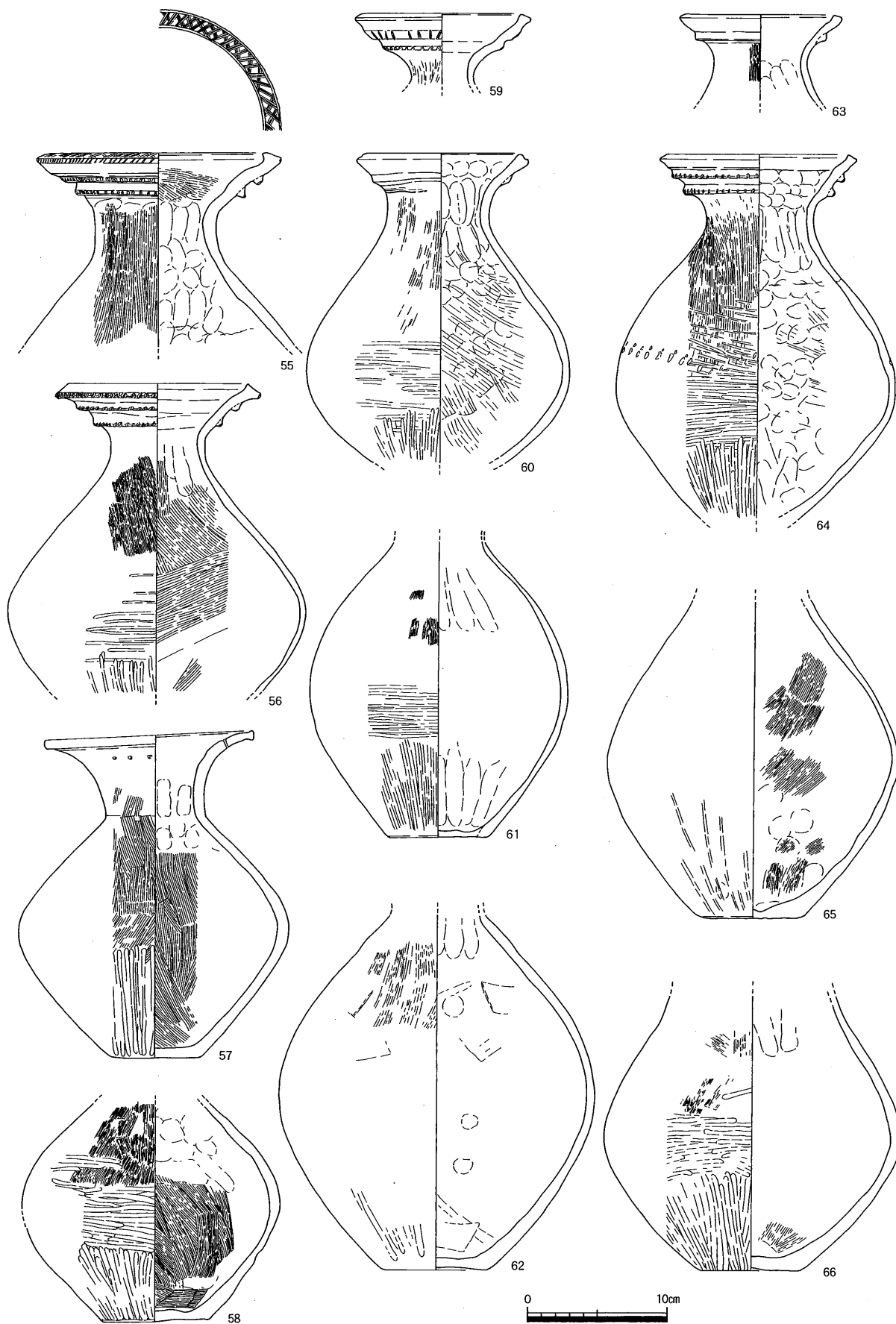
床面上では壁溝が巡り、不整形な溝状の落ち込み及び複数の柱穴を検出した。壁溝は西半部の外周を途切れ途切れ巡り、幅0.1m、深さ5.0cmを測る。床面上の不整形な溝状の落ち込みは、おそらく住居跡の床面を作る際にできた窪みと考えられる。支柱穴は五角形状の配置が復元できるP01～P05である。径0.3～0.7m、深さ約0.3mを測る。

出土遺物としては床面上から、一括資料と考えられる弥生時代中期中葉の弥生土器が多量に出土した（第25・26・39図55～82・145）。これらの資料は残りもよく、中期中葉の一括性の高

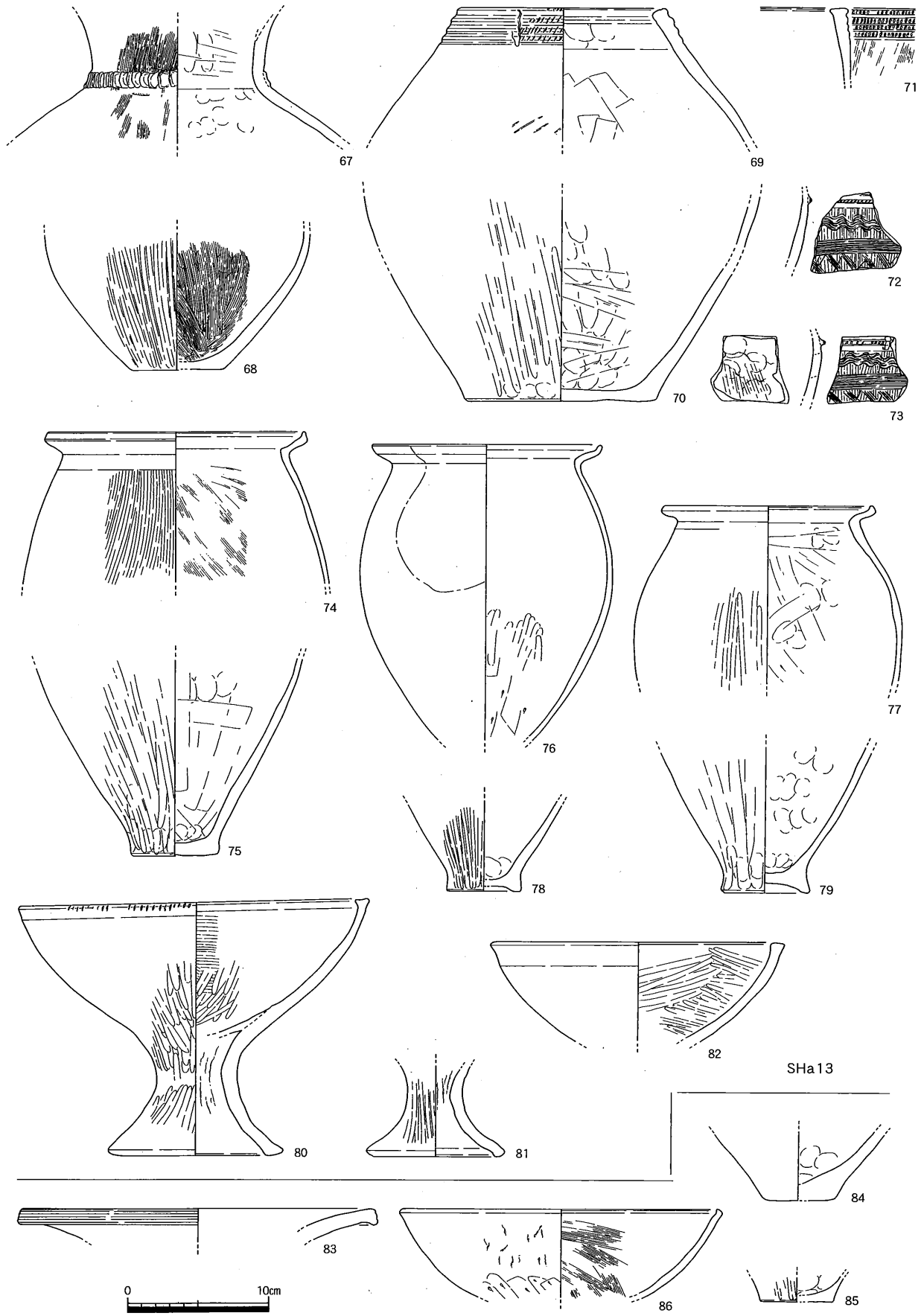


第24図 SHa13・14平・断面図

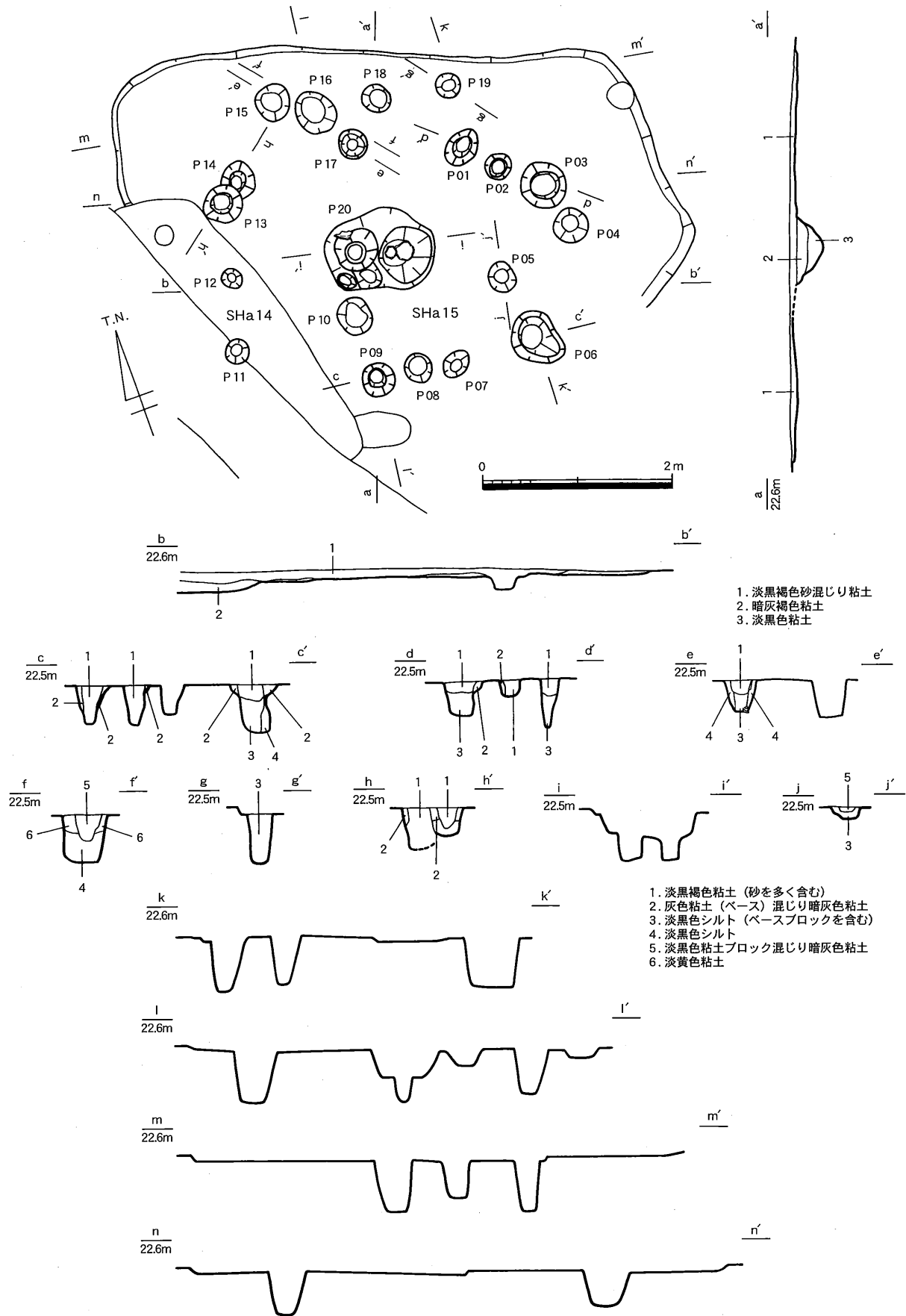




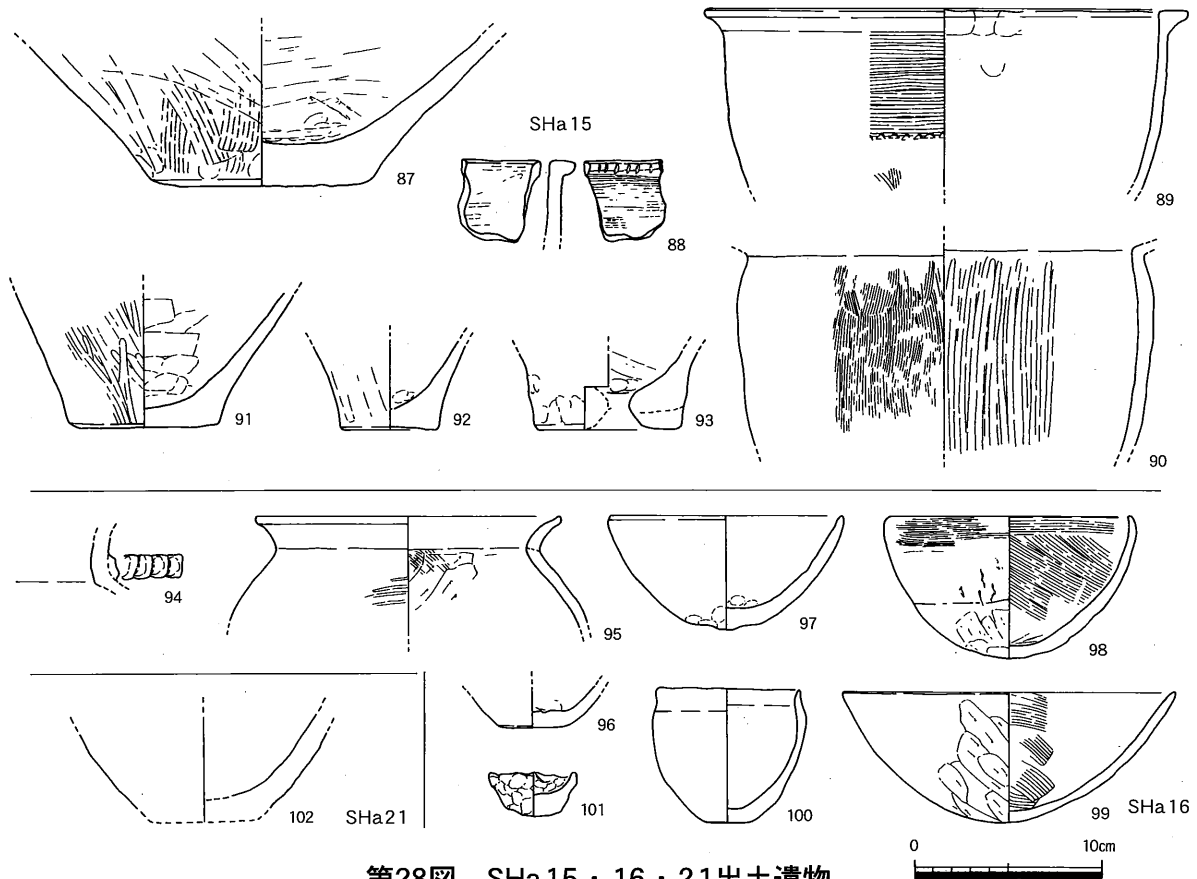
第25図 SHa13出土遺物 (1)



第26图 SHa13 (2) · 14出土遺物



第27図 SHa15平・断面図



第28図 SHa15・16・21出土遺物

い良資料と言える。55～73は壺である。71～73は小片であるが無頸壺の口縁部と考えられる。74～79は甕で、80～82は高杯である。145は完形のサヌカイト製の打製石庖丁である。完形の石庖丁は稀な資料である。

出土遺物よりこの住居跡は、弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SHa14 (第24・26・39図)

Ⅱ区の西半部、第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡は、中央部をSDa32に切られ、西半部ではSHa13を切り込んでいる。平面形は削平を受けたためか不整形な台形状を呈し、長径約4.5m、短径約3.7m、推定面積は15.2㎡を測る。床面までの深さは約0.1mを測る。

床面上では複数の柱穴を検出した。炉跡はSDa32に切られたものと考えられ検出できなかったが、炉跡から掻き出したと考えられる薄い炭層が床面上の広範囲に広がっていた。支柱穴は方形の配置を考えた場合一基足らないが、P01～P03までの3柱穴が考えられる。径約0.2～0.3m、深さ約0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した(第26・39図83～86、147)。83は広口壺の口縁部で、退化した凹線文が認められる。

出土遺物よりこの住居跡は、弥生時代後期前半以降の時期が考えられる。

#### SHa15 (第27・28・39図)

Ⅱ区の西半部、第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡は、西半部をSHa14に切られている。平面形は削平を受けたためか不整形な形態を呈し、南半部は不明瞭である。床面で検出した複数の柱穴と平面形などより、おそらく方形と多角形等の二棟以上の竪穴住居跡が

重複しているものと考えられる。長径6.0m以上、短径3.3m以上を測る。床面までの深さは約0.1mを測る。

床面上では複数の柱穴と、炉跡を検出した。炉跡P20は床面の中央で検出した。不整形円形を呈し、両端部で2基のピットを確認した。長径1.2m、短径0.9m、深さ約0.3mを測る。床面からは多数の柱穴を検出し、主柱穴の特定を検討したが確定までには至らなかった。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した。土器は弥生時代前期後半と後期後半の土器とに分けられる（第28・39図87～93、143・148）。88～90は弥生時代前期後半頃の甕である。87は後期後半の大型壺の底部である。143はサヌカイト製の削器である。148は砂岩製の砥石である。

この住居跡は2棟以上の切り合いが考えられ、明瞭な遺構の区分ができていないため不明な点が多いが、出土遺物が示した二つの時期が考えられる。

#### SHa16（第28・29・39図）

Ⅱ区の西半部、Ⅳ区との境の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。平面形は五角形状を呈する多角形住居である。長径6.9m以上、短径6.5m、推定面積は35.26㎡を測る。床面までの深さは約0.3mを測る。

床面上では、中央南寄りの位置に炉跡と考えられる不整形な土坑と複数の柱穴、側板痕を検出した。

中央の炉跡P11は不整形な長楕円形状を呈する土坑で、長径1.7m、短径0.7m、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。柱穴は多数検出したが、主柱穴と考えられるのは、五角形状の配置が復元できるP01・03～P06である。径約0.2～0.6m、深さ約0.5mを測る。側板痕は主柱穴間を結ぶ5辺のうち3辺で検出した。おそらく、ベッド状遺構の端に配されていたものであろう。幅0.2m、深さ約5cmを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した。出土した弥生土器は、一部中期の土器を含むが、主体は弥生時代後期末頃の土器である（第28・39図94～101、144）。94は中期の壺の頸部であり混入品であろう。144はサヌカイト製で、形状より石小刀とも考えたが、最終的には削器に分類した。

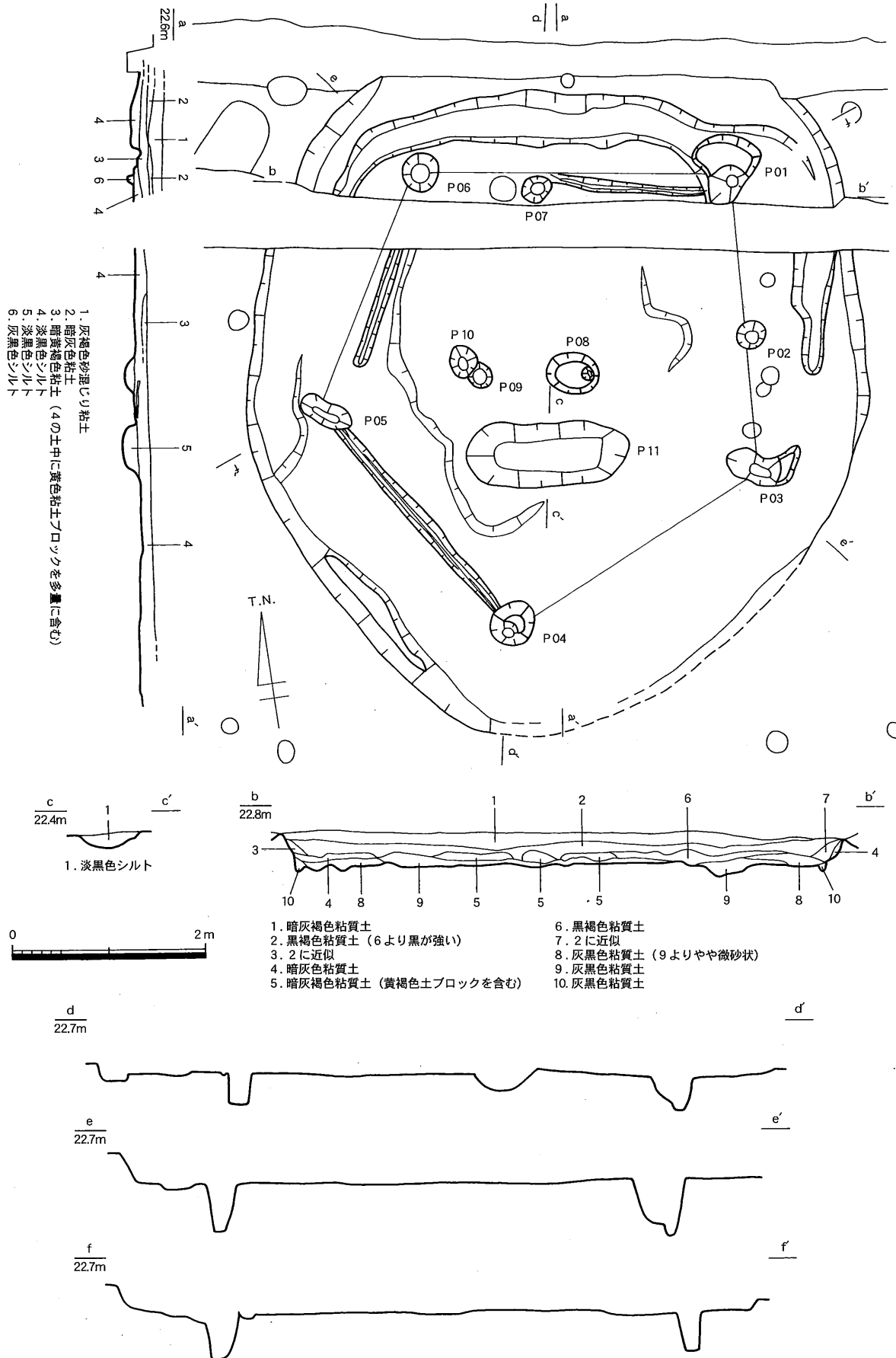
出土遺物よりこの住居跡は、弥生時代後期末以降の時期が考えられる。

#### SHa17（第30図）

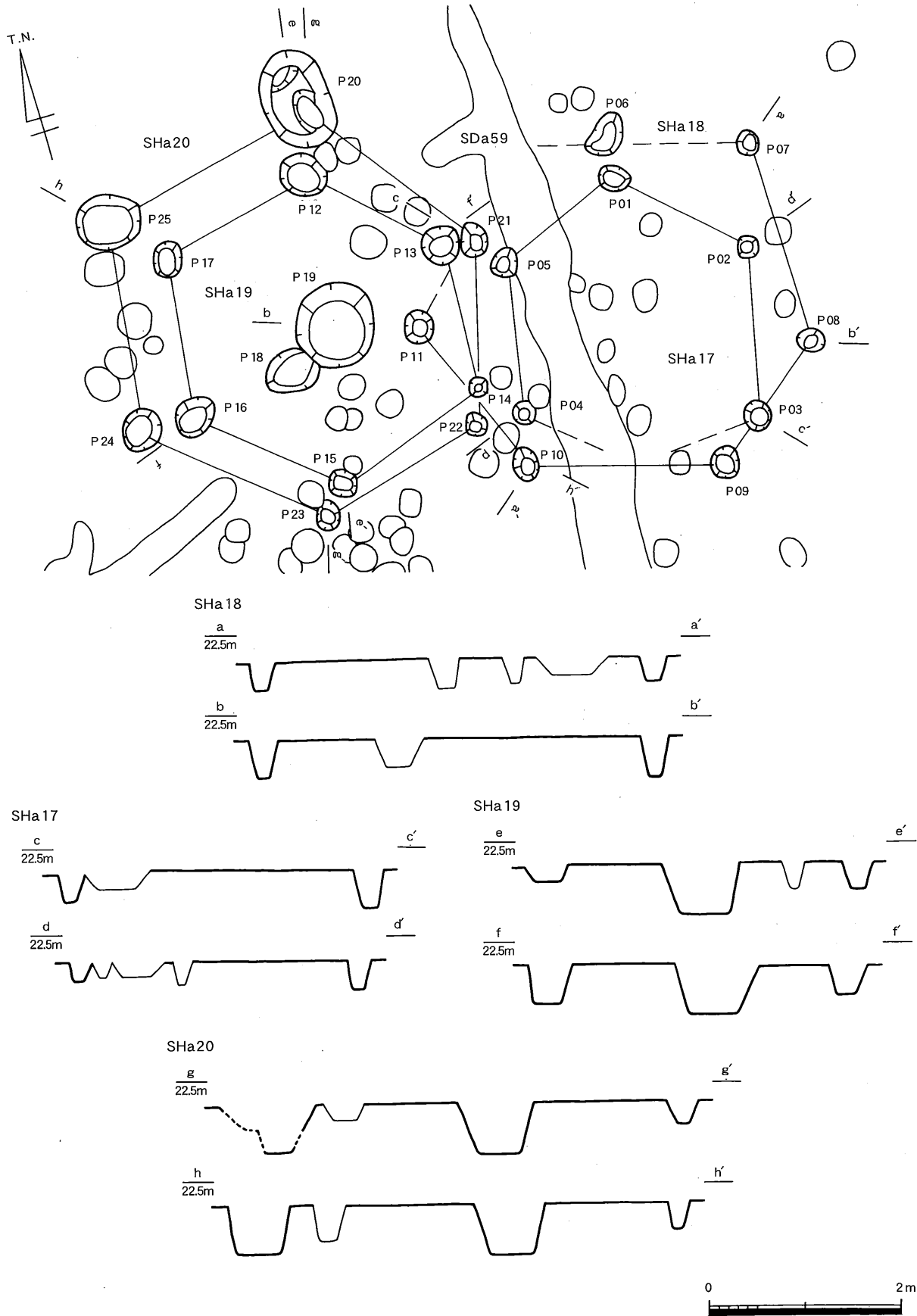
Ⅲ区南東端の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け主柱穴だけを残す。また、西半部をSDa59に切られている。周辺にはSHa18～20らの住居跡が隣接するが、特にSHa18はこの住居跡と同範囲に位置し、建て替えの可能性が考えられる。

平面形はおそらく円形を呈し、径2.8m以上、検出面積は5.9㎡を測る。主柱穴は六角形状の配置が考えられ6基の柱穴が想定できるが、P01～P05までの5基の柱穴を抽出した。径約0.2～0.3m、深さ約0.3mを測る。

出土遺物としては、少量の弥生土器片のみで、時期については問題を残す。







第30图 SHa17~20平・断面图

SHa18 (第30図)

Ⅲ区南東端の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け主柱穴だけを残す。また、西半部をSDa59に切られている。周辺にはSHa17・19・20らの住居跡が隣接する。先にも述べたが、特にSHa17はこの住居跡と同範囲に位置し、建て替えの可能性が考えられる。

平面形はおそらく円形を呈し、径4.4m以上、検出面積は10.5㎡を測る。主柱穴は六角形状の配置が考えられ、6基の柱穴が想定できるがP07～P11までの5基の柱穴を抽出した。径約0.2～0.3m、深さ約0.3mを測る。

出土遺物としては少量の弥生土器片のみで、時期については問題を残す。

SHa19 (第30・39図)

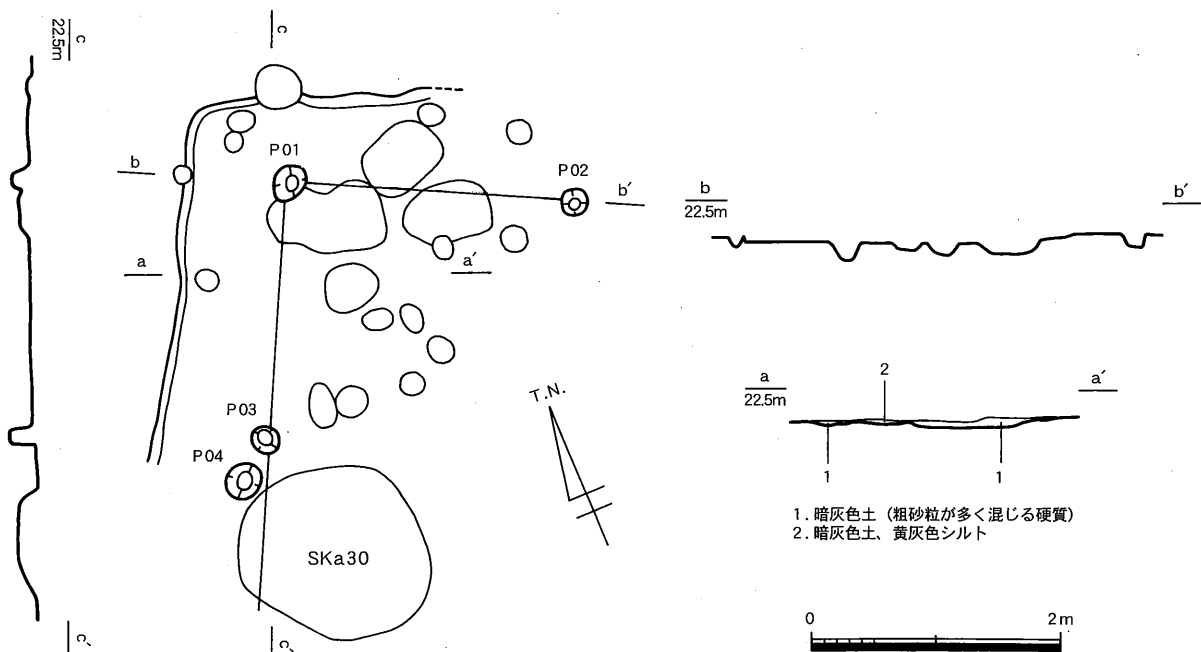
Ⅲ区南東端の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡である。この住居跡は削平を受け主柱穴だけを残す。また、東端部でSHa18と重複する。周辺にはSHa17・18・20らの住居跡が隣接するが、特にSHa20はこの住居跡と同範囲に位置し、建て替えの可能性が考えられる。

平面形はおそらく円形を呈し、径3.2m以上、検出面積は7.1㎡を測る。主柱穴は六角形状の配置で、P12～P17までの6基の柱穴が考えられる。径約0.2～0.5m、深さ約0.3mを測る。なお、床面中央には炉跡の可能性のあるP19が位置するが、SHa20との重複関係にあるため、確実にこの住居跡に伴うものかどうかは判断できない。P19は比較的大型で、径約0.8m、深さ約0.5mを測る。

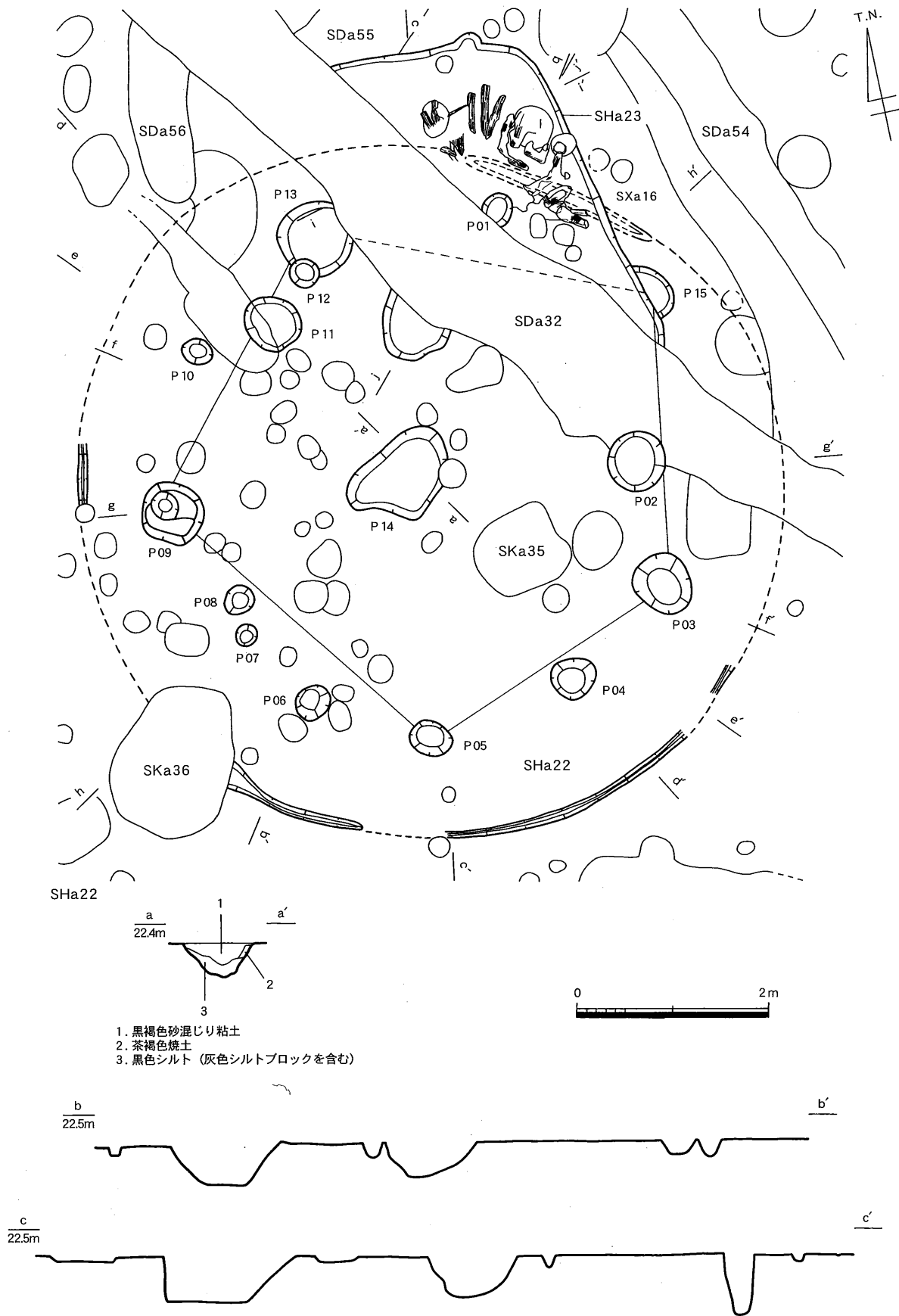
出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の石錐（第39図142）のみで、時期については問題を残す。

SHa20 (第30図)

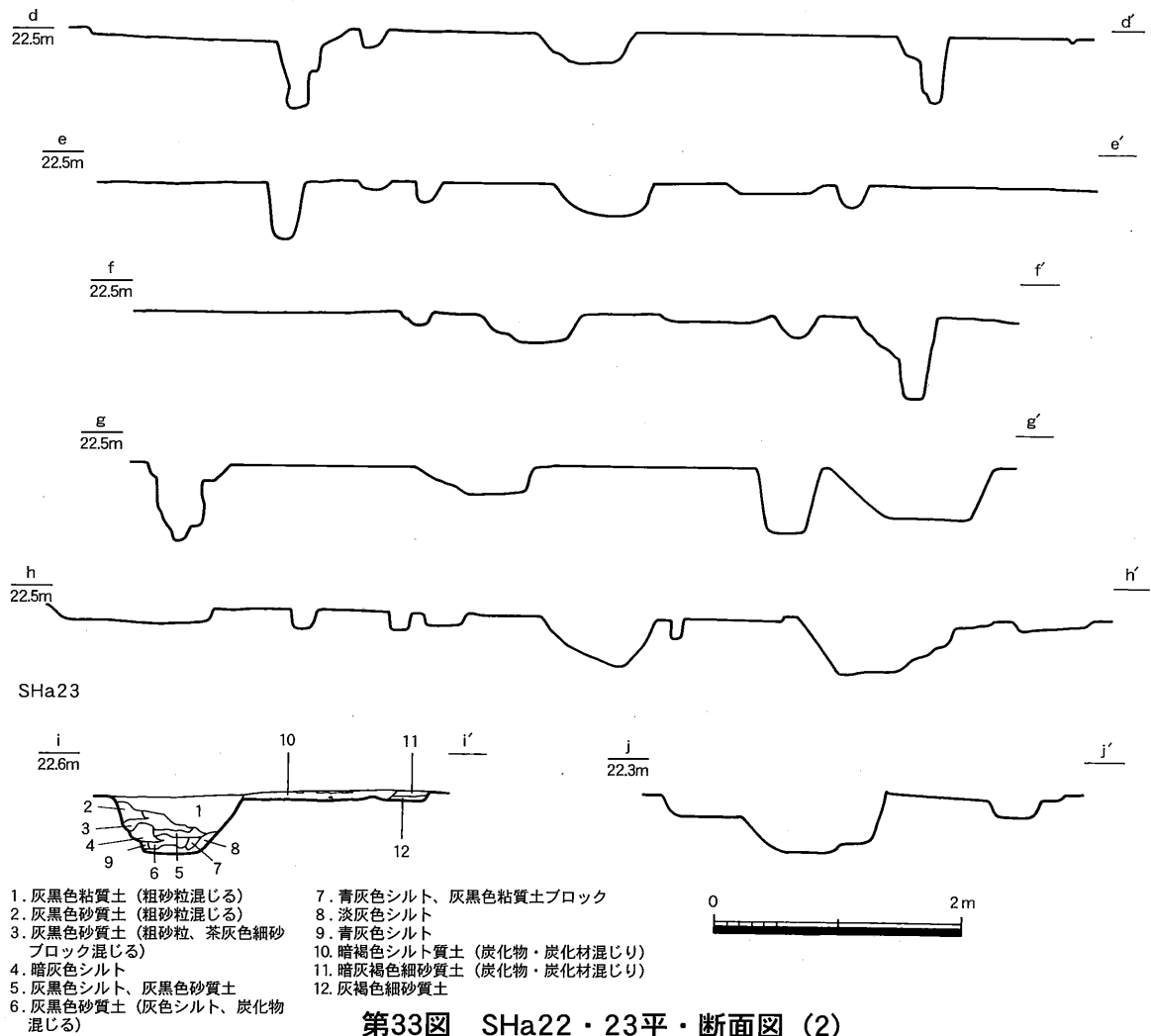
Ⅲ区南東端の第3遺構面上の遺構密集地区において、整理作業の途上で新たに確認した住居跡



第31図 SHa21平・断面図



第32図 SHa22・23平・断面図(1)



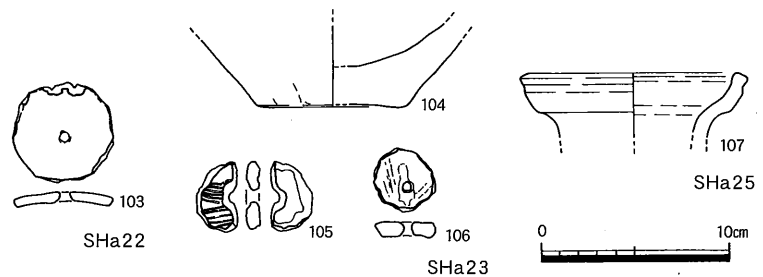
である。この住居跡は削平を受け主柱穴だけを残す。また、東端部でSHa18と重複する。周辺にはSHa17~19らの住居跡が隣接する。先にも述べたが、特にSHa19はこの住居跡と同範囲に位置し、建て替えの可能性が考えられる。

平面形はおそらく円形を呈し、長径5.1m以上、短径3.9m以上、検出面積は11.7㎡を測る。主柱穴は六角形状の配置が考えられ、P20~P25までの6基の柱穴を抽出した。径約0.2~1.1m、深さ約0.2~0.5mを測り、かなりバラツキがある。なお、先にも述べたが、床面中央には炉跡の可能性のあるP19が位置するが、SHa19との重複の関係にあるため、確実にこの住居跡に伴うものかどうかは判断できない。

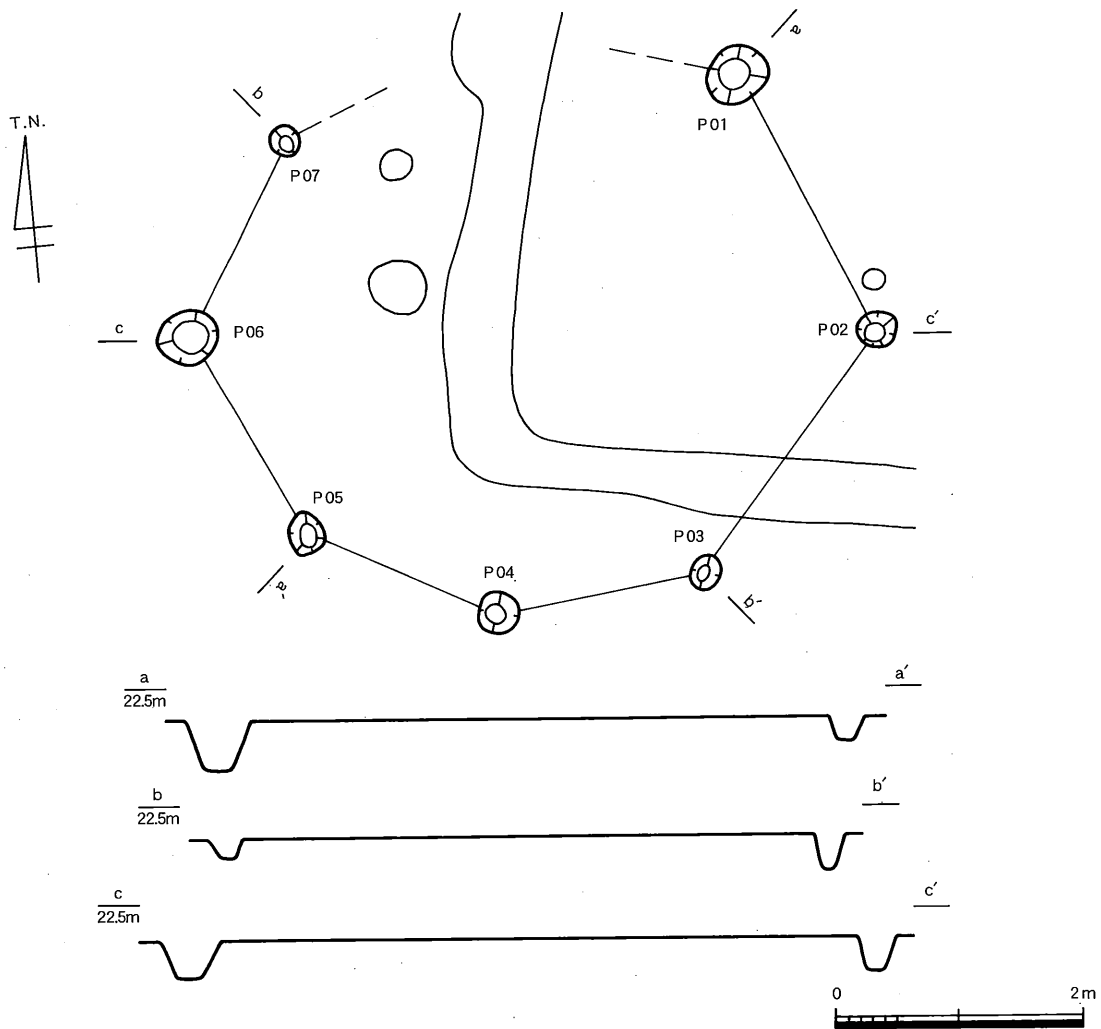
出土遺物としては、少量の弥生土器片のみで、住居跡の詳細な時期については問題を残す。

#### SHa21 (第28・31図)

Ⅲ区の中央部、第3遺構面上で検出した残りの悪い竪穴住居跡である。平面形は削平を受けたため残りが悪いが、形状より方形の住居跡の北半部を検出したものと考えられる。長径約3.5m



第34図 SHa22・23・25出土遺物



第35図 SHa24平・断面図

以上、短径約3.2m以上を測る。床面までの深さは約5cmを測る。

床面上では複数の柱穴を検出したが、炉跡等は検出できなかった。支柱穴は方形状の配置を考えた場合一基たらないが、P01・P02・P03ないしP04の3柱穴が考えられる。径約0.2m、深さ約0.1mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した（第28図102）。102は弥生時代後期後半の壺の底部である。

時期の決め手になる土器が少ないため、詳細な時期決定には問題を残すが、この住居跡は弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### SHa22（第32～34図）

Ⅲ区北半部の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で検出した、残りの悪い竪穴住居跡である。なお、この住居跡は、SKa35・36、SHa23と多数の柱穴に切られている。平面形は削平を受けたため残りが悪く、部分的に残る壁溝より円形状の住居跡が復元できる。径約7.2m、面積は50.2㎡を測る。

床面上では南半部の外周を壁溝が巡り、中央に炉跡と考えられる不整形な土坑と、多数の柱穴を検出した。

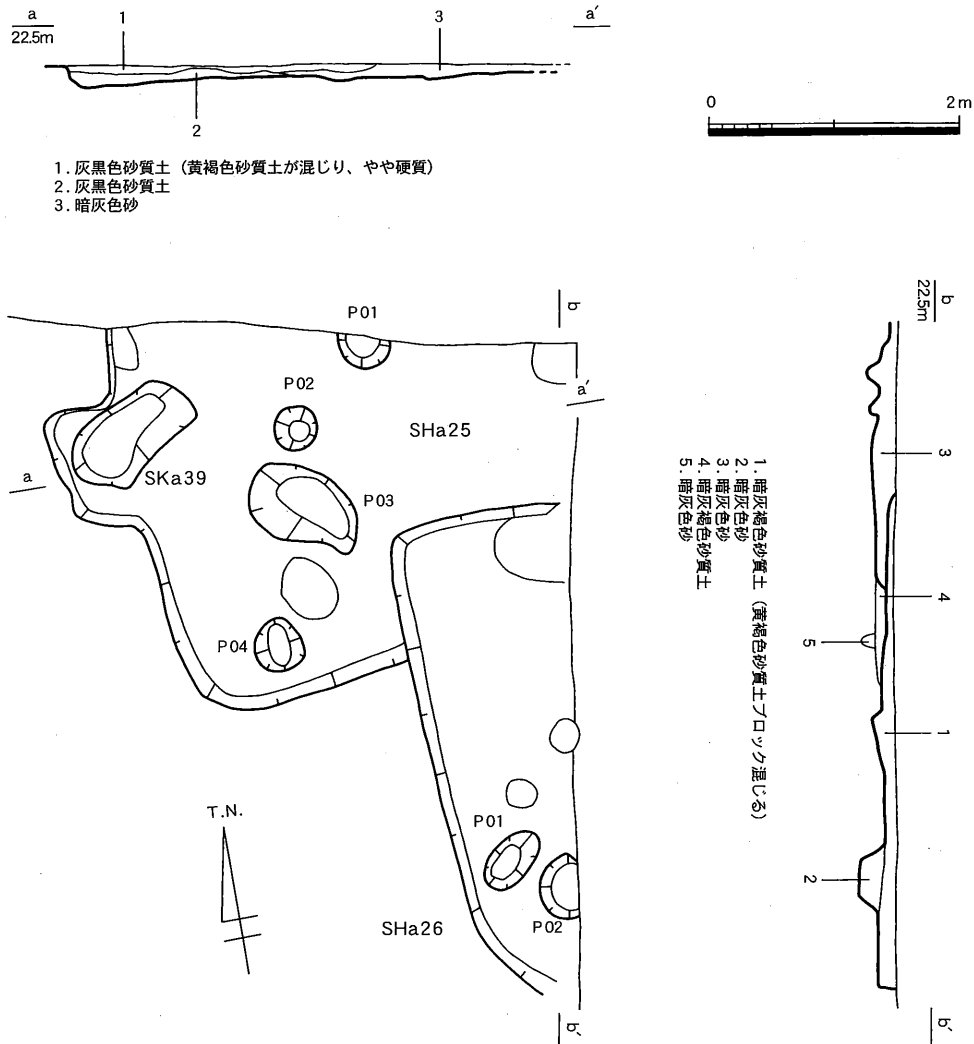
壁溝は全周していたものと考えられるが、部分的にしか残っていない。幅約0.1m、深さ約0.1mを測る。中央の炉跡P14は不整形な楕円形状を呈する土坑で、埋土は3層に分かれる。長径1.2m、短径0.8m、深さ約0.4mを測る。柱穴は床面上で多数検出したが、支柱穴と考えられるのは、五角形状の配置が復元できるP03・05・09・13・15である。径0.4~0.8m、深さは0.1~0.6mを測りかなりバラツキがある。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第34図103）。103は土製紡錘車である。

時期の決め手になる土器が少ないため、詳細な時期決定には問題を残す。

SHa23（第32~34図）

Ⅲ区北半部の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で検出した、残りの悪い焼失家屋の竪穴住居跡である。この住居跡は、SHa22、SDa55と多数の柱穴を切り込んでいる。なお、この住居跡が切り込んでいるSxa16は、検出状況より、この住居跡に伴うベッド状遺構の可能性はある。平面形は削平を受けたため残りが悪いが、隅丸形状の住居跡が復元できる。径約3.7m以上、深さ約0.1mを測る。



第36図 SHa25・26平・断面図



住居の上面には炭化材と炭が広がっていた。床面上では、複数の柱穴を検出したが、主柱穴は特定できていない。また、炉跡についても同様で特定できていない。これらの点は、SHa22の上面より検出された柱穴等を含めて今後の課題になる。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第34図104～106）。104は壺底部、105・106は土製紡錘車である。

時期の決め手になる土器が少ないため、詳細な時期決定には問題を残す。

#### SHa24（第35図）

Ⅲ・Ⅳ区の境界の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で、整理作業の途上で新たに抽出した住居跡である。この住居跡は削平を受け主柱穴だけを残す。

平面形はおそらく円形を呈し、径6.0m以上を測る。主柱穴は八角形状の配置が考えられ、1基欠けるがP01～P07までの7基の柱穴を抽出した。径約0.2～0.5m、深さ約0.3m、検出面積は18.2㎡を測る。

出土遺物としては、少量の弥生土器片のみで、住居跡の詳細な時期については問題を残す。

#### SHa25（第34・36図）

Ⅲ区北半部の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。東半部は調査区より外れるため、約1/2を検出した。なお、この住居跡は、SHa26、SKa39等に切り込まれている。平面形は削平を受けたため残りが悪いが、隅丸方形形状の住居跡が復元できる。径約3.4m以上を測る。なお、西辺部には不整形な張り出し部が配されている。張り出し部は幅約1.0m、長さ約0.5mを測る。

床面上では複数の柱穴と土坑を検出したが、土坑は住居跡に伴うものではない。また、複数ある柱穴のうち主柱穴は特定できていないが、P03等は主柱穴の可能性はある。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した。図化できる弥生時代中期中葉の壺の口縁部1点を抽出した（第34図107）。

時期の決め手になる土器が少ないため、詳細な時期決定には問題を残す。

#### SHa26（第36図）

Ⅲ区北半部の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。東半部はⅣ区に延びるため約1/3を検出した。なお、Ⅳ区の住居跡周辺では広範囲に削平をうけている。そのため、この住居跡のプランは不明瞭であった。また、この住居跡はSHa25を切り込んでいる。平面形は削平を受けたため残りが悪いが、隅丸方形形状の住居跡が復元できる。径約3.9m以上、検出面積は4.3㎡を測る。

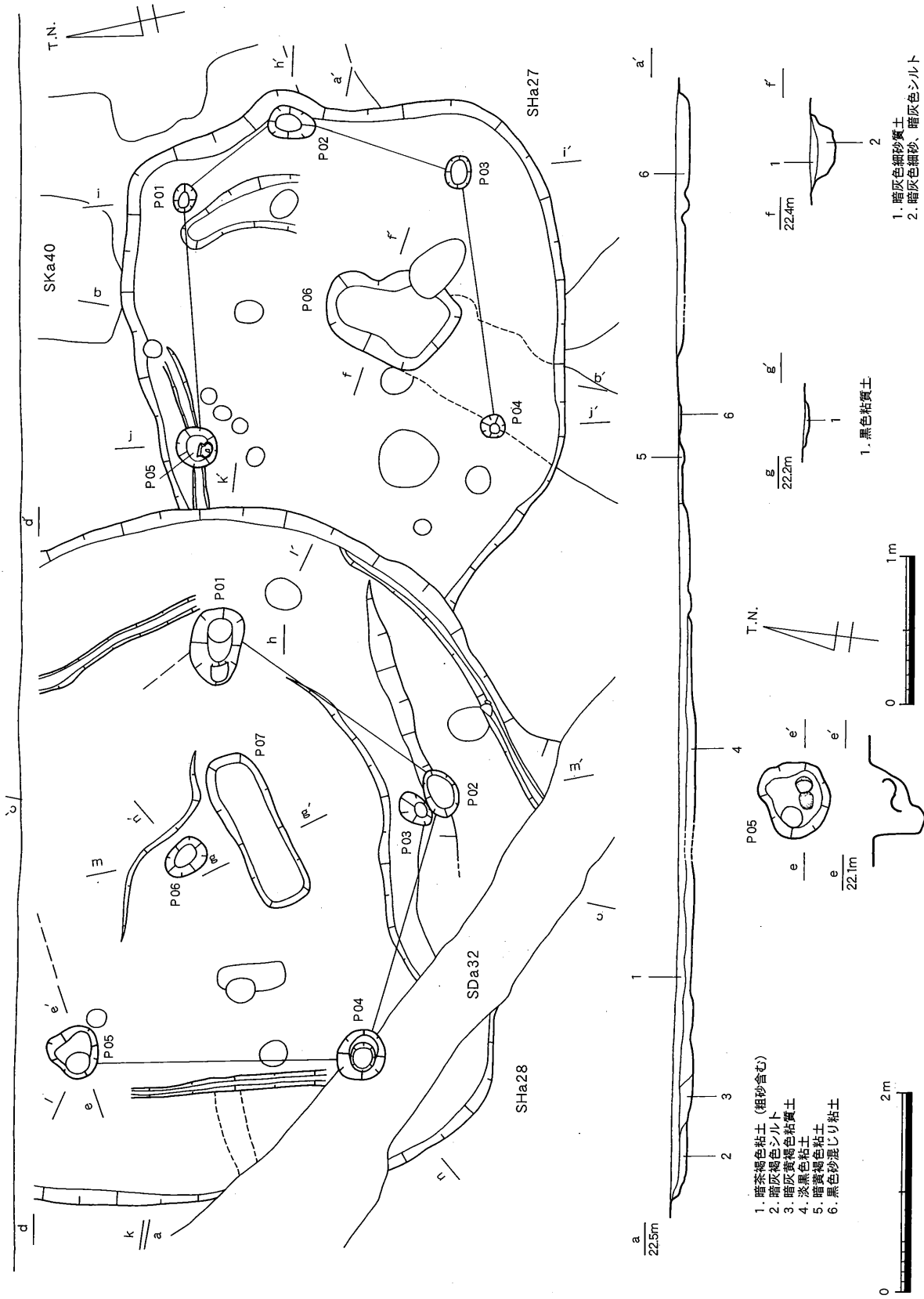
床面上では複数の柱穴と土坑を検出したが、土坑は住居跡に伴うものとは考えられない。また、複数ある柱穴のうち主柱穴は特定できていないが、P02は主柱穴の可能性はある。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した。

時期の決め手になる土器が少ないため、詳細な時期決定には問題を残す。

#### SHa27（第37・38・40図）

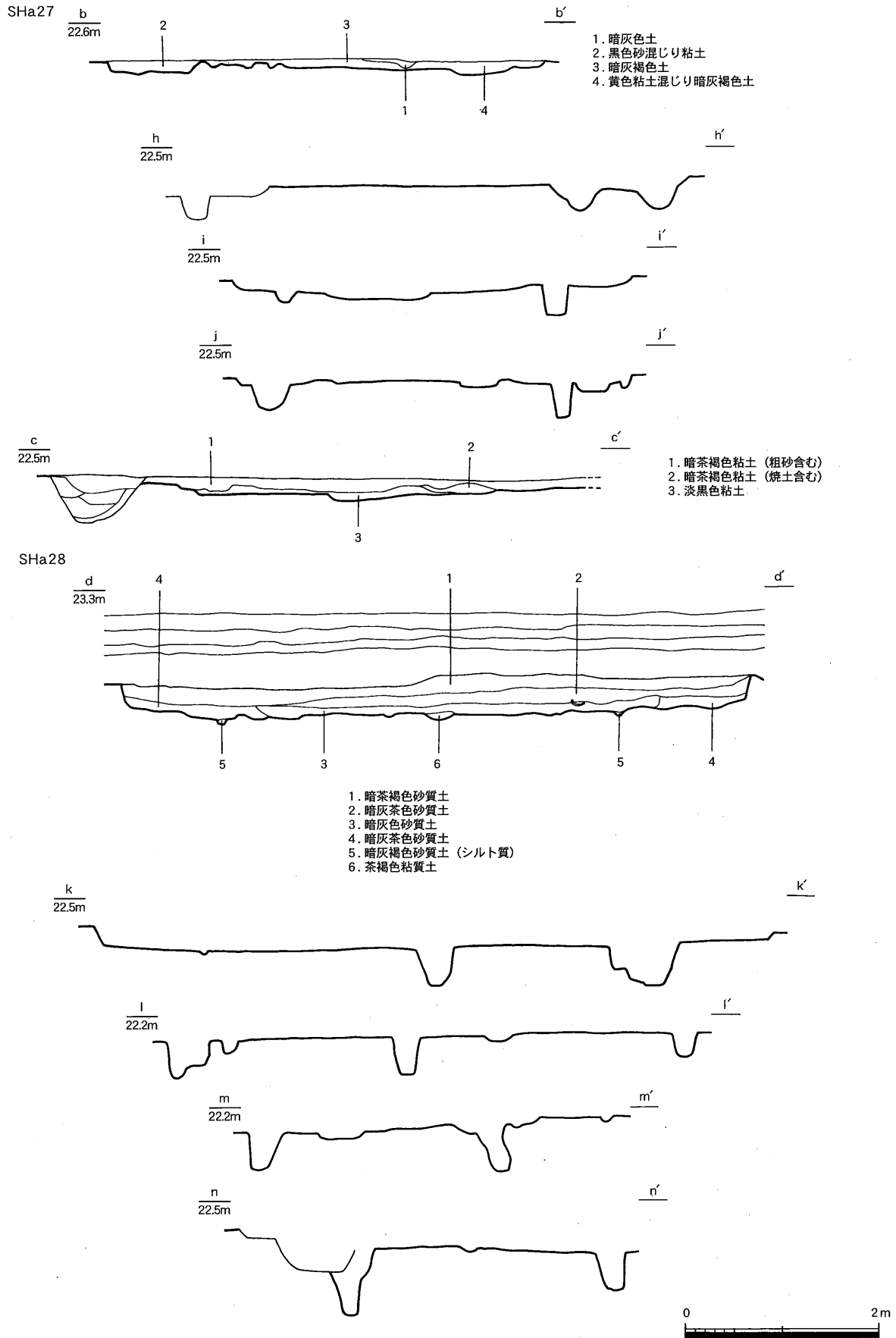
Ⅲ区北半部の住居跡が密集する区域の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡はSHa28に切り込まれている。検出状況よりこの住居跡は、削平を受けて掘り方を消失した、



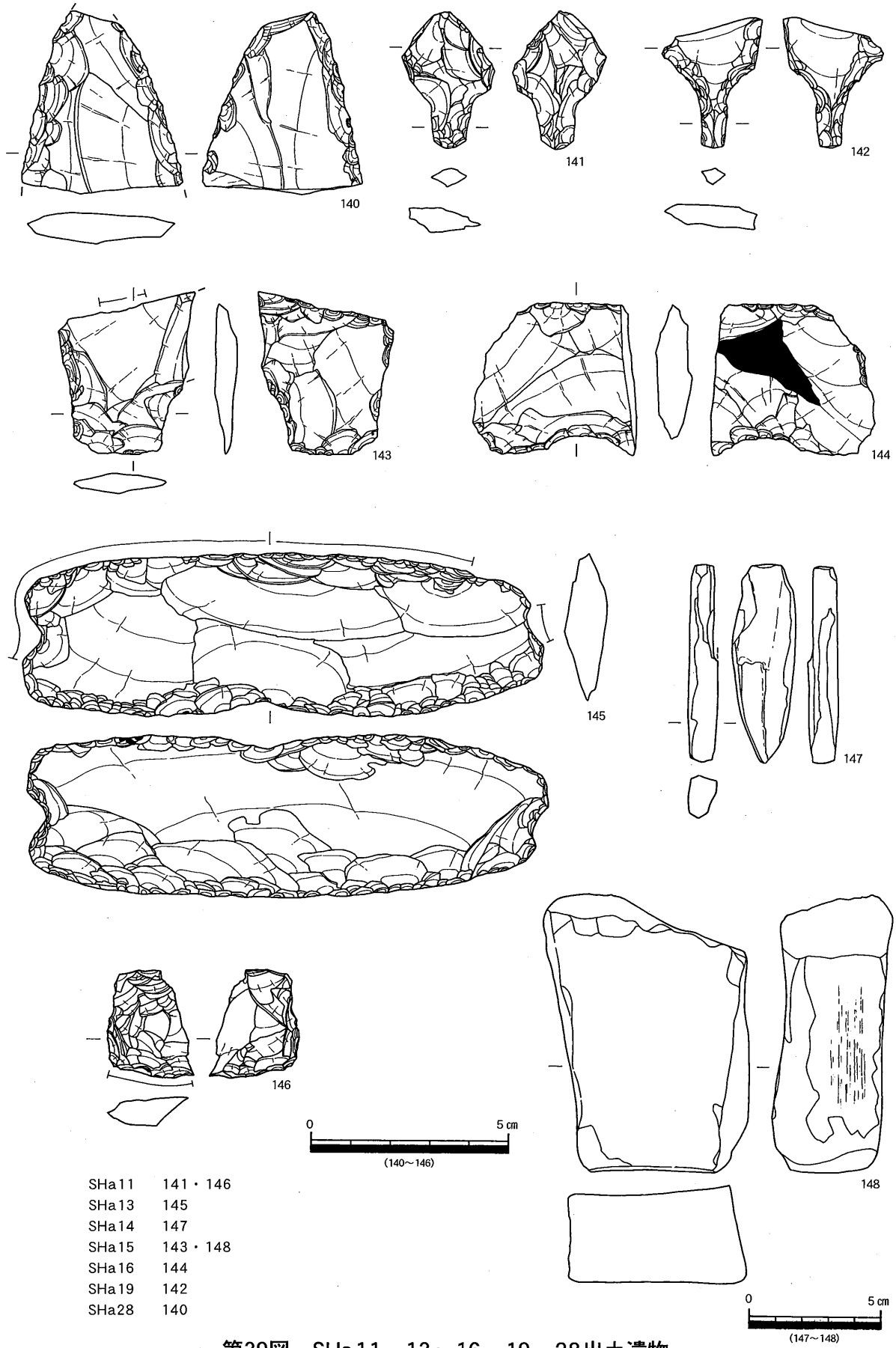
- 1. 暗茶褐色粘土 (粗砂含む)
- 2. 暗灰褐色シルト
- 3. 暗灰黄褐色粘質土
- 4. 淡黒色粘土
- 5. 暗黄褐色粘土
- 6. 黒色砂混じり粘土

- 1. 暗灰色細砂質土
- 2. 暗灰色細砂、暗灰色シルト

第37図 SHa27・28平・断面図

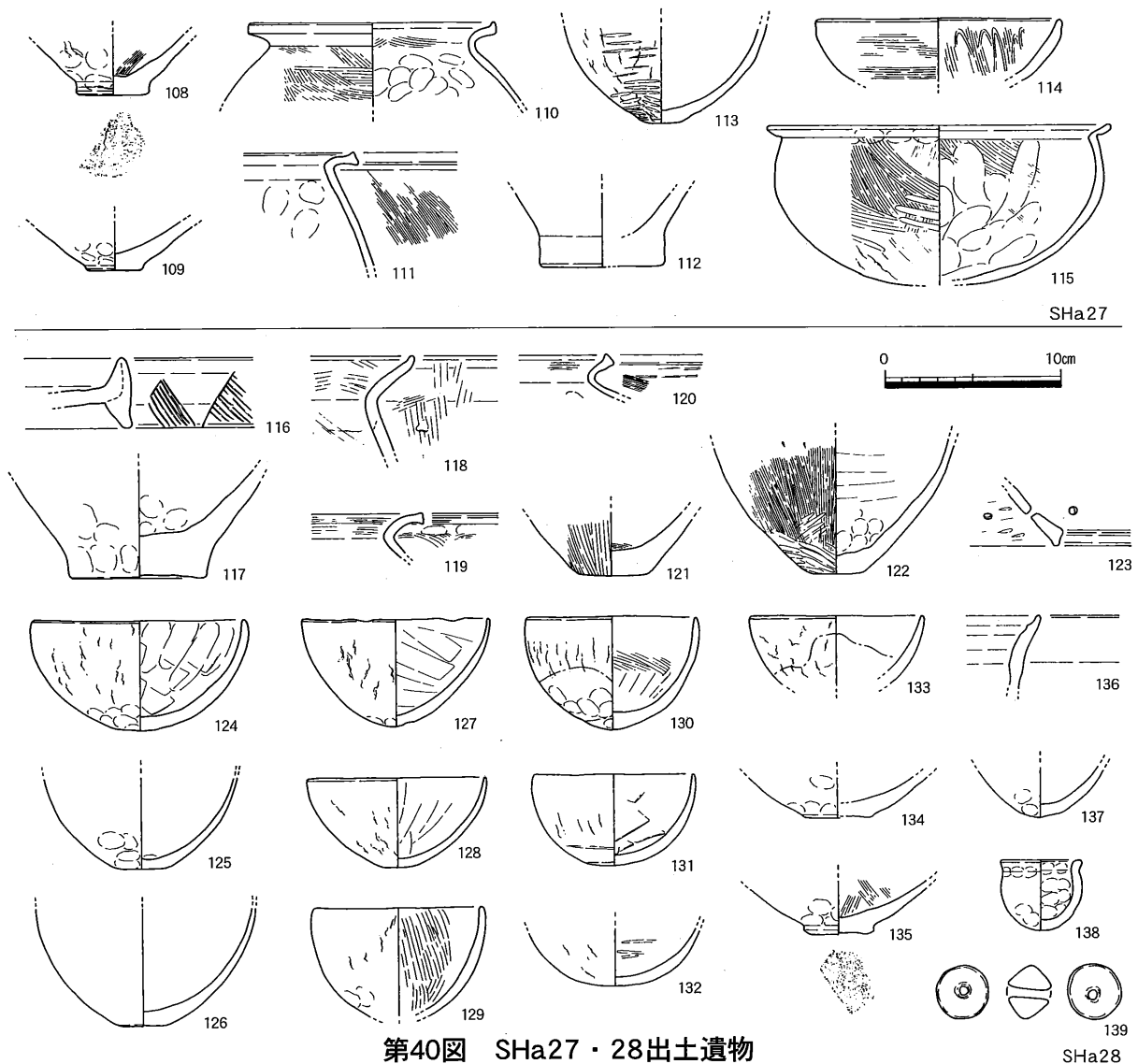


第38図 SHa27・28断面図



- SHa11 141 · 146
- SHa13 145
- SHa14 147
- SHa15 143 · 148
- SHa16 144
- SHa19 142
- SHa28 140

第39図 SHa11 · 13~16 · 19 · 28出土遺物



第40図 SHa27・28出土遺物

SHa28

多角形住居の床面部分を残した状態と考えられる。

平面形は隅丸形状を呈するが本来は多角形状を呈していたものと考えられる。長径5.2m以上、短径4.4m以上を測る。床面までの深さは約0.2mを測る。

床面上では複数の柱穴と炉跡を検出した。支柱穴は六角形状の配置が考えられ、1基欠けるがP01～P05までの5基の柱穴を抽出した。径約0.2～0.5m、深さ0.1～0.3m、推定面積19.5㎡を測る。炉跡P06は不整形な楕円形状を呈し、埋土は2層に分かれる。長径1.4m、短径0.9m、深さ0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第40図108～115）。

出土遺物よりこの住居跡は弥生時代後期後半～後期末頃の時期が考えられる。

#### SHa28（第37～40図）

Ⅲ区の北端部の第3遺構面上で検出した竪穴住居跡である。北半部は調査区外に延びるため、約2/3を検出した。この住居跡はSHa27を切り込み、SDa32に切られている。

平面形は一部を欠くため詳細は分からないが、検出状況より五角形の多角形住居と考えられる。径約7.1m、検出面積は30.0㎡を測る。床面までの深さは約0.2mを測る。埋土は6層に細分される。

床面上では壁溝、ベッド状遺構とこれに伴う側板痕、炉跡と考えられる不整形な土坑と複数の柱穴を検出した。

壁溝は南半部の一部で検出した。幅0.1m、深さ5cmを測る。ベッド状遺構は住居の外周を巡るように検出した。幅0.8m、高さ0.1mを測る。ベッド状遺構に伴う側板痕は支柱穴間を結ぶ5辺のうち2辺で検出した。幅0.2m、深さ約5cmを測る。炉跡P07は長楕円形状を呈する土坑で、長径1.7m、短径0.5m、深さ約0.1mを測る。柱穴は床面上で多数検出したが、支柱穴と考えられるのは、五角形状の配置が復元できるP01～P05である。また、P06は中央ピットの可能性がある。径約0.2～0.8m、深さ約0.5mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が床面上より出土した。出土した土器は弥生時代後期末頃の土器であり、比較的一括性の高い資料である（第39・40図116～139、140）。123は高杯の脚部で、形状より下川津B類に類似する。139は土製の有孔土錘である。140はサヌカイト製の槍先形石器の未製品である。

出土遺物よりこの住居跡は、弥生時代後期末以降の時期が考えられる。

## (2) 掘立柱建物跡・柵列跡

### SBa01 (第41図)

I区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において検出した、南北棟の掘立柱建物跡である。この建物跡の西に隣接するSBa02は、配置及び規模等がこの建物跡に類似している。1間(2.8m)×2間(5.8m)、面積は16.2㎡以上、主軸方位はN-34°-Wを測る。柱間は梁間2.8m、桁行2.8～3.0mを測る。柱穴掘り方は5柱穴を検出した。平面形は円形ないし不整円形を呈し、径1.0m～1.2m、深さ0.1m～0.3mを測る。

出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この建物跡の詳細な時期については問題を残すが、隣接するSBa02と類似する時期が考えられる。

### SBa02 (第41図)

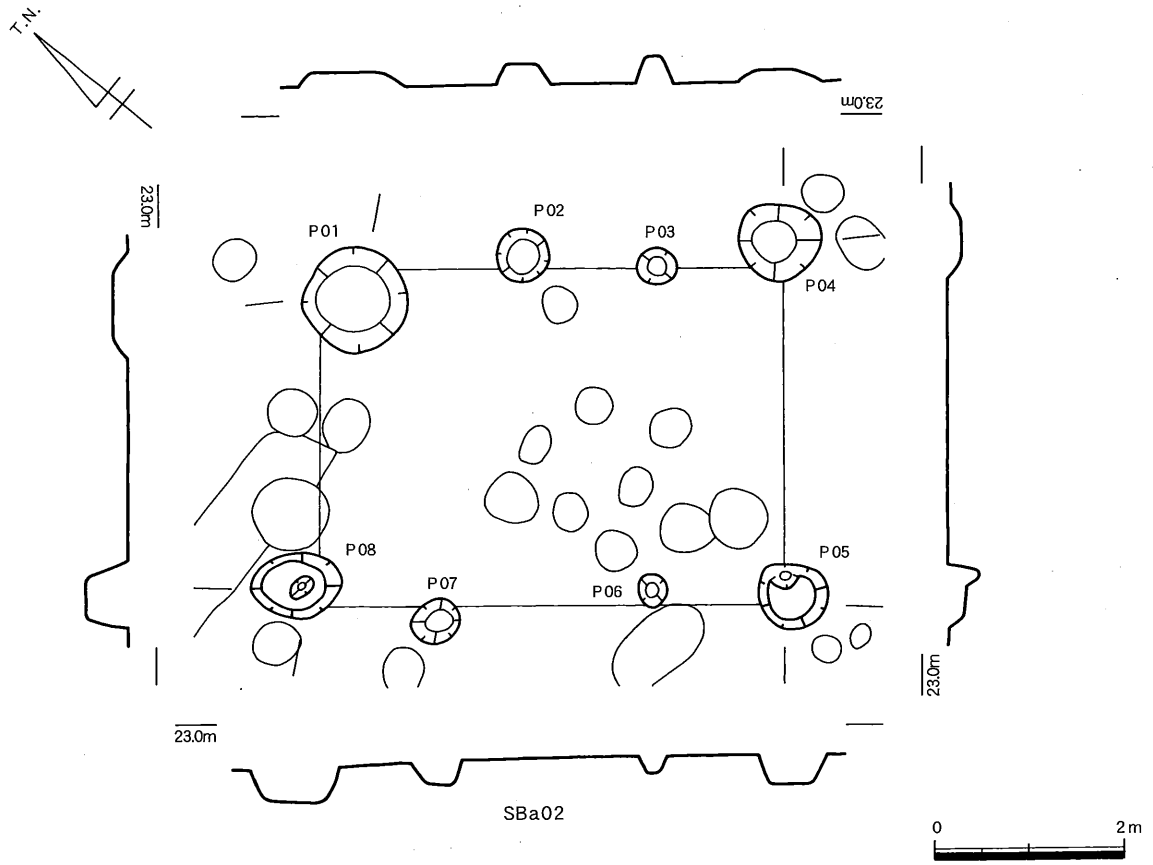
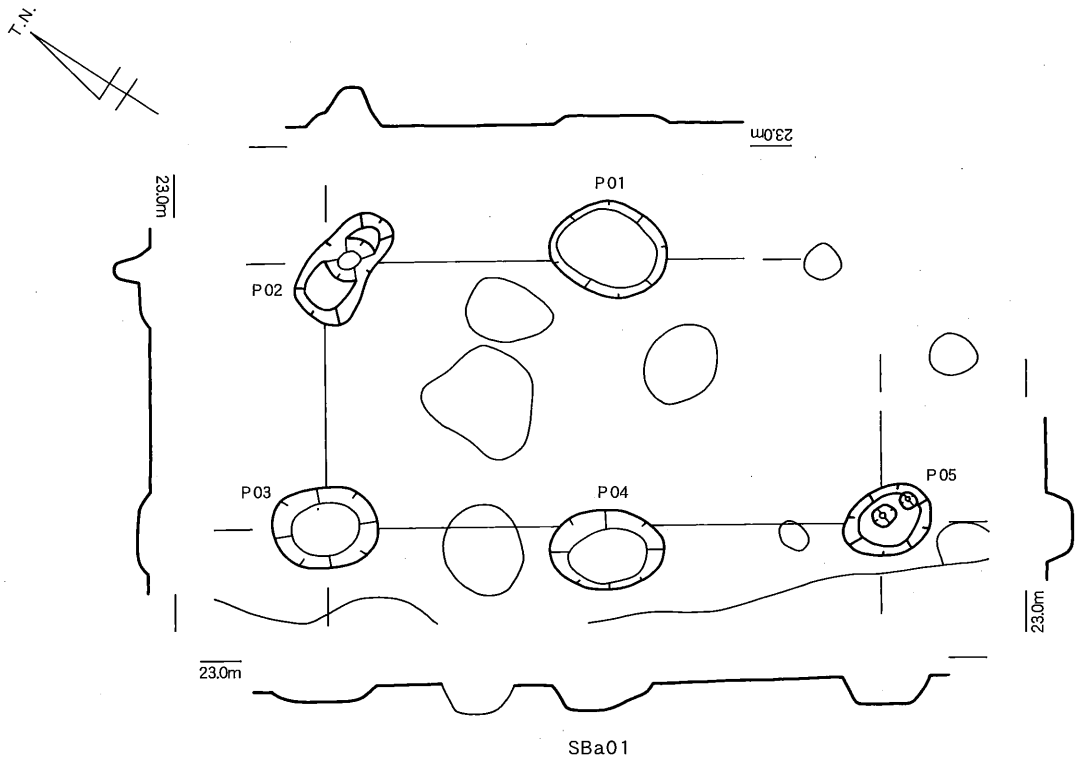
I区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において検出した、南北棟の掘立柱建物跡である。この建物の西に隣接するSBa01は、配置及び規模等がこの建物跡に類似している。1間(3.6m)×3間(5.0m)、面積は18㎡以上、主軸方位はN-39°-Wを測る。柱間は梁間3.6m、桁行1.2～1.4mを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.2m～1.0m、深さ0.2m～0.3mを測る。

出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この建物跡の詳細な時期については問題を残すが、隣接するSBa01と類似する時期が考えられる。

### SBa03 (第42図)

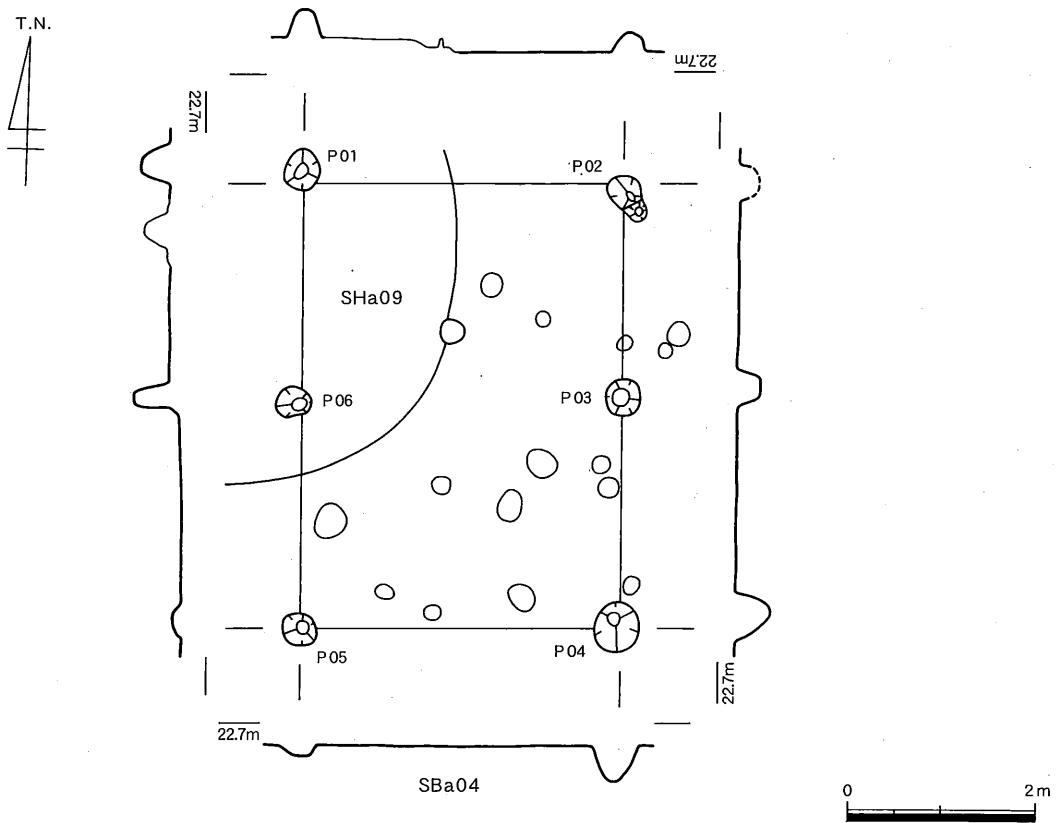
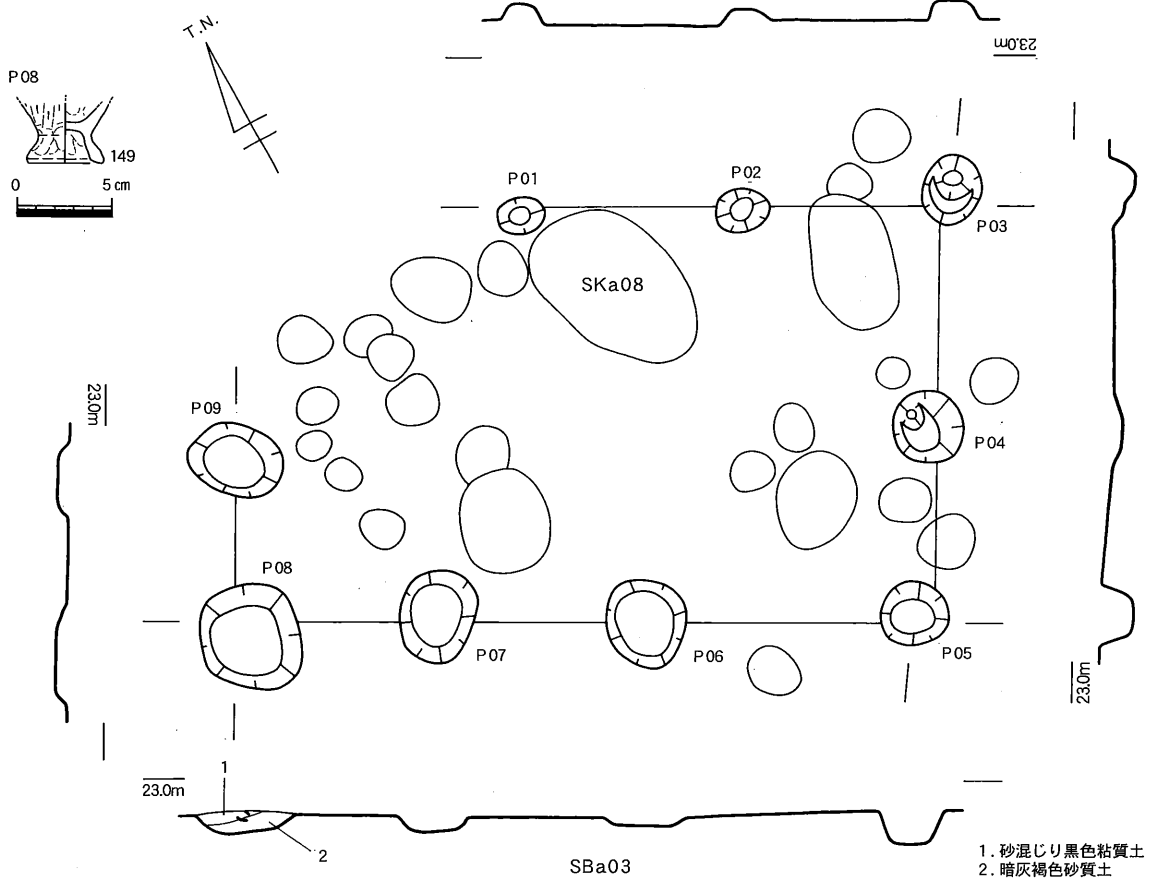
I区東端部の第3遺構面上の遺構密集地区において検出した、南北棟の掘立柱建物跡である。2間(4.5m)×3間(7.4m)、面積は33.3㎡、主軸方位はN-61°-Wを測る。柱間は梁間2.0～2.4m、桁行2.2～2.8mを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.5～1.1m、深さ0.1m～0.2mを測る。

出土遺物としては土器片が少量出土した。図化できる資料として1点抽出した(第42図149)。

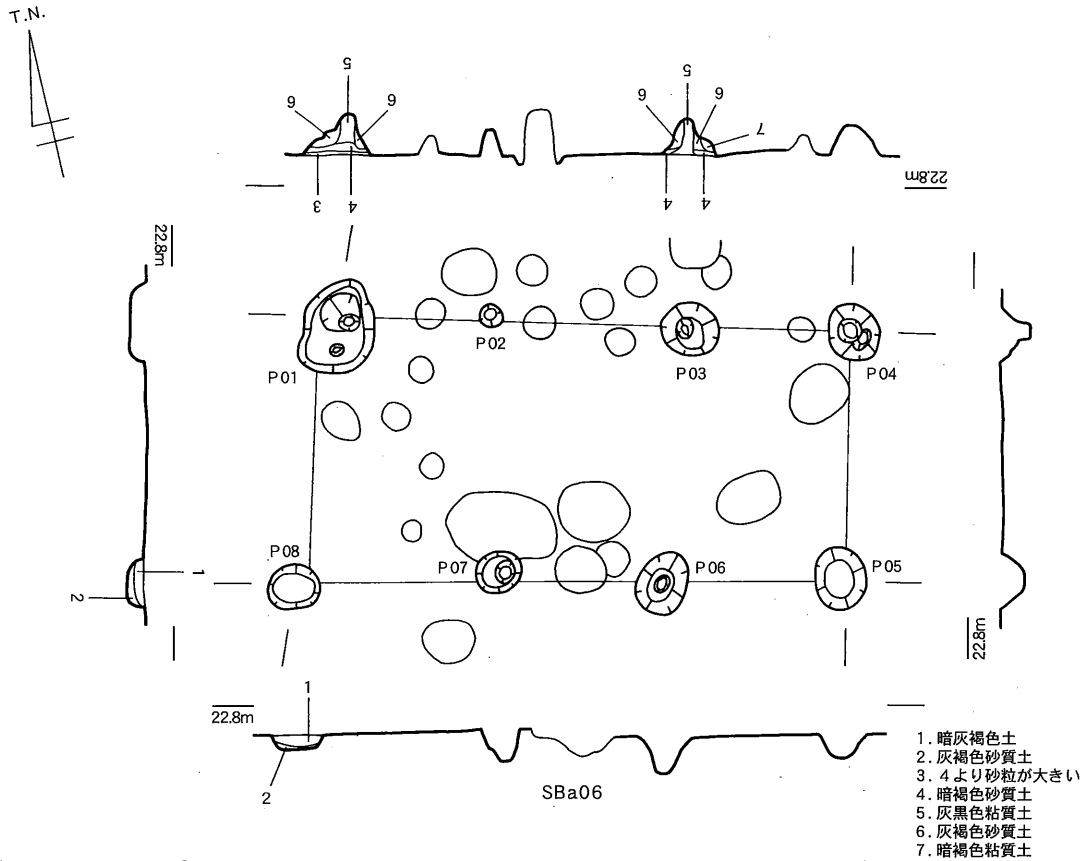
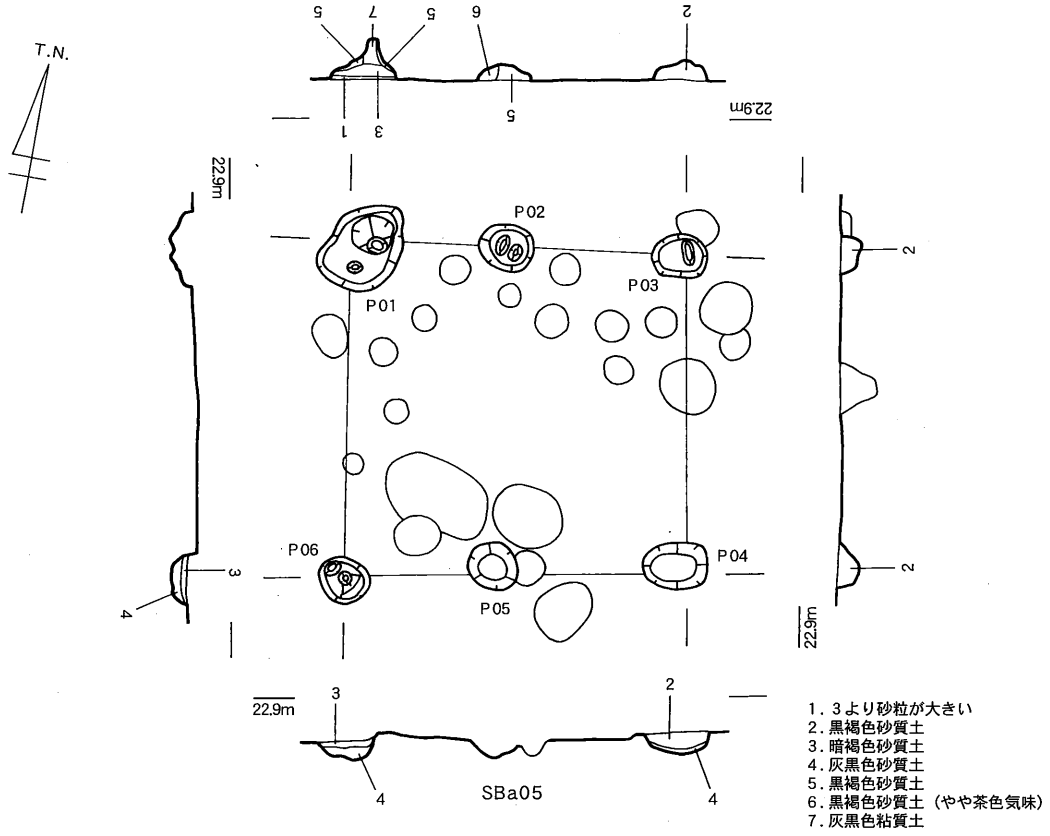


第41图 SBa01・02平・断面图





第42図 SBa03・04平・断面図



0 2m

第43図 SBa05・06平・断面図

149はの製塩土器の脚台部である。外面にはヘラ削り痕を顕著に残し、体部が丸みをもつ前の弥生時代後期後半頃の製塩土器である。出土遺物よりこの建物跡は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

**SBa04 (第42図)**

Ⅱ区東端部の第3遺構面で検出した、南北棟の掘立柱建物跡である。なお、この建物跡はSHa09を切り込んでいる。1間(3.4m)×2間(4.8m)、面積は16.3㎡、主軸方位はN-1°-Wを測る。柱間は梁間3.4m、桁行2.4mを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.3m~0.6m、深さ0.2m~0.4mを測る。出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この建物跡の詳細な時期については問題を残す。

**SBa05 (第43図)**

Ⅱ区中央部の第3遺構面で検出した、東西棟の掘立柱建物跡である。なお、この建物跡はSBa06、SHa11と切り合う。SBa06との前後関係は不明であるが、SHa11より後出する建物跡と考えられる。1間(3.4m)×2間(3.6m)、面積は12.2㎡、主軸方位はN-11°-Eを測る。柱間は梁間3.4~3.6m、桁行1.6~2.0mを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.6m~1.0m、深さ0.2m~0.4mを測る。

出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この建物跡の詳細な時期については問題を残すが、切り合いよりSHa11より後出する時期が考えられる。

**SBa06 (第43図)**

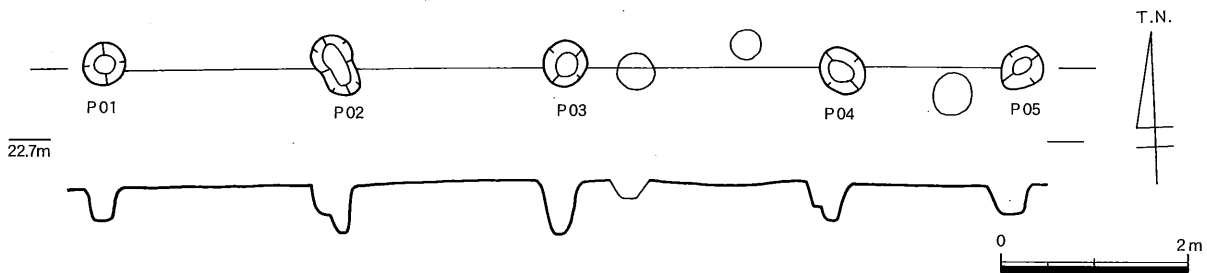
Ⅱ区中央部の第3遺構面で検出した、東西棟の掘立柱建物跡である。なお、この建物跡はSBa05、SHa11と切り合う。SBa05との前後関係は不明であるが、SHa11より後出する建物跡と考えられる。1間(2.6m)×2間(5.7m)、面積は14.8㎡、主軸方位はN-14°-Wを測る。柱間は梁間2.6~2.9m、桁行1.6~2.2mを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.2m~1.0m、深さ0.2m~0.5mを測る。

出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この建物跡の詳細な時期については問題を残すが、切り合いよりSHa11より後出する時期が考えられる。

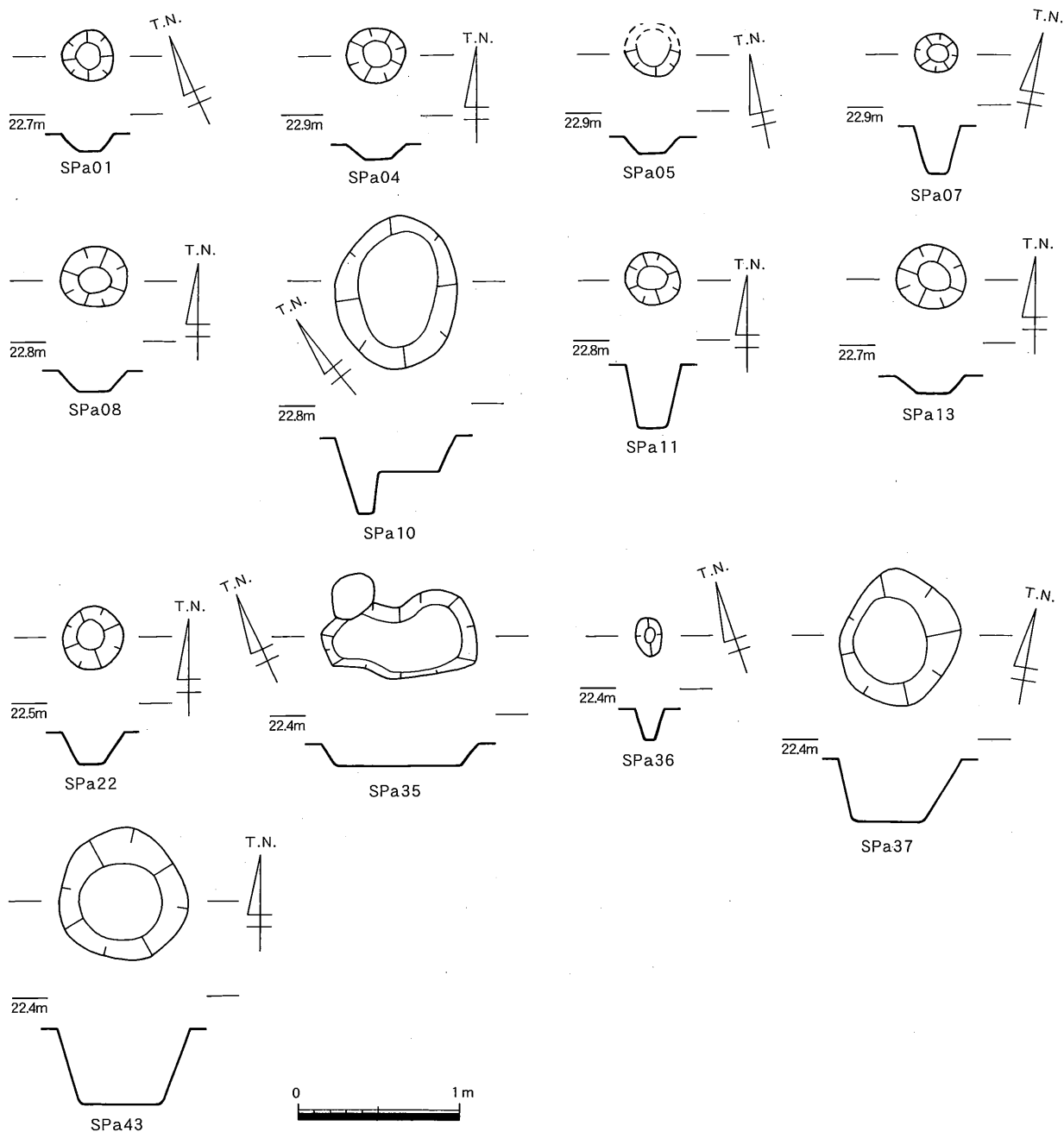
**SAa01 (第44図)**

Ⅱ区中央部の第3遺構面で検出した。東西方向の4間の柵列である。柱間は2.0~2.4m、主軸方位はN-3°-Eを測る。柱穴掘り方は円形ないし不整円形を呈し、径0.2m~1.0m、深さ0.4m~0.6mを測る。

出土遺物としては土器片が数点出土しただけで、この柵列の詳細な時期については問題を残す。



第44図 SAa01平・断面図



第45図 柱穴平・断面図

### (3) 柱穴跡

#### Spa01 (第45・46図)

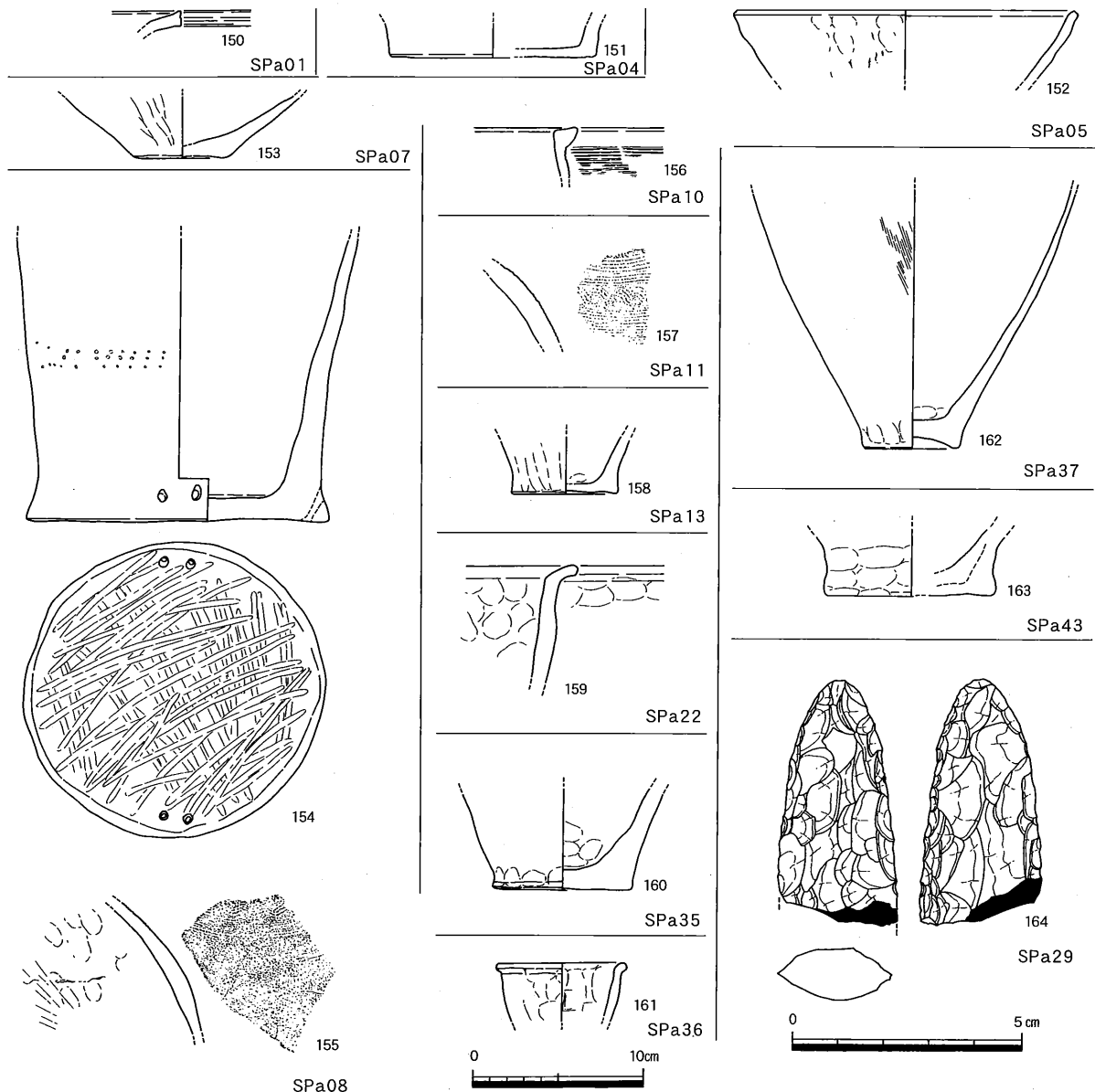
I区の東端部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.3m、深さ0.15mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図150)。150はSpa01から出土した、弥生時代後期の広口壺の口縁部である。

#### Spa04 (第45・46図)

I区の東端部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.3m、深さ0.1mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図151)。151はSpa04から出土した、弥生



第46図 柱穴出土遺物

土器の甕の底部である。

Spa05 (第45・46図)

I区の東端部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.3m、深さ0.1mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図152)。152はSpa05から出土した、弥生時代後期の鉢の口縁部である。

Spa07 (第45・46図)

I区の東部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.3m、深さ0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図153)。153はSpa07から出土した、弥生時代後期の壺の底部である。

**Spa08** (第45・46図)

I区の東部の第3遺構面上、SHa03の壁溝付近で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.4m、深さ0.15mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図154・155)。154はSpa08から出土した、弥生時代中期頃のバケツ状の土器である。端部には穿孔2穴の一对が、二対確認できる。

**Spa10** (第45・46図)

I区の東部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.8m、深さ0.5mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した(第46図156)。156はSpa10から出土した、弥生時代中期中葉の甕の口縁部である。

**Spa11** (第45・46図)

I区の東部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.3m、深さ0.4mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図157)。157はSpa11から出土した、弥生時代中期中葉の壺の体部片である。

**Spa13** (第45・46図)

II区の東端部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.4m、深さ0.1mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した(第46図158)。158はSpa13から出土した、弥生土器の甕の底部である。

**Spa22** (第45・46図)

II区の西半部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形で径約0.4m、深さ0.2mを測る。出土遺物としては少量の弥生土器が出土した(第46図159)。159はSpa22から出土した、弥生時代前期後半頃の甕の口縁部ある。

**Spa29** (第46図)

III区の南端部の第3遺構面上、SDa60に切られる形で検出した柱穴である。柱穴掘り方は不整形で径約0.8m、深さ0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した(第46図164)。164はSpa29から出土した、サヌカイト製の槍先形石器の先端部分である。

**Spa35** (第45・46図)

III区の中央部の第3遺構面上、SHa21の床面で検出した柱穴である。柱穴掘り方は不整形な楕円形状で長径0.9m、短径0.4m 深さ0.1mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第46図160)。160はSpa35から出土した、甕の底部である。

**Spa36** (第45・46図)

III区の中央部の第3遺構面上、Sxa15の縁で検出した柱穴である。柱穴掘り方は円形状で径約0.1m、深さ0.2mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した（第46図161）。161はSpa36から出土したミニチュアの甕である。

**Spa37（第45・46図）**

Ⅲ区の中央部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は不整円形状で径約0.7m、深さ0.4mを測る。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第46図162）。162はSpa37から出土した弥生土器の甕の下半部である。

**Spa43（第45・46図）**

Ⅲ区の北半部の第3遺構面上で検出した柱穴である。柱穴掘り方は不整円形状で径約0.8m、深さ0.5mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した（第46図163）。163はSpa43から出土した甕の底部である。

#### **（4）土坑跡**

**SKa01（第10図）**

I区東端部のSHa01の床面上で検出した土坑である。約1/2を検出した。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径約0.8m、深さ5cmを測る。状況よりこの土坑はSHa01に伴う炉跡の可能性はある。

**SKa02（第12図）**

I区東端部のSHa02の床面上で検出した土坑である。SHa02との前後関係は不明である。平面は不整形な隅丸形状を呈し、断面はU字状を呈する。長径約0.8m、深さ0.2mを測る。

**SKa03（第12図）**

I区東端部のSHa03の床面上で検出した土坑である。SHa03との前後関係は不明である。平面は隅丸形状を呈し、床面の西寄りの位置で検出した。長径約0.9m、短径約0.7m、深さ0.2mを測る。この土坑の主軸方向はSHa03の平面プランと食い違うため、SHa03に伴うものとは考えられない。

**SKa05（第47・51図）**

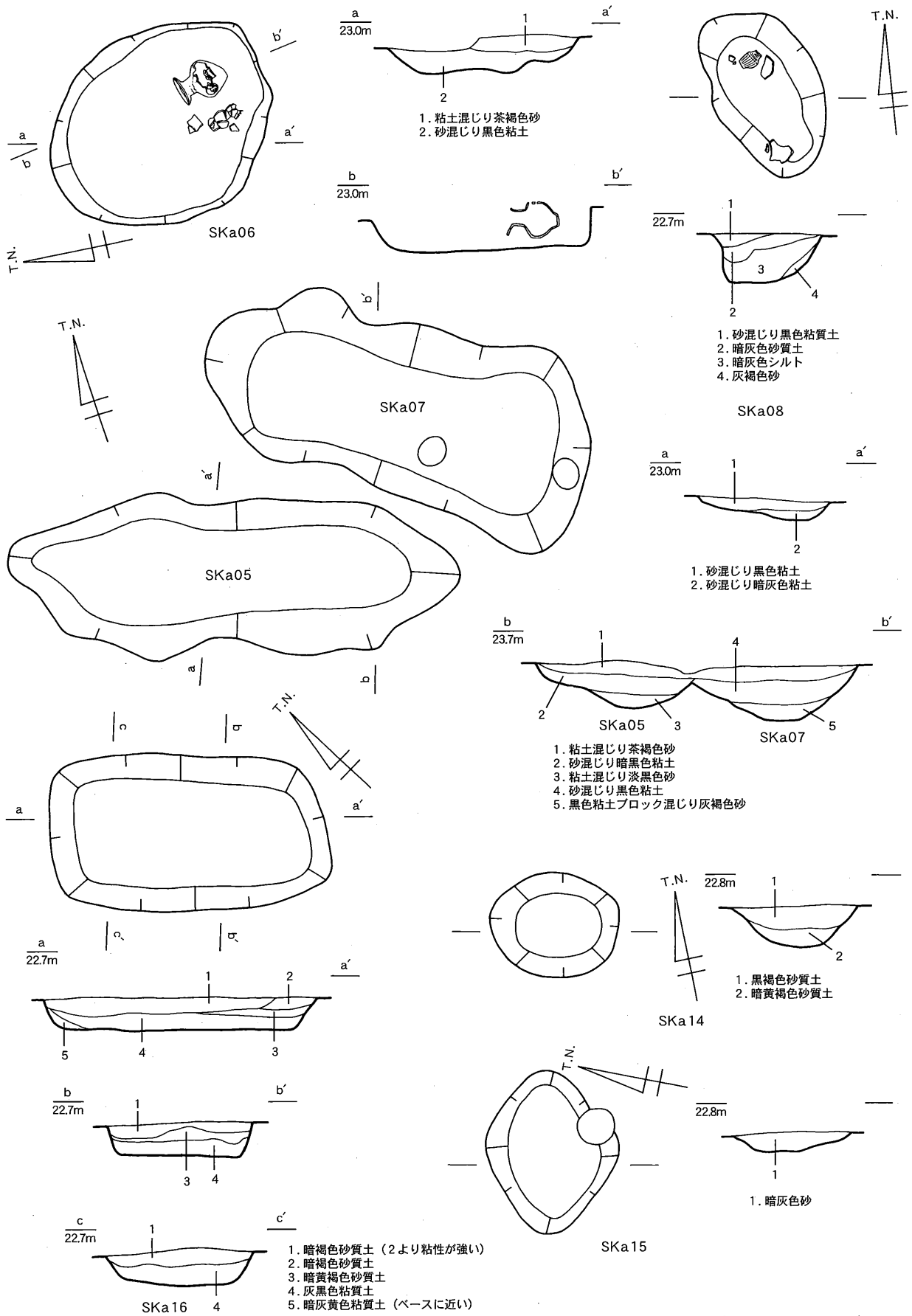
I区東端部の第3遺構面上の、SKa07に隣接する土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径3.2m、短径1.0m、深さ0.35mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第51図165～169）。165は口縁端部に刻目を施した壺である。166・167は弥生時代後期末頃の甕の口縁部である。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代後期末以降の時期が考えられる。

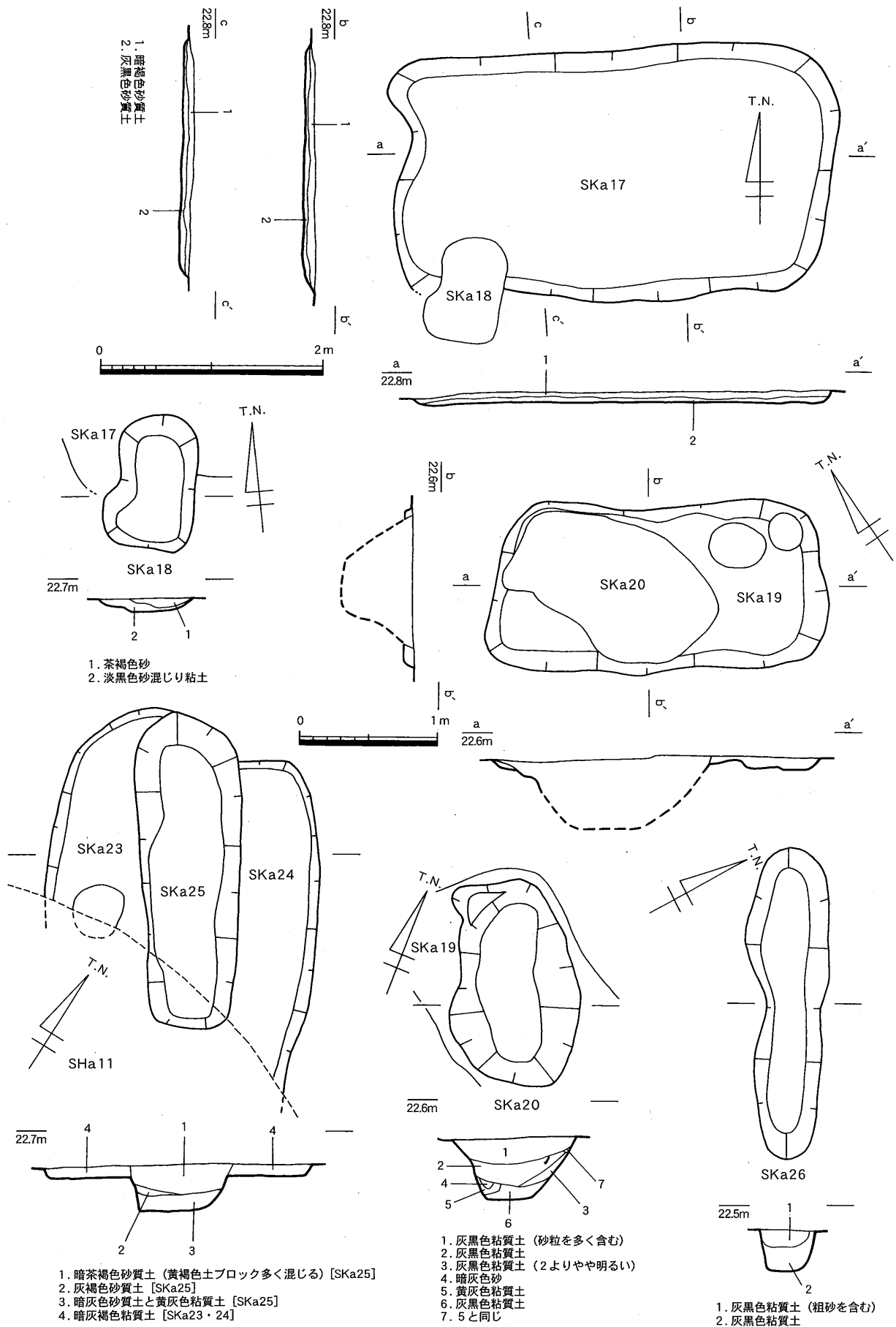
**SKa06（第47・51・52図）**

I区東端部の第3遺構面上の、SKa07に隣接する土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径3.2m、短径1.0m、深さ0.35mを測る。埋土は3層に分かれる。



第47図 SKa05~08・14~16平・断面図





第48図 SKa17~20・23・24・26平・断面図

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第51・52図170・171・194）。170は形状より下川津B類に類似する甕の上半部である。194はサヌカイト製の楔形石器である。剪断面には複数の剥離痕が認められ、連続して剥離している事が分かる。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代後期末以降の時期が考えられる。

#### SKa07（第47・51図）

I区東端部の第3遺構面上の、SKa05・06に隣接する土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径2.9m、短径1.2m、深さ0.4mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第51図172・173）。172・173は弥生時代中期中葉の壺の体部と底部である。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SKa08（第47・51図）

I区東半部の第3遺構面上の、SBa03と重複する土坑である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は不整形なU字状を呈する。長径1.3m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。埋土は4層に分かれる。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した。図化できる3点の遺物を抽出した（第51図174～176）。174～176は弥生時代中期中葉の壺と甕である。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SKa13（第51図）

II区東半部の第3遺構面上の、SHa06に隣接する土坑である。平面は円形状を呈し、断面は不整形なU字状を呈する。長径1.0m、短径0.9m、深さ0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した（第51図177）。177は弥生時代後期後半の壺の口頸部である。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### SKa14（第47・51図）

II区東半部の第3遺構面上の、SHa09に隣接する土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.3mを測る。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した（第51図178～180）。178は弥生時代前期後半の甕の口頸部である。

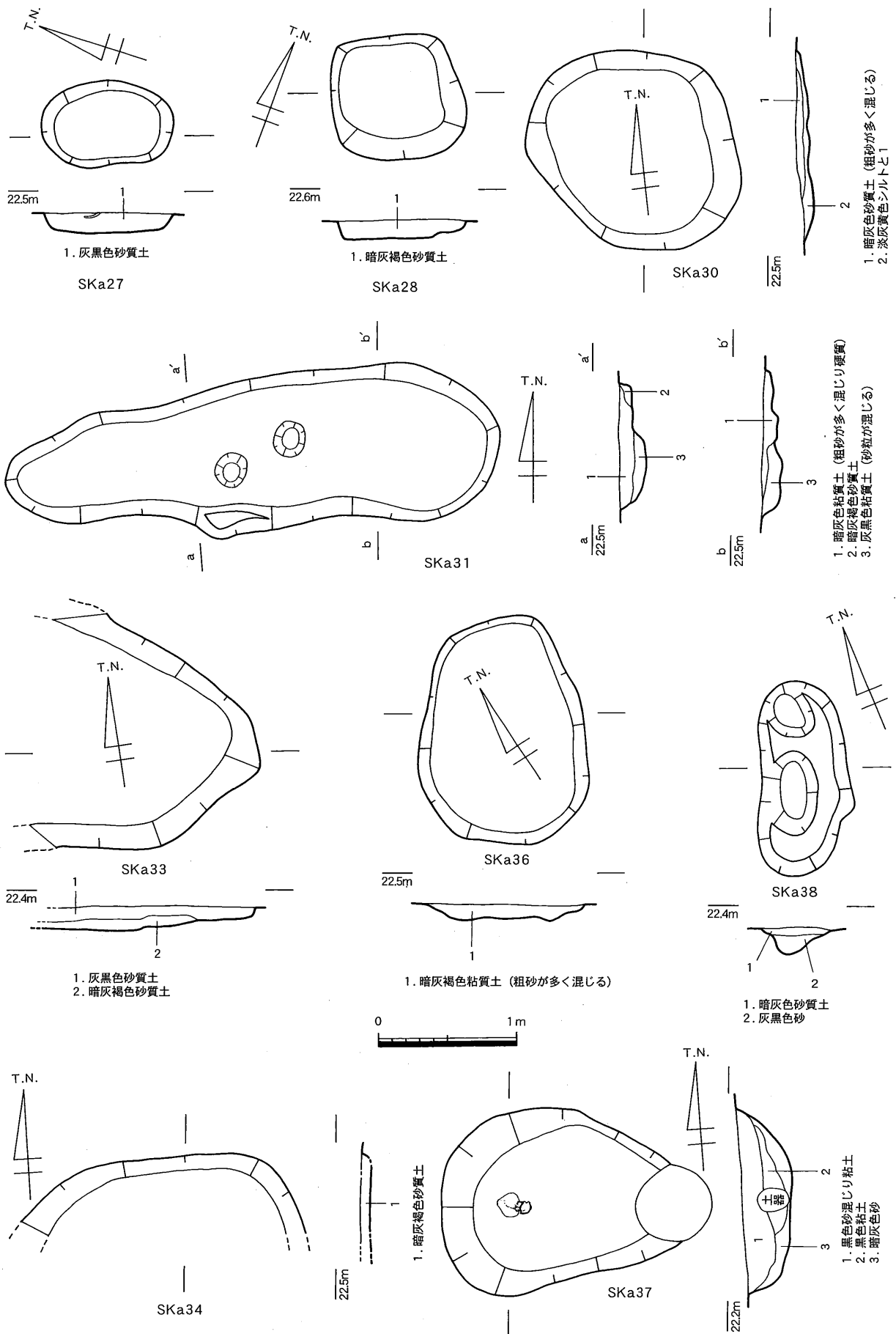
出土遺物が少ないため、この土坑の詳細な時期については問題を残す。

#### SKa15（第47図）

II区東半部の第3遺構面上の、SKa17に隣接する土坑である。平面は不整形な方形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.8m、短径1.5m、深さ0.2mを測る。

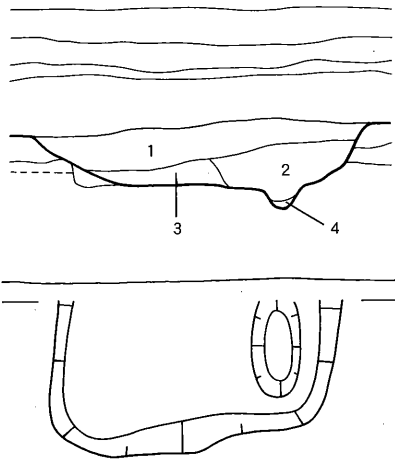
#### SKa16（第47・52図）

II区東半部の第3遺構面上の、SDa42の西側に配された土坑である。平面は長方形を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径3.0m、短径1.7m、深さ0.4mを測る。埋土は5層に分かれる。なお、形状よりこの土坑は墓の可能性がある。

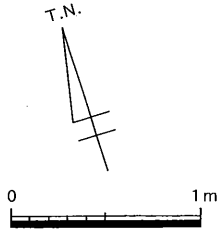


第49図 SKa27・28・30・31・33・34・36~38平・断面図

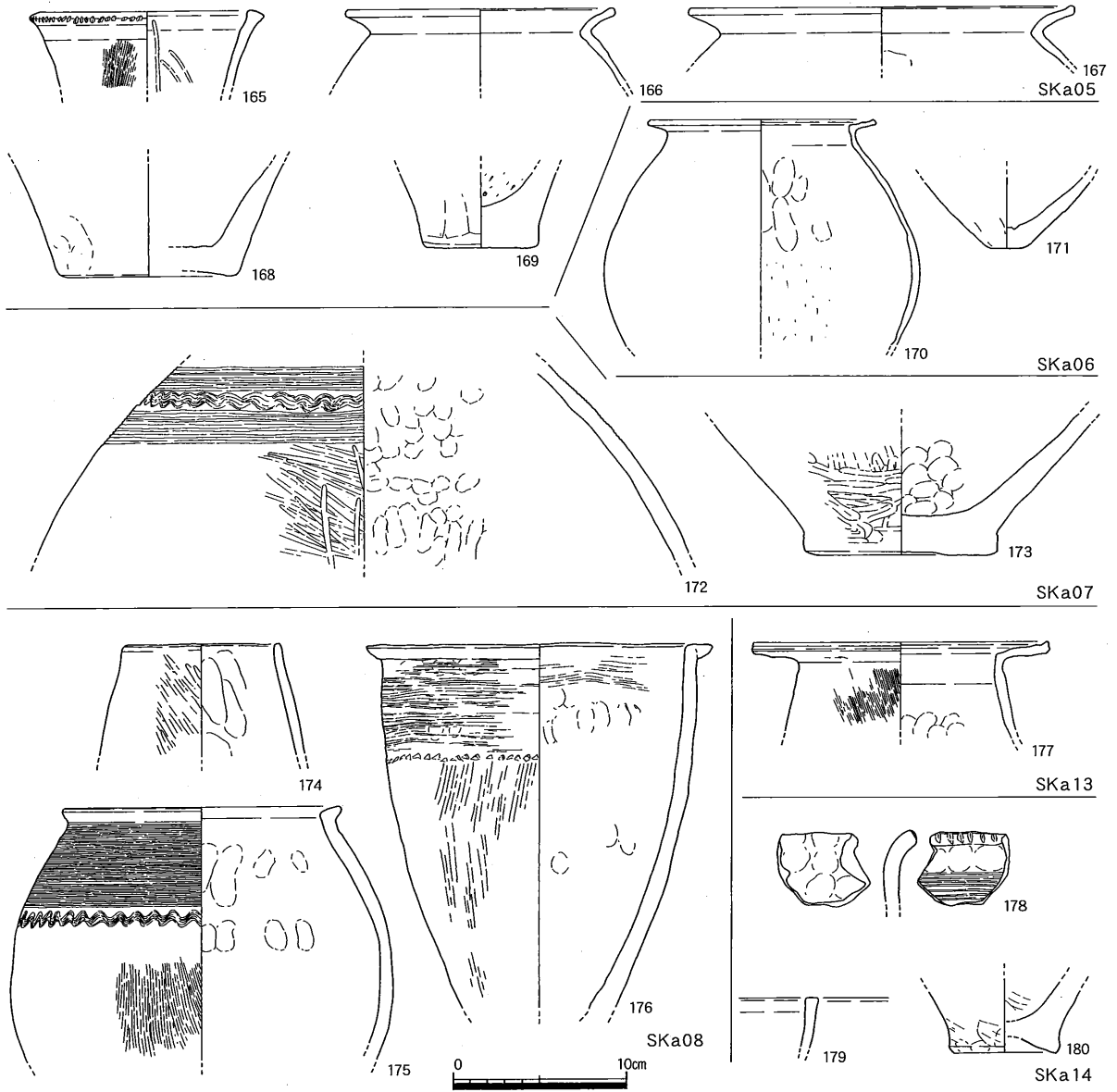
23.2m



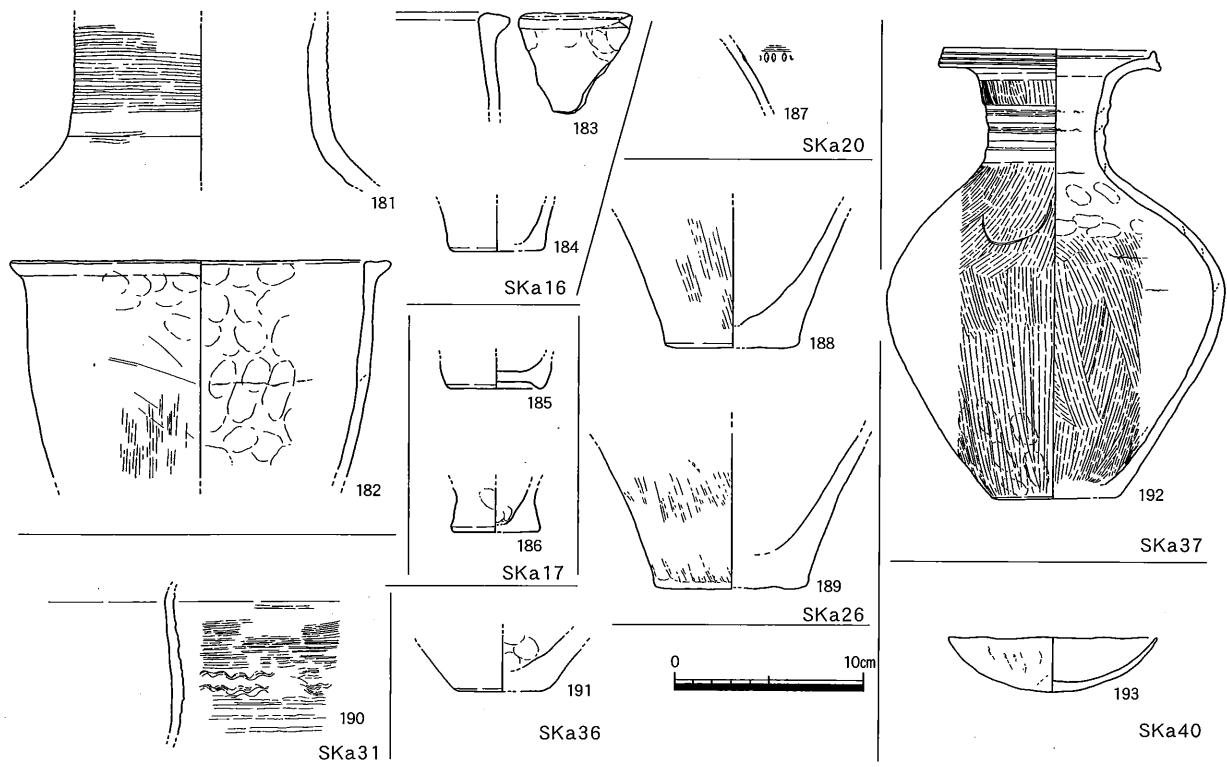
- 1. 暗茶褐色砂質土 (粗砂)
- 2. 灰黑色砂質土 (粗砂)
- 3. 暗褐色砂質土 (粗砂)
- 4. 黑褐色細砂



第50圖 SKa40平・断面図



第51圖 土坑出土遺物 (1)



第52図 土坑出土遺物 (2)

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した (第52図181~184)。181~184は弥生時代中期中葉の土器である。

出土遺物よりこの土坑は、弥生時代中期中葉頃の時期が考えられる。

**SKa17 (第48・52図)**

Ⅱ区東半部の第3遺構面上で検出された残りの悪い土坑である。南端部をSKa18に切られている。平面は長形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径3.2m、短径1.8m、深さ0.1mを測る。埋土は2層に分かれる。なお、形状よりこの土坑は墓の可能性はある。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土したが、資料が乏しく時期については問題を残す (第52図185・186・195)。

**SKa18 (第48図)**

Ⅱ区の東半部の第3遺構面上で検出された残りの悪い土坑である。なお、この土坑はSKa17を切り込んでいる。平面は長形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径1.0m、短径0.55m、深さ0.1mを測る。埋土は2層に分かれる。

**SKa19 (第48図)**

Ⅱ区中央部の第3遺構面上で検出した土坑である。なお、この土坑はSHa11を切り込み、SKa20に切り込まれている。平面は不整形な長方形を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径2.5m、短径1.2m、深さ0.1mを測る。形状よりこの土坑は墓の可能性はある。

出土遺物としては弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した。この土坑の詳細な時期については問題を残すが、SKa20との切り合いより、弥生時代中期中葉以降の可能性はある。

**SKa20 (第48・52図)**

Ⅱ区中央部の第3遺構面上で検出した土坑である。なお、この土坑はSKa19を切り込んでい。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は隅丸の逆台形状を呈する。長径1.5m、短径0.9m、深さ0.5mを測る。埋土は7層に分かれる。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第52図187)。187は弥生時代中期中葉の壺の体部片である。出土遺物が乏しく、この土坑の詳細な時期については問題を残すが、図化した土器より弥生時代中期中葉以降の可能性はある。

**SKa26 (第48・52図)**

Ⅱ区中央部の第3遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面はU字状を呈する。長径2.3m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。埋土は2層に分かれる。

出土遺物としては弥生土器が少量出土した(第52図188・189)。出土遺物が乏しく、この土坑の詳細な時期については問題を残す。

**SKa27 (第49図)**

Ⅱ区西端部の第3遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径0.9m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は単層である。

出土遺物としては土器片とサヌカイト製の石器類が出土しただけで、この土坑の詳細な時期については問題を残す。

**SKa28 (第49図)**

Ⅱ区西端部の第3遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形な方形を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径1.0m、短径0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は単層に分かれる。

**SKa30 (第49図)**

Ⅲ区中央部の第3遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形な円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径1.5m、短径1.4m、深さ0.1mを測る。埋土は2層に分かれる。

**SKa31 (第49・52図)**

Ⅲ区東端部の第3遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面は不整形で浅い皿状を呈する。長径3.6m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては、弥生中期の甕が少量出土した(第52図190)。

**SKa33 (第49・52図)**

Ⅱ区西端部の第3遺構面上で検出した土坑である。約1/2を検出した。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径1.7m以上、短径1.7m以上、深さ0.2mを測る。埋土は2層に分かれる。

出土遺物としては土器片とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第52図196）。196はサヌカイト製の石錐である。出土遺物が乏しく、この土坑の詳細な時期については問題を残す。

#### SKa34（第49図）

Ⅱ区・Ⅲ区の境界上の、第3遺構面上で検出した土坑である。約1/2を検出した。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径2.0m以上、短径0.6m以上、深さ0.1mを測る。埋土は単層である。

#### SKa36（第49・52図）

Ⅲ区中央部の第3遺構面上で検出した土坑である。SHa22の南端部を切り込んでいる。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は不整形で浅い皿状を呈する。長径1.7m、短径1.2m、深さ0.1mを測る。埋土は単層である。

出土遺物としては、弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第52図191）。191は弥生時代後期後半頃の甕の底部である。

出土遺物が少なくこの土坑の詳細な時期については問題を残すが、図化した土器より弥生時代後期後半以降の可能性はある。

#### SKa37（第49・52図）

Ⅲ区中央部、SHa22の西に隣接する土坑である。平面は不整形な楕円形状を呈し、東端部には柱穴が切り込んでいる。断面は不整形でU字状を呈する。長径2.0m、短径1.3m、深さ0.5mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては、サヌカイト製の石器類と、ほぼ完形の弥生土器が出土した（第52図192）。192は底近くから出土した、弥生時代後期前半頃の壺である。口縁部には凹線文を施し、体部上半部にはU字状の記号紋を施している。

出土した土器よりこの土坑は、弥生時代後期前半以降の時期が考えられる。

#### SKa40（第50・52図）

Ⅲ区北端部、第3遺構面上の、SHa27の北に隣接する土坑である。平面は不整形な方形形状を呈し、底部の東端には楕円形状の窪みを検出した。断面は不整形でU字状を呈する。長径1.5m、短径0.8m、深さ0.5mを測る。埋土は4層に分かれる。

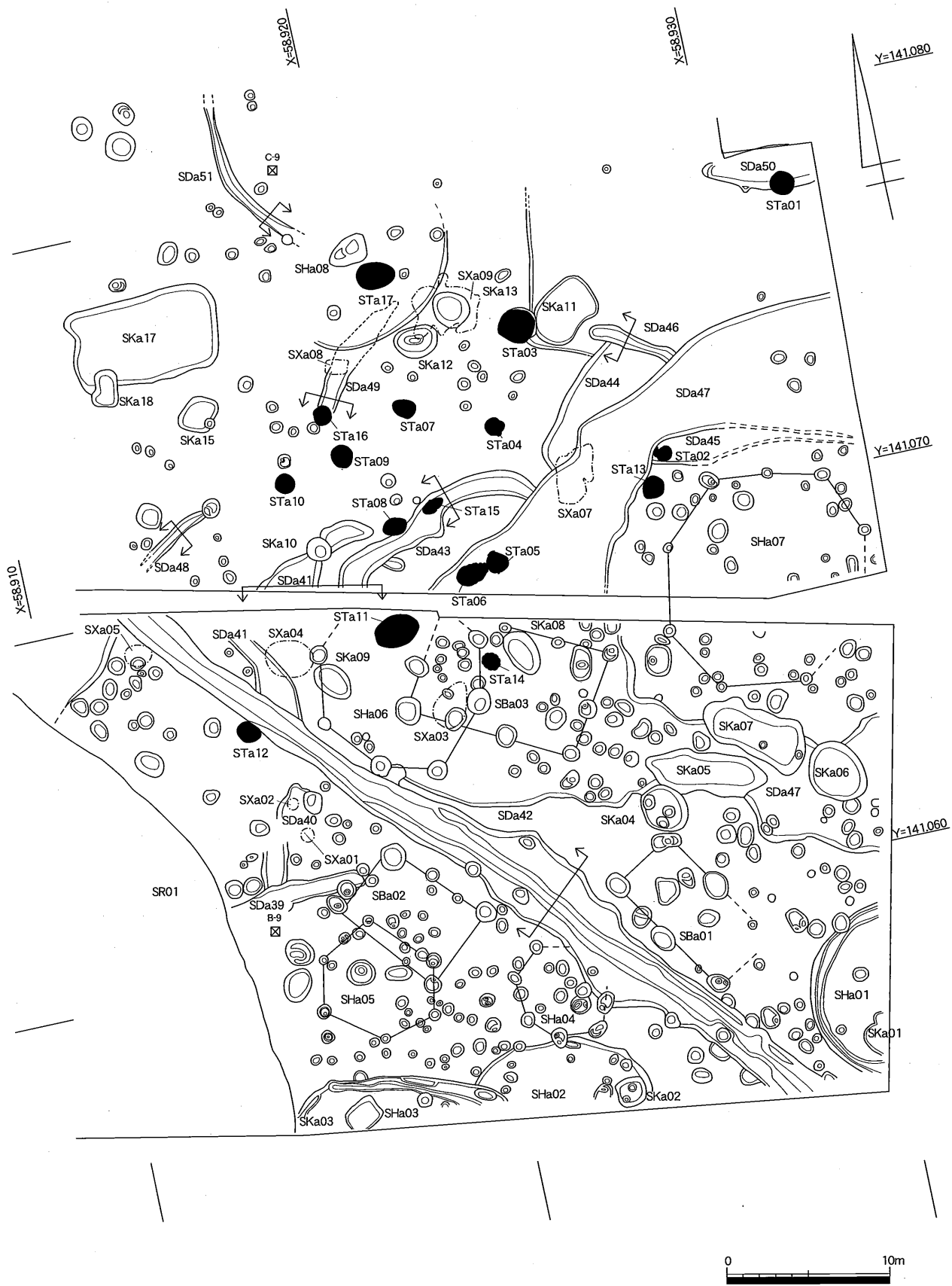
出土遺物としては、弥生土器とサヌカイト製の石器類が少量出土した（第52図193）。193は弥生時代後期末頃の浅い鉢である。

出土した土器よりこの土坑は、弥生時代後期末以降の時期が考えられる。

### （5）土器棺墓跡

#### STa01（第54・55図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。なお、この遺構はSDa50を切り込んでいる。第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方が不明瞭なため、土器棺の周囲を0.2m程下げ、第3遺構面近くで掘り方のラインを検出した。掘り方の平面形は円形を呈し、断面は土器棺の形状に合わせたためか、不整形な形状を呈し、径0.6m以上、深さ約0.25mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.45m以上を測る。



第53図 土器棺墓分布図



土器棺は大型の壺と鉢からなる。設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、西方向の斜め上方に設置し、その後大型の鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺、大型鉢、サヌカイト製の石器類等が出土している（第55図197～199）。197は土器棺の蓋として使用された大型の鉢である。口縁部を如意状に曲げ、端部は平坦に仕上げる。199は、197の底部の可能性もある。198は土器棺の身として使用された、口頸部を欠く大型の壺である。頸部には一条の突帯を施す。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa02（第54・55図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方の平面プランは不明瞭で、周囲を掘り下げて、第3遺構面近くで掘り方のラインを検出した。掘り方の断面は浅いU字状を呈し、径0.5m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.35m以上を測る。

土器棺は大型の壺を用い、西方向の斜め下方に設置している。なお、この土器棺の口縁部付近からは土器棺の供伴遺物と考えられる、小型の壺が出土している。

出土遺物としては、土器棺に用いられている大型壺及び小型壺が出土した（第55図200・201）。200は土器棺として使用された大型の長頸壺である。体部は横長気味に球体化し、頸部には一条の突帯を施し直線状に延びる。口縁部は外反し、端部は上下に肥厚している。201は小型の壺で、長頸壺（200）に係わる土器と考えられ、その形状より長頸壺（200）の口縁部を塞いでいた可能性が考えられる。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期～後期末以降の時期が考えられる。

#### STa03（第54・55図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。かなり削平を受けており残りが悪く、第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方は不明瞭で、周囲を掘り下げて、第3遺構面近くで検出した。掘り方の平面プランは不整形な円形を呈し、断面は不整形なU字状を呈している。掘り方は径約0.65m、深さ約0.3m以上を測る。埋土は単層である。

出土遺物としては、土器棺と考えられる弥生土器の大型壺片が出土した（第55図202・203）。202・203は土器棺として使用された大型壺の体部上半部と底部である。202の頸部には一条の突帯を施している。203の底部は丸底気味の平底である。

出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa04（第54・55図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。掘り方の平面プランは不明瞭で、トレンチの断面で掘り方ラインを確認した。掘り方の断面は不整形なU字状を呈し、断面の下半部（第3遺構面に相当）で確認できたが、上半部（土器棺の上半部）では確認できなかった。その断面の状況から、土器棺の埋葬工程を復元すれば、以下の工程が考えられる。

- ①土器棺の下半部が埋まる程度の浅い掘り方を掘削する。
- ②土器棺を設置する。
- ③土器棺の上半部を塚状に盛り上げる。

なお、同様の埋葬工程はSTa03・15等で確認できる。土器棺の掘り方が検出面で確認できない原因の一つに考えられる。掘り方の径は0.65m以上、深さ約0.25mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.45m以上を測る。

土器棺は大型の口縁部を欠く壺と大型の片口鉢により構成している。設置方法としては、まず、大型の壺を、東方向の斜め上方に設置し、その後、大型の鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、先述した弥生土器の大型の壺、大型の片口鉢が出土した（第55図204・205）。204は土器棺の身として使用された口頸部を欠く大型の壺である。体部は球体化し頸部に一条の突帯が認められる。204は蓋に用いた片口の大型の鉢である。

出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa05（第54・56図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。上半部は削平を受け、下半部のみを残す。STa06と切り合い、STa06に切られている。掘り方の平面プランは不明瞭で、第3遺構面上で確認した。断面は隅丸の逆台形状を呈し、径0.6m以上、深さ約0.15mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.3m以上を測る。

土器棺は大型の壺を横位に設置し、主軸は西へ向けている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺が出土した（第56図206～208）。206～208は頸部を欠くが、同一個体の大型の壺である。

出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa06（第54・56図）

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。上半部は削平を受け、下半部だけを残す。STa05と切り合い、STa05に切られている。第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方の平面プランは不明瞭で、第3遺構面上で確認した。掘り方の断面は浅いU字状を呈し、径0.55m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.3m以上を測る。

土器棺は口頸部を欠く2基の大型壺を、合わせ口の形状で、主軸を東西方向へ向け横位に配している。

出土遺物としては、先述した土器棺に用いた2基の大型壺が出土した（第56図209・210）。209・210は、口頸部を欠く土器棺として使用された大型の壺である。口頸部の欠損状況より、おそらく、210が身にあたり、209が蓋にあたるものと考えられる。

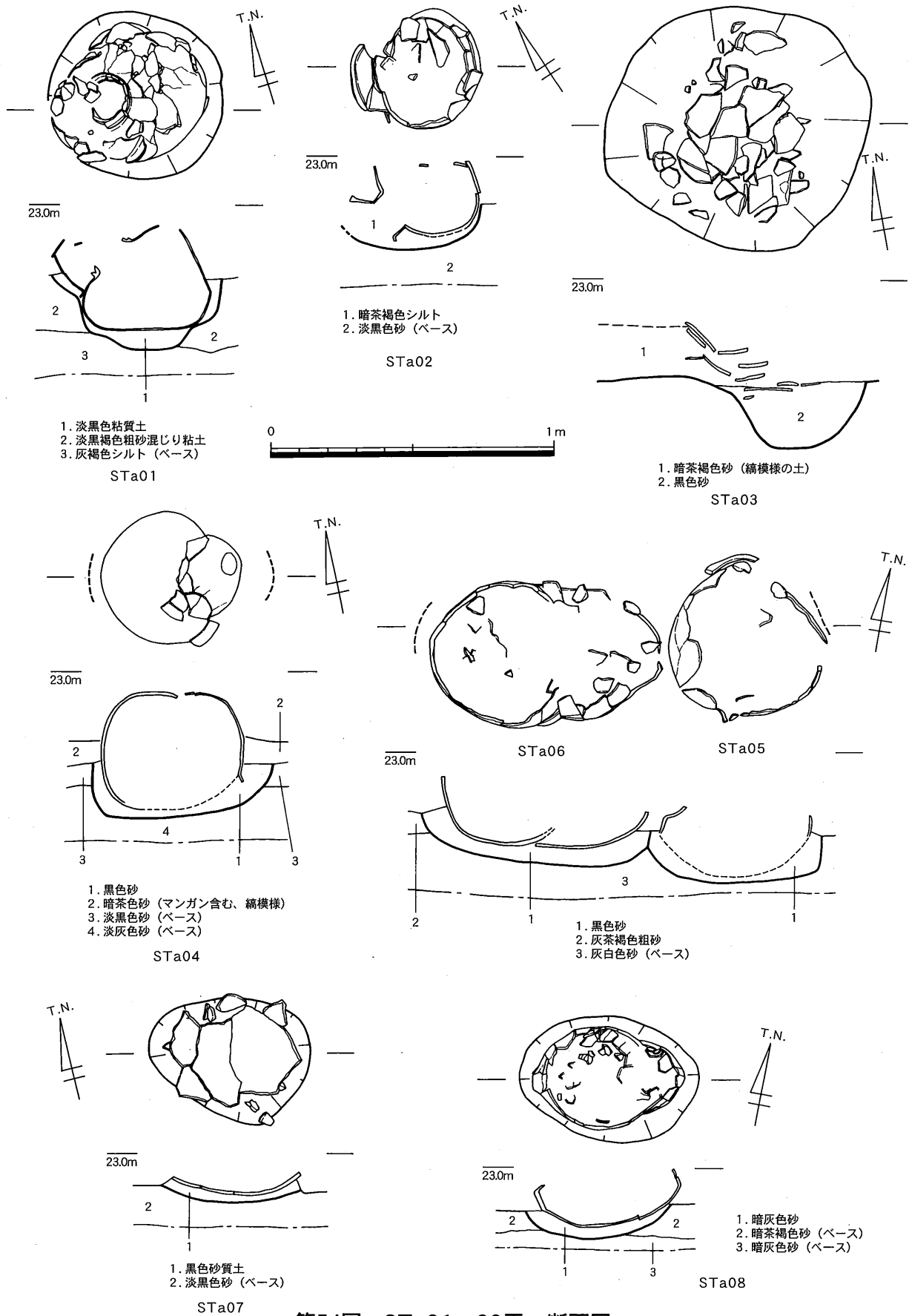
出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa07（第54・56図）

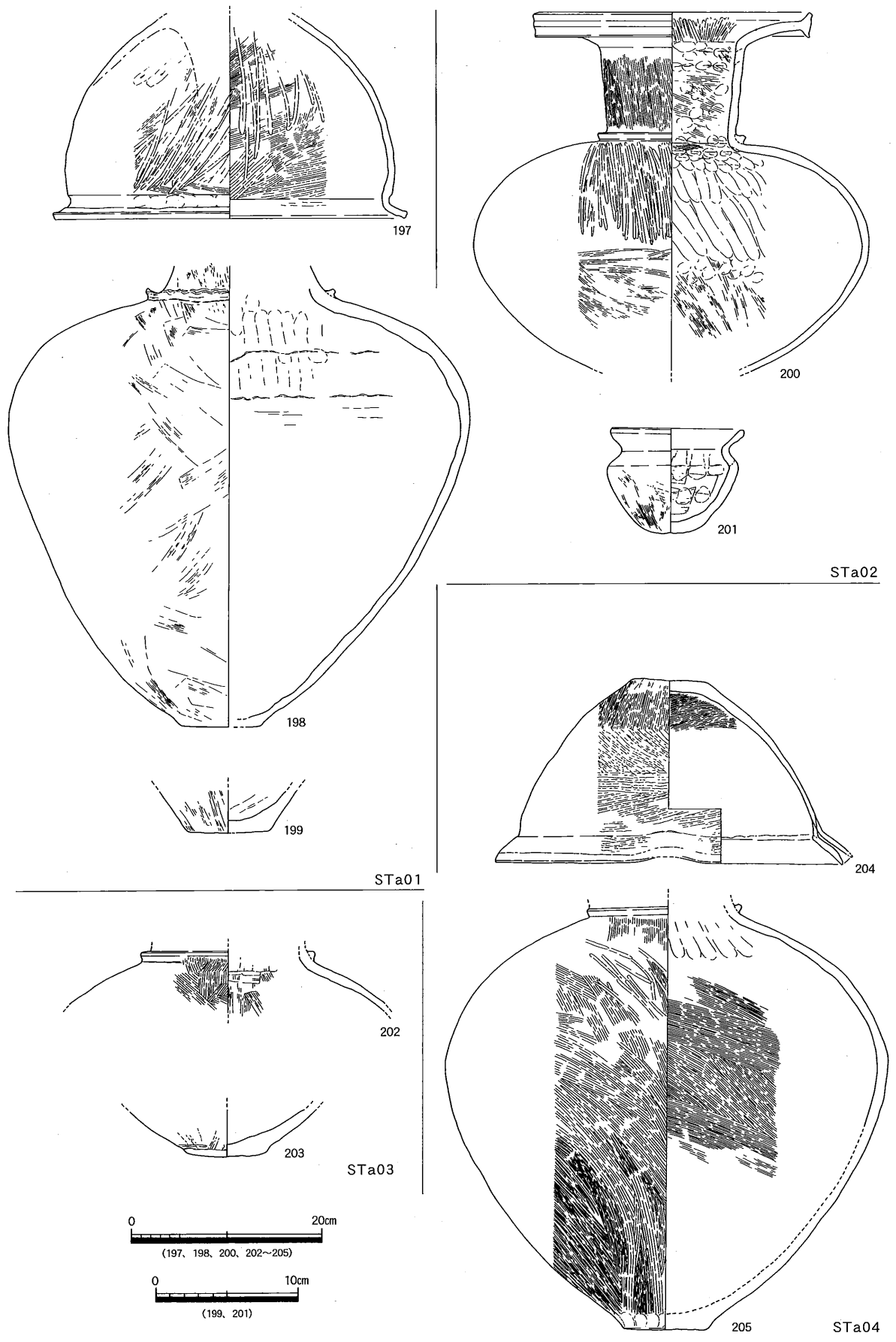
Ⅱ区東端部の第1遺構面上で検出した残りの悪い土器棺墓である。この土器棺は約2/3以上が削平を受け消失し、下半部の一部を残す。掘り方の平面プランは不整形な楕円形状を呈し、第3遺構面上で確認した。掘り方の断面は浅い皿状を呈し、径0.5m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.2m以上を測る。

出土遺物としては、土器棺に用いられている大型壺の体部片を検出した（第56図211）。

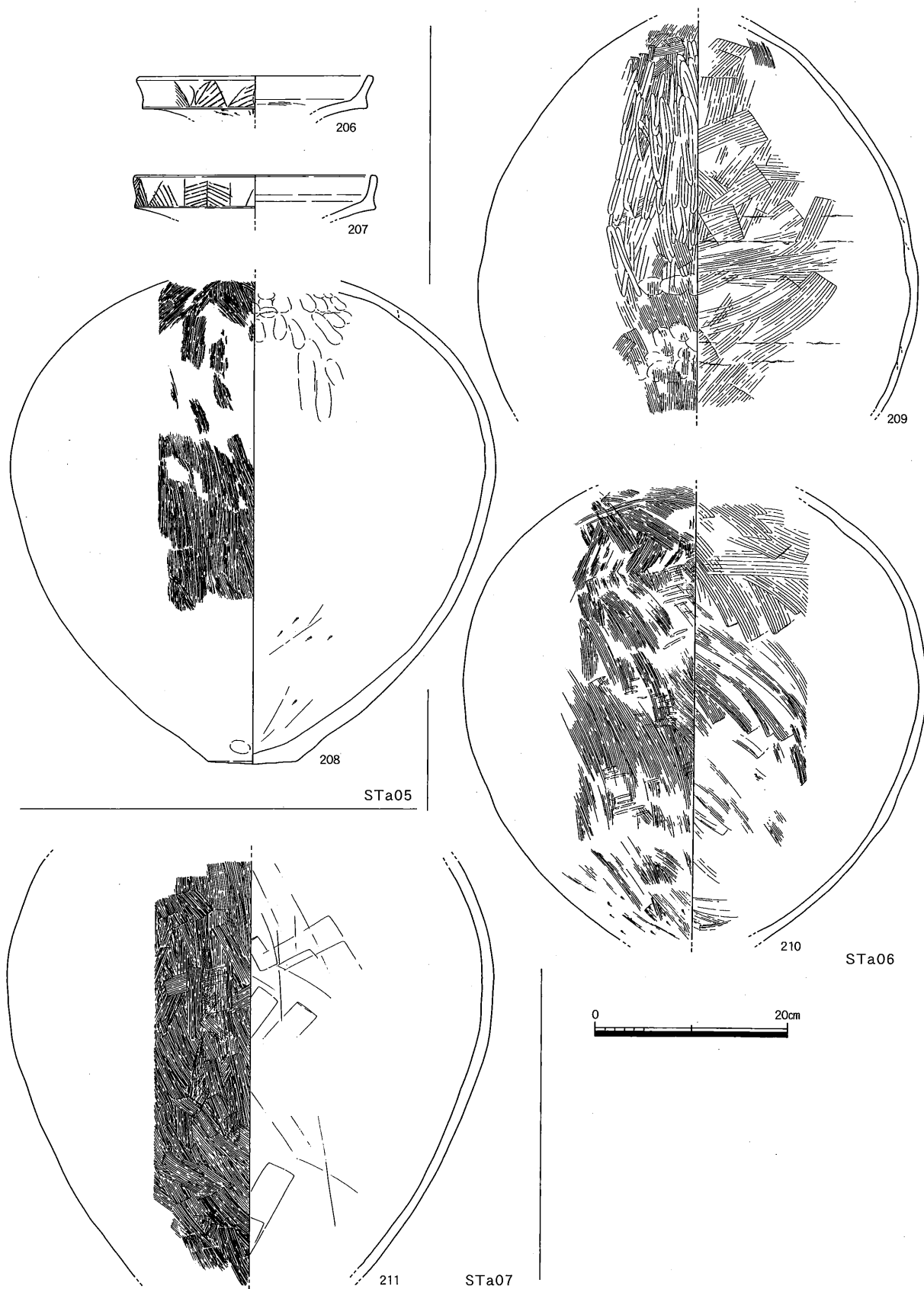
出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。



第54図 STa01~08平・断面図



第55図 STa01~04出土遺物



第56図 STa05~07出土遺物

#### STa08 (第54・58図)

Ⅱ区東端部で検出した土器棺墓である。上半部は削平を受けていて、下半部だけを残す。第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方は第3遺構面上で確認した。掘り方の平面プランは不明瞭ながら楕円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、径0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.5m以上を測る。土器棺は大型の壺と鉢を横位に設置し、主軸は東へ向けている。

出土遺物としては、土器棺としている弥生土器の大型壺と鉢が出土した(第58図212・213)。213は口縁部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。212は大型の鉢で、土器棺の蓋にあたる。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa09 (第57・58図)

Ⅱ区東端部の第1遺構面上で検出した土器棺墓である。第1遺構面で土器棺の上部を検出したが、掘り方は第3遺構面近くで検出した。掘り方の平面プランは不整形なU字状を呈し、径約0.6m、深さ約0.35mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.5m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、東向きに斜め上方に設置し、その後、大型の壺の下半部で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の2基の大型壺等が出土した(第58図214～218)。215は口縁部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。214は大型の壺の下半部で、土器棺の蓋にあたる。土器棺の蓋の中でもかなり大型の部類で、STa16の蓋である237と同サイズにあたる。216・217は弥生土器の壺の口縁部と底部である。状況より混入品の可能性がある。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa10 (第57・58図)

Ⅱ区東部で検出した土器棺墓である。土器棺墓群の中では西よりの位置で検出した。上半部は削平を受け下半部だけを残す。第1遺構面で上端部を検出したが、掘り方は第3遺構面上で確認した。掘り方の平面プランは円形を呈し、断面形態は不明瞭で捉えきれていない。径約0.5mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.3m以上を測る。

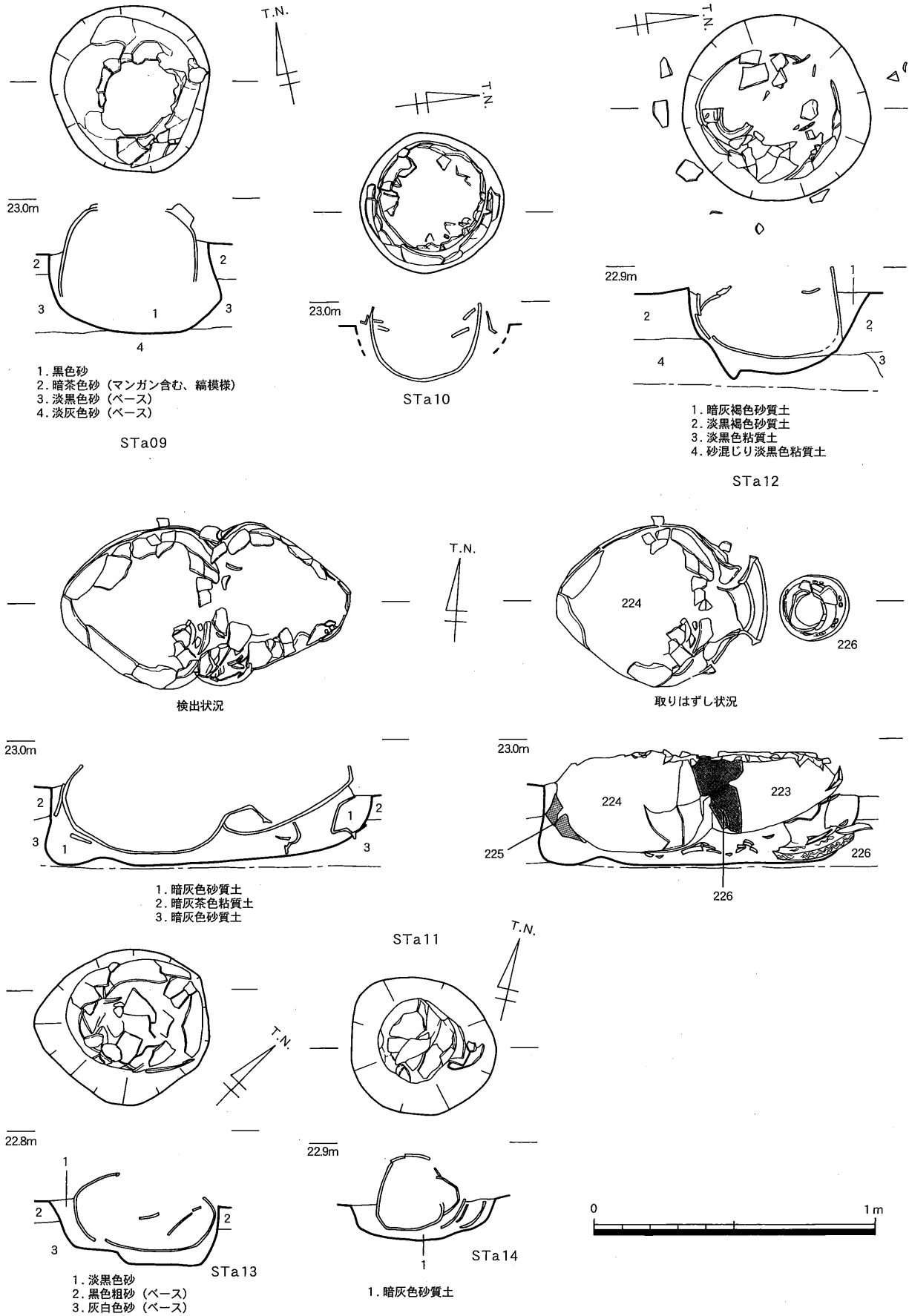
土器棺の設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、直立気味に設置し、その後、大型の片口鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺と片口鉢等が出土した(第58図219～222)。220は口縁部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。体部は球体化しわずかに平底を残す。219は大型の片口鉢で、土器棺の蓋にあたる。221・222は弥生土器の壺口縁部と甕の底部で、これらは混入品の可能性がある。

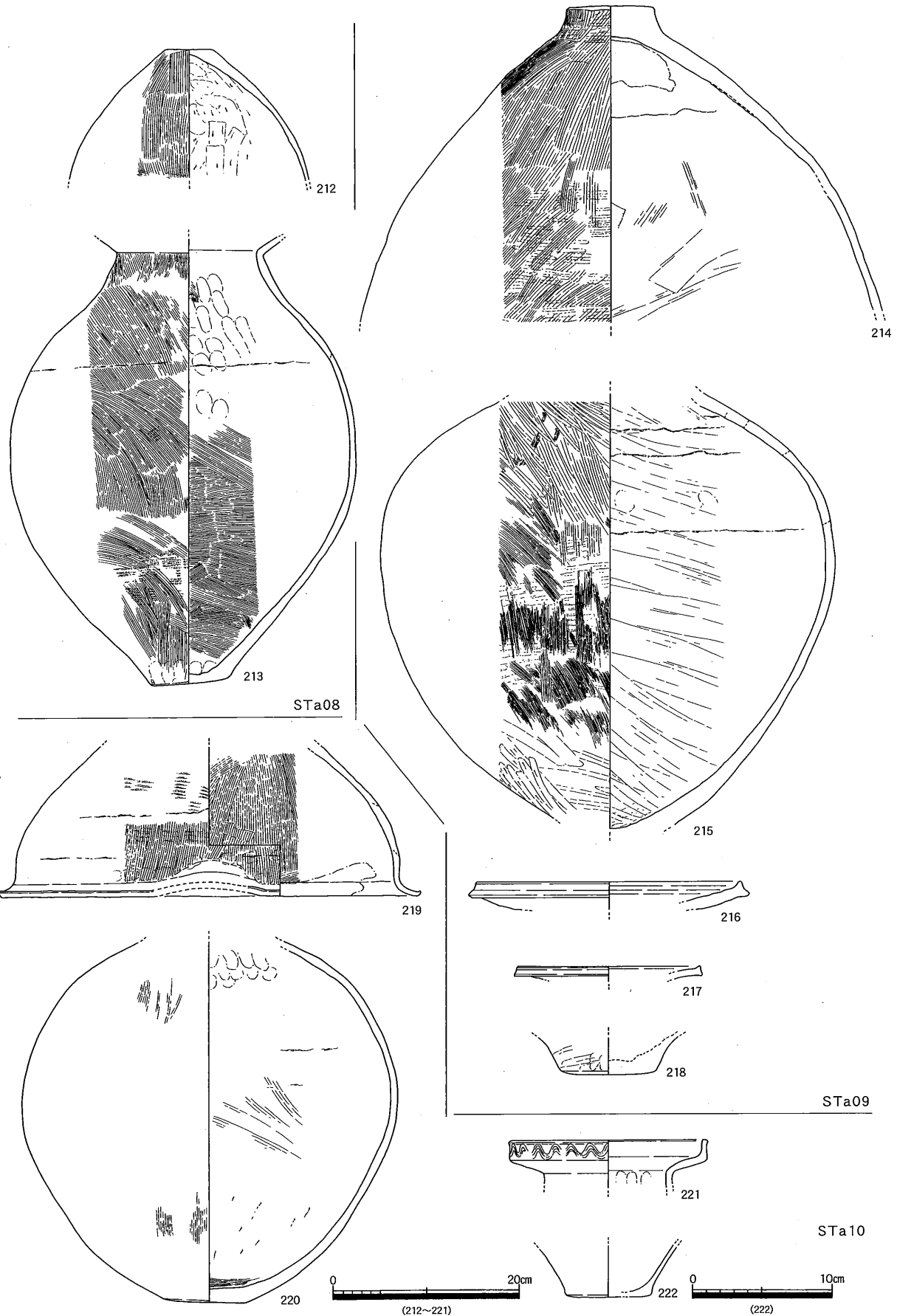
出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa11 (第57・59図)

I区東部、Ⅱ区との境界近くの土器棺墓である。上半部は削平を受けていて、下半部だけを残す。第1遺構面で土器の上部を検出したが、掘り方は第3遺構面近くで確認した。平面プランは楕円形状を呈し、断面形態は不整形なU字状を呈する。長径1.1m以上、短径0.6m以上を測る。

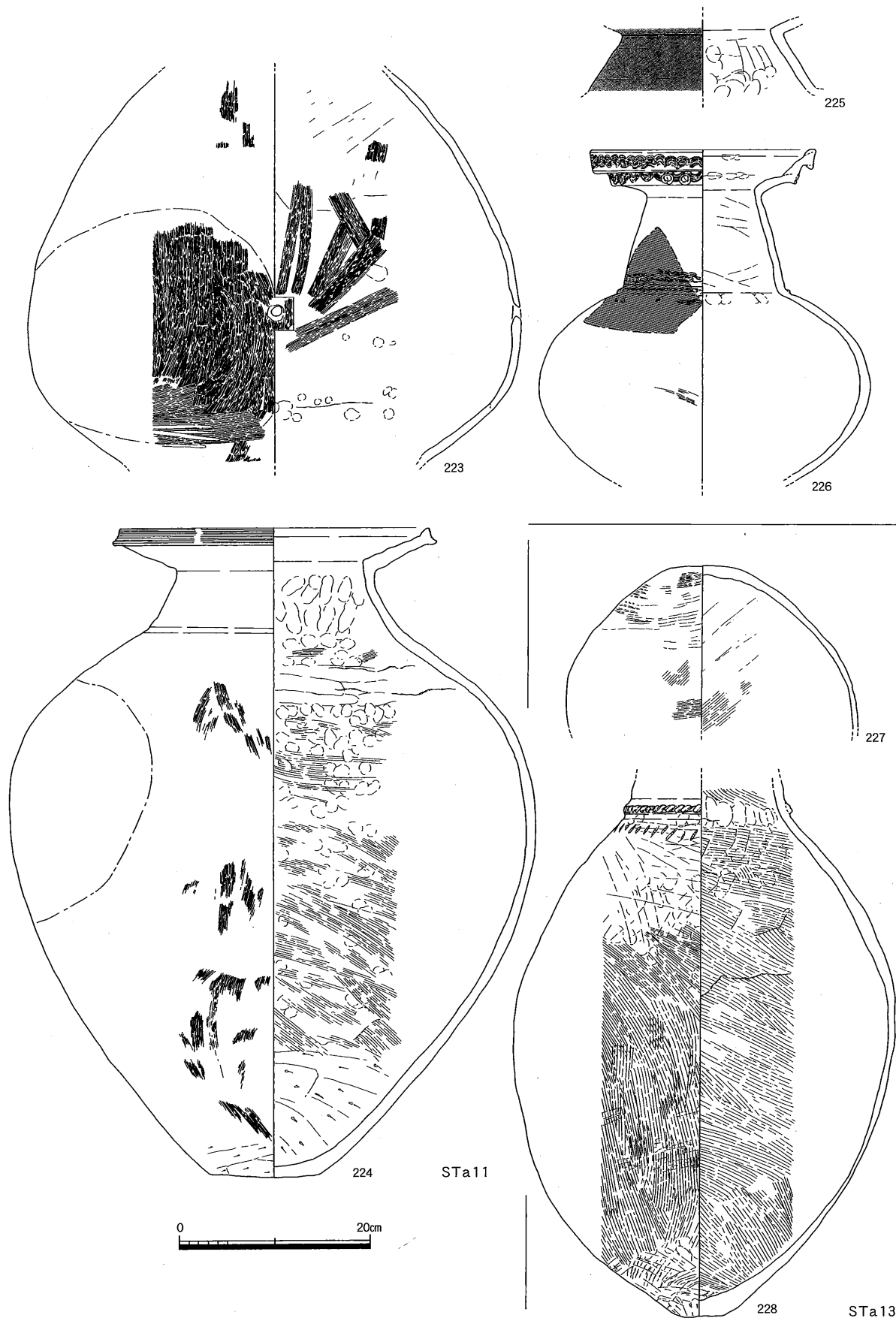


第57図 STa09~14平・断面図

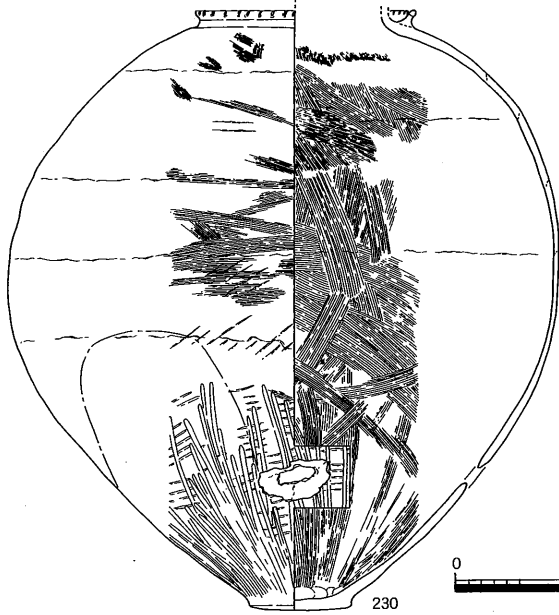
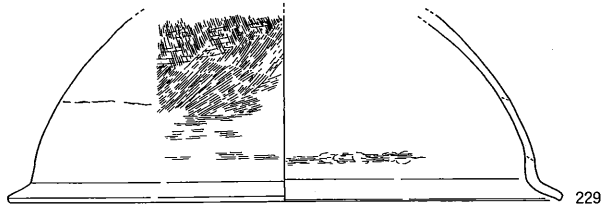


第58図 STa08~10出土遺物

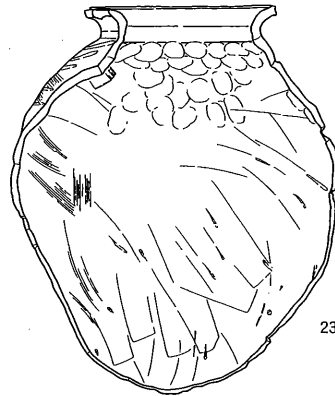
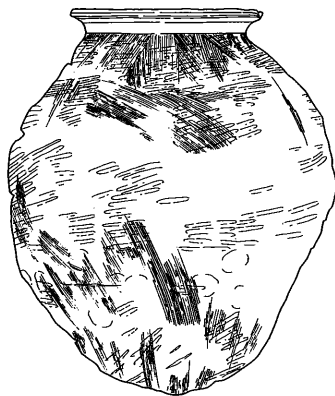
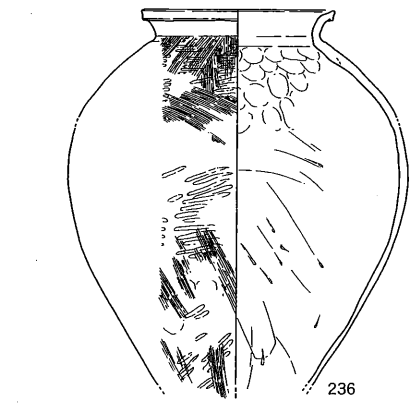
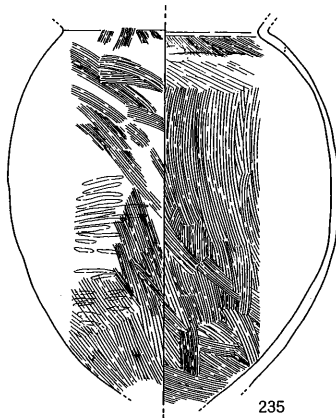
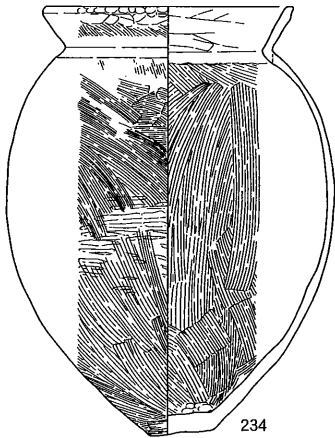
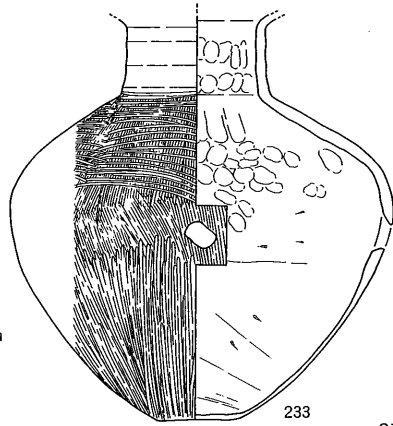
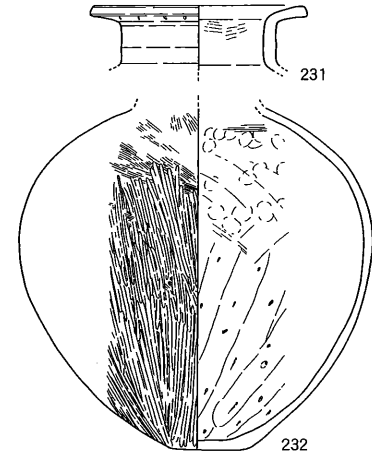




第59図 STa11・13出土遺物



STa12



236の展開図

STa15

第60図 STa12・14・15出土遺物

埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.35m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、大型の壺を東向きの横位に設置し身として、その後、口頸部を欠く大型の壺で蓋をしている。なお、この土器棺には以下の補強処置を施している。

- ①蓋にあたる壺の下位には、蓋の安定と高さの調整を図るため、別の壺を壊し、壊した壺の口頸部を支えにしている。
- ②土器棺の合わせ口の部分には、詰め物として、壊した壺の頸部片をあてている。
- ③身にあたる大型壺の底部には、蓋と同様に、別の壺の頸部を支えにしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺と、その付属品としての壺等が出土した（第59図223～226）。224は大型の壺で、土器棺の身にあたる。223は口頸部を欠く大型の壺で、土器棺の蓋にあたる。土器棺内は水抜きのためか、体部中央に小さな穿孔を施している。225は土器棺の身の補強材に用いている、壺の頸部片である。226は蓋及び合わせ口部分の補強材の壺である。口縁部は複合口縁を呈し、櫛描波状文及び円形浮文等を施している。体部は球体化が進んでおり、頸部との境には低い突帯を一条巡らしている。なお、身と蓋の合わせ口部分の補強材としているのが、頸部の一点波線の部分にあたる。

出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa12（第57・60・62図）

I区の東部、土器棺墓群の中では最も西よりの位置で検出した。上半部は削平を受けていて、下半部だけを残す。第1遺構面で土器の上部を検出したが、掘り方は第3遺構面上で確認した。平面プランは円形を呈し、断面形態は不整形なU字状を呈する。径約0.65mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.4m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、南向きの斜め上方に置き、土器棺の身とし、その後大型の鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺と鉢及びサヌカイト製の石器類が出土した（第60・62図229・230、243～245）。230は口縁部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。体部は球体気味にはり、頸部との境には一条の突帯を施している。底部は突出した平底が付く。体部下半部には1箇所の穿孔が認められ、水抜きのための処置とも考えられる。229は大型の鉢で、土器棺の蓋にあたる。243はサヌカイト製の石鏃である。244・245はサヌカイト製の楔形石器である。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa13（第57・59図）

II区東部の第3遺構面上で検出した土器棺墓である。土器棺墓群の中では東よりの位置で検出した。掘り方の平面プランは不整形な円形状を呈し、断面形態は不整形な逆台形状を呈し、径約0.6mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.4m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、口縁部を欠く大型の壺を、南西向きの横位に置き、土器棺の身とし、その後大型の鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺と鉢等が出土した（第59図227・228）。228は口縁部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。体部は長胴状を呈し、頸部との

境には一条の突帯を施し、底部は平底である。この土器は形状より西瀬戸内系の土器であろう。227は大型の鉢で土器棺の蓋にあたる。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa14 (第57・60・62図)

I区東部の第3遺構面上で検出した、比較的小型の土器棺墓である。掘り方は不明瞭で土器棺の下半部で検出した。掘り方の平面プランは不整形な円形状を呈し、断面形態は隅丸逆台形状を呈し、径約0.5mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.3m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、身と蓋にあたる二つの壺の上半部を壊し、身にあたる壺を東向きに斜め上方にすえ、蓋にあたる壺の下半部を被せている。なお、壊した上半部は補強材として接合部周辺に貼り付けている。

出土遺物としては、土器棺に用いている弥生土器の大型壺と少量のサヌカイトの石器類が出土した(第60・62図231~233・246)。233は口縁部を欠く壺で、土器棺の身にあたる。体部は算盤玉状に張り、底部は平底を呈する。体部中央には1箇所の穿孔が認められ、水抜きのための処置とも考えられる。232は口縁部を欠く壺で、土器棺の身にあたる。231は土器棺の補強材として使われていた壺の口頸部で、形状より232と同一個体の可能性が高い。246はサヌカイト製の楔形石器である。

出土した遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa15 (第60・61図)

I区東部の第3遺構面上で検出した土器棺墓である。掘り方の平面プランは不明瞭で、トレンチの断面で掘り方のラインを検出した。掘り方の断面は不整形なU字状を呈し、断面の下半部(土器棺の下半部)で確認できたが、上半部(土器棺の上半部)では確認できなかった。同様の掘り方の事例はSTa03・04等で確認できる。

土器棺の設置方法としては、まず、二つの甕を合わせ口の状態で、南西向きの横位に配し、その後、合わせ口の部分の上位に縦割りにした甕を被せ、合わせ口部分を補強している。

出土遺物としては、土器棺及び補強材としている弥生土器の甕が出土した(第60図234~246)。234・235は土器棺として用いられた甕である。235は234の口縁部に装着するため、口縁部を打ち欠いている。236は合わせ口部分の上位に被せた縦割りの甕である。形状より、合わせ口部分の形態に合わせて、意図的に打ち欠いている可能性が高い。

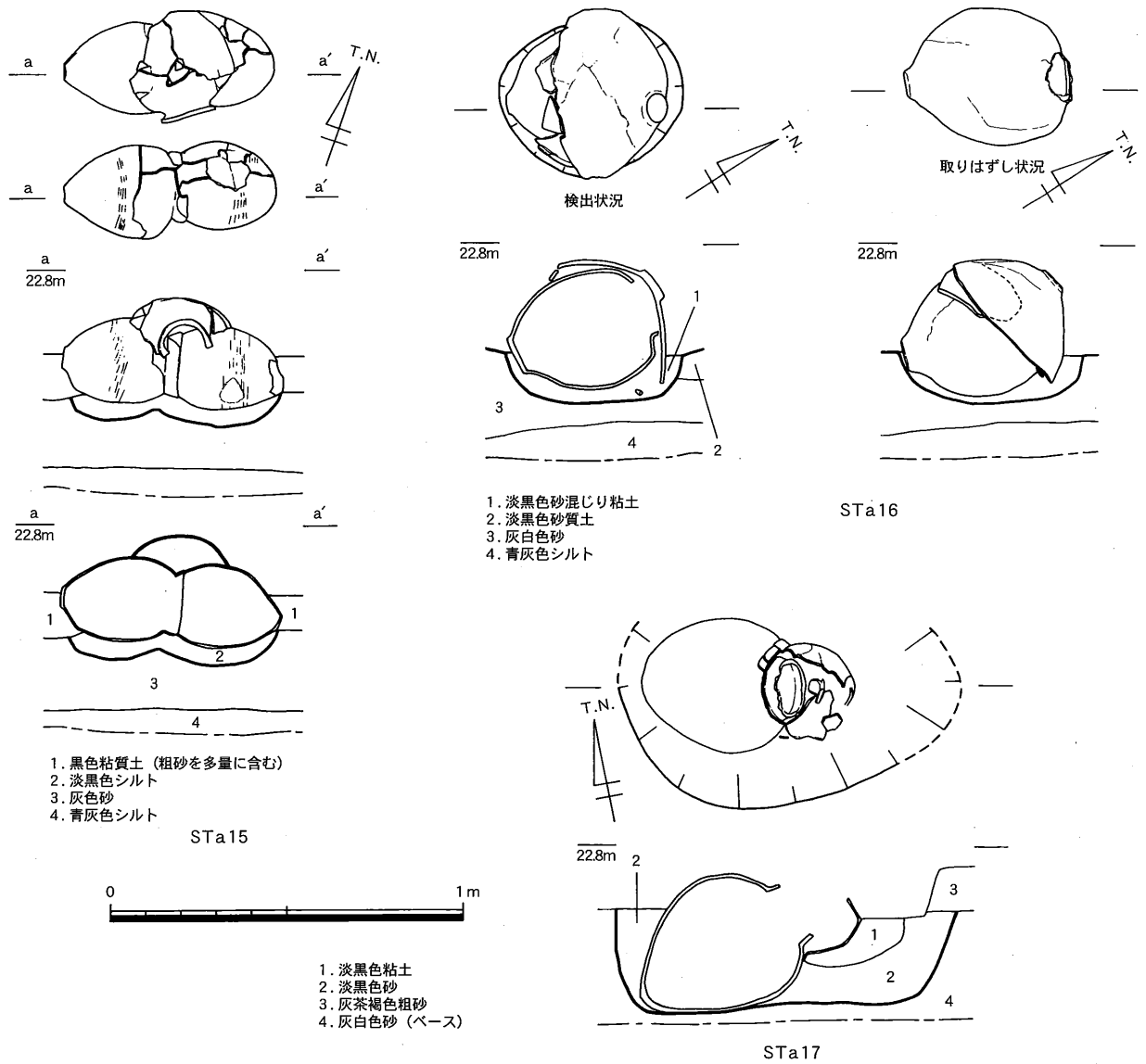
出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa16 (第61・62図)

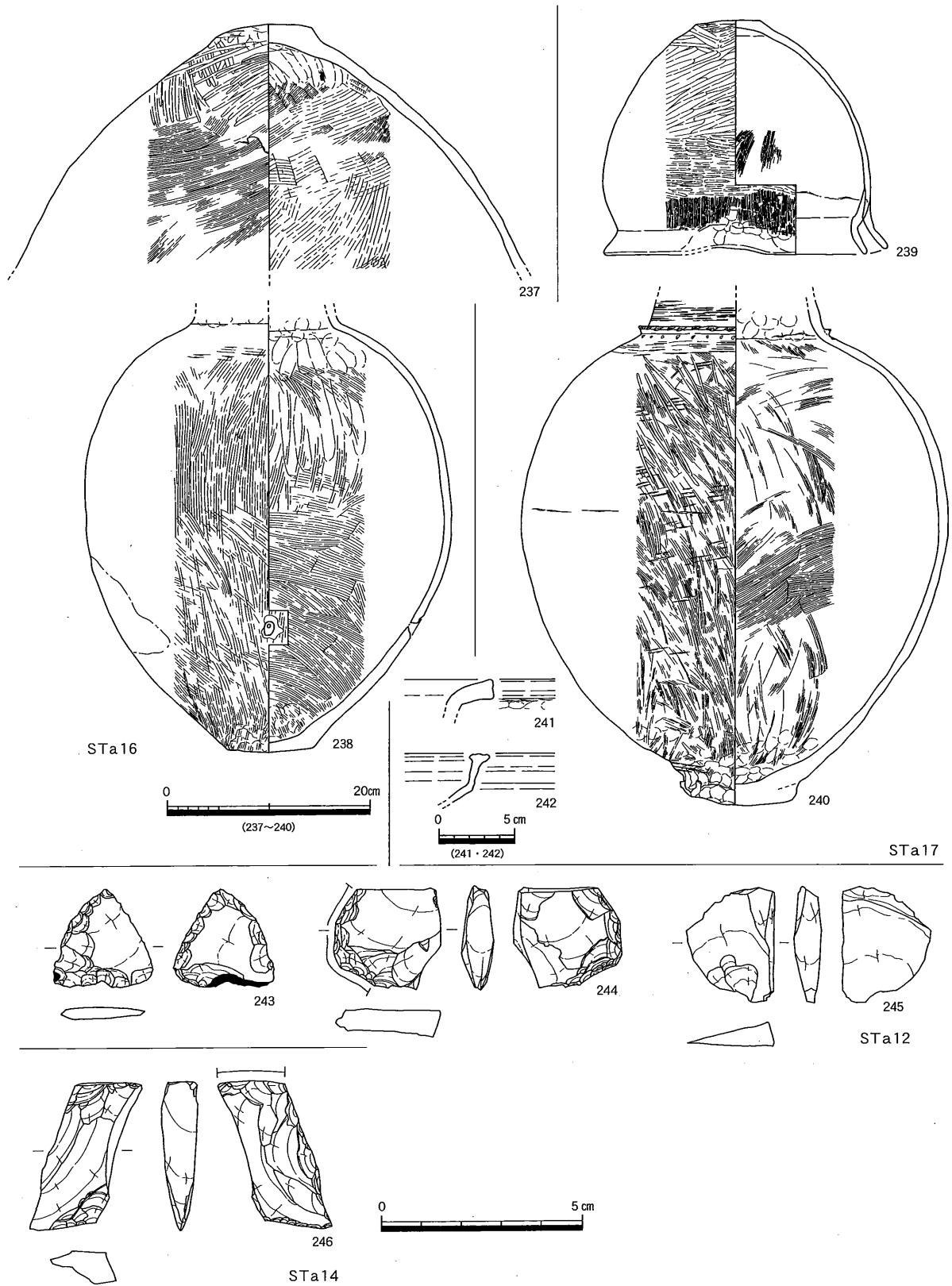
II区東部の第3遺構面上で検出した土器棺墓である。掘り方は不明瞭で土器棺の下半部で検出した。掘り方の平面プランは円形状を呈し、掘り方の断面は浅いU字状を呈する。径約0.5m、深さ約0.15mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.4m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、北東向きの斜め上方に置き、土器棺の身とし、その後大型の壺の下半部で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている大型の弥生土器の壺が出土した(第62図237・238)。238は口頸部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。体部は長胴気味で底部は平底を呈する。



第61図 STa15~17平・断面図



第62図 STa12・14・16・17出土遺物

237は上半部を欠く大型の壺で、土器棺の蓋にあたる。体部下半部の接合痕で上半部と分割している。土器棺の蓋の中でもかなり大型の部類で、STa09の蓋である214と同サイズにあたる。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

#### STa17 (第61・62図)

Ⅱ区東部のSHa08の上面で検出した土器棺墓である。掘り方の平面プランは楕円形状を呈し、掘り方の断面は逆台形状を呈する。長径1.0m、短径0.5m、深さ約0.3mを測る。埋土は単層である。土器棺を含めた高さは0.4m以上を測る。

土器棺の設置方法としては、まず、口頸部を欠く大型の壺を、東向きの斜め上方に置き、土器棺の身とし、その後大型の片口鉢で蓋をしている。

出土遺物としては、土器棺に用いている大型の弥生土器の壺と鉢が出土した(第62図239～242)。なお、この土器棺の土壌からは、人骨の細片を採集した。240は口頸部を欠く大型の壺で、土器棺の身にあたる。体部は長胴気味で底部は突出した平底を呈する。頸部と体部の境には一条の突帯を施している。239は大型の片口鉢で、土器棺の蓋にあたる。

出土遺物よりこの土器棺墓は、弥生時代後期後半以降の時期が考えられる。

### (6) 不整形遺構

#### SXa01～09 (第63～65図)

I・Ⅱ区の東部の第1遺構面上で検出した土器溜り状の遺構である。土器の広がり是不整形な円形ないし楕円形状を呈し、弥生時代後期後半頃の土器片及び石器類が比較的多量に出土した。これらの土器溜りが分布している周辺には十数基の土器棺墓が分布しており、土器棺墓群との関係が注目できる資料である。次に個別の遺構の内容を紹介する。

SXa01は不整形な円形を呈し、範囲は径約0.4mを測る。代表的な出土遺物として、弥生時代中期中葉の壺口頸部を図化した(第64図247)。

SXa02は不整形な円形を呈し、範囲は径約0.3mを測る。

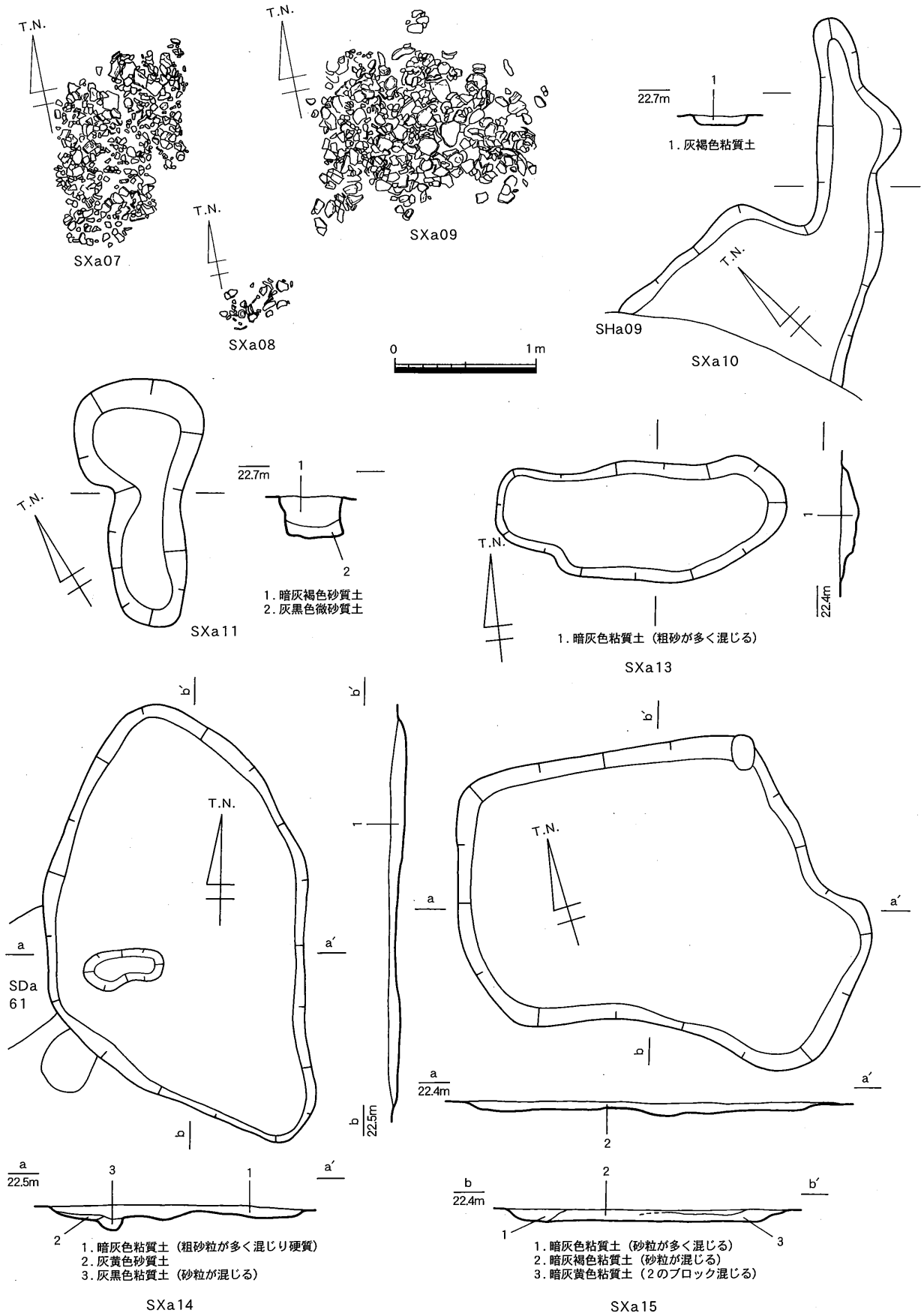
SXa03は不整形な楕円形状を呈し、範囲は比較的広く長径1.4m、短径0.8mを測る。代表的な出土遺物として、弥生時代後期後半の壺口頸部を図化した(第64図248)。

SXa04は楕円形状を呈し、範囲は比較的広く長径1.3m、短径1.0mを測る。代表的な出土遺物として、弥生時代後期後半の壺と甕及び、サヌカイト製の楔形石器の削片を図化した(第64・65図249～251・279)。

SXa05は不整形な楕円形状を呈し、範囲は長径0.8m、短径0.5mを測る。代表的な出土遺物として、結晶片岩製の扁平片刃石斧を図化した(第65図281)。

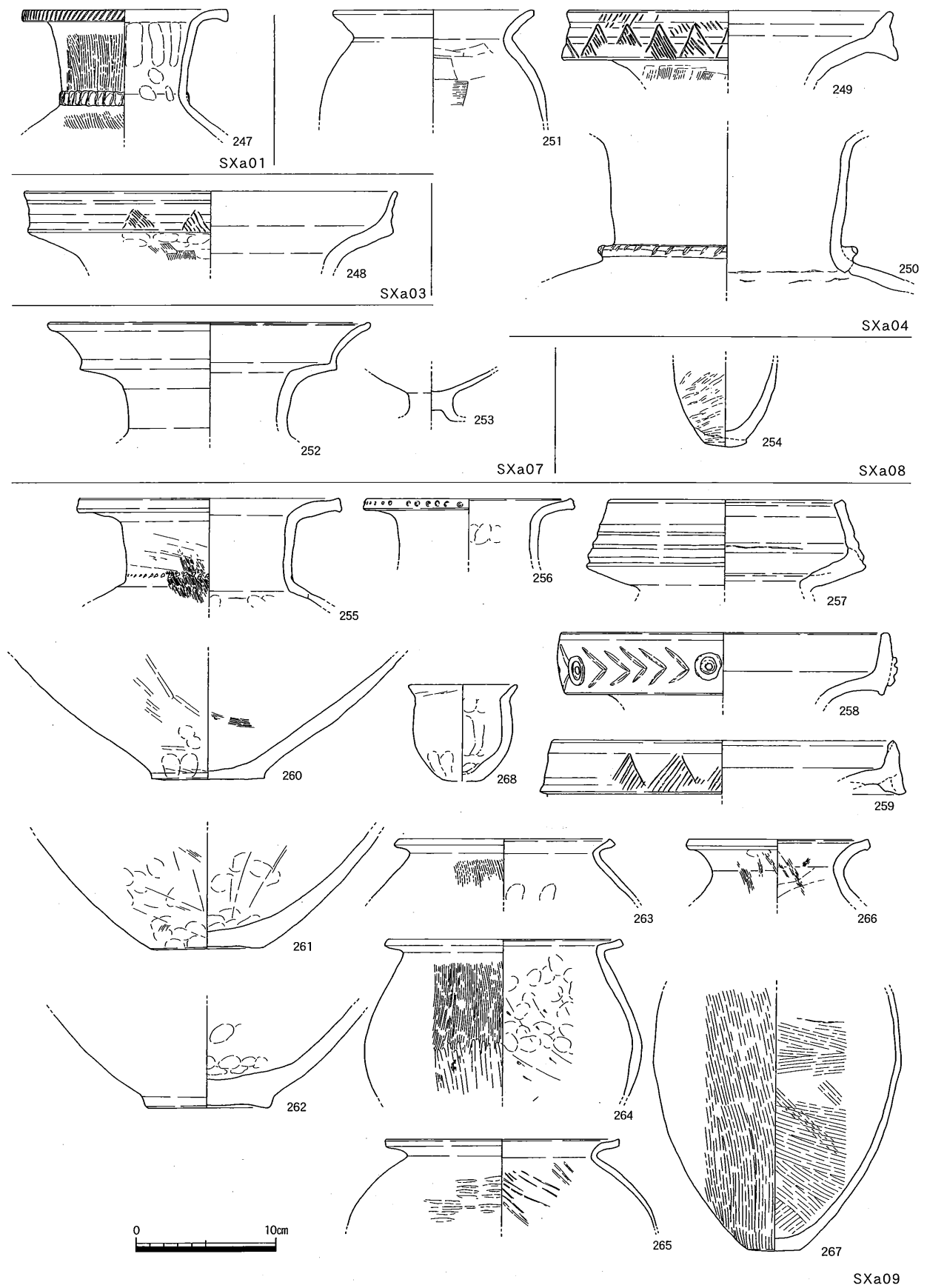
SXa07は不整形な楕円形状に土器が広がり、範囲は比較的広く長径1.4m、短径1.0mを測る(第63図)。代表的な出土遺物として、弥生時代後期後半の壺と高杯及び鉄鏃を図化した(第64・65図252・253・1002)。1002は有茎の鉄鏃で比較的残りがよい。この遺跡では同時期の鉄器は少なく、貴重な資料といえる。

SXa08は小規模な土器溜りで、範囲は径約0.5mを測る(第63図)。代表的な出土遺物として、弥生時代後期後半の小型の甕を図化した(第64図254)。

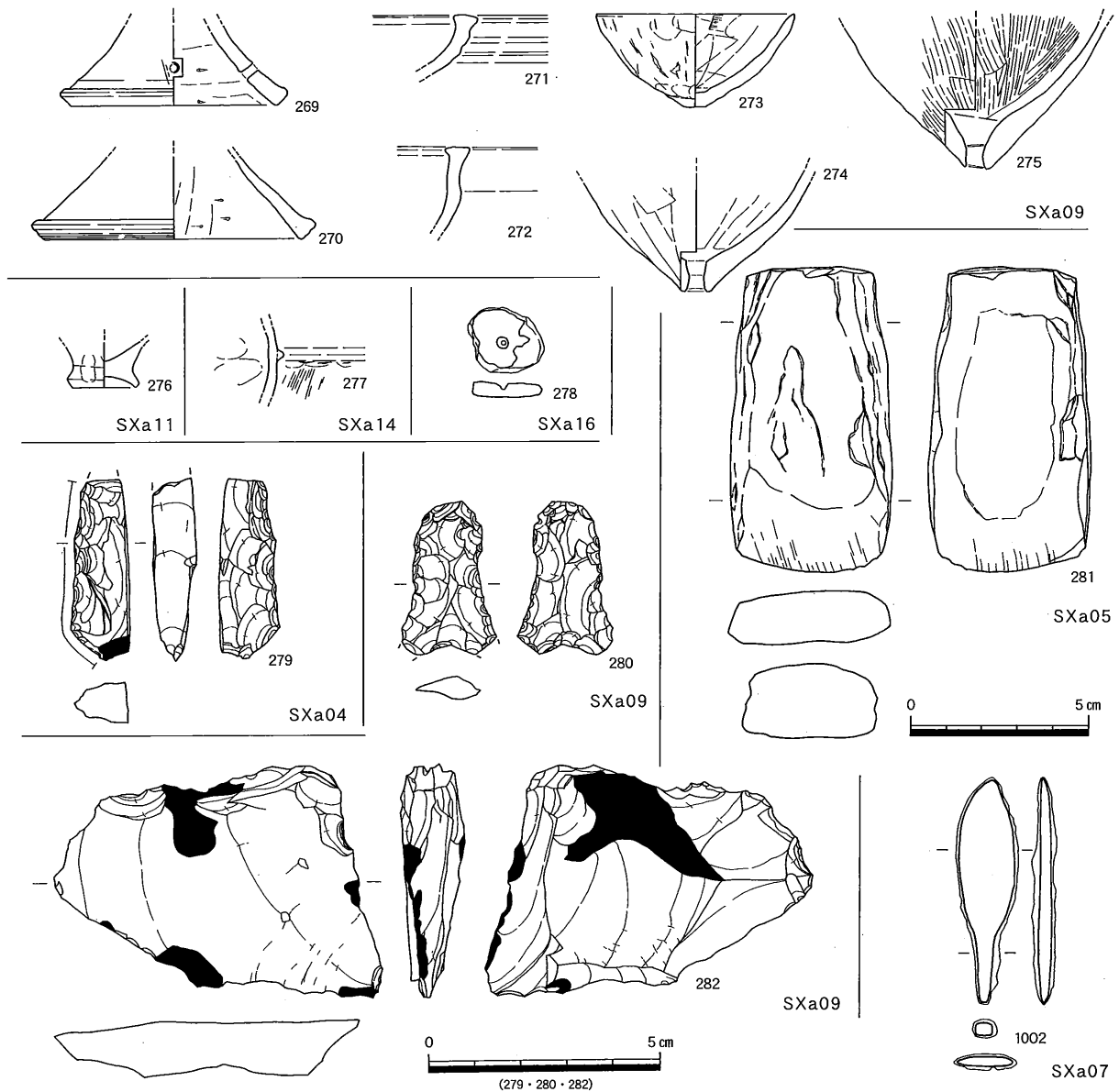


第63図 SXa07~11・13~15平・断面図





第64図 不整形遺構出土遺物 (1)



第65図 不整形遺構出土遺物 (2)

SXa09は不整形な形状に土器が広がり、範囲は比較的広く長径1.5m、短径1.4mを測る（第63図）。出土遺物として、弥生時代後期後半の土器と、サヌカイト製の石鏃と石核を図化した（第64・65図255～275・280・282）。282はサヌカイト製の石核である。肉厚な剥片を素材に用い、素材のコーナーに打面調整を施し、不整形な横長状の剥片を剥ぎ取っている。なお、この石核は器面の風化が著しく、旧石器時代の横長剥片石核の範疇で捉えられる。

**SXa10 (第63図)**

Ⅱ区東端部の第3遺構面上で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。西半部はSHa09により切られており、全体の約1/2を検出した。長径2.4m、短径0.5m、深さ0.1～0.2mを測る。埋土は単層である。

出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の剥片類が出土した。出土遺物が少ないため、この遺構の詳細な時期決定には問題を残すが、SHa09との切り合いより、この遺構は弥生

時代中期後半以前の可能性がある。

**SXa11 (第63・65図)**

Ⅱ区東端部のSHa09に隣接し、第3遺構面上で検出した、不整形な遺構である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径1.8m、短径0.5m、深さ0.3mを測る。埋土は2層に分かれる。

出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の剥片類が出土した(第65図276)。276は台付鉢の脚部である。出土遺物が少ないため、この遺構の詳細な時期決定には問題を残す。

**SXa13 (第63図)**

Ⅱ・Ⅲ区の境界上の第3遺構面上で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径2.1m、短径0.8m、深さ0.1mを測る。埋土は単層である。遺物は出土していないため、この遺構の詳細な時期決定には問題を残す。

**SXa14 (第63・65図)**

Ⅲ区の南半部の第3遺構面上で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。この遺構はSDa61を切り込んでいる。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径3.3m、短径1.8m、深さ0.1mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の楔形石器等が出土した(第65図277)。出土遺物が少ないため、この遺構の詳細な時期決定には問題を残す。

**SXa15 (第63図)**

Ⅲ区の中央部の第3遺構面上で検出した、不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径3.0m、短径1.9m、深さ0.1mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の楔形石器の削片及び剥片等が出土した。出土遺物が少ないため、この遺構の詳細な時期決定には問題を残す。

**SXa16 (第65図)**

Ⅲ区の北部の第3遺構面上で検出した、広範囲に広がっている不整形な遺構である。周囲は住居跡等が密集している地域で、この遺構はSHa23に切られ、SHa22を切り込んでいる。検出状況より考えてこの遺構は、方形の竪穴住居跡であるSHa23の建替え前の住居跡かSHa23のベッド状遺構であろう。長径5.0m、短径0.8m、深さ0.1mを測る。

出土遺物としては少量の弥生土器片とサヌカイト製の剥片等が出土した(第65図278)。278は土製の紡錘車である。

## (7) 溝状遺構

**SDa01・02・04～08・10・11・18・19 (第68図)**

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区の第1遺構面上で検出した、条里型地割の方向に配された小規模な東西及び南北溝である。主軸方位はN-11°-Eを向く。これらの溝は必ずしも一時期の溝ではなく、SDa05・06等の切り合いが確認できる事例もあるため、ある程度の時期差があるものと考えられる。

溝からの出土遺物の中で、時期の決め手になる土器は出土していない。そのため詳細な時期を決めるには問題を残すが、埋土の状況等よりおそらく中世以降の時期が考えられる。

#### SDa23 (第66・68・73図)

Ⅲ区南端部からⅡ区の西半部の第1遺構面上で検出した、南西方向へ湾曲気味に配された溝である。傾向として北東端部は浅く、SRa02と交わる南西端部は幅広で深い。そのため、微高地上の北東部より、低湿地部の南西部へ流下させている溝状遺構である。検出長25.0m以上、幅0.5～1.5m、深さ約0.3mを測る。なお、この溝は配置上の状況より、SDa21・25等と交わる可能性が高い。また、この溝の西側にはSDa23と同方向に配されたSDa24がある。この二つ溝は、規模・方向・埋土等類似するところが多く、同じ機能の溝状遺構と考えられる。

出土遺物としては混入品ではあるが、少量の弥生土器片とサヌカイト製の剥片等が出土した(第68・73図284・473)。284は弥生時代後期後半の高杯である。

#### SDa24 (第68図)

Ⅲ区南半部から、Ⅰ区の西端部の第1遺構面上で検出した、SDa23・25と並行気味に配された溝である。レベルより、北東部の微高地上から南西部の低湿地部へ流下させている溝状遺構である。検出長27.0m以上、幅0.5～0.7m、深さ約0.3mを測る。なお、この溝の東側のSDa23・25は、規模・方向・埋土等で類似するところが多く、同じ機能の溝状遺構と考えられる。

出土遺物としては混入品と考えられるが、少量の弥生土器片が出土した(第68図285・286)。285・286は弥生時代後期末頃の甕口縁部片である。

#### SDa29 (第68図)

Ⅲ区北半部の第1遺構面上で検出した、SDa32と並行気味に配された小規模な溝である。検出長4.5m以上、幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。なお、この溝の東側の、SDa26・27・28等の小規模な溝状遺構は、規模・方向・埋土等類似するところが多く、同じ機能の溝状遺構と考えられる。

出土遺物としては混入品と考えられるが、少量の弥生土器片とサヌカイト製の剥片等が出土した(第68図287・288)。287・288は弥生時代後期末頃の壺の口縁部片と鉢の底部である。

#### SDa31 (第66図)

Ⅰ区中央部の第2遺構面上で検出した、SDa33・36に切られている溝状遺構である。検出長13.0m以上、幅約1.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。

#### SDa32 (第66・68・81図)

Ⅰ区からⅢ区にかけて北西方向に延びる溝状遺構である。第1遺構面上で検出した溝であるが、かなり長期間存続していた溝のようで、第3遺構面上のSRa01の東半部では、この溝の下層部分(SDa32下層溝)を検出している。検出長72.0m以上、幅1.0～1.8m、深さ0.5～0.8mを測る。断面の形態は地点によりかなり差がある。埋土も同様に地点によりかなり差がある。SRa01の東半部に残るSDa32は、断面で見る限り切り込み面の異なる3時期の溝に区分できる。SDa32上層部分はSRa01の上面を切り込みⅠ区へ続く。また、SDa32下層溝はSRa01の下層部分を切り込んでいく(第81図参照)。

出土遺物はかなり時期幅がある。大別すれば①弥生時代前期後半 ②弥生時代後期末 ③古墳

時代前期前半頃の土器とサヌカイト製の剥片類が出土した（第68図289～304）。

290・292・301は弥生時代前期後半の土器で、混入品であろう。296・297は古墳時代前期前半の土師器の高杯脚部である。他の遺物は、弥生時代後期末頃の資料である。

出土遺物よりこの溝は、古墳時代前期前半以降の時期が考えられる。

#### SDa33・37（第67・97図）

I区の第2遺構面上で検出した、北西方向から東西方向に延びる溝状遺構である。SDa33はI区の東端部で西に大きく曲がり、中央部では東西方向へ延び、西端部では北に屈曲しⅢ区に延びる。Ⅲ区ではSDa34・35に分岐する。なお、SDa33にはSDa36、SDa37、SDa38等の溝が合流している。

SDa33－検出長58.0m以上、幅1.0～2.3m、深さ約0.7mを測る。断面の形態は地点により差があるが、全体的には不整形なU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれるが、堆積状況から比較的短期に堆積した洪水砂が主となる。なお、この洪水砂はSDa34・35との分岐地点では、かなり広範囲に堆積している。層厚もかなりあり、当時の流れの強さを物語っている（第97図15・16・18層等）。

SDa37－検出長2.5m以上、幅約0.6m、深さ約0.25mを測る。断面の形態は不整形なU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれるが、堆積状況から比較的短期に堆積した洪水砂が主となる。

この溝の時期については、堆積している洪水砂の状況や検出状況を考慮すれば古墳時代前期後半以降の時期が考えられる。

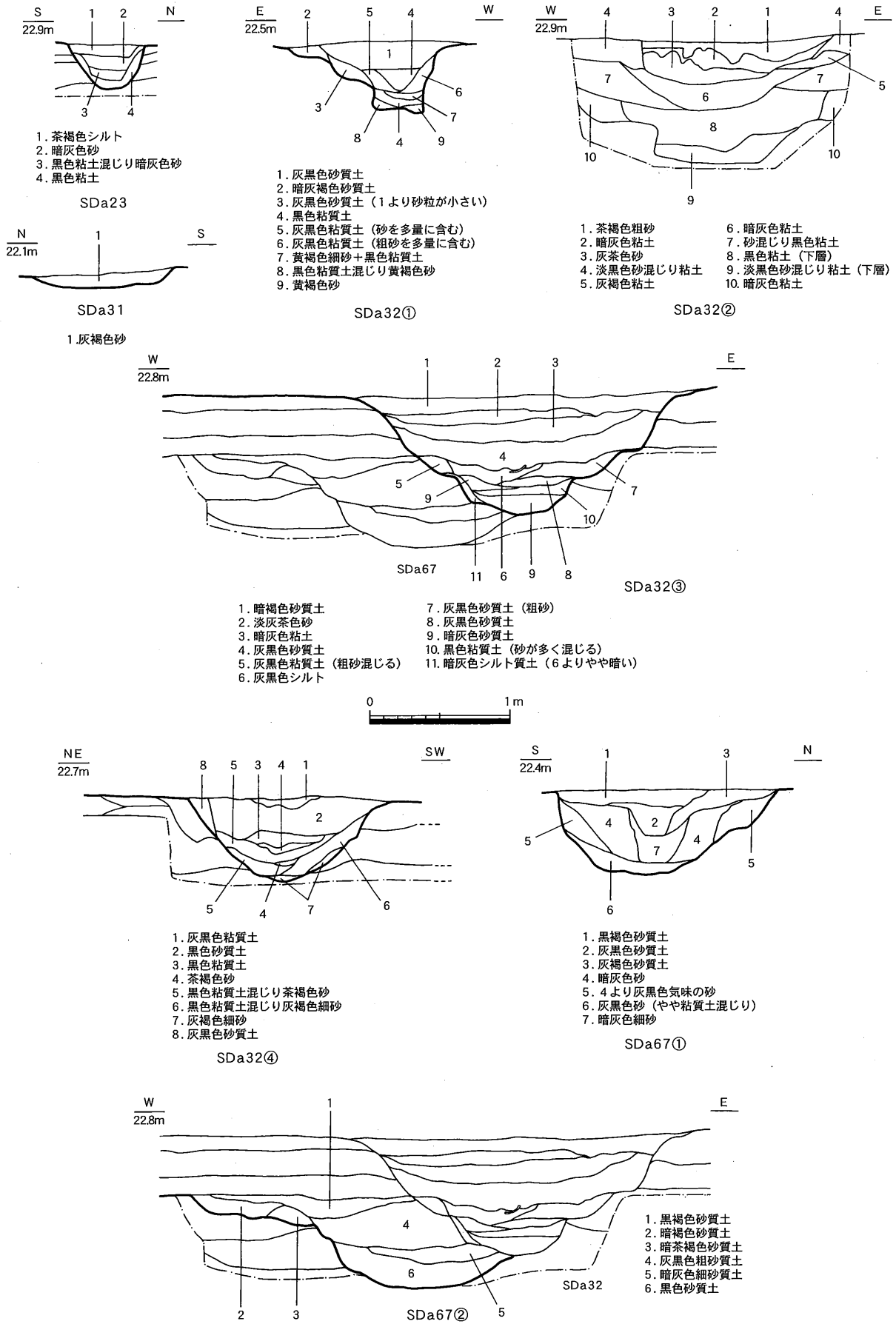
#### SDa34（第67・69・73図）

Ⅲ区の第1遺構面上で検出した、北東方向から北方向に延びる溝状遺構である。この溝はI区のSDa33がⅢ区に入ってSDa34、SDa35に分岐したものでⅨ区へと続く。検出長28.0m以上、幅約2.0m、深さ約0.9mを測る。断面の形態は地点により差があり、急激な流れにより基盤層を抉っている様な個所もあるが、全体的には不整形な逆台形状を呈する。埋土は5層以上に分かれるが、堆積状況から比較的短期に堆積した洪水砂が主となる。

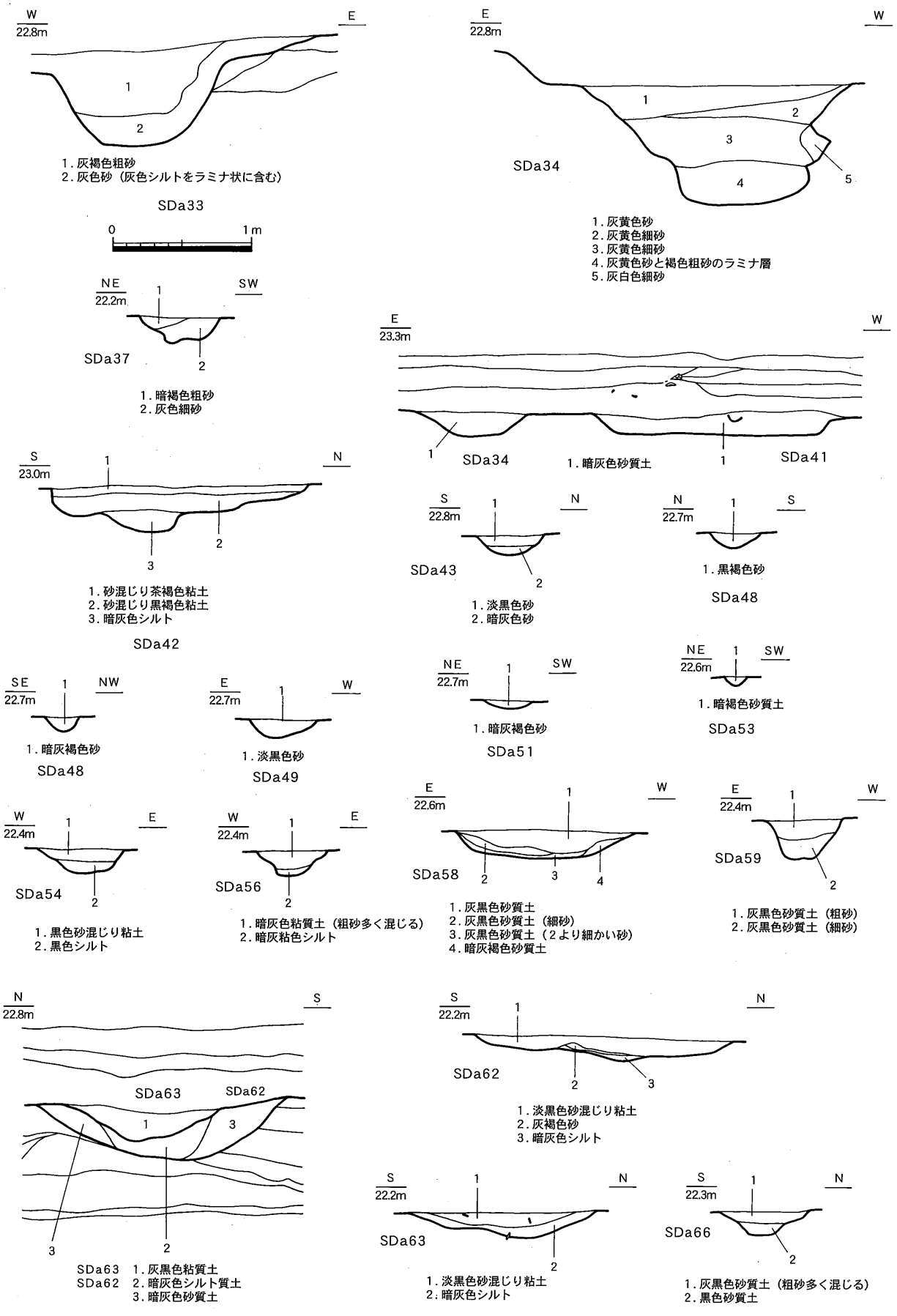
出土遺物は弥生時代後期前半、弥生時代後期後半～弥生時代後期末頃の土器とサヌカイト製の石器類が出土しているが、これらの遺物は下位の遺構面に所在するSRa02に包含していた遺物を掻きあげたものと考えられ、混入品の可能性が高い（第69・73図321～350・467・468）。

321～324・326～332は壺である。321～323・326は弥生時代後期後半の広口壺の口頸部である。324は複合口縁の壺の口縁部で、外面には鋸歯文を施している。327は形状より弥生時代中期中葉頃の壺の体部である。330は底部の平底がかなり小型化しており、弥生時代後期末頃の土器であろう。325・333～341は甕である。333・335等の体部はかなり球体化していて、土師器に近い。344は小型丸底壺である。形状より土師器として捉えるものかもしれない。342・343は高杯である。345～348は鉢である。345・346は下川津B類に類似する比較的大型の鉢である。350は土製の紡錘車である。

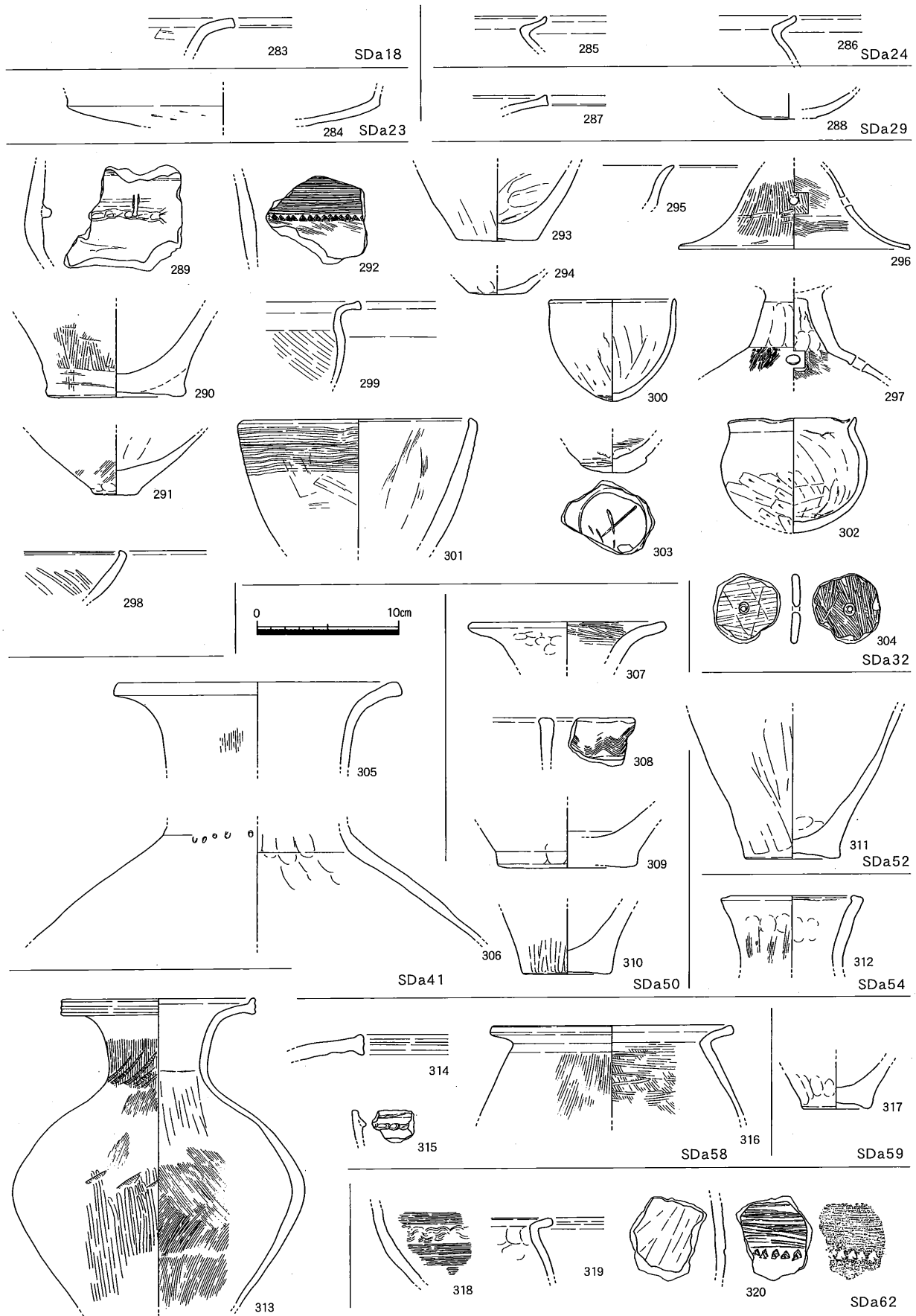
出土遺物よりこの溝時期を決めるには無理があるが、堆積している洪水砂の状況や検出状況を考慮すれば古墳時代前期後半以降の時期が考えられる。



第66図 SDa23・31・32・67断面図

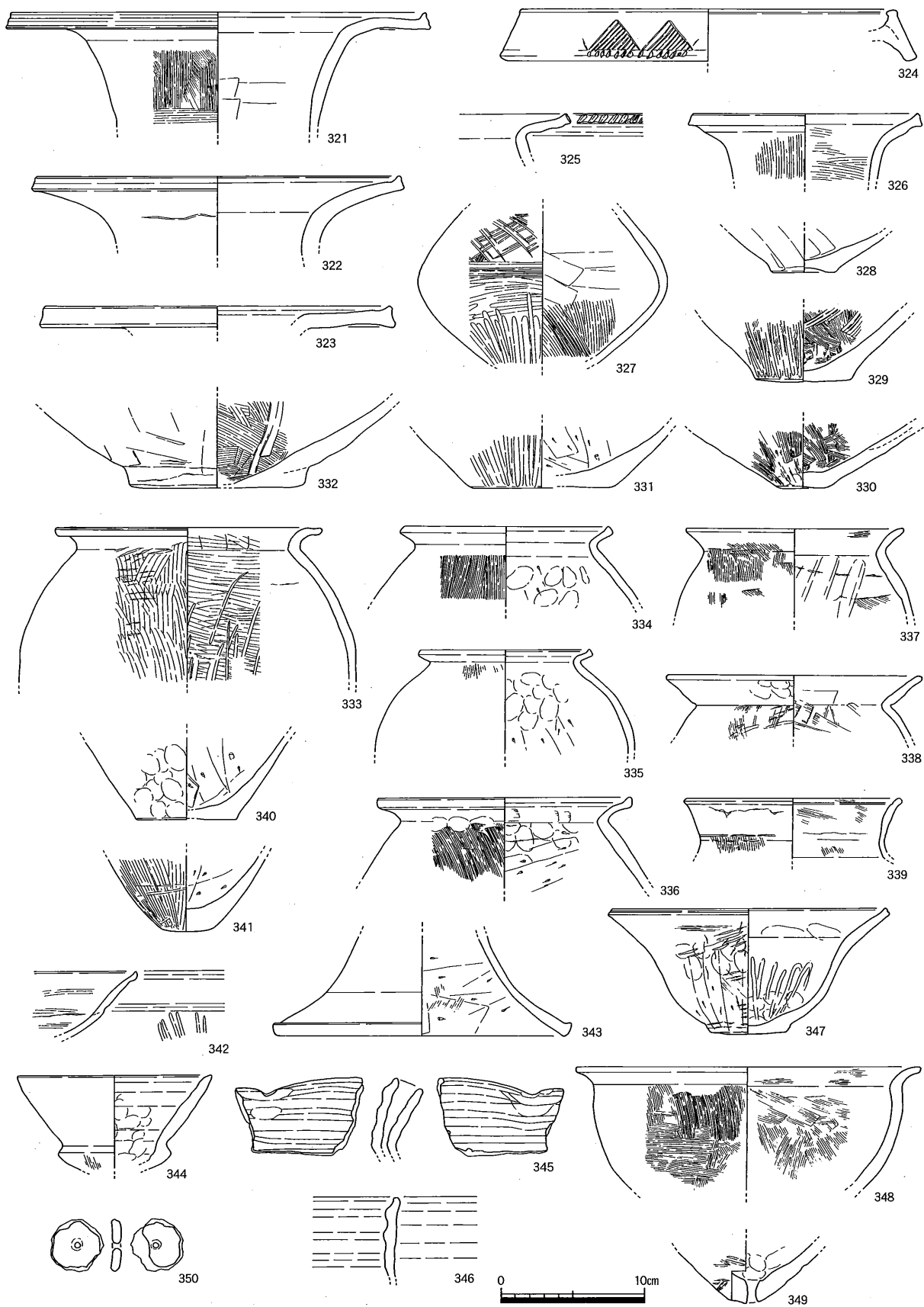


第67図 SDa33・34・37・41~43・48・49・51・53・54・56・58・59・62・63・66断面図



第68図 SDa18・23・24・29・32・41・50・52・54・58・59・62出土遺物





第69图 SDa34出土遺物

### SDa35

Ⅲ区の第1遺構面上で検出した、北東方向から北西方向に湾曲気味に延びる溝状遺構である。この溝はⅠ区のSDa33がⅢ区に入ってSDa34、SDa35に分岐したもので、検出長17.0m以上、幅約1.7m、深さ約0.6mを測る。断面の形態は地点により差があり、強い流れにより掘り方を切り刻んでいるような個所もあるが、全体的には不整形な逆台形状を呈する。埋土は2層以上に分かれ、堆積状況から比較的短期に堆積した洪水砂が主となる。

この溝の時期については、堆積している洪水砂の状況や検出状況を考慮すれば古墳時代前期後半以降の時期が考えられる。

### SDa41 (第67・68図)

Ⅰ・Ⅱ区の第3遺構面上で検出した、幅広の不整形で、中間で南方向に屈曲している溝状遺構である。東にはSDa43が隣接しており、この溝はSDa43とほぼ同方向に延びる。検出長5.5m以上、幅約0.6～1.0m、深さ約0.2mを測る。断面の形態は浅い皿状を呈し、埋土は単層である。

出土遺物は弥生時代中期頃の壺とサヌカイト製の石器類が出土した(第68図305・306)。出土遺物よりこの溝は弥生時代中期頃の遺構であろう。

### SDa42 (第67図)

Ⅰ・Ⅱ区の第3遺構面上で検出した、北西方向へ直線的に延びる溝状遺構である。Ⅰ区のSRa01周辺では、削平により溝の片側縁が失われた状態で検出した。検出長37.0m以上、幅約1.0～1.8m、深さ約0.3mを測る。断面の形態は2段に下がる部分もあるが、全体的には浅いU字状を呈する。埋土は3層に分かれる。溝の北端部ではSDa32下層溝に隣接する事より、本来、SDa32下層溝とこの溝は同一のもので、いずれかの段階で分岐した可能性が高い。

出土遺物としては土器片とサヌカイト製の剥片類が出土した。出土遺物が少ないため詳細な時期の決め手に欠くが、先に触れた理由でSDa32下層溝と類似する時期が考えられる。

### SDa43 (第67図)

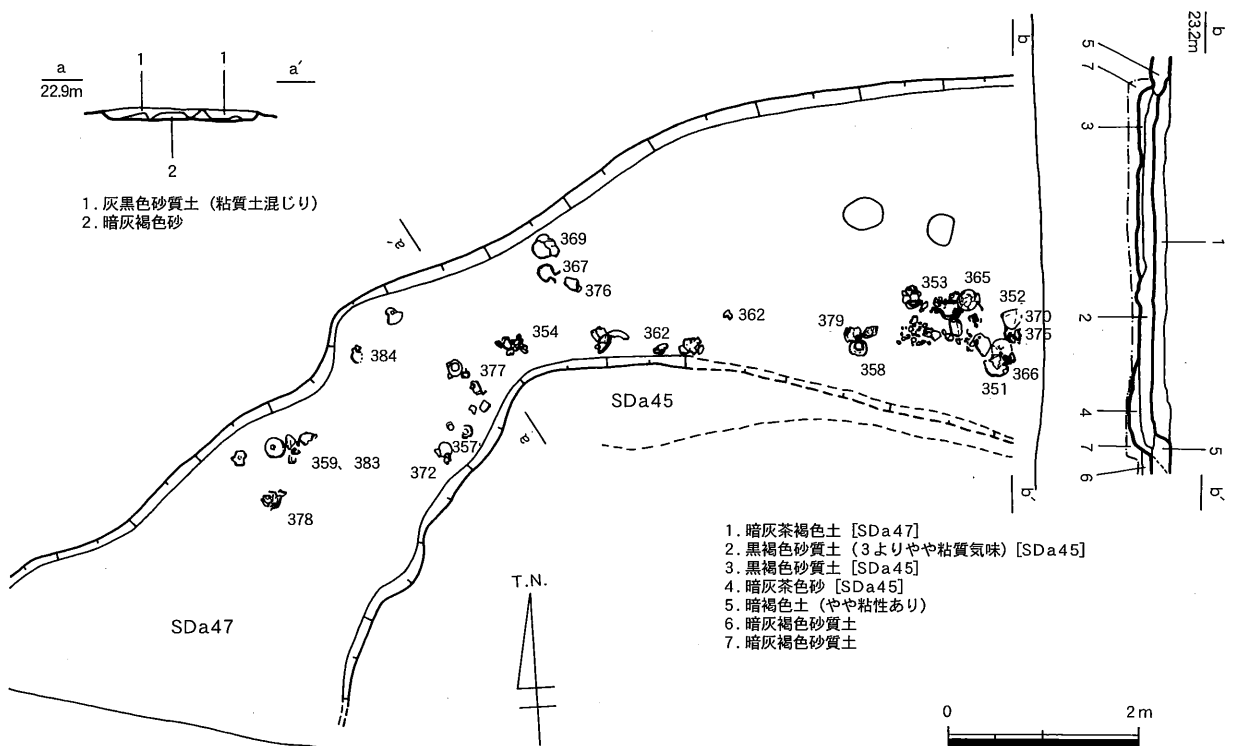
Ⅱ区の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。西にはSDa41が隣接し、この溝はSDa41とほぼ同方向に延びる。検出長6.0m以上、幅約0.5m、深さ約0.2mを測る。断面の形態は皿状を呈し、埋土は単層である。

出土遺物としてはサヌカイト製の剥片類が出土した。出土遺物が少ないため詳細な時期の決め手に欠くが、先に触れた理由でSDa41と類似する時期が考えられる。また、性格的にもSDa41と同様の性格が考えられる。

### SDa45・47 (第70～73図)

Ⅰ・Ⅱ区東端部の第3遺構面上で検出した、幅広で浅い溝状遺構である。SHa07周辺を囲むように大きく二股に分かれⅠ区で交わるが、合流部分は削平を受け不明瞭である。配置状よりこの溝は、SHa07の外周を画する溝の可能性がある。断面では二時期の溝が重複しており、下位の溝がSDa45、上位の溝がSDa47であるが、SDa45についてはSDa47に切り込まれ不明瞭なところが多い。SDa47は検出長24.0m以上、幅1.5～4.0m、深さ0.1mを測る。断面の形態は浅い皿状を呈する。

出土遺物としては、弥生時代中期中葉と弥生時代後期後半頃の弥生土器とサヌカイト製の石器



第70図 SDa45・47平・断面図

類が比較的多量に出土した(第71~73図351~384・469~472)。367・369・376等は弥生時代中期中葉の土器である。おそらくSDa45に属する土器であろう。なお、前記した以外の土器は、弥生時代後期後半の資料である。351~366・370~372は弥生時代後期後半の壺である。373~375は甕である。374は形状より下川津B類に類似している。377・378は高杯である。377は形状より下川津B類に類似している。379~384は鉢である。

出土遺物よりSDa47は弥生時代後期後半頃の時期が考えられる。また、SDa45は弥生時代中期中葉頃の時期が考えられる。

#### SDa46

Ⅱ区東端部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。SDa47により東端部は切られている。検出長2.4m以上、幅約0.4m、深さ0.1mを測る。断面の形態は浅いU字状を呈する。

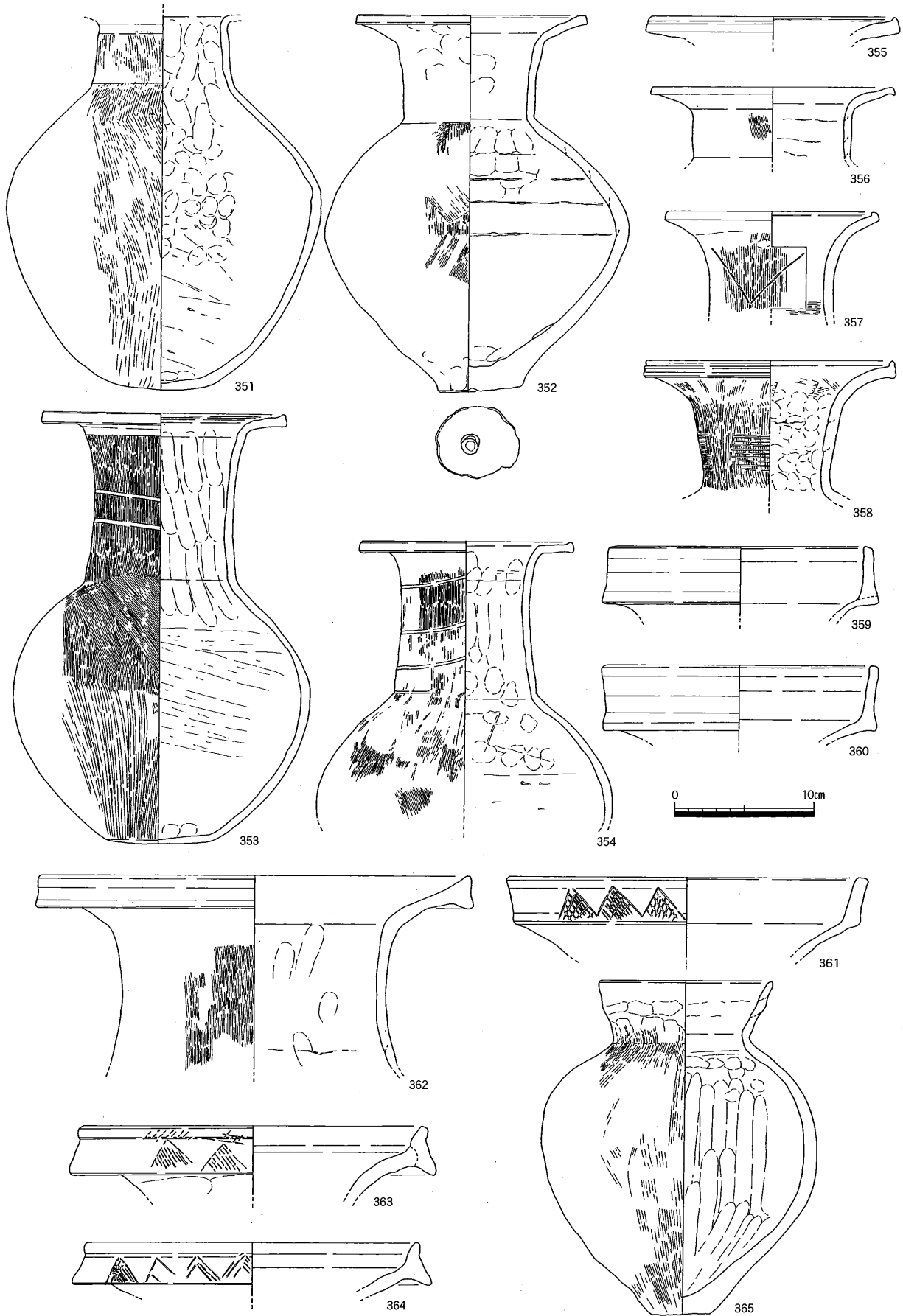
#### SDa48 (第67図)

Ⅱ区東部、Ⅰ区との境界の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。この溝はSDa41・43等の溝と向きを揃えており性格的類似する溝の可能性が高い。検出長1.8m以上、幅約0.3m、深さ0.1mを測る。断面の形態は浅いU字状を呈する。

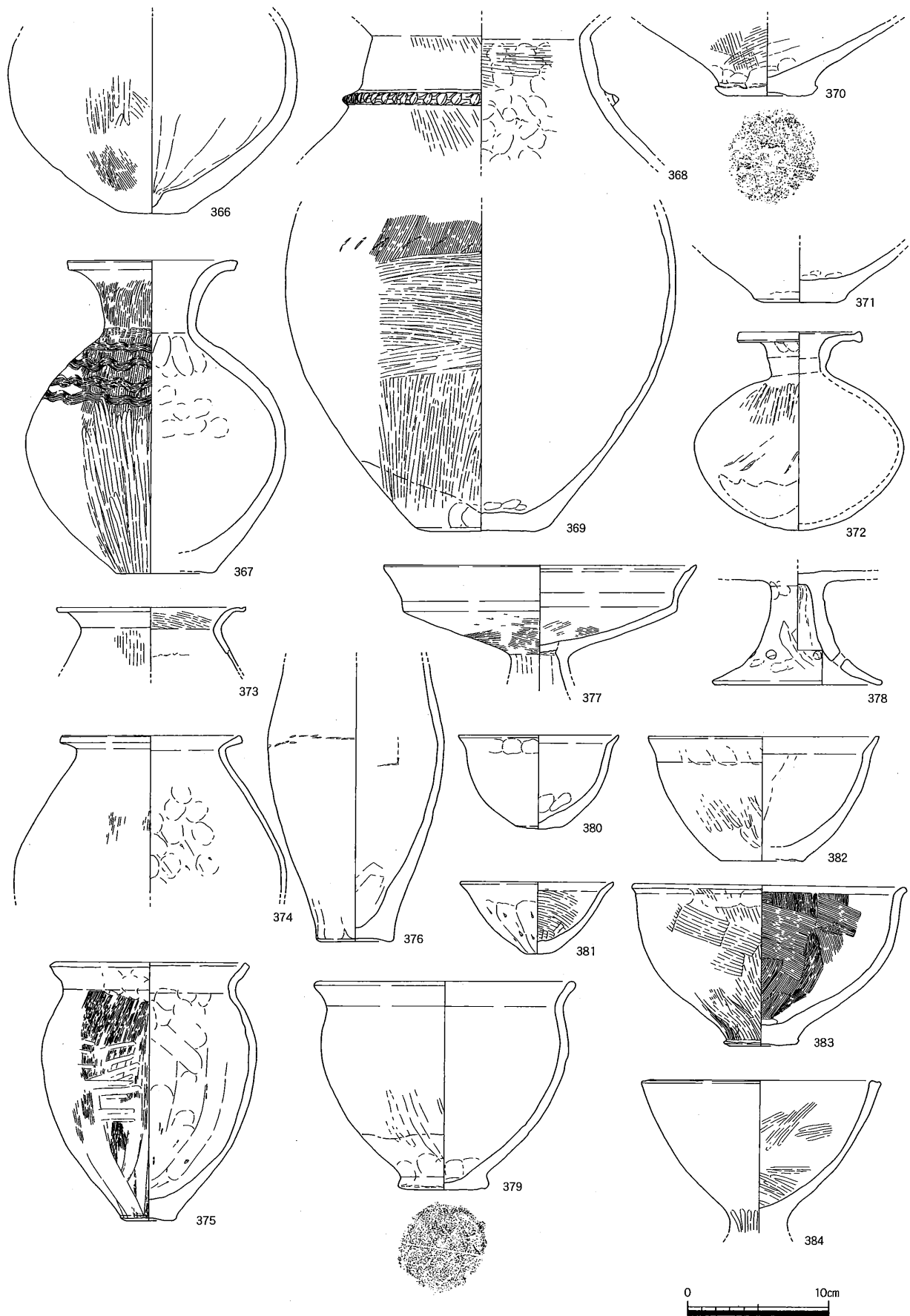
#### SDa49 (第67図)

Ⅱ区東部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。この溝はSHa08に切られている。検出長3.4m以上、幅約0.6m、深さ0.15mを測る。断面の形態は浅いU字状を呈する。埋土は単層である。

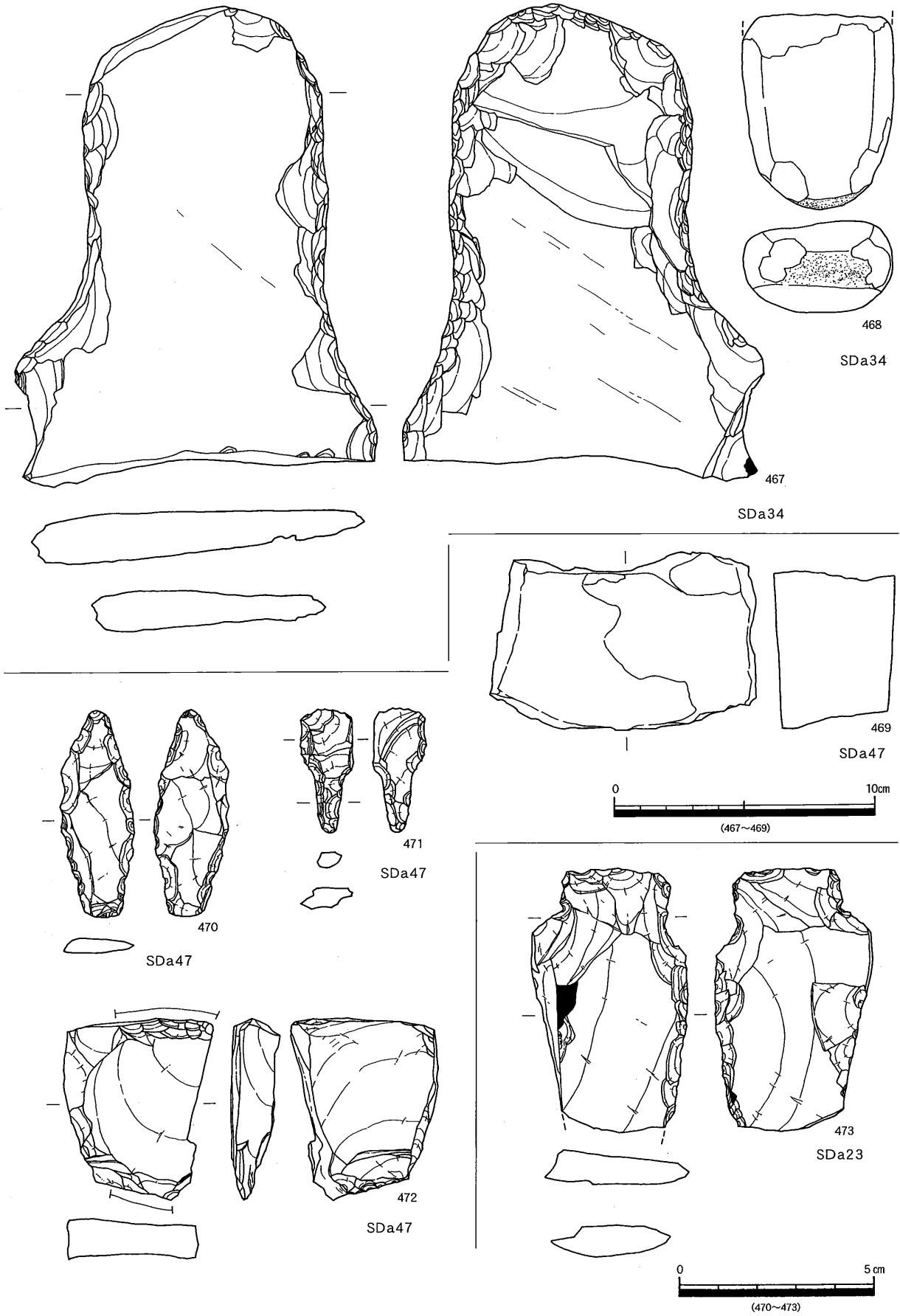
出土遺物がないため、詳細な時期については問題を残すが、切り合いよりSHa08より先行する。



第71图 SDa47出土遺物(1)



第72図 SDa47出土遺物 (2)



第73図 SDa23・34・47出土遺物

#### SDa50 (第68図)

Ⅱ区東端部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。溝の上面にはSTa01が切り込んでいる。検出長3.0m以上、幅約1.2m、深さ約0.3mを測る。断面の形態はU字状を呈する。埋土は単層である。

出土遺物としては弥生時代中期中葉の土器とサヌカイト製の剥片類が出土した(第68図307～310)。出土遺物よりこの溝は弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SDa51 (第67図)

Ⅱ区東部の第3遺構面上で検出した、円弧状に延びる溝状遺構である。削平を受けておりかなり残りが悪い。形状より竪穴住居跡に係わる溝状遺構の可能性はある。検出長4.0m以上、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。断面の形態はU字状を呈する。埋土は単層である。

#### SDa52 (第68図)

Ⅱ区中央部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。この溝はSHa11の壁溝から延びる小規模な溝状遺構である。検出長2.8m以上、幅約0.4m、深さ約0.1mを測る。断面の形態はU字状を呈する。埋土は単層である。

出土遺物としては、弥生時代中期頃の甕の下半部が出土している(第68図311)。出土遺物よりこの溝は弥生時代中期以降の時期が考えられる。

#### SDa53 (第67図)

Ⅱ区東部の第3遺構面上で検出した、円弧状に延びる溝状遺構である。削平を受けておりかなり残りが悪い。この溝は形状より竪穴住居跡に係わる溝の可能性はある。検出長4.0m以上、幅約0.15m、深さ約0.1mを測る。断面の形態はU字状を呈する。埋土は単層である。

#### SDa54 (第67・68図)

Ⅲ区北半部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。この溝は直線状に配され、北端部をSHa27に切り込まれている。検出長9.5m以上、幅約0.6m、深さ約0.2mを測る。断面の形態はU字状を呈する。埋土は2層に分かれる。この溝から南へ延長すればSDa58に達することより、同一の溝の可能性が高い。

出土遺物としては、弥生土器の壺の上半部が出土している(第68図312)。出土遺物と切り合いよりこの溝は、SHa27に先行する弥生時代中期後半以降の時期が考えられる。

#### SDa56 (第67図)

Ⅲ区北半部の第3遺構面上で検出した溝状遺構である。この溝は中央部をSDa32により切り込まれているため、不明瞭な点が多い。検出長3.4m以上、幅約0.6m、深さ約0.2mを測る。断面の形態は二段に下がる逆台形状を呈する。埋土は2層に分かれる。

出土遺物がないため、詳細な時期については問題を残すが、切り合いよりSDa32に先行する時期が考えられる。

#### SDa58 (第67・68図)

Ⅱ区西半部の第3遺構面上で検出した南北に伸びる溝状遺構である。この溝の南端部はSRa01に切り込まれている。検出長17.0m以上、幅約2.0m、深さ約0.2mを測る。断面の形態は浅い皿状を呈する。埋土は4層以上に分かれる。なお、この溝は隣接するSDa32等の溝と配置

が類似しており、微高地上の雨水を低地に落とす事を意図した排水路の可能性が高い。また、この溝より東側には弥生時代中期の住居跡が分布しない事より、中期の集落域の西辺を画す溝の可能性もある。

出土遺物としては、弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した。弥生土器は弥生時代中期後半頃の土器が主体を占める（第68図313～316）。出土遺物よりこの溝は弥生時代中期後半以降の溝であろう。

#### SDa59（第67・68・80図）

Ⅲ区南端部の第3遺構面上で検出した南北に伸びる溝状遺構である。この溝は配置・方向等でSDa58に類似しており、同様の性格を持つ溝と考えられるが、規模は小さい。検出長7.0m以上、幅約0.7m、深さ約0.3mを測る。断面の形態は不整形なU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれる。

出土遺物としては、弥生土器とサヌカイト製の石器類が出土した（第68・80図317・474）。出土遺物が少ないため詳細な時期については問題を残すが、遺構の類似性よりSDa58に類似した時期が考えられる。

#### SDa62（第67・68図）

Ⅲ区東端部の低湿地部で検出した東西方向に伸びる小規模な溝状遺構である。この溝はSRa02、SDa63に切り込まれ残りが悪い。検出長4.0m以上、幅約1.8m、深さ約0.4mを測る。断面の形態は浅いU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれる。

出土遺物としては、弥生時代前期後半～中期中葉の土器が少量出土した（第68図318～320）。出土遺物よりこの溝は弥生時代中期中葉以降の時期が考えられる。

#### SDa63（第67図）

Ⅲ区東端部の低湿地部で検出した東西方向に伸びる小規模な溝状遺構である。この溝は隣接するSRa02に切り込まれ、SDa62を切り込んでいる。検出長4.0m以上、幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。断面の形態は浅いU字状を呈する。埋土は単層である。

出土遺物がないため、詳細な時期については問題を残す。

#### SDa64（第74～76・80図）

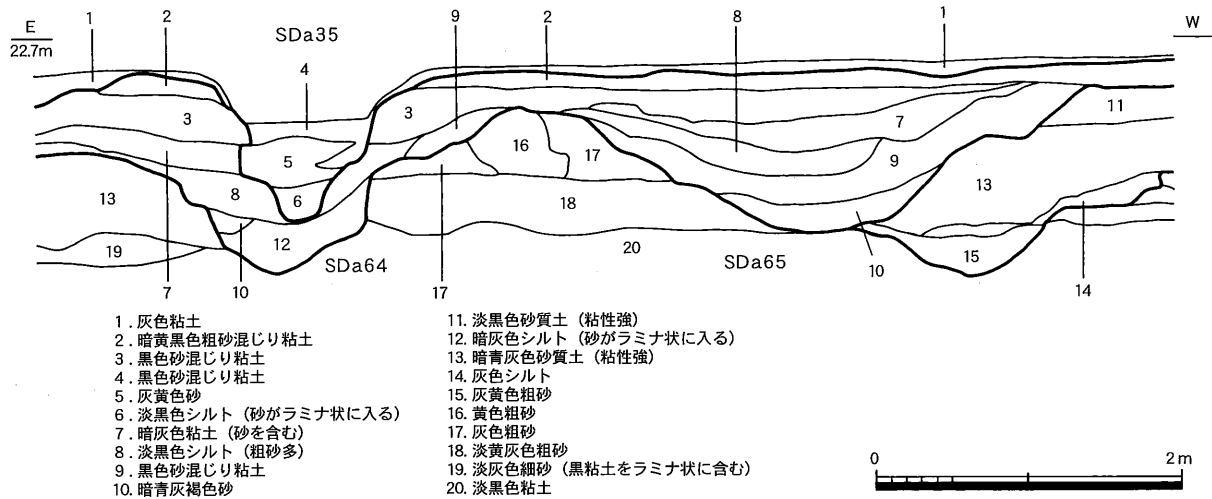
Ⅲ区東端部の低湿地部で検出した、SRa02から分岐する大型の溝状遺構である。南北方向に伸びるSRa02から北西方向へ分岐している。検出長10.0m以上、幅約2.3m、深さ約0.7mを測る。断面の形態は不整形なU字状を呈する。埋土は数層に分かれる。なお、この溝を同じ方向に伸びるSDa35が切り込んでいることから、SDa64を改修した溝がSDa35にあたるものと考えられる。

出土遺物としては、弥生時代後期後半～弥生時代後期末頃の土器とサヌカイト製の石器類が大量に出土した（第75・76・80図385～409・475）。385～392は広口壺の口頸部である。386は凹線文を顕著に残す、弥生時代後期前半頃の土器であろう。393～401は甕である。398・399は下川津B類に類似する。401の体部は球体化し器壁も薄く土師器に近い。402～405は鉢、406は下川津B類に類似する高杯の杯部である。407は器台である。口縁部と脚台部には鋸歯文を顕著に残す。器台としては残りが良く稀な資料である。なお、この土器の主要な部分は、SRa03のA群より出土していたが、この溝から出土した土器片と接合したため、便宜上この溝



出土の遺物として報告したことを断っておく。

408は弥生時代後期末頃の製塩土器の脚台部である。外面には上位より下位に向けてのヘラ削りを施している。おそらく上半部は内傾するものと考えられる。475はサヌカイト製の石包丁片である。



第74図 SDa64・65断面図

#### SDa65 (第74図)

Ⅲ区の東端部の低湿地部で検出した、SDa64同様にSRa02から西に分岐する大型の溝状遺構である。検出長10.0m以上、幅約1.8m、深さ約0.8mを測る。断面の形態は不整形なU字状を呈する。埋土は数層に分かれる。なお、SDa65の下位には、この溝より先行する溝を断面で確認できるが、平面を確認するまでには至らなかった。

出土遺物としては、弥生土器が少量出土しただけで、詳細な時期については問題を残すが、状況よりSDa64より先行する時期が考えられる。

#### SDa66 (第67・76図)

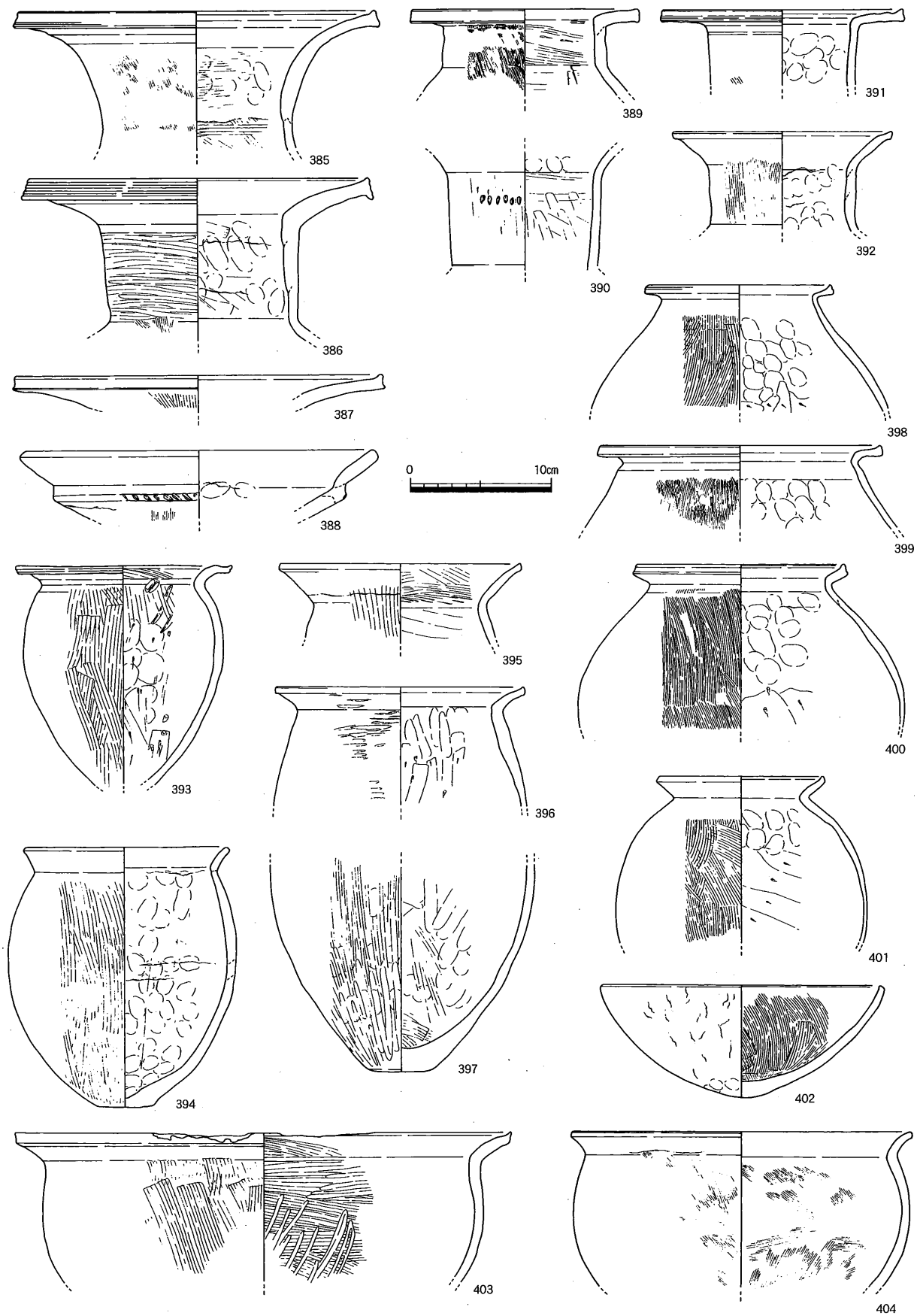
Ⅲ区の北西端部で検出した東西方向に延びる溝状遺構である。西端部ではSRa02に合流し、東端部ではSHa28に切り込まれている。検出長9.5m以上、幅0.3~0.9m、深さ0.2~0.4mを測る。断面の形態は不整形な逆台形状を呈する。埋土は2層以上に分かれる。

出土遺物としては、上層より弥生時代後期後半頃の土器が、比較的少量に出土した(第76図410~416)。410・411は壺である。410は長胴気味の体部に、短い口頸部が付く。412~415は甕で、412・413は長胴気味の体部を持つ甕の上半部である。

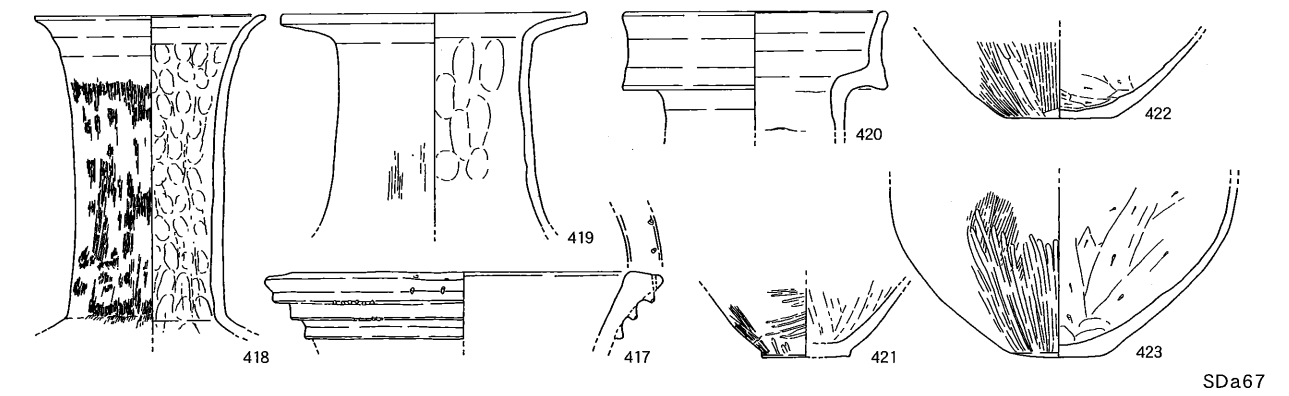
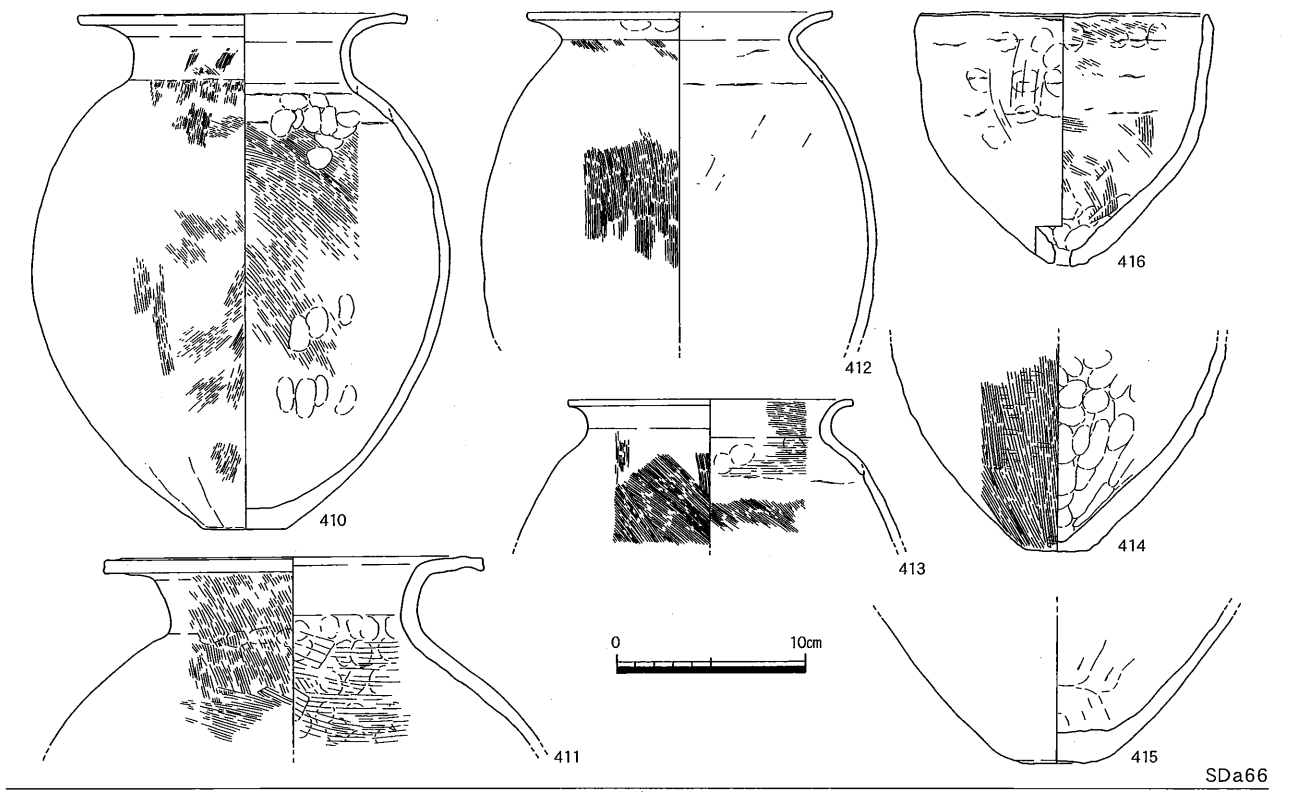
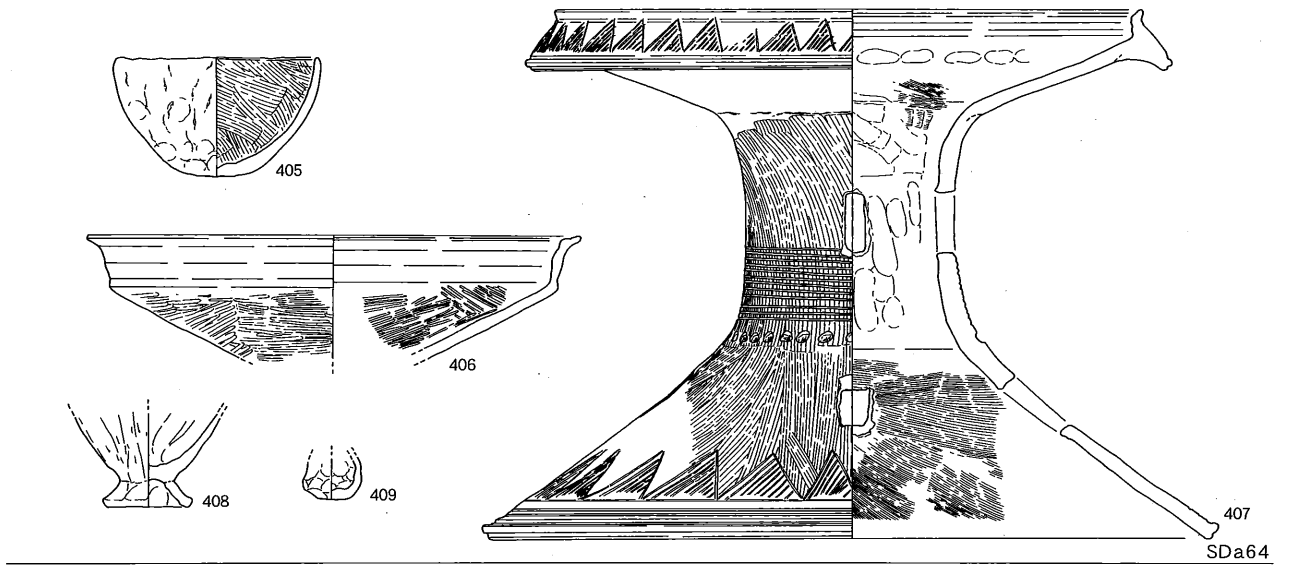
#### SDa67 (第66・76~80図)

Ⅲ区の北西端部で検出した東西方向に延びる大型の溝状遺構である。この溝は西端部でSRa02に合流している。検出長7.0m以上、幅約2.0m、深さ0.6mを測る。断面の形態は不整形な逆台形状を呈する。

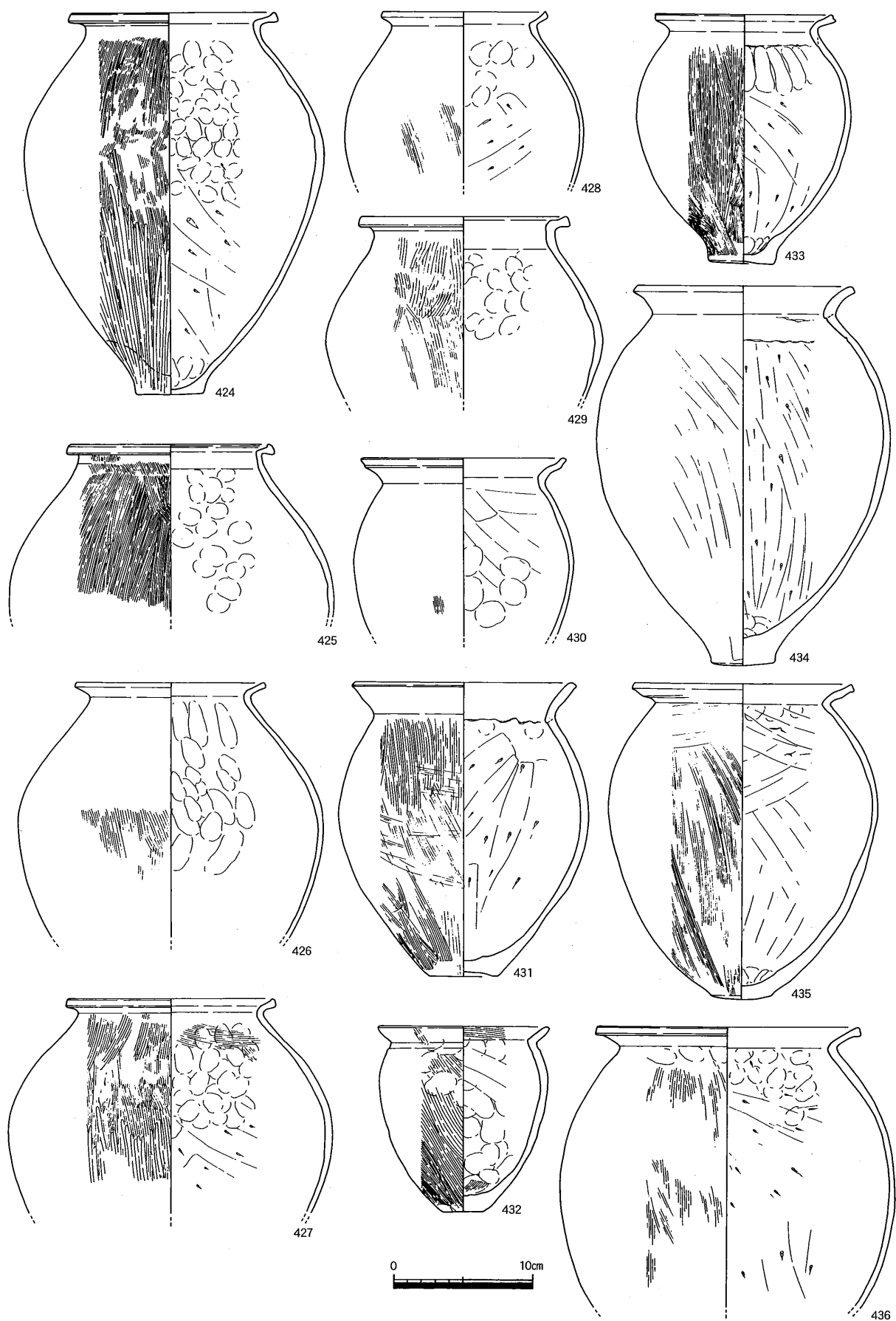
出土遺物としては、SRa01のD群から続く弥生時代後期後半頃の土器溜りを、上層から検出した(第76~80図417~466・476)。418~423は壺である。417は弥生時代中期の壺の口縁部である。418・419は長頸壺の口頸部である。424~441は甕である。424~429は下川津B類に



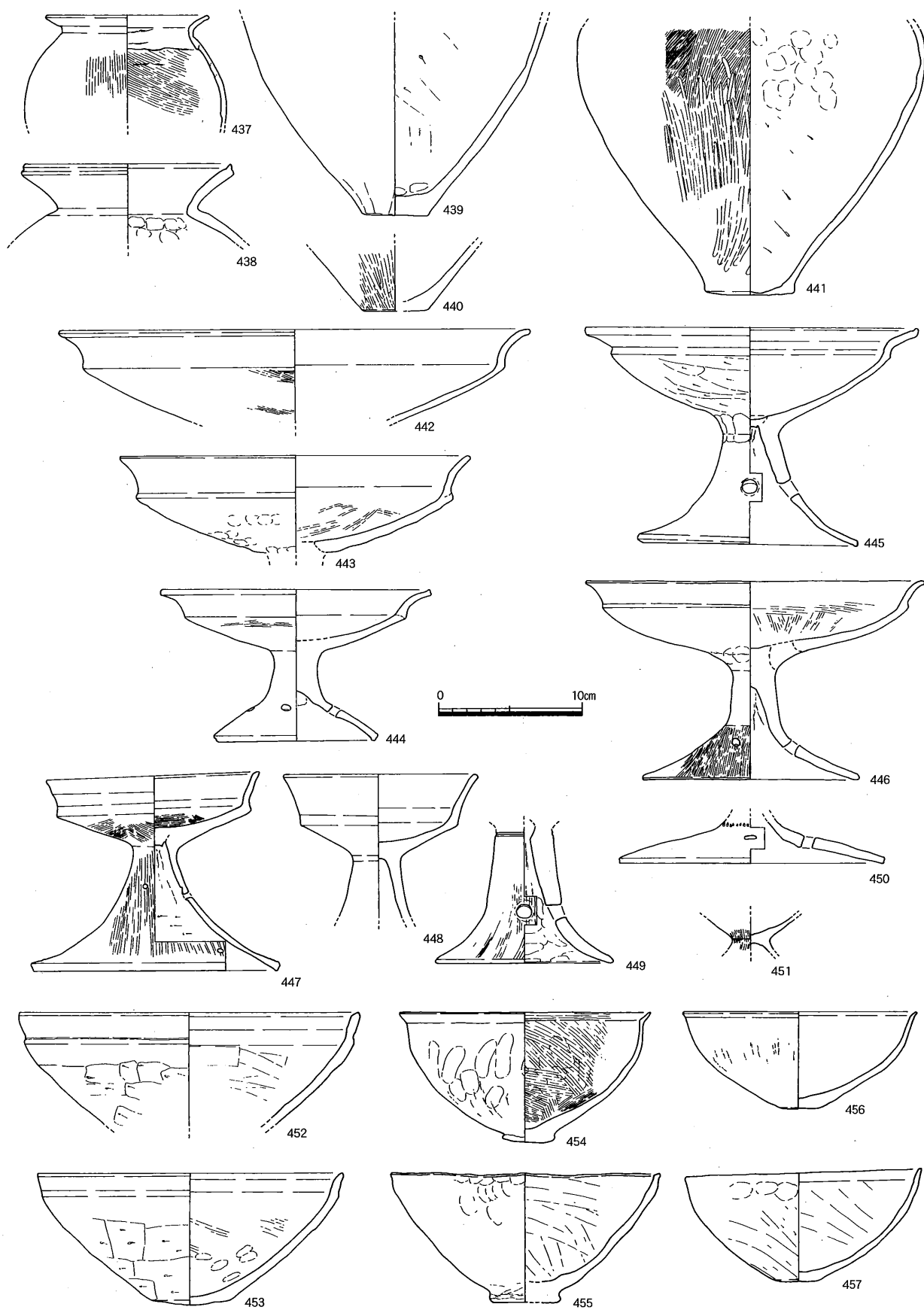
第75図 SDa64出土遺物(1)



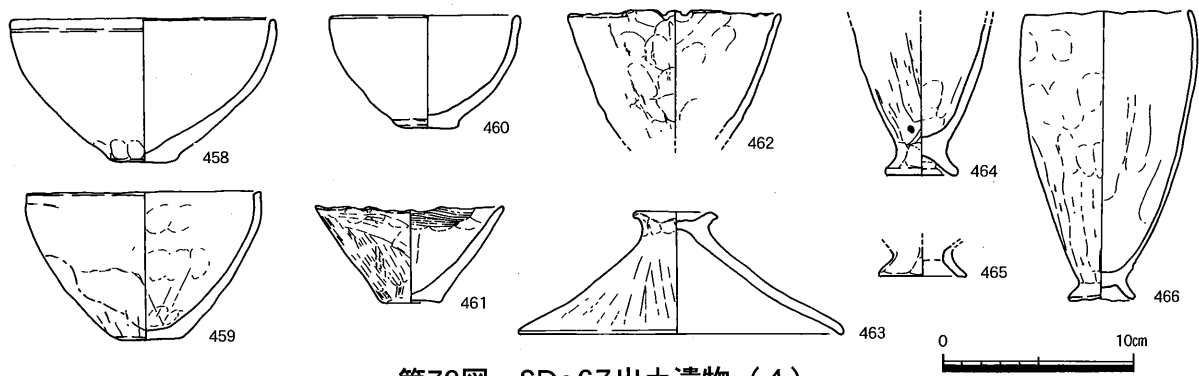
第76図 SDa64 (2) · 66 · 67 (1) 出土遺物



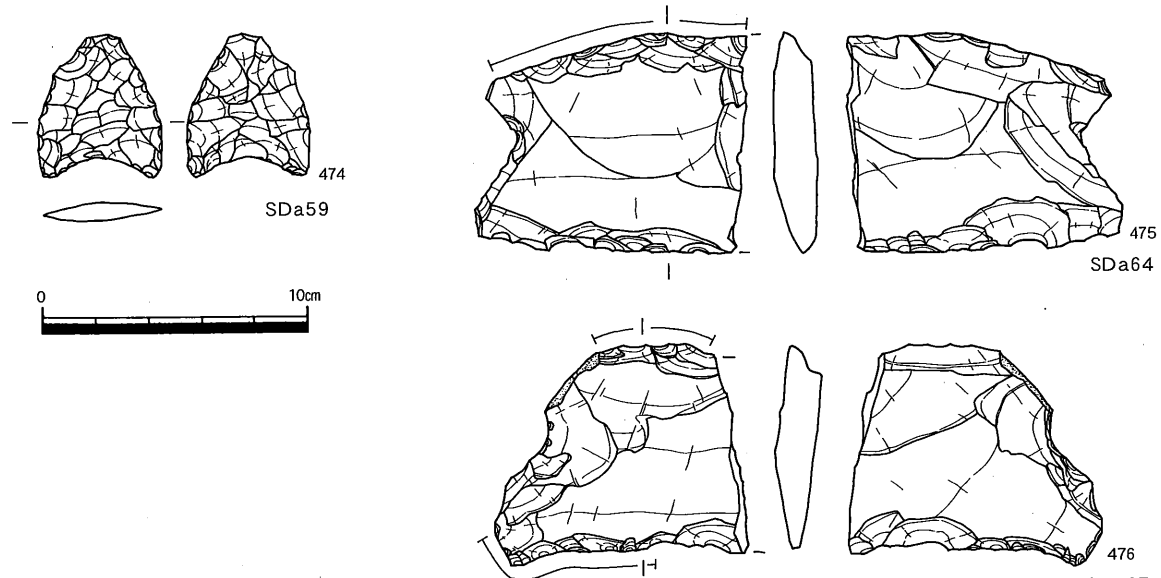
第77図 SDa67出土遺物(2)



第78図 SDa67出土遺物（3）



第79図 SDa67出土遺物(4)



第80図 SDa59・64・67出土遺物

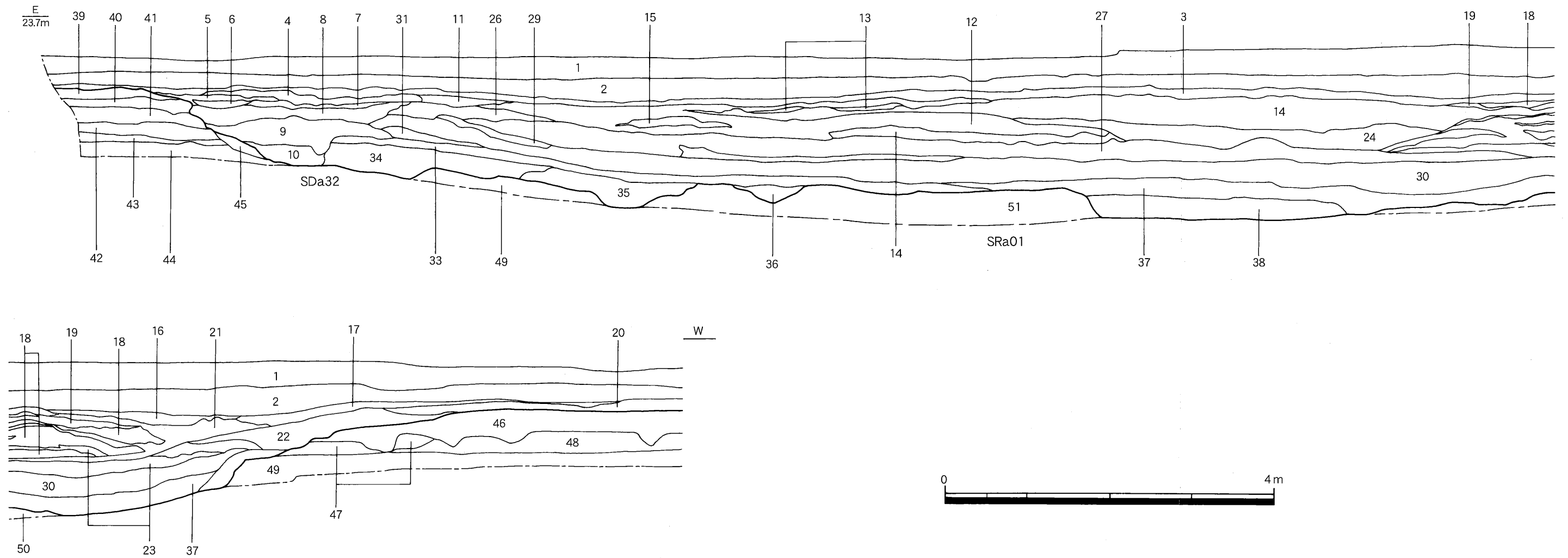
類似する甕である。内面上半部にはオサエ、下半部にはヘラ削りを施している。口縁部の作りで更に細分できる。442～450は高杯である。口縁部が外反するタイプ442～446と、直立気味に延びるタイプ447・448とに分けられる。451～461は鉢、462は台付鉢、463は弥生時代中期頃の甕の蓋である。464～466は脚台付の製塩土器である。466は口縁部より脚台部まで完存する稀な資料である。体部は僅かに内傾し、体部下半部はヘラ削り、上半部はナデを施している。

#### (8) 自然河川跡

##### SRa01 (第81図)

I区中央部よりII区南辺部の第3遺構面上で、SRa02と接して検出した古墳時代前期前半頃の自然河川である。おそらくこの河川は、第二章で紹介した、調査対象地より南東方向の天神神社付近で確認できる埋没河川より派生した自然河川の可能性がある。

SRa01とSRa02との明瞭な切り合いは掴めていないが、出土遺物からみればSRa02が先行し、その後SRa01が切り込んでいるようである。平面の形態は、北西方向に向かって舌状を呈している。その形状より、北西方向へ流れる河川が微高地の南辺部で、おおきく湾曲し微高地を挟んでいるようである。先に述べたように、SRa02と接する部分については、一部未調査の部分があるため、両者の関係が把握出来ていないところがある。そのため、SRa02との関係は今後の



- 1. 耕作土
- 2. 淡黄灰色土 (マンガンを多く含む)
- 3. 灰褐色土
- 4. 黄灰色砂 (3のブロックが混じる)
- 5. 灰褐色粘土 (4の微砂ブロックが混じる)
- 6. 灰褐色砂
- 7. 灰褐色粘土と淡灰色微砂
- 8. 灰褐色粘土
- 9. 灰黒色粘質土 (粗砂が多く混じる・SDa32下層)
- 10. 明灰黄色砂 (灰黒色粘土ブロックが混じる・SDa32下層)
- 11. 灰褐色土と暗灰色粘土
- 12. 暗灰色粘土 (淡灰色微砂が混じる)
- 13. 明灰茶色シルト
- 14. 淡茶褐色砂
- 15. 淡灰茶色砂

- 16. 淡灰茶色粗砂
- 17. 灰褐色粘質土
- 18. 淡灰茶色砂
- 19. 青灰色シルト
- 20. 黒褐色土 (砂質気味、マンガンが混じる)
- 21. 暗灰色シルト
- 22. 黒褐色砂質土
- 23. 暗灰色粘土
- 24. 淡灰褐色砂
- 25. 黒褐色砂質土と暗灰色粘土の中間の灰黒色粘質土
- 26. 暗灰色砂質土 (27よりやや褐色気味)
- 27. 暗灰色砂質土
- 28. 暗灰色砂
- 29. 灰色粘土
- 30. 灰黒色粘土 (砂粒が多く混じる)

- 31. 灰黒色粘土 (30よりやや淡い)
- 32. 灰黒色粘質土 (砂が多く混じる)
- 33. 灰黒色砂質土と灰黒色粘土 (砂粒が多く混じる)
- 34. 灰色粘土
- 35. 灰黒色粘質土
- 36. 暗灰褐色砂質土
- 37. 灰黒色粘土
- 38. 灰黒色シルト
- 39. 暗褐色土
- 40. 暗褐色土
- 41. 暗灰褐色砂質土
- 42. 暗灰色砂
- 43. 暗灰色砂と青灰色粘土
- 44. 青灰色粘土
- 45. 灰黒色粗砂質土

- 46. 暗灰褐色砂質土
- 47. 灰褐色砂
- 48. 灰褐色砂
- 49. 青灰色シルト
- 50. 暗灰色粗砂
- 51. 淡灰色粗砂

第81図 II区南壁土層図

課題になる点が多いが、少なくとも出土遺物で見るとこの二つの河川は区分できるものとする。

東西長約30.0m、南北長20.0mを測る。微高地からの深さは約2.8mを測る。この河川の上位にあたる第2遺構面上からは、SDa31・32・33等の溝状遺構を検出した。なお、この河川の河床面からは多数の杭材を組み合わせた堰状遺構01～05を検出した。

#### SRa01出土遺物（第82～85・109図）

SRa01からは多量の弥生土器・土師器・石器類及び木製品が出土した。出土した木製品のほとんどは、堰状遺構を構成する部材類である。出土した土器は弥生時代後期後半～古墳時代前期前半頃のものを含む。遺物の取り上げかたとしては、出土した土器を堰状遺構より上位のものを上層とし、堰状遺構より下位のものを下層として分けた。なお、全ての土器を図化するには時間的に無理があり、これらの土器の中から主要な土器を厳選した点を断っておく。

上層から出土した土器は第82・83図477～522までの土器である。上層出土の土器は弥生時代後期末頃の土器が主であるが、時期の決め手になる古墳時代前期前半の土師器を主に図化した。

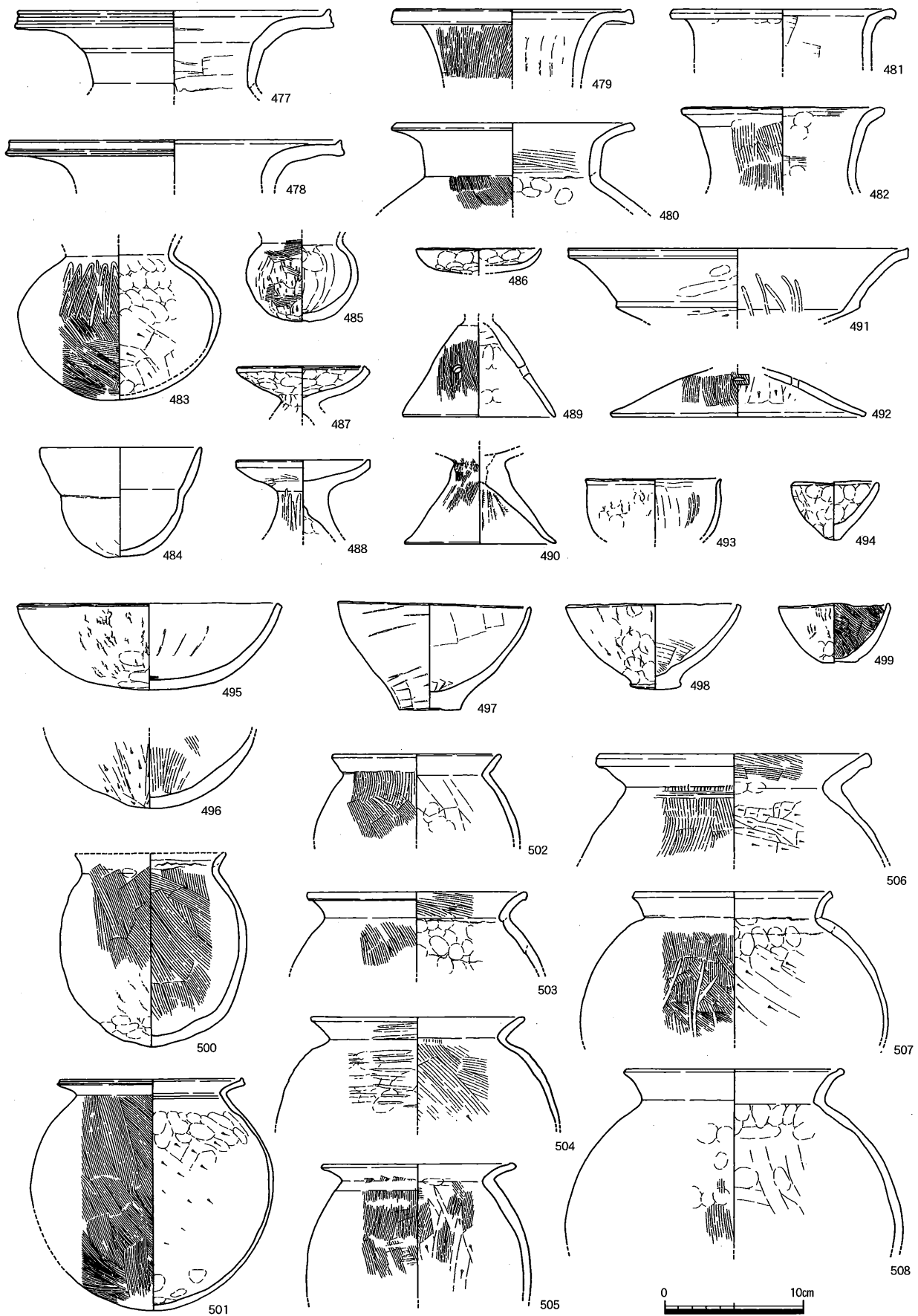
477～482は弥生土器の壺の口頸部である。477は広口壺の口頸部で、口縁部には凹線文を施しているところから、弥生時代後期中葉ないし前葉頃の時期が考えられる。483は口頸部を欠く土師器の小型の壺である。484・485は土師器の小型丸底壺である。484の底部には僅かに平底を残している。486～490は土師器の小型器台である。486～488は脚部を欠き489・490は杯部を欠いている小型器台である。491・492は土師器の高杯である。494はミニチュアの鉢で祭祀遺物の可能性がある。495～499は弥生時代後期後半～後期末頃の弥生土器の鉢である。平底を残すものと丸底のものに分かれる。500～521は甕である。時期的な点で区分すれば、①弥生時代中期前葉 ②弥生時代後期後半～弥生時代後期末 ③古墳時代前期前半頃に分けられる。体部が球体化しているものが多く、弥生時代後期末頃の弥生土器と古墳時代前期前半の土師器の区分は不明瞭なところもあるが、500～502・507～510・514等は土師器に区分できるものと考えられる。512は弥生時代後期末頃の甕の上半部にあたり、調整、胎土などが下川津B類に類似する土器である。

下層出土の土器は第83～84図523～551までの土器である。下層出土の土器も上層同様に弥生時代後期末頃の土器が主であるが、時期の決め手になる古墳時代前期前半の土師器を主に図化した。

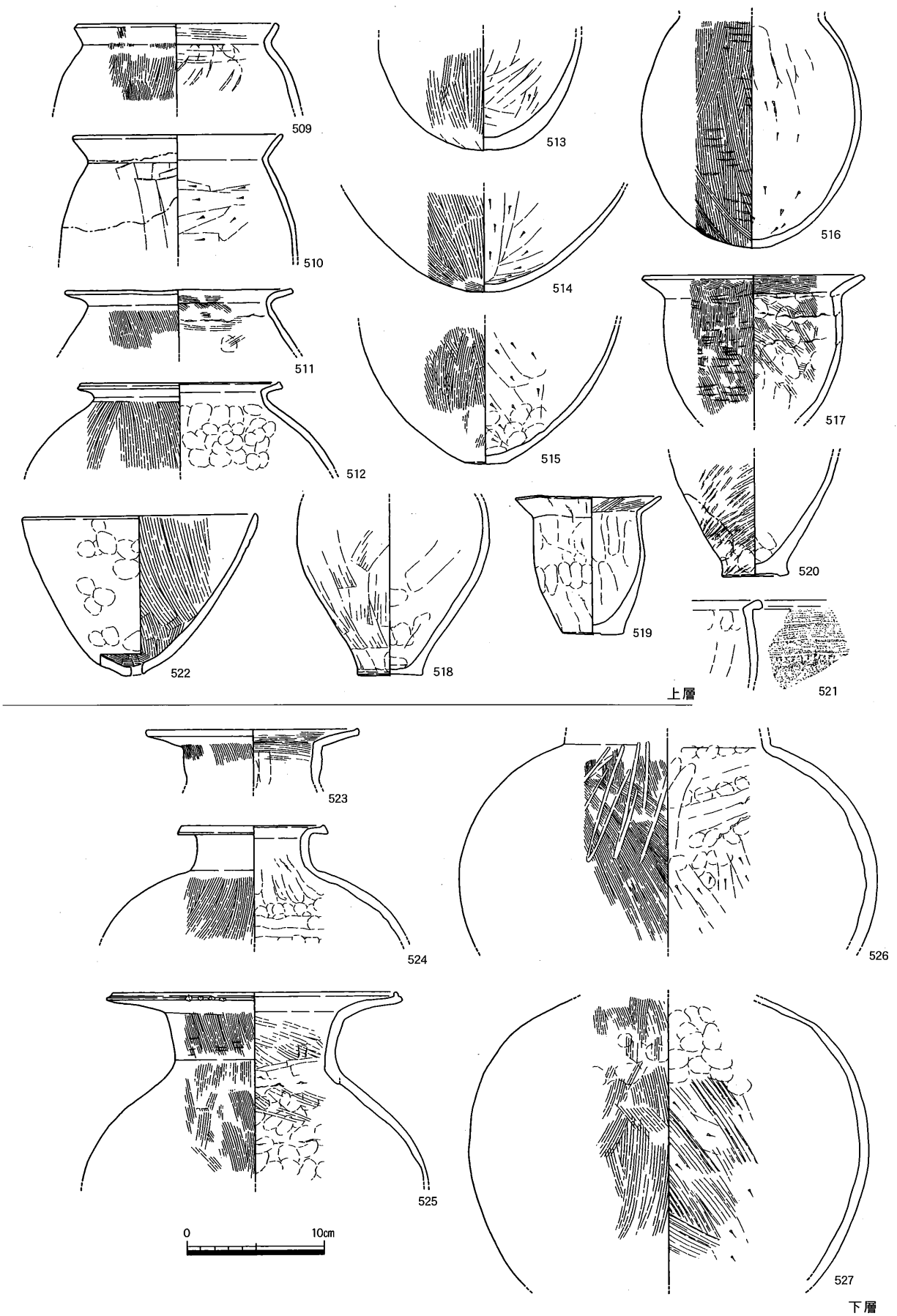
523～527は壺である。体部が球体化していることより、524・526・527は古墳時代前期前半の土師器と考えられる。529の小型壺は底部を欠くため不明瞭であるが、脚台が付く可能性がある。530・531は土師器の小型丸底壺である。532は土師器の小型器台である。534～537は土師器の高杯である。539・541～548は弥生時代後期後半～後期末頃の弥生土器の鉢である。平底を残すものと丸底のものに分かれる。549～551は甕である。550は器壁も薄く、体部も球体化しており土師器の可能性をもつ。

第85図552～560は、SRa01の出土土器の中で、Ⅱ区から出土した土器である。出土土器の中には弥生時代中期前葉、弥生時代後期後半の土器が主であるが、少量ではあるが、弥生時代中期前葉の土器及び縄文土器の可能性をもつ遺物がある。560は把手状の土製品であり、土器の胎土等の状況より縄文土器の可能性が高い。

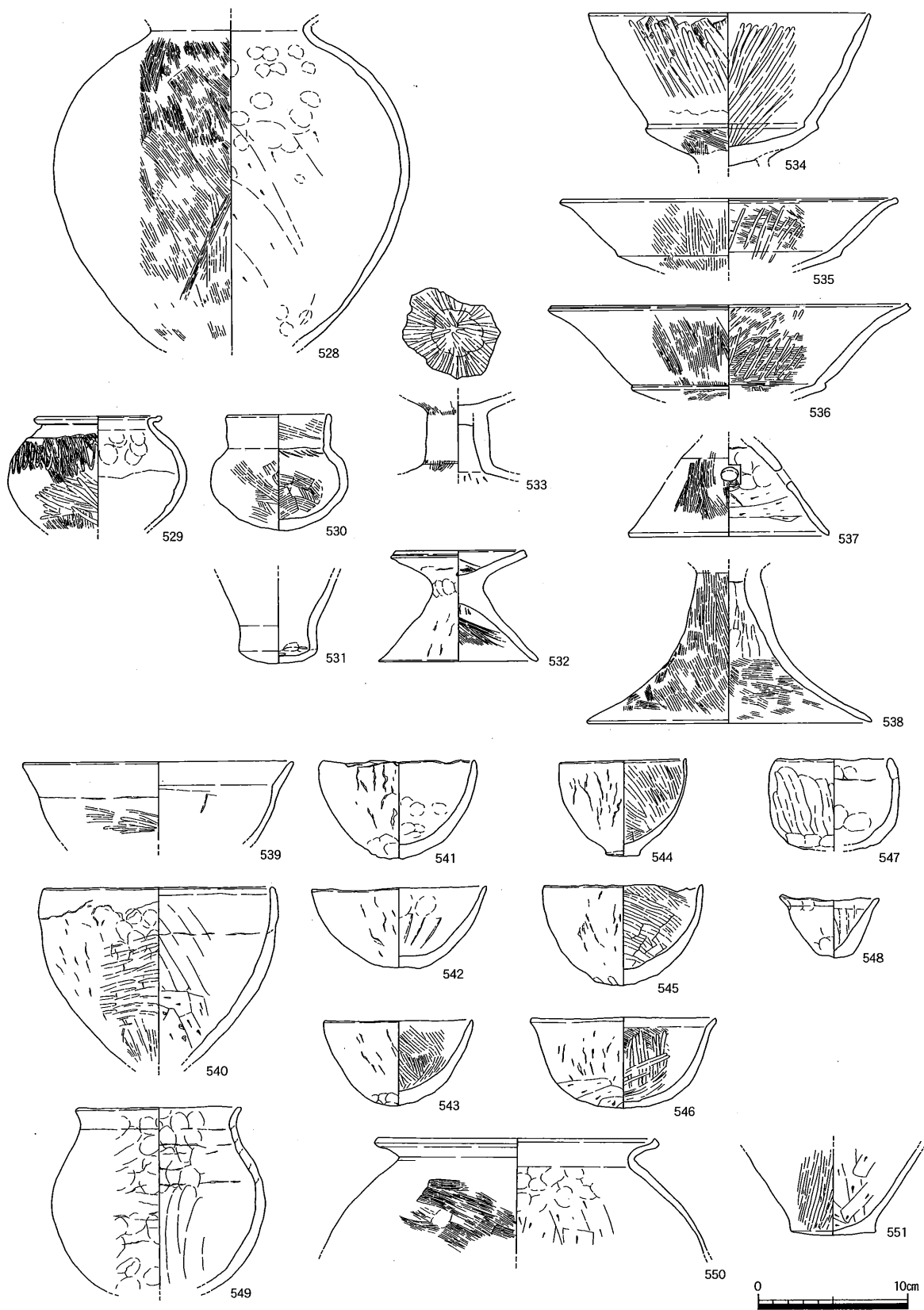




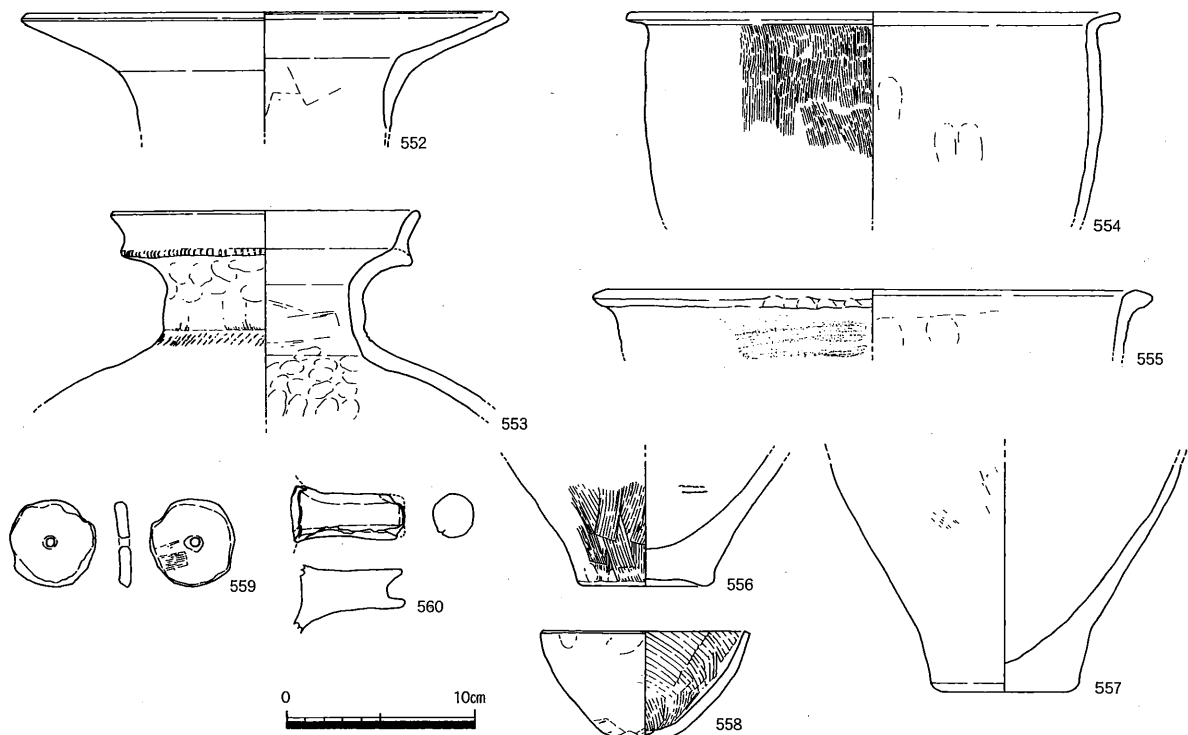
第82图 SRa01出土遺物 (1)



第83圖 SRa01出土遺物(2)



第84図 SRa01出土遺物(3)



第85図 SRa01出土遺物（4）

第109図790は、SRa01から出土した、旧石器時代のサヌカイト製の翼状剥片である。この遺跡からは数点の旧石器が出土しており、おそらく東方の天神山周辺の段丘面上には、この時期の遺跡が所在する可能性が高い。

堰状遺構01～05（第86・87図）

堰状遺構はSRa01の下層で検出した、複数の杭材により構築されたシガラミ状の遺構である。おそらく、北に流れるSRa01の流水を堰き止めて、南方に所在する水田域へ導水するための貯水施設と考えられる。

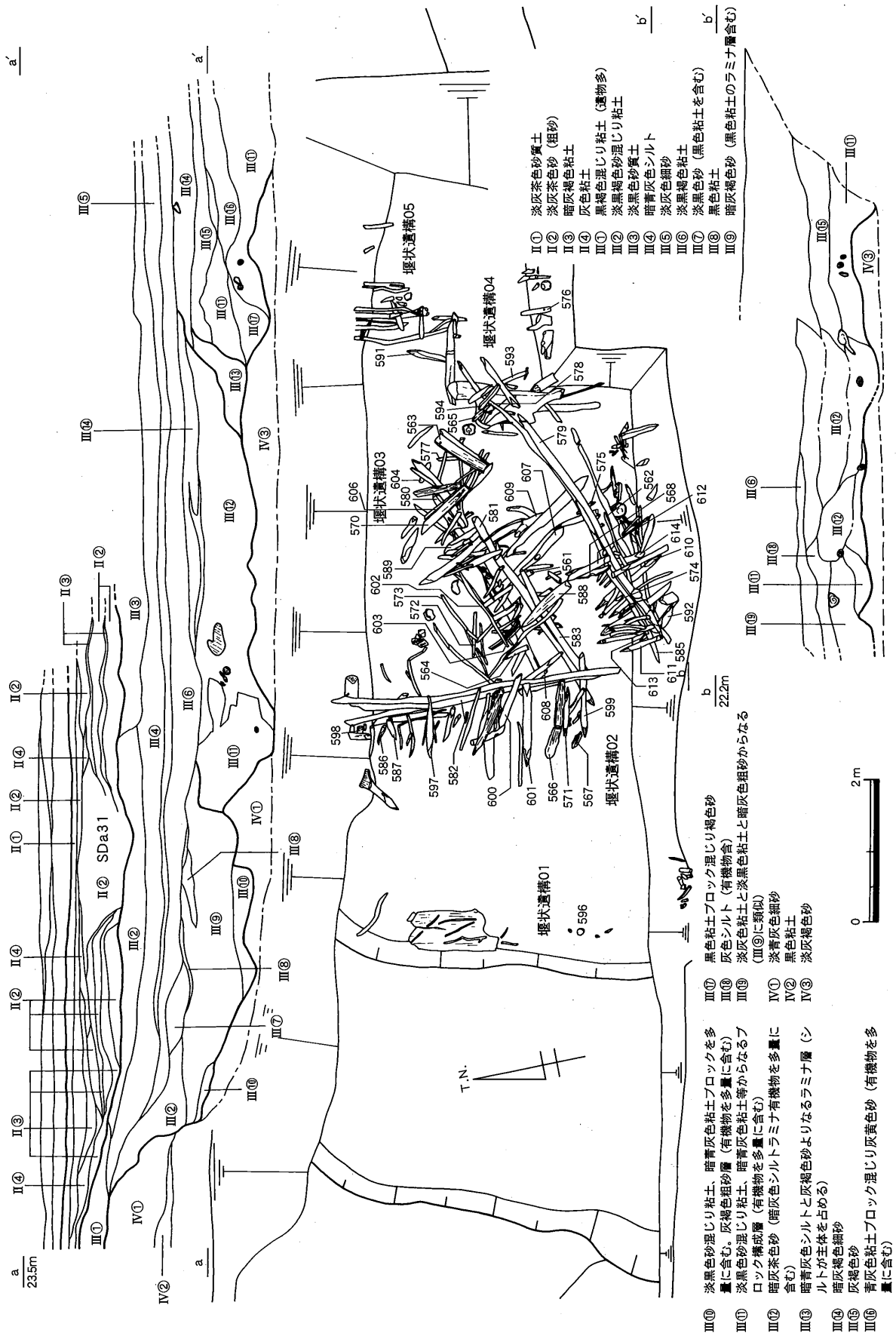
堰状遺構を構成する横材を主軸方位で区分すれば、真北より10° 前後東へ向く堰状遺構01・02・05のグループと、真北より45° 前後東へ向く堰状遺構03・04のグループに分けられる。

構造上の共通点は、長い横材に直交して多数の短い斜材を設置し固定している点にあるが、斜材の設置方法で二つのグループに分けられる。主軸に対して西面に斜材を設置する

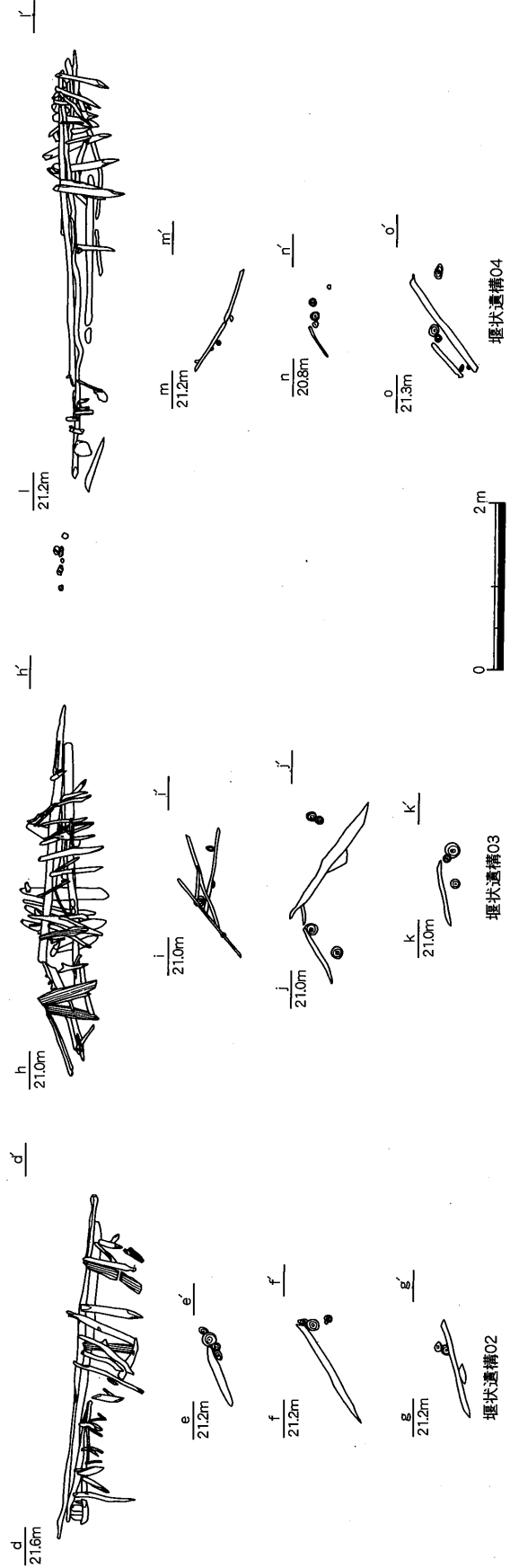
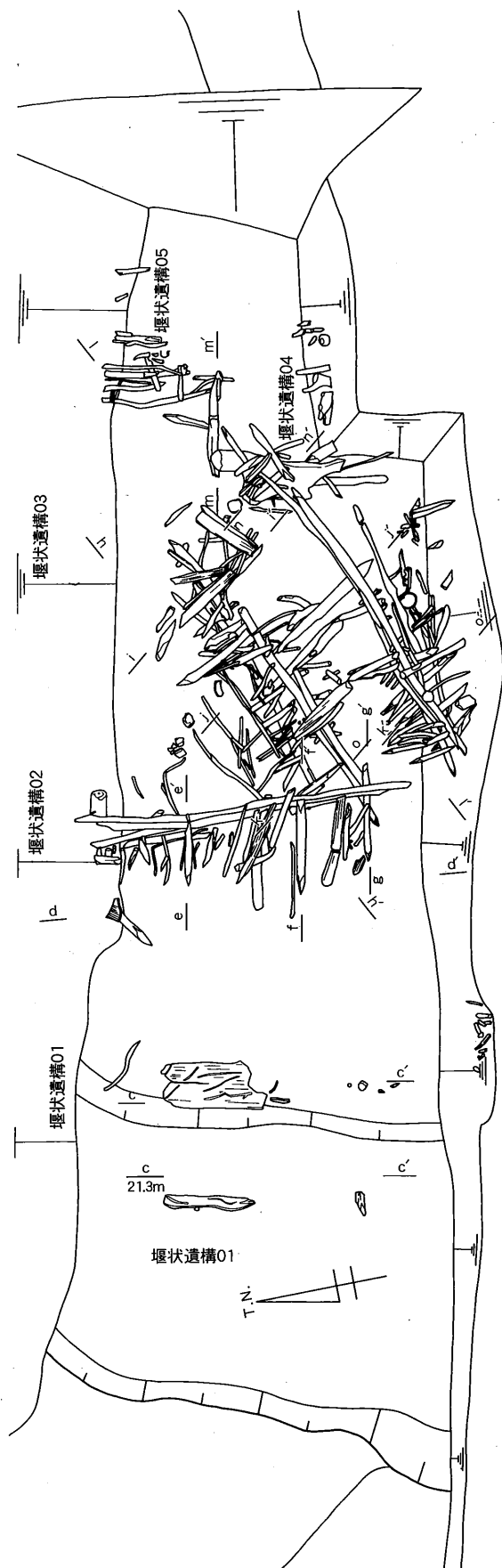
遺構名	規模 (m)			主軸方位 (横材)	構築材 (m)	
	全長	幅	高さ		斜材長	横材長
堰状遺構01	3.5	0.5	0.3	N13° E		
堰状遺構02	4.2以上	1.8	1	N1° E	0.5~1.5	1.1~4.1
堰状遺構03	4.5	2.8	1.1	N47° E	0.5~1.8	1.8~3.2
堰状遺構04	5.3	2.5	1	N13° E	0.4~1.7	2.0~4.5
堰状遺構05	2.7以上	1.5	1	N13° E	0.7~1.3	0.5~1.3

第6表 堰状遺構一覧

堰状遺構02・05と、西面の斜材が主になるが、やや合掌形に近い堰状遺構03・04等である。堰状遺構を構成する使用材の大部分は先端部を杭状に整形している。また、これらの使用材の内、かなりの割合で建築部材を転用しているものが認められる。横材の中には、住居跡の柱材を転用



第86図 堰状遺構01~05出土状況図



第87图 堰状遺構01~05平・断面図

したものと考えられる、長さ4m近い杭状の木製品等が多数認められる。

堰状遺構の周囲は、主に砂層が堆積しているが、砂層と砂層との間には、周辺の粘質土をかき集めた様な黒色系の粘土・青灰色粘土等の小ブロックで構成された土層（第86図Ⅲ⑩層等）や、有機物を多量に含む粘質土層等が認められ、このような堆積状況の特徴は、第86図土層断面に顕著に表れている。おそらく、これらの土層は堰状遺構を固定する事と水の流失を防ぐために、人為的に盛り上げたもので、堰状遺構自体は土を盛り上げた畦状を呈していたものと考えられる。

なお、5基の堰状遺構の構築順は、使用材の重複関係より推定することができる。古い方より05→03・04→01・02の順である。

#### 堰状遺構01～05出土木製品（第88～96図）

堰状遺構からは、この遺構を構成していた多量の木製品が出土した。これらの木製品は、発掘調査終了後、長期間木器の貯蔵水槽の中で保管していたもので、その結果、劣化が進み調整痕の見極めができない資料が少なからず認められる。堰状遺構の構築材及びこの遺構の周辺より出土した木製品は、第88～96図561～614までの木製品である。なお、これらの木製品は樹種鑑定を実施しており、個別の樹種については第IV章を参照していただきたい。

561は堰状遺構03周辺より出土した茄子型の鋤で、農具としては唯一の資料である。

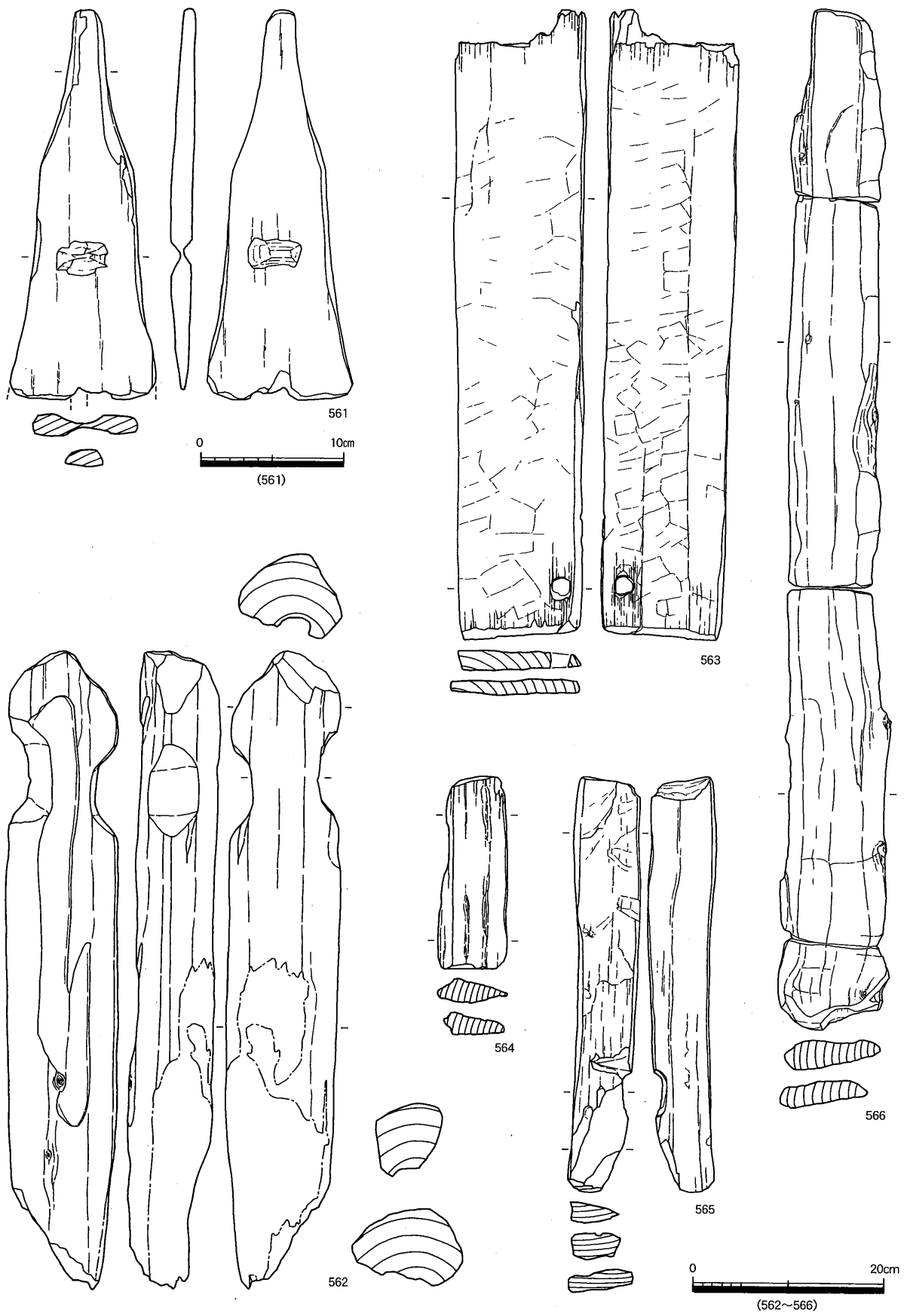
562は端部の両側面にホゾをもつ部材片である。表面が炭化している所があり、火災にあった住居跡の部材を、堰状遺構に転用したのと考えられ、同様の転用事例はかなり多い。

563～566は板状木製品である。563を除きかなり劣化が進んでいる。563は端部に円形の孔が穿たれており、器面も比較的丁寧に調整している。

567～570は端部を外湾気味に整形している板状木製品である。比較的肉厚で、567・568・570等は長軸に稜をもつ。また、567・569の端部にはホゾ孔を穿っている。567は補修痕と考えられるが、側縁部に細くて薄い板材を結わえている。注目できるのはその結わえ方である。ホゾ孔に桜または樺の皮を通して結わえ、ユルギなく止めるため、片方の側縁部とホゾ孔に木製の詰め物を入れている。更に側縁部の皮の上からは、釘状の細い金属片を打ち込んでいたのであるが、残念ながらその金属片は劣化し消失している。これらの板状木製品は何らかの部材と考えられるが、その用途については今後の課題である。

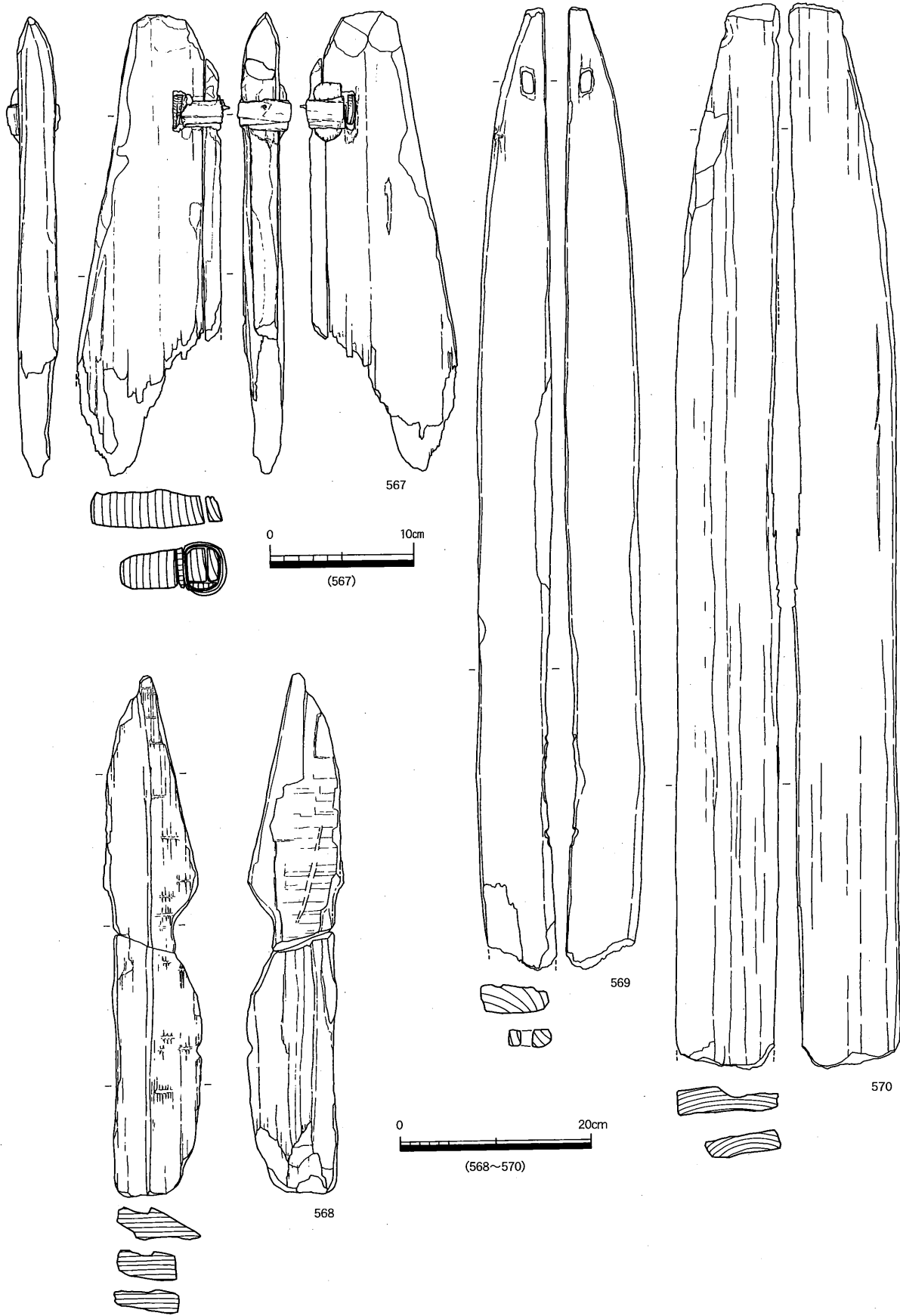
579～578は有頭棒状木製品である。完全なものがないたため本来の形状は不明だが、残りが良いものでは90cmを超えるものがある。頭部の形状で二つに分けられる。①頭部を丸く削りだしている571～575 ②頭部を野球のバットのグリップエンド状に整形している576～578等である。なお、571・576は炭化した跡が認められる。

579・580は堰状遺構03・04の横材として使われていた、先端部を杭状に加工した有頭棒状木製品である。ただし、580は先端部を欠くが形状より579と同類と判断した。2点ともほぼ直線状でかなり長く、完全に残っている579は、全長3.78m、12.7cmを測る。器面には枝打ちをした痕跡と、ホゾが認められる。また、頭部は下位に短い枝を残した状態で丸く削りだし、更に頭部を縦に半裁し、枝と頭部の間に横木を掛ける仕掛けが認められる。そのため、本来、住居跡の柱材として使用していた建築部材を、堰状遺構の横材として転用したものであろう。なお、この長さの柱材をもつ住居跡を想定すれば、かなり大型の住居跡が考えられる。

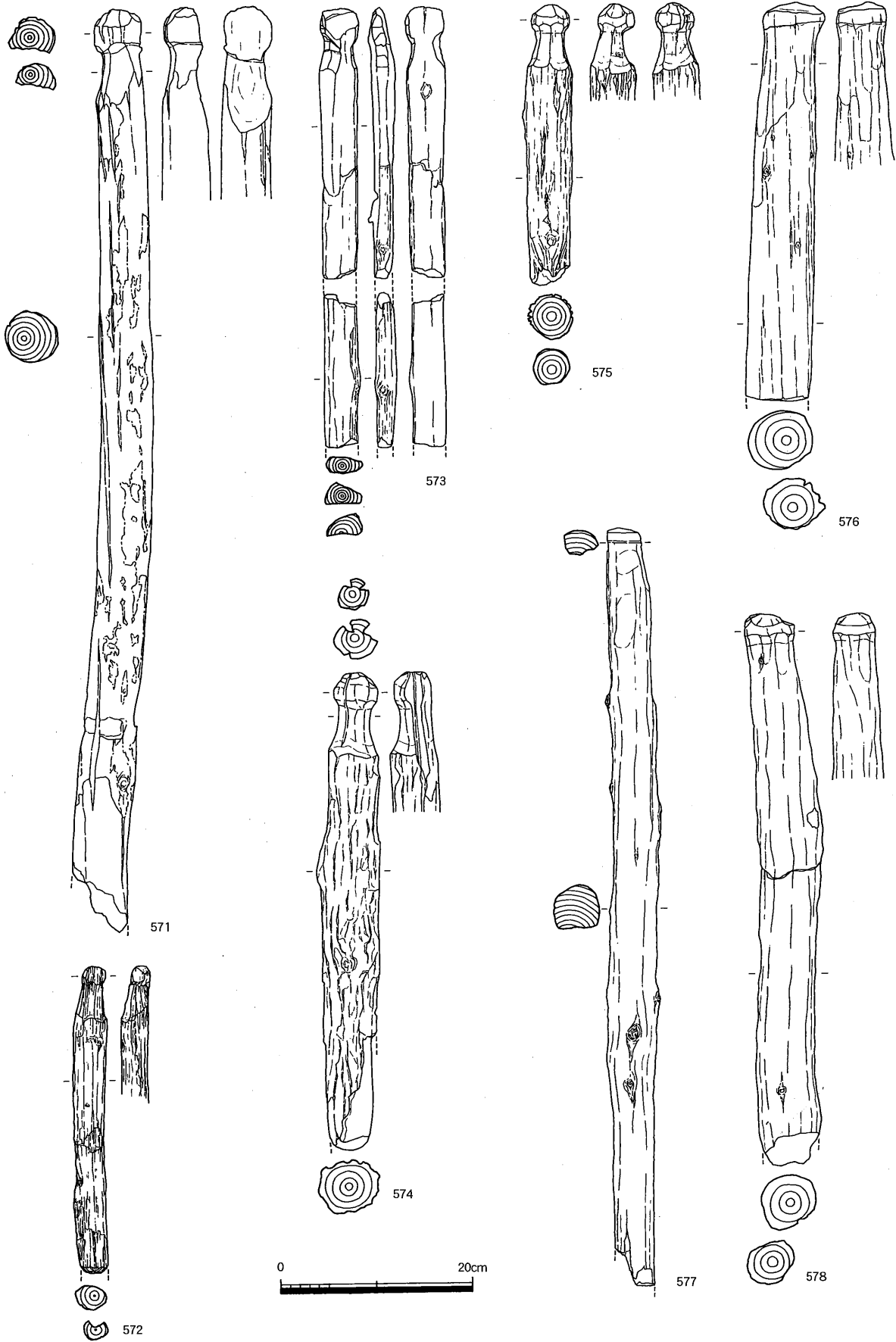


第88図 堰状遺構出土遺物 (1)

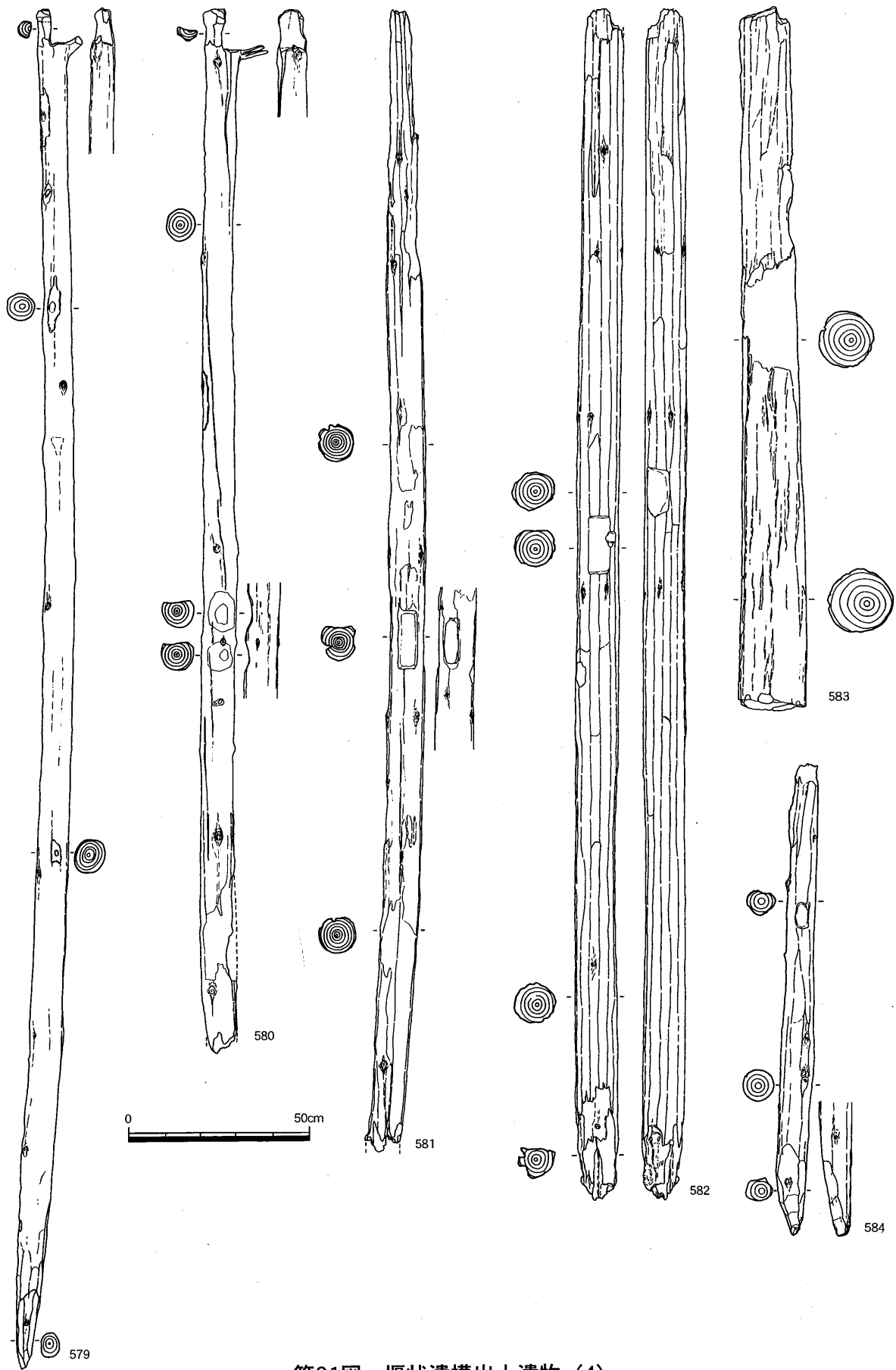




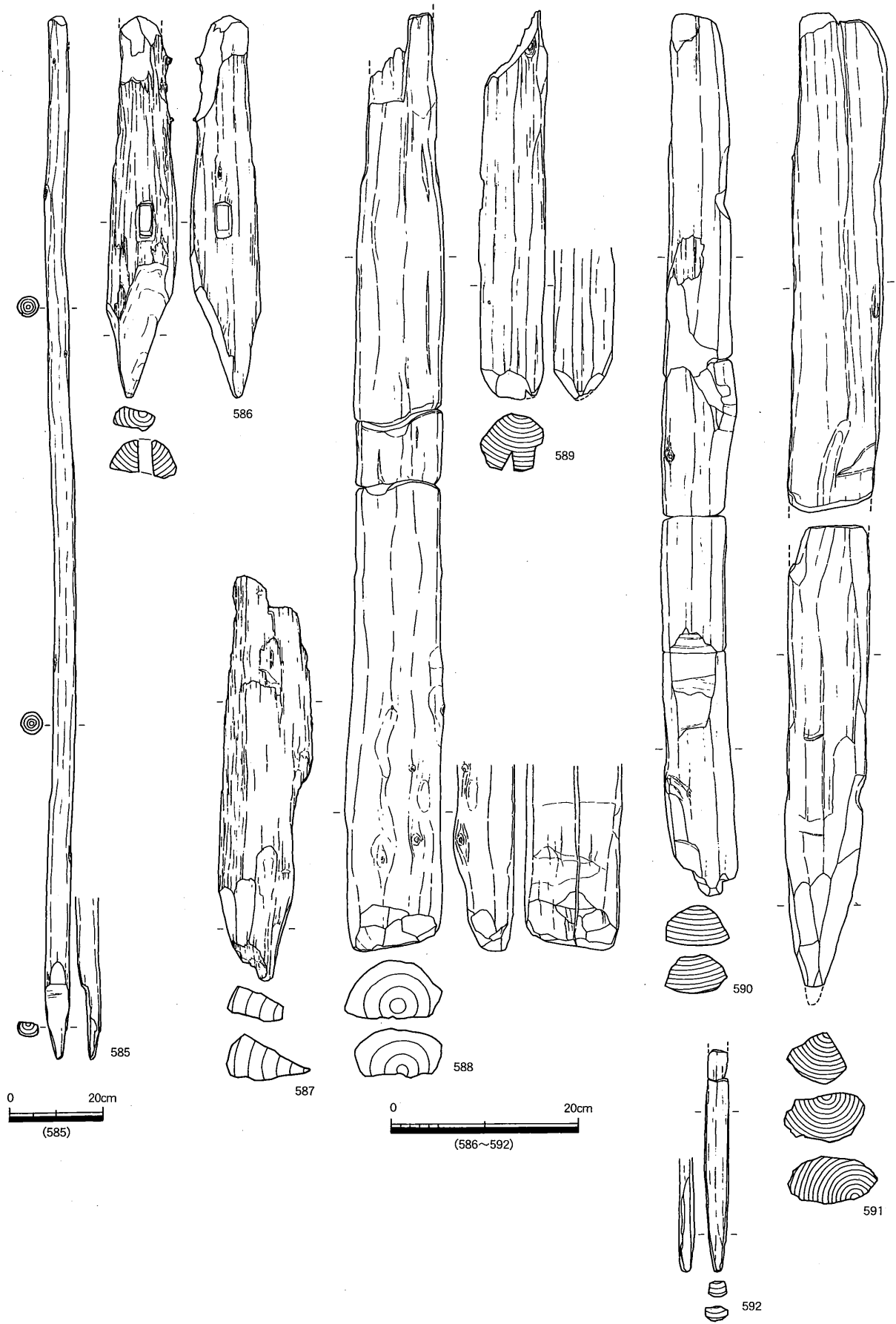
第89図 堰状遺構出土遺物 (2)



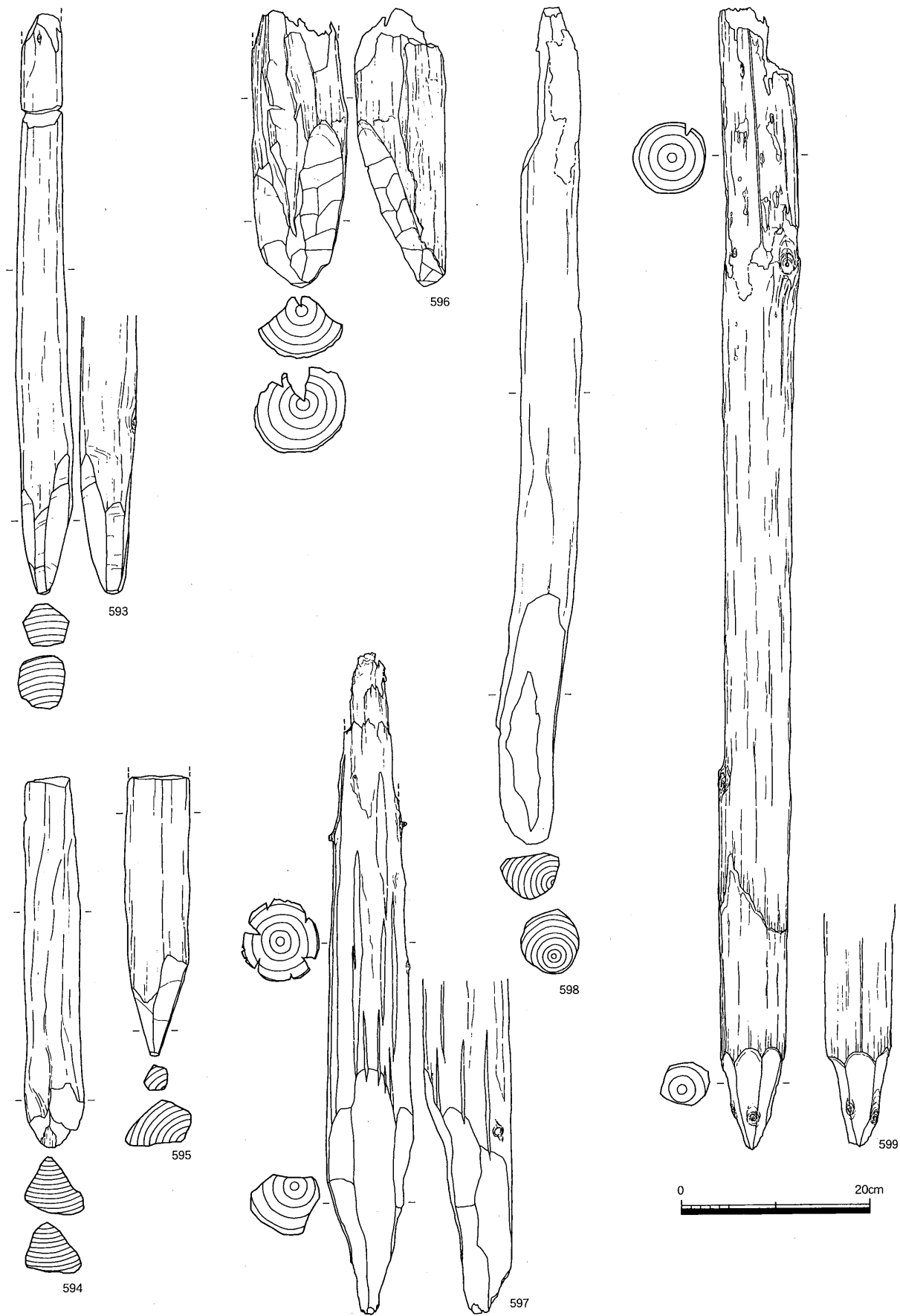
第90図 堰状遺構出土遺物 (3)



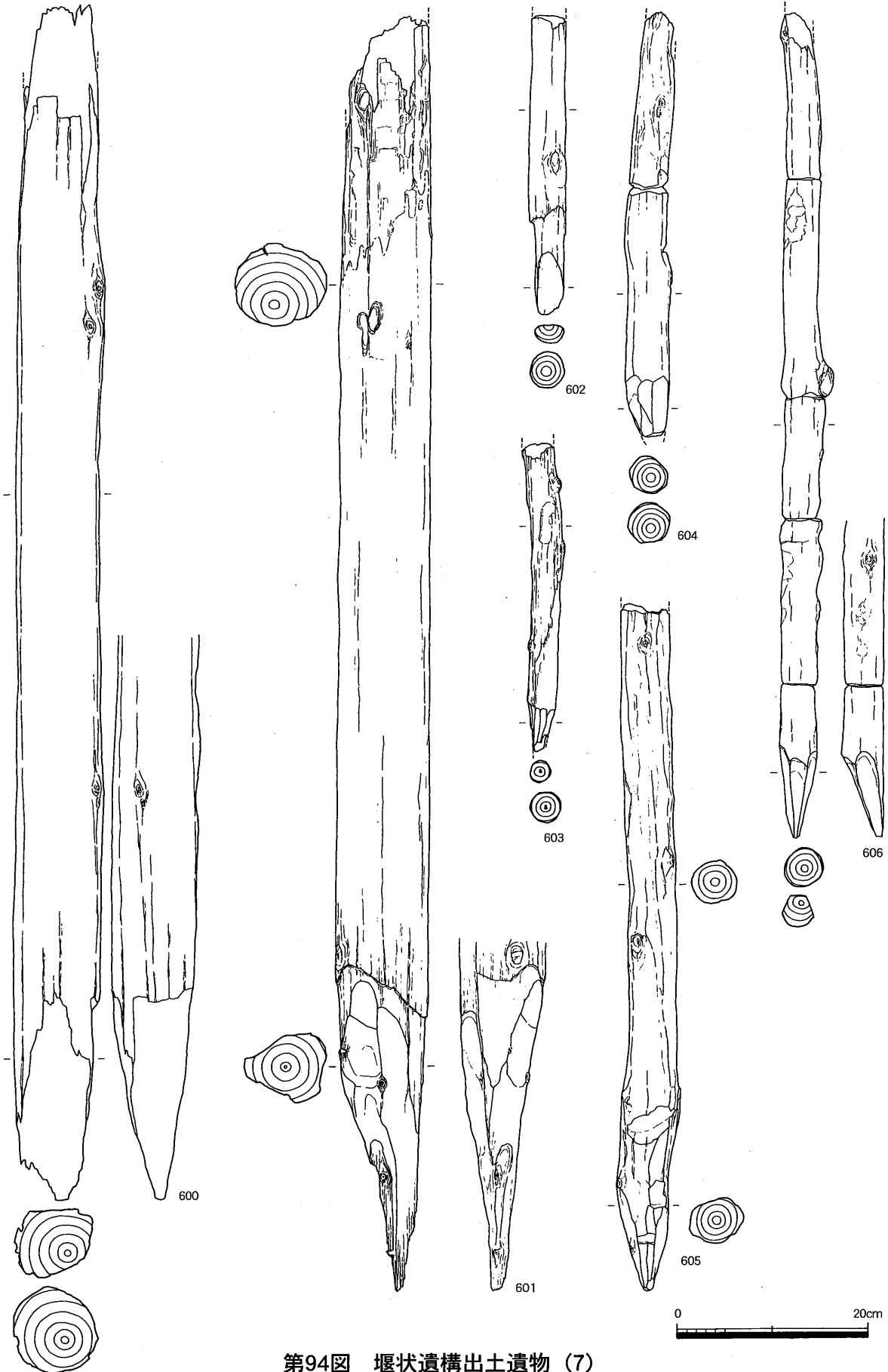
第91図 堰状遺構出土遺物 (4)



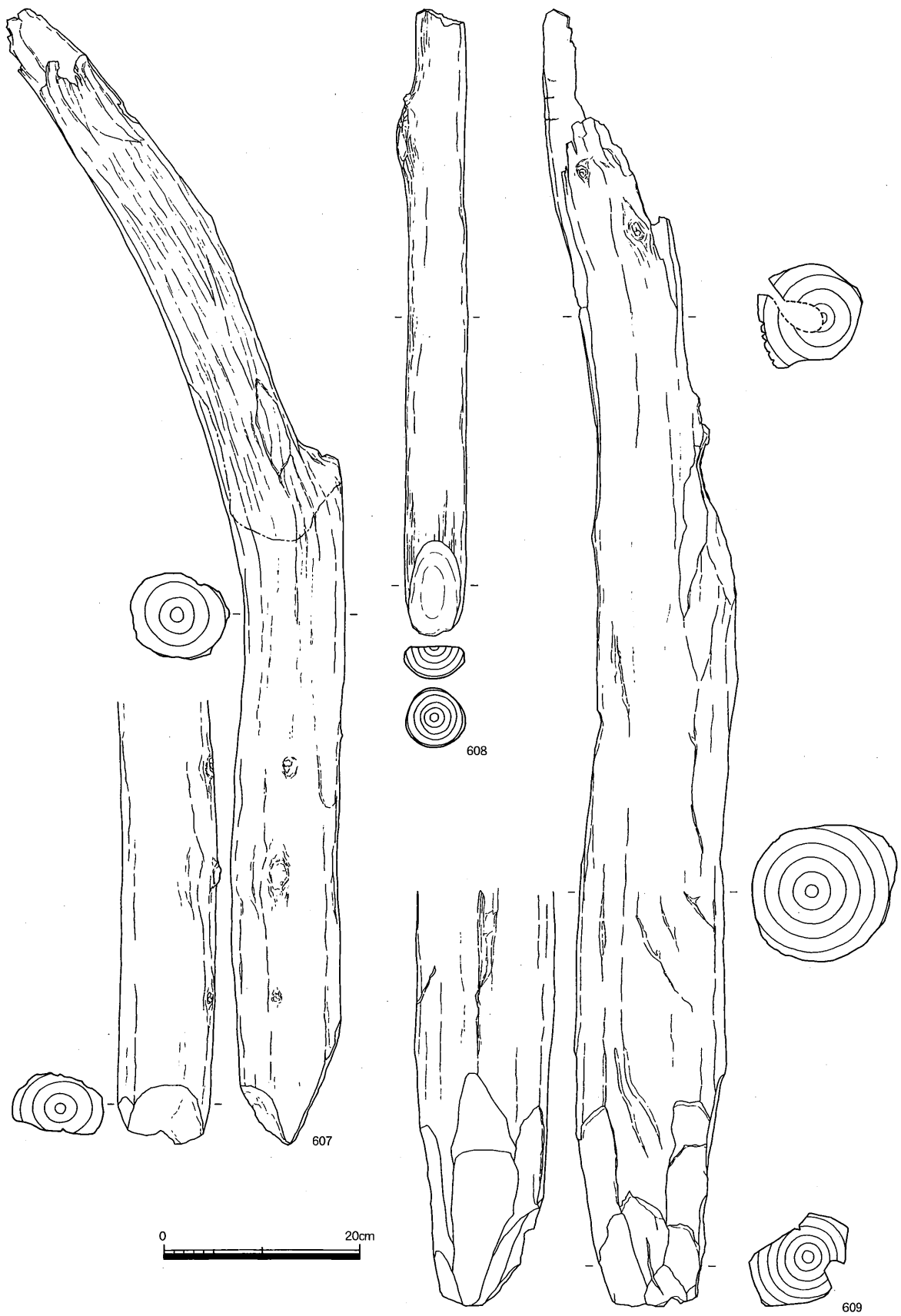
第92図 堰状遺構出土遺物 (5)



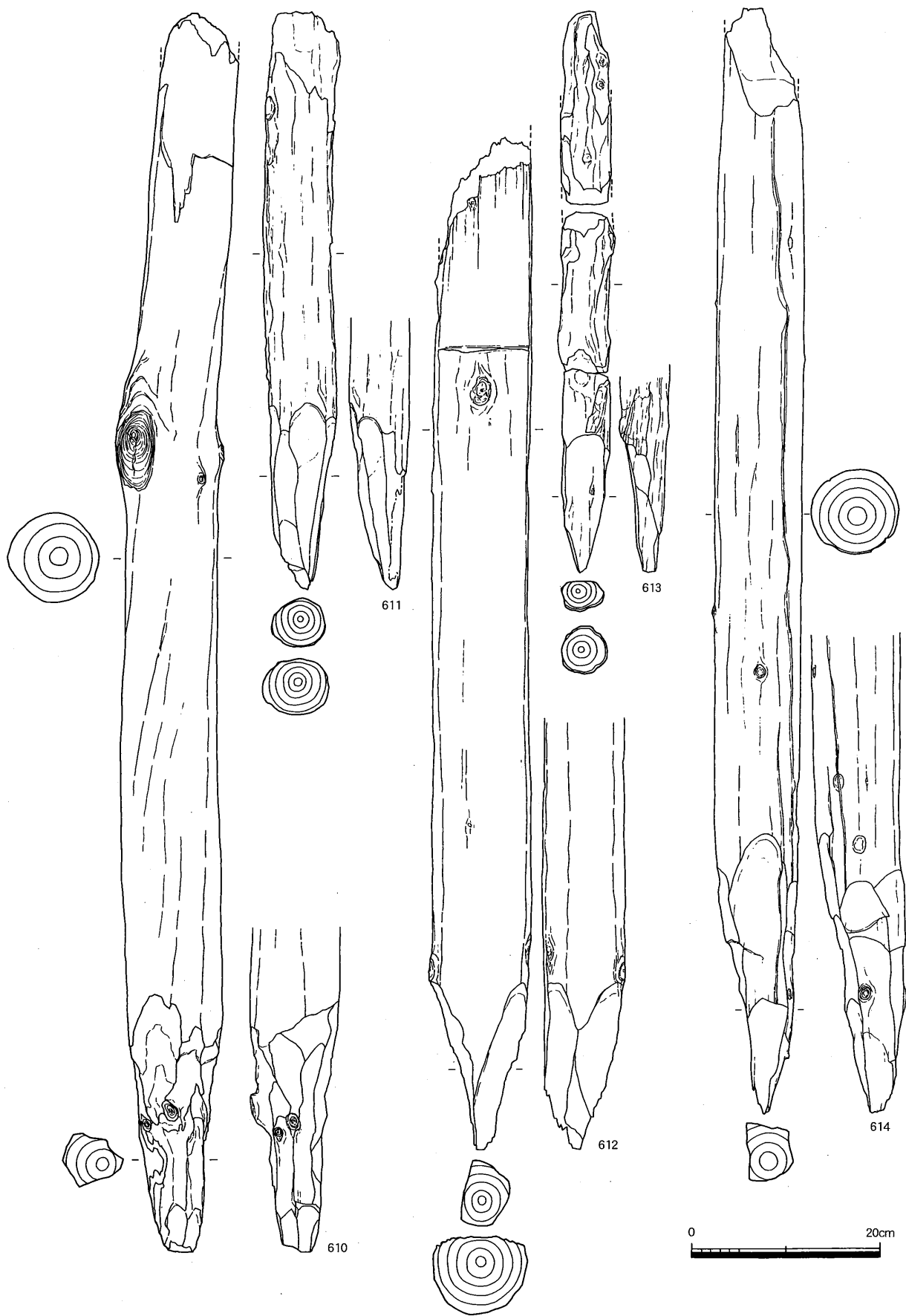
第93图 堰状遺構出土遺物 (6)



第94図 堰状遺構出土遺物 (7)



第95図 堰状遺構出土遺物 (8)



第96図 堰状遺構出土遺物 (9)



581～583は579・580同様、堰状遺構02・03の横材として使われていた柱状木製品である。3点とも直線状でかなり長い。最長の582は、全長3.41m、幅は11.3cmを測る。最も幅がある583は、全長1.95m、幅は18.3cmを測る。3点とも完全なものはないため本来の形状は不明であるが、おそらく先述した579と同様に、4.0mを前後する長さの柱材であった可能性が高い。581・582の器面には枝打ちをした跡とホゾが認められる。また、582の器面には、ヤリガンナによる器面調整痕が顕著に残っている。検出時よりかなり劣化しているが希少な事例である。

584～614は杭状木製品である。素材、形状等で個体差がある。584はホゾが認められる事より、柱材を転用したものであろう。585は細くて長い杭状木製品である。形状より住居跡の垂木材を転用した可能性がある。587・594はミカン割り材を素材にした杭状木製品である。586・588～591・612は半裁材を素材にした杭状木製品で、建築部材の転用品の可能性が高い。また、586はホゾ孔をもつことで確実に建築部材転用品であることが分かる。593・595～614は丸太材を素材にした杭状木製品である。かなり大きさに差がある。最も大型のものは609で、全長1.35m、幅15.6cmを測る。これらの中の、599～601、610・612・614等は形状より柱材を転用した杭状木製品の可能性が考えられる。なお、601・607の器面には炭化した跡を残す。

#### SRa02 (第97・98図)

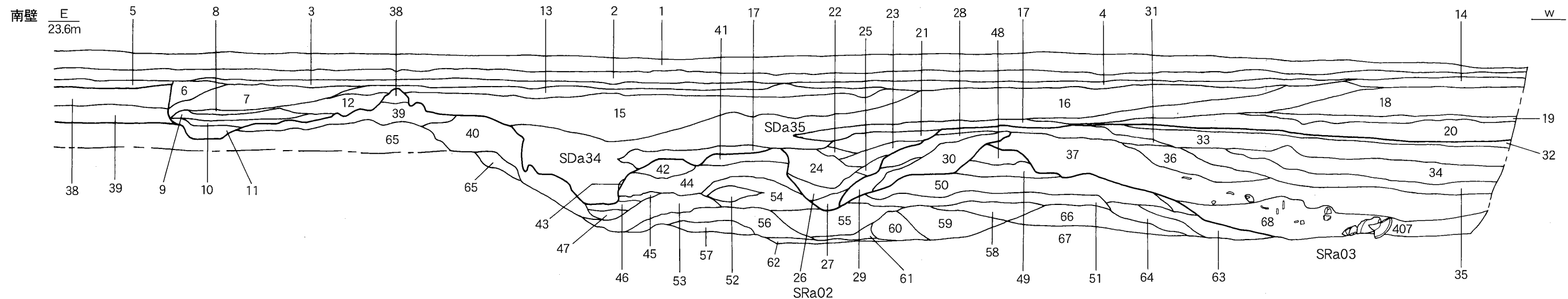
I区西半部よりⅢ区西半部の第3遺構面上で検出した小規模な埋没自然河川である。この河川はI区では、ほぼ東西方向に進みⅢ区との境で北に屈曲し、Ⅲ区では僅かに西方に振りながら南北方向に延びて、IX区へと続く。Ⅲ区の南半部では、SDa64・65がこの河川より分岐し、北端部では微高地上からのSDa66・67が合流している。なお、この河の上位にあたる第1遺構面上からは、この河川と同じルートをとる、SDa33・34等の溝状遺構を検出した。

検出長62.0m、幅4.0～8.0mを測る。深さは地点により差があるが、Ⅲ区の北半部よりI区の南半部を比較すれば相対的に北半部が浅く南半部が深い。Ⅲ区では約0.9m(河床面TP. 約21.3m)、I区では約1.3m(河床面TP. 約20.8m)を測る。河床面のレベルを比較すれば、北から南に流下している可能性が指摘できる。

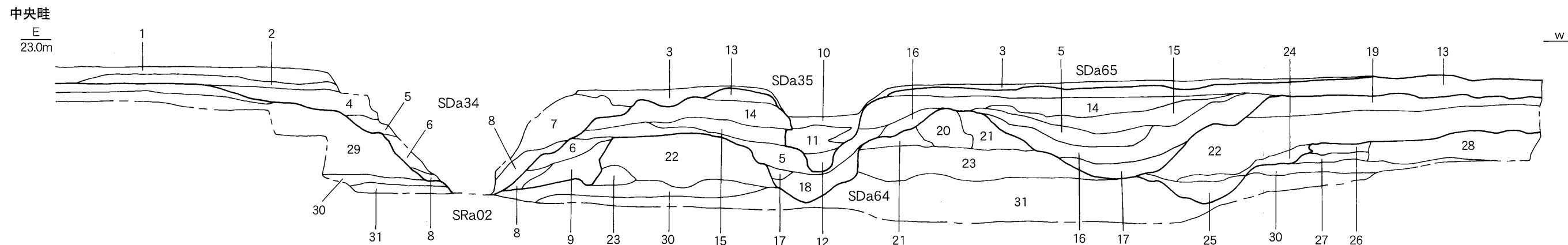
Ⅲ区のSRa02では微高地上の集落からの、廃棄遺物と考えられる大量の弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の土器からなる、土器溜りを3地点で検出した。その土器溜りを南よりB群、C群、D群と仮称した。この土器溜りからの出土遺物は約64箱を数える。B群はSDa64が分岐する地点の河川の上から、一部河川より西にはみ出した状態で検出した。C群はB・D群間の中間の河川肩部で検出した。D群はSDa66・67が合流している地点で検出した。この土器溜りは最も遺物が出土した土器溜りである。出土しているのは第98図41・63層前後の比較的上位の堆積層より、SDa67の土器溜り近くまで広がっていた。なお、この土器溜りは次年度以降の整理を予定しているIX区に続いている。

#### SRa02出土遺物 (第99～109図)

SRa02からは先に述べたように、微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる、大量の弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の土器からなる、土器溜りB群・C群・D群を検出した。また、B～D群に属さない土器も多量に出土しており、これらの土器のうちⅢ区より出土した土器をSRa02北半部出土土器、I区より出土した土器を南半部出土土器として報告する。なお、全



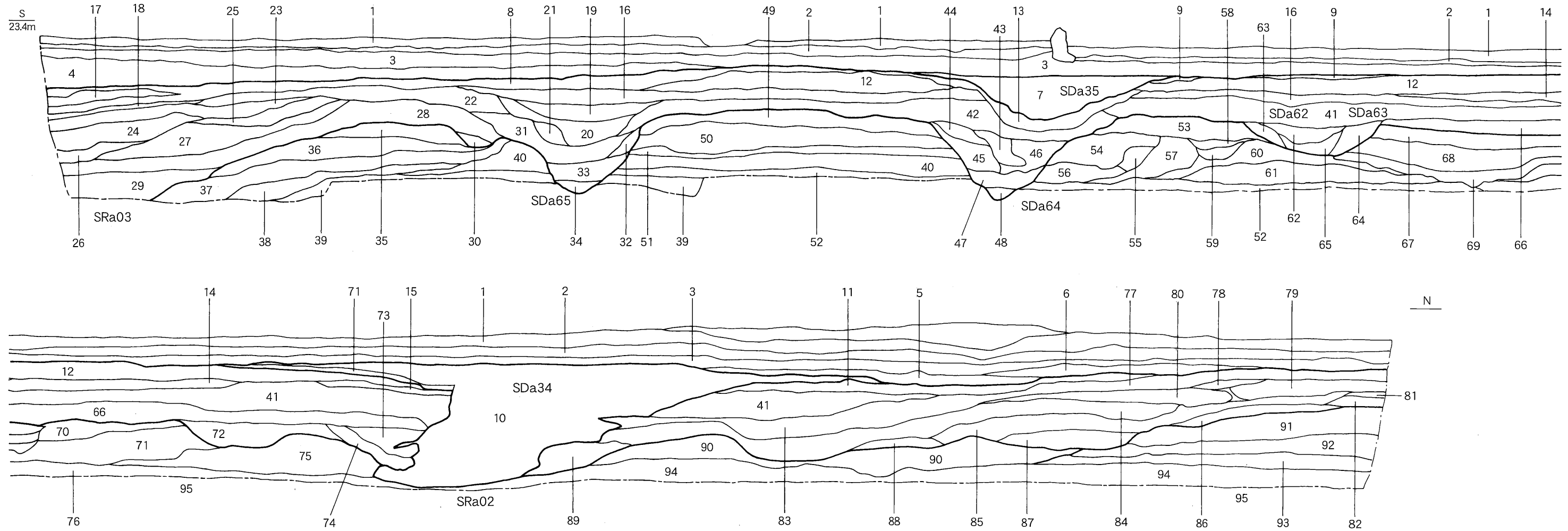
- |                     |                              |                              |                             |
|---------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 耕作土              | 21. 灰黒色粗砂                    | 41. 灰黒色細砂 (粗砂が混じる)           | 61. 暗灰色粘質土と暗灰色シルト (砂が多く混じる) |
| 2. 淡黄灰色土            | 22. 暗灰色砂                     | 42. 暗灰色細砂                    | 62. 黒色粘土と粗砂                 |
| 3. 黄褐色砂質土           | 23. 灰黒色粗砂と灰黒色粘質土が混在          | 43. 暗灰色細砂                    | 63. 暗灰色シルト                  |
| 4. 暗黄褐色砂質土          | 24. 暗灰色粗砂と淡灰色細砂と灰黒色シルト       | 44. 灰黒色細砂                    | 64. 暗灰色シルトと暗灰色粗砂            |
| 5. 暗灰褐色土            | 25. 灰黒色粘質土                   | 45. 暗灰色砂                     | 65. 灰黄色シルト                  |
| 6. 灰茶色砂             | 26. 灰色砂と暗灰色シルト               | 46. 灰色砂                      | 66. 灰黒色シルト (粗砂が多く混じる)       |
| 7. 淡灰茶色砂 (灰色粘土が混じる) | 27. 暗灰色粘土                    | 47. 暗灰色粘質土                   | 67. 黒色粘土                    |
| 8. 灰色粘質土            | 28. 灰黒色粘質土 (粗砂が多く混じる)        | 48. 暗灰色粘質土 (砂が多く混じる)         | 68. 暗灰色粘土                   |
| 9. 灰黄褐色砂            | 29. 灰黒色粘質土 (砂が多く混じる) と灰黒色シルト | 49. 暗灰色粘質土 (粗砂が混じる)          |                             |
| 10. 灰褐色細砂           | 30. 暗灰色粘質土 (砂が多く混じる)         | 50. 暗灰色シルト                   |                             |
| 11. 灰黒色砂質土          | 31. 灰黒色粘質土 (粗砂が多く混じる)        | 51. 灰黒色粘質土 (ややシルト質、粗砂が多く混じる) |                             |
| 12. 淡灰茶色砂           | 32. 暗灰色粘土                    | 52. 黒色粘土                     |                             |
| 13. 暗黄褐色砂 (灰色砂が混じる) | 33. 灰黒色粘土                    | 53. 暗灰色細砂                    |                             |
| 14. 茶褐色砂 (マンガンによる)  | 34. 暗灰色粘質土                   | 54. 灰黒色粘質土                   |                             |
| 15. 淡茶灰色砂           | 35. 黒色粘質土 (砂が多く混じる)          | 55. 暗灰色粘質土 (砂が多く混じる)         |                             |
| 16. 淡茶灰色砂           | 36. 暗灰色砂質土 (37より砂の粒が小さい)     | 56. 暗灰色粗砂と黒色粘土の互層状           |                             |
| 17. 淡灰色細砂           | 37. 暗灰色砂質土                   | 57. 淡灰色粗砂                    |                             |
| 18. 淡茶灰色砂 (灰色が強い)   | 38. 暗灰褐色土 (シルトが多く混じる)        | 58. 灰黒色シルト (粗砂が多く混じる)        |                             |
| 19. 暗灰色粘土           | 39. 灰黒色砂質土                   | 59. 暗灰黄色砂                    |                             |
| 20. 淡茶灰色砂           | 40. 暗灰色シルトと暗灰色細砂             | 60. 黒色粘土                     |                             |



- |                            |                        |                              |
|----------------------------|------------------------|------------------------------|
| 1. 暗褐色砂質土                  | 12. 淡黒色シルト (砂がラミナ状に入る) | 23. 淡黄灰色粗砂                   |
| 2. 暗灰褐色砂質土                 | 13. 暗黄黒色粗砂混じり粘土        | 24. 灰色シルト                    |
| 3. 灰色粘土                    | 14. 黒色砂混じり粘土           | 25. 灰黄色粗砂                    |
| 4. 黒褐色砂質土                  | 15. 暗灰色粘土 (砂を含む)       | 26. 暗灰色粘質土                   |
| 5. 淡黒色シルト (粗砂が多い)          | 16. 黒色砂混じり粘土           | 27. 淡青灰色シルト                  |
| 6. 暗灰色シルト (粗砂が多い、5に類似)     | 17. 暗青灰褐色砂             | 28. 青灰色シルト混じり黒色粗砂            |
| 7. 暗灰黄色砂                   | 18. 暗灰色シルト (砂がラミナ状に入る) | 29. 暗青灰色シルト (ベース)            |
| 8. 暗灰黒色砂混じりシルト (砂をラミナ状に含む) | 19. 淡黒色砂質土 (粘性が強い)     | 30. 淡灰色細砂 (黒色粘土をラミナ状に含む、ベース) |
| 9. 暗青灰色砂質土 (粗砂が多い)         | 20. 黄色粗砂               | 31. 淡黒色粘土 (ベース)              |
| 10. 黒色砂混じり粘土               | 21. 灰色粗砂               |                              |
| 11. 灰黄色砂                   | 22. 暗青灰色砂質土 (粘性が強い)    |                              |



第97図 Ⅲ区南壁・中央畦土層図



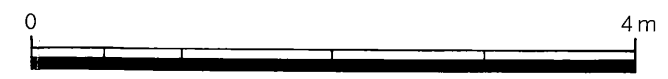
- 1. 旧耕作土
- 2. 淡灰色土
- 3. 黄灰褐色土
- 4. 灰茶色砂
- 5. 暗灰色粘土
- 6. 暗灰褐色粘質土
- 7. 淡茶灰色砂
- 8. 暗灰色粘土 (マンガン多く部分的に茶褐色)
- 9. 暗灰色粘土
- 10. 淡灰茶色砂
- 11. 灰茶色粘土
- 12. 灰茶褐色砂質土
- 13. 暗灰色粘土
- 14. 暗灰褐色土 (マンガンにより茶褐色)
- 15. 茶褐色砂質土
- 16. 黒褐色土 (粗砂が多く混じる)
- 17. 淡茶灰色砂
- 18. 暗灰色粘土
- 19. 暗灰色土
- 20. 灰黒色土 (粗砂が多く混じる)

- 21. 暗灰色砂質土
- 22. 暗灰褐色砂質土 (南1/4は粘質)
- 23. 灰黒色粘土
- 24. 暗灰色粘土
- 25. 灰黒色砂質土
- 26. 黒色粘質土 (砂が多く混じる)
- 27. 黒褐色砂質土
- 28. 暗灰色砂質土
- 29. 暗灰色粘土
- 30. 暗灰色砂質土
- 31. 灰黒色砂質土
- 32. 暗灰色砂質土
- 33. 暗灰色砂質土と淡灰色砂の互層状
- 34. 淡灰色砂
- 35. 暗灰色砂質土 (28より粗砂気味)
- 36. 暗灰色砂質土 (28、35より硬質)
- 37. 暗灰色砂質土 (やや粘質土が混じる)
- 38. 暗灰色砂質土 (細砂が多く混じる)
- 39. 黒色粘土
- 40. 灰色砂 (黄灰色砂ブロックが混じる)

- 41. 灰黒色砂質土
- 42. 灰黒色粘質土 (粗砂が多く混じる)
- 43. 灰黒色粘質土 (ブロック状に砂が混じる)
- 44. 暗灰色砂質土
- 45. 暗灰色砂質土 (44より細かい)
- 46. 淡灰色砂
- 47. 暗灰色砂質土
- 48. 淡灰色砂
- 49. 暗灰色シルト質土
- 50. 濁灰黄褐色砂質土
- 51. 青灰色粘土 (砂粒が混じる)
- 52. 黄灰色細砂
- 53. 暗灰色砂質土 (粗砂)
- 54. 灰色砂
- 55. 暗灰色細砂 (粗砂が混じる)
- 56. 灰色粗砂
- 57. 淡灰色砂
- 58. 灰黒色砂質土
- 59. 灰黒色砂質土 (58より細砂)
- 60. 淡灰黄色砂と灰色細砂

- 61. 淡灰色砂と淡灰黄色砂
- 62. 灰黒色砂質土
- 63. 暗灰色砂質土
- 64. 暗灰色砂質土
- 65. 暗灰色シルト質土
- 66. 暗灰色砂質土 (土器が多く混じる)
- 67. 灰黒色砂質土
- 68. 灰黒色砂質土 (灰黒色粘質土が混じる)
- 69. 灰黒色砂質土 (粗砂と細砂)
- 70. 濁灰色細砂
- 71. 濁灰色砂
- 72. 灰黒色砂質土
- 73. 黒色砂質土
- 74. 灰黒色砂質土
- 75. 青灰色細砂と青灰色シルト
- 76. 暗青灰色細砂
- 77. 暗褐色土
- 78. 暗褐色土と暗茶褐色砂質土
- 79. 暗茶褐色砂質土
- 80. 黒褐色砂質土

- 81. 暗灰茶色砂質土
- 82. 暗灰褐色土 (砂が多く混じるが粘質)
- 83. 黒褐色砂質土
- 84. 暗灰褐色砂質土
- 85. 黒褐色砂質土
- 86. 灰黒色細砂 (粗砂が混じる)
- 87. 暗灰色砂質土
- 88. 淡灰色砂
- 89. 暗灰色砂質土
- 90. 濁暗灰色粗砂とオリーブ灰色砂
- 91. 暗灰色細砂
- 92. 暗灰色砂
- 93. 暗青灰色細砂
- 94. 暗灰色細砂
- 95. 黒色粘土



第98図 III区西壁土層図

ての土器を図化するには時間的に無理があり、これらの土器の中から主要な土器を厳選した点を断っておく。

B群から出土した土器は、第99図615～625までの土器である。615～617は甕である。617は把手付きの甕の把手部分で、外面はヘラ削りとオサエにより整形されている。把手付きの甕の資料は少なく、貴重な資料である。618～620は鉢、621～623は甗である。625は弥生時代後期末頃の脚台付き製塩土器の脚台である。外面はヘラ削りを上から下に向けて施している。従来下から上に向けてヘラ削りを施すのが主であるが、この手法は体部が丸みを持ち始める頃の特徴である。

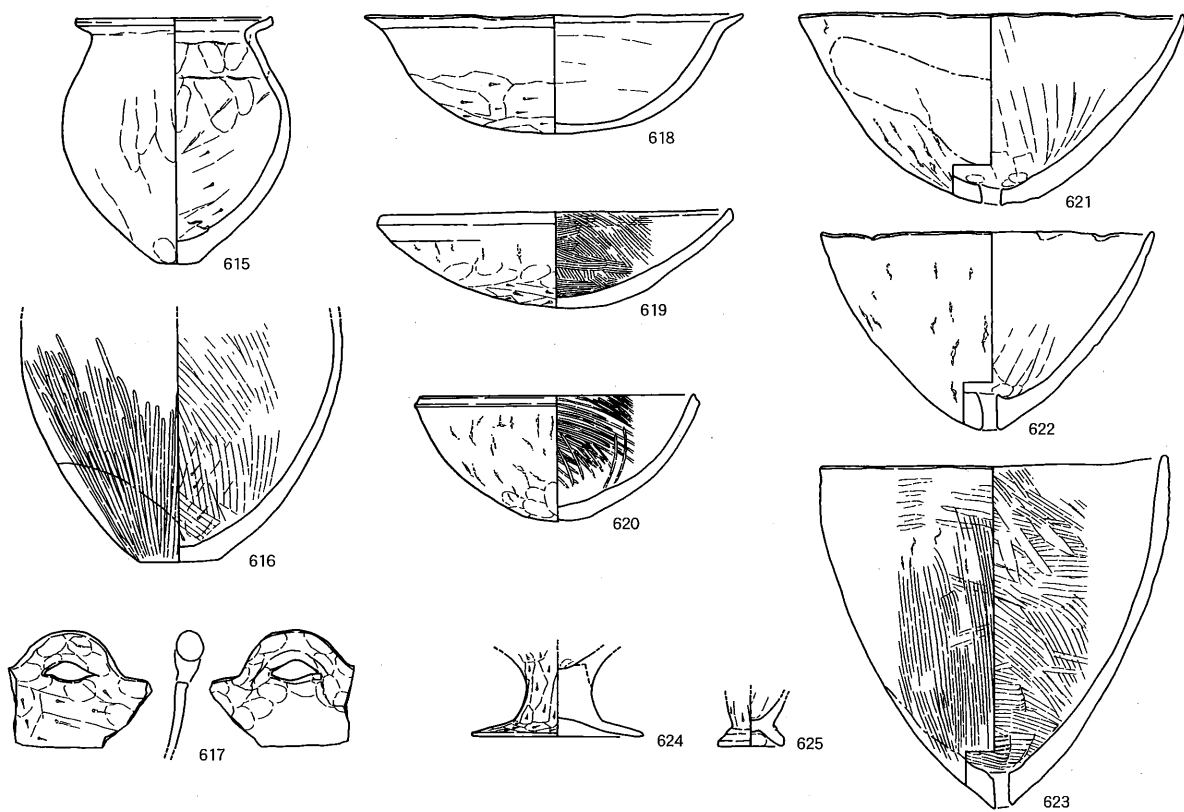
C群から出土した土器は、第99図626～633までの土器である。626は下川津B類の細頸壺の頸部である。口縁部内面にヨコナデ痕を顕著に残す。628・633は甕に分類したが、壺に区分するものかもしれない。630～632は鉢である。630の体部には内側より穿孔が認められる。

D群から出土した土器は、第100～103図634～690までの土器である。634～653は壺の資料である。これらの資料は比較的良好な資料である。636・637の体部には焼成破損が認められる。なお、636は下川津B類の壺である。639・640は体部が長胴化しており、形状より地元の土器とは考えられない。644は口縁部に線刻が認められる。645～650は口縁部に鋸歯文等を施している一群である。646～650は壺に分類したが、小型の器台の可能性もある。653は大型の壺の底部で、形状より土器棺に用いられている土器と同規模の壺である。654～659は甕の資料である。甕はD群出土の土器の中で、最も比率が高い器種である。傾向として小型の甕の比率が高い。出土した甕の大部分は、地元産の弥生時代後期末頃の甕であるが、少量土師器を含んでいる。659は外面ハケ、内面はオサエが顕著で、体部がかなり球体化しており、古墳時代前期初頭頃の土師器と考えられる。660・661は高杯である。661は胎土・調整等より下川津B類に含まれる。662～676は鉢の資料である。鉢は甕同様、D群の中でかなり比率が高い。また、残りの良いものが多い。大ききさ的にかかなりバラツキがあり、最も大型の675は土器棺の蓋に用いるのも可能であろう。677は土師器の小型丸底壺である。土師器の資料は少なく貴重な資料である。678は器種不明の香炉状の土器である。底部には4足の内3足の支脚を残す。形状より木製品を真似たものであろう。679は底部に2つの孔がある比較的大型の甗である。683は半分しか残っていないので、分からない点が多いが、内部が中空の状態を呈することより、土鈴のようなものかもしれない。684～690は脚台付の製塩土器である。684・686～688は外面にヘラ削り残すことより、弥生時代後期後半の範疇に含まれるものであるが、685・689・690等は外面調整（ヘラ削りの方向、ナデ）及び体部の形態等より弥生時代後期末頃の特徴を表している。

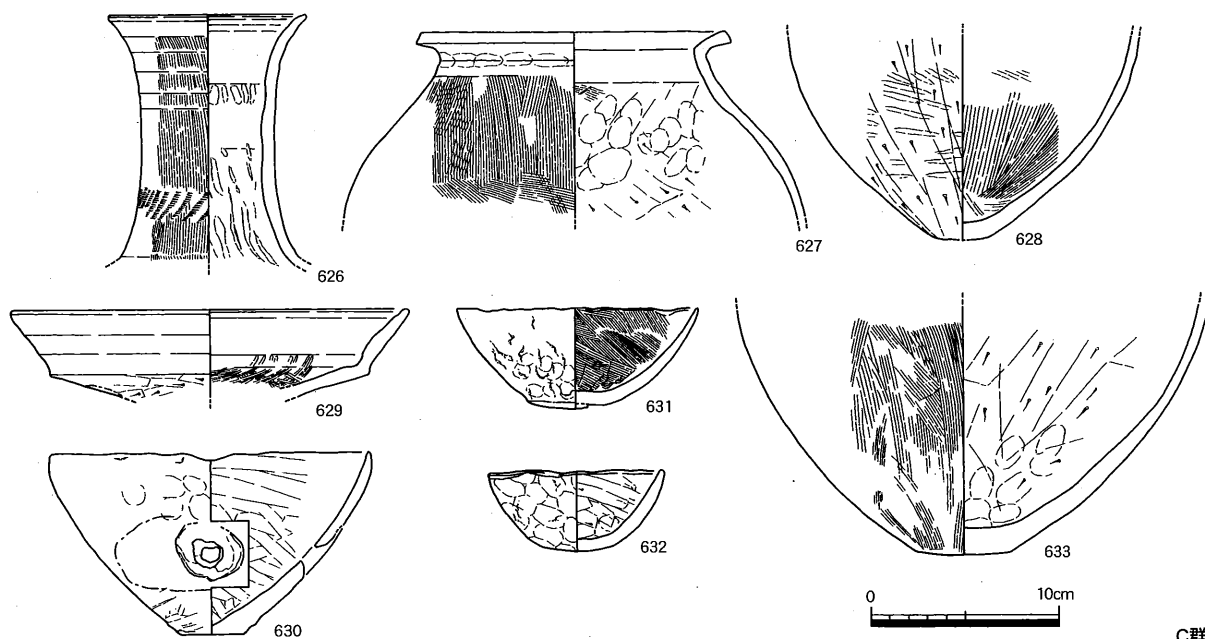
691はD群より出土した板状の木製品である。側縁部を意図的に抉っているところから、何らかの部材の可能性が高い。

SRa02の北半部（Ⅲ区）の上層から出土したのは、第103図692～701の土器である。これらの土器は本来B・C・D群中の土器が少なからず含まれている。

上層から出土した土器は、弥生時代後期後半頃の土器が主であるが、697等は土師器に含めて考えるものかもしれない。693は弥生時代中期の壺である。694は台が付く壺の底部で、内面には格子状の線刻を施している。699は甕の底部である。底部に孔が穿たれていることから、甗に

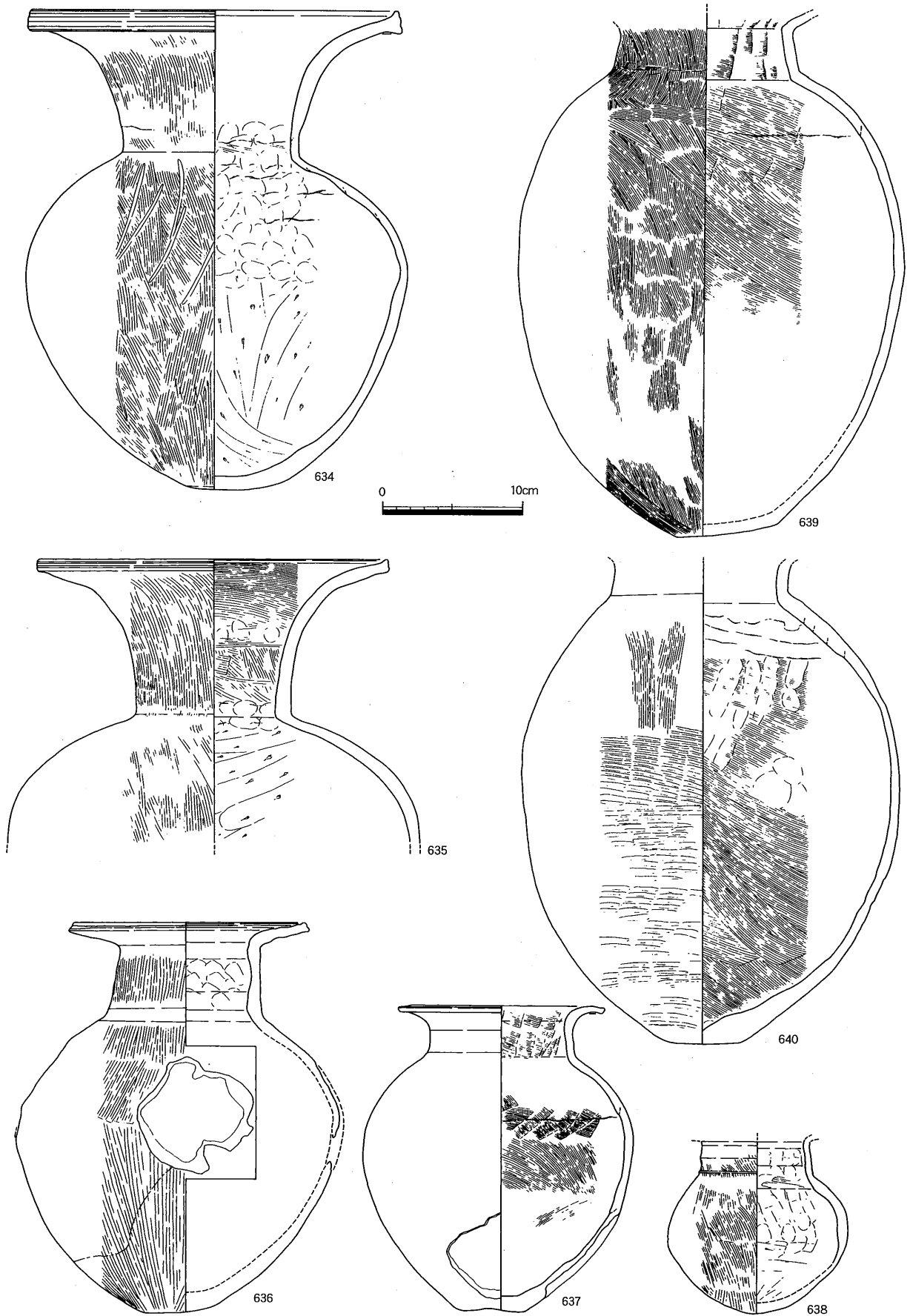


B群

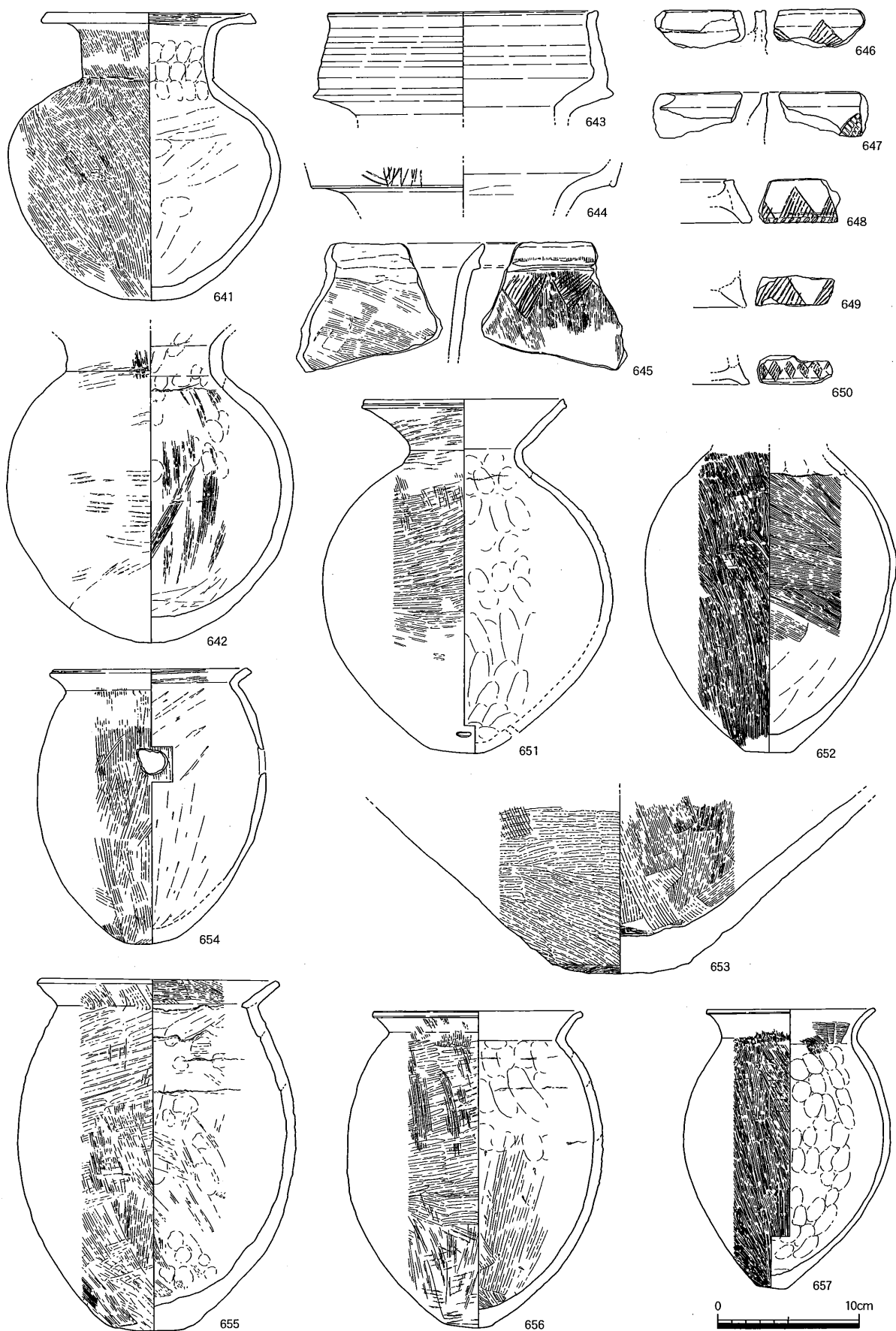


C群

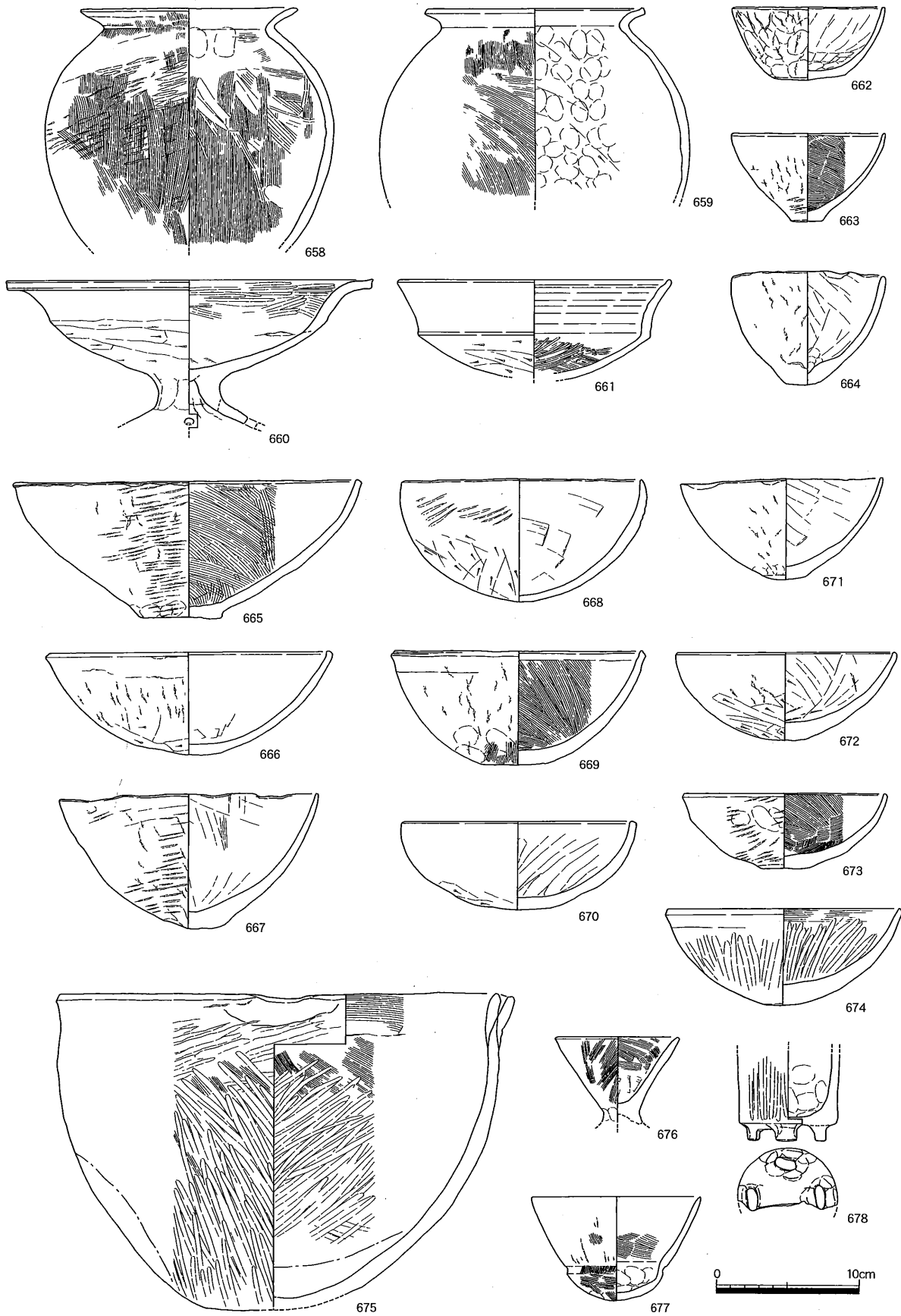
第99図 SRa02 B群・C群出土遺物



第100图 SRa02D群出土遺物 (1)

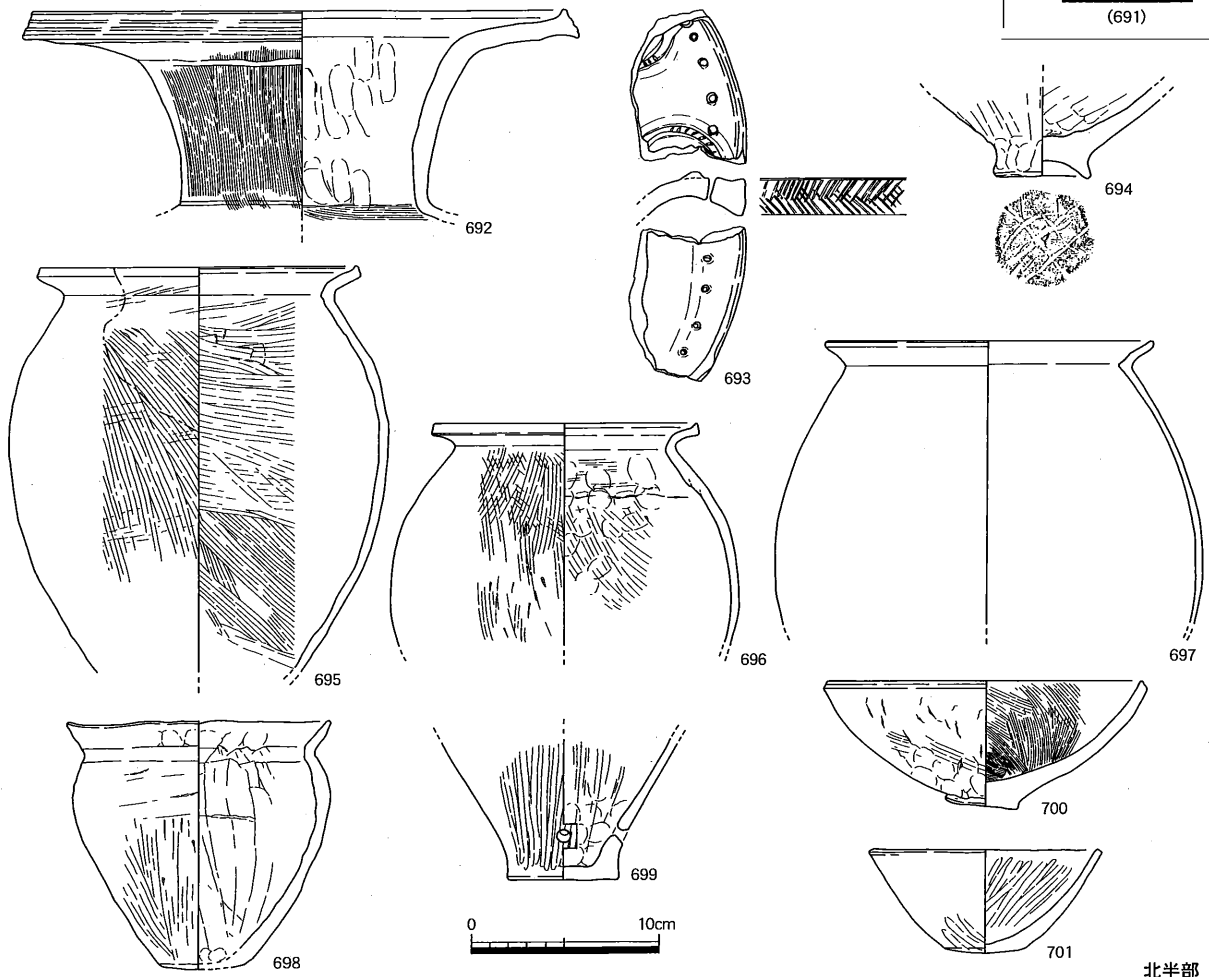
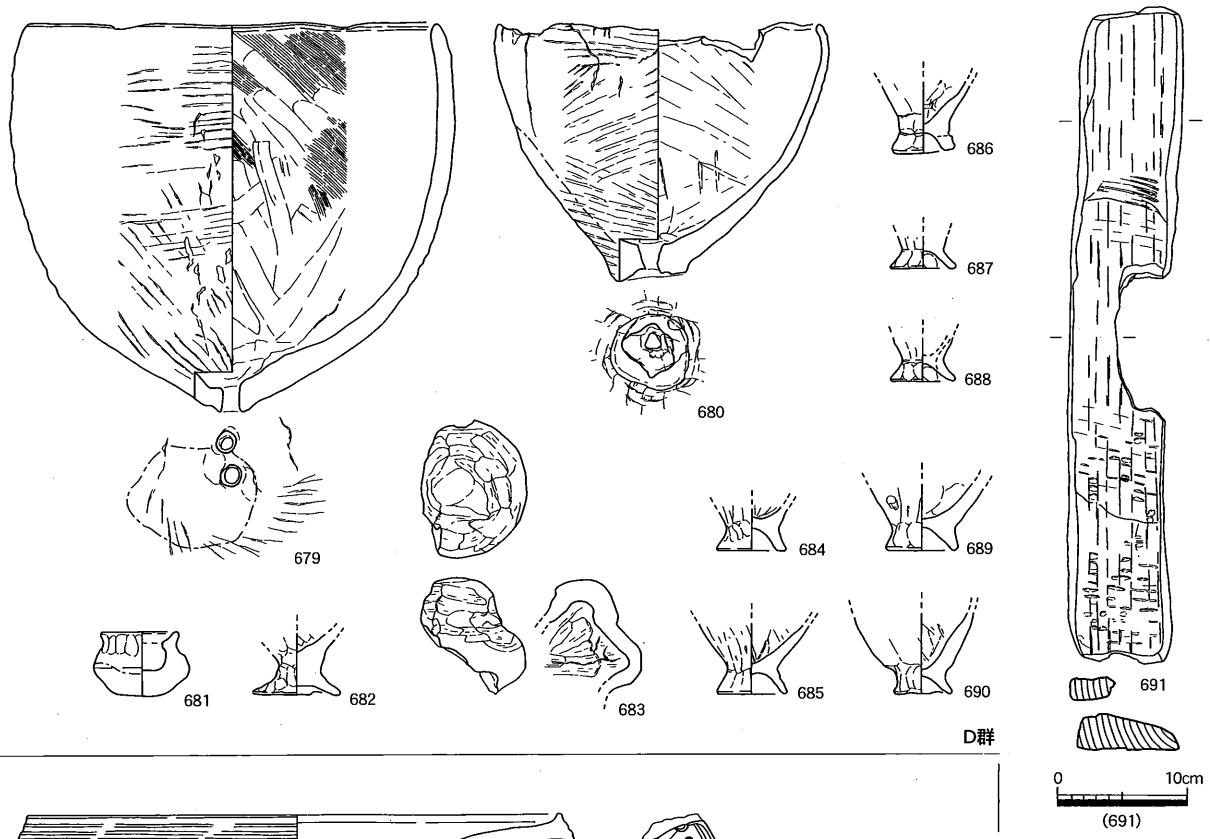


第101図 SRa02D群出土遺物(2)

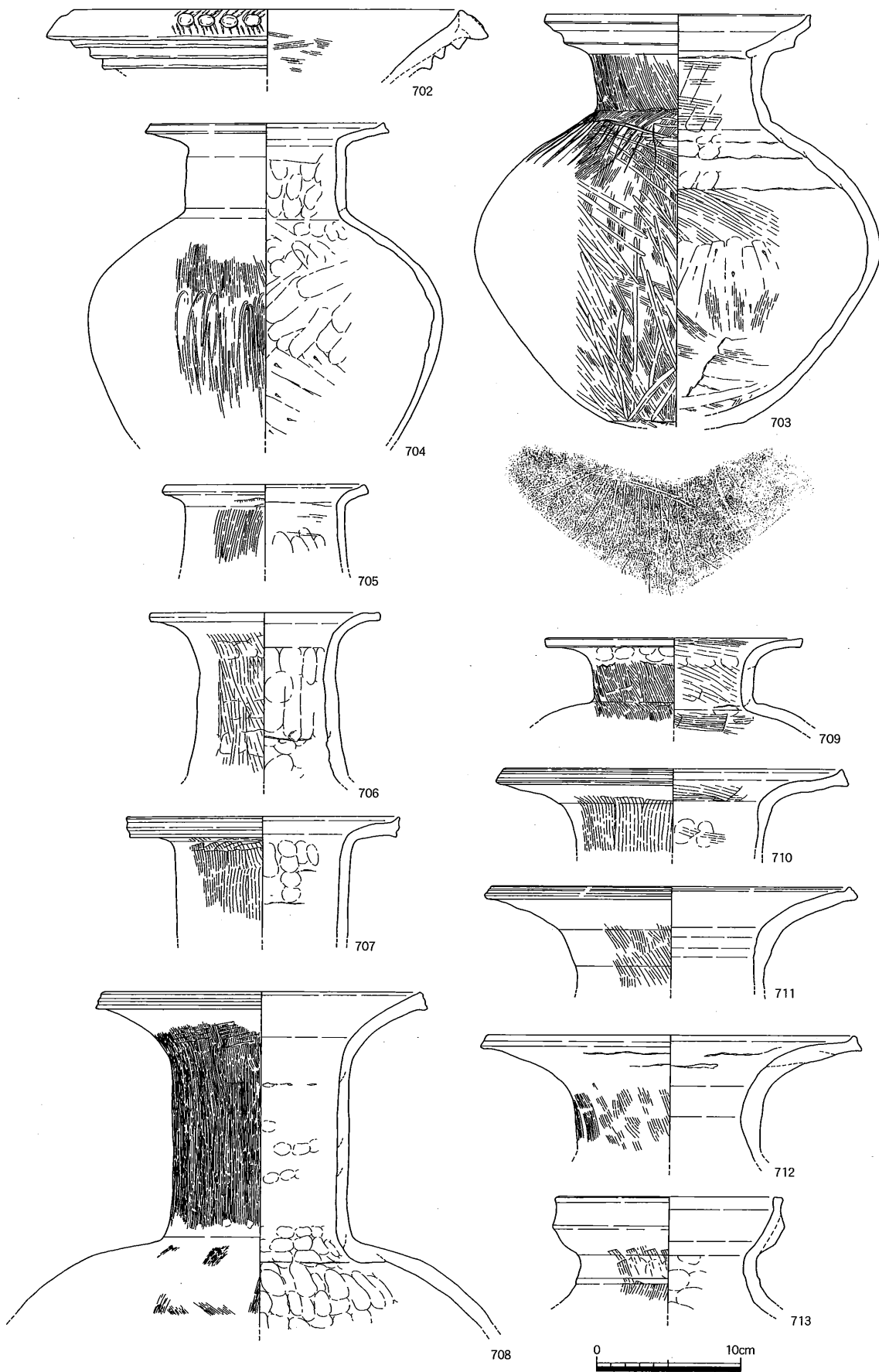


第102図 SRa02 D群出土遺物 (3)

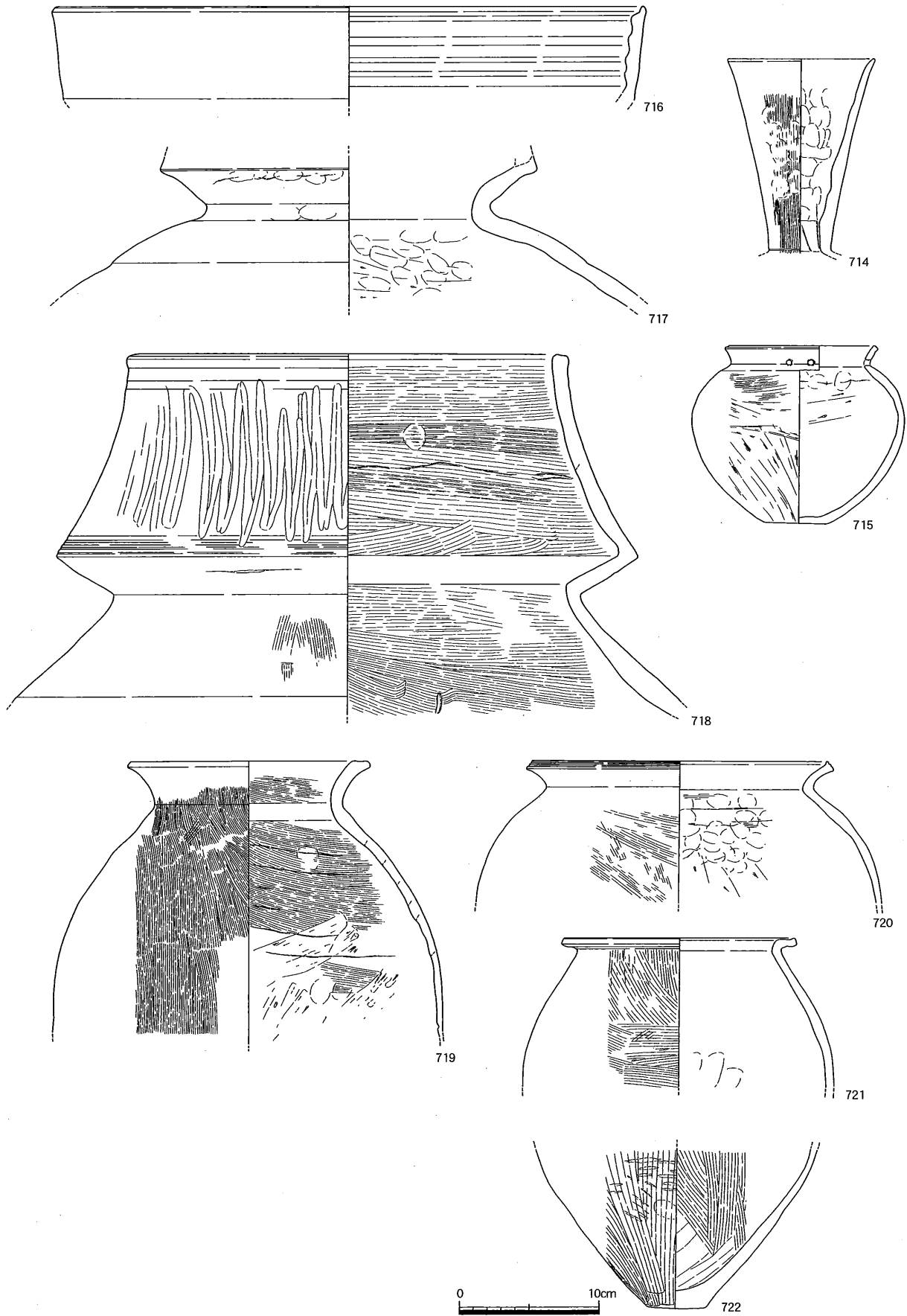




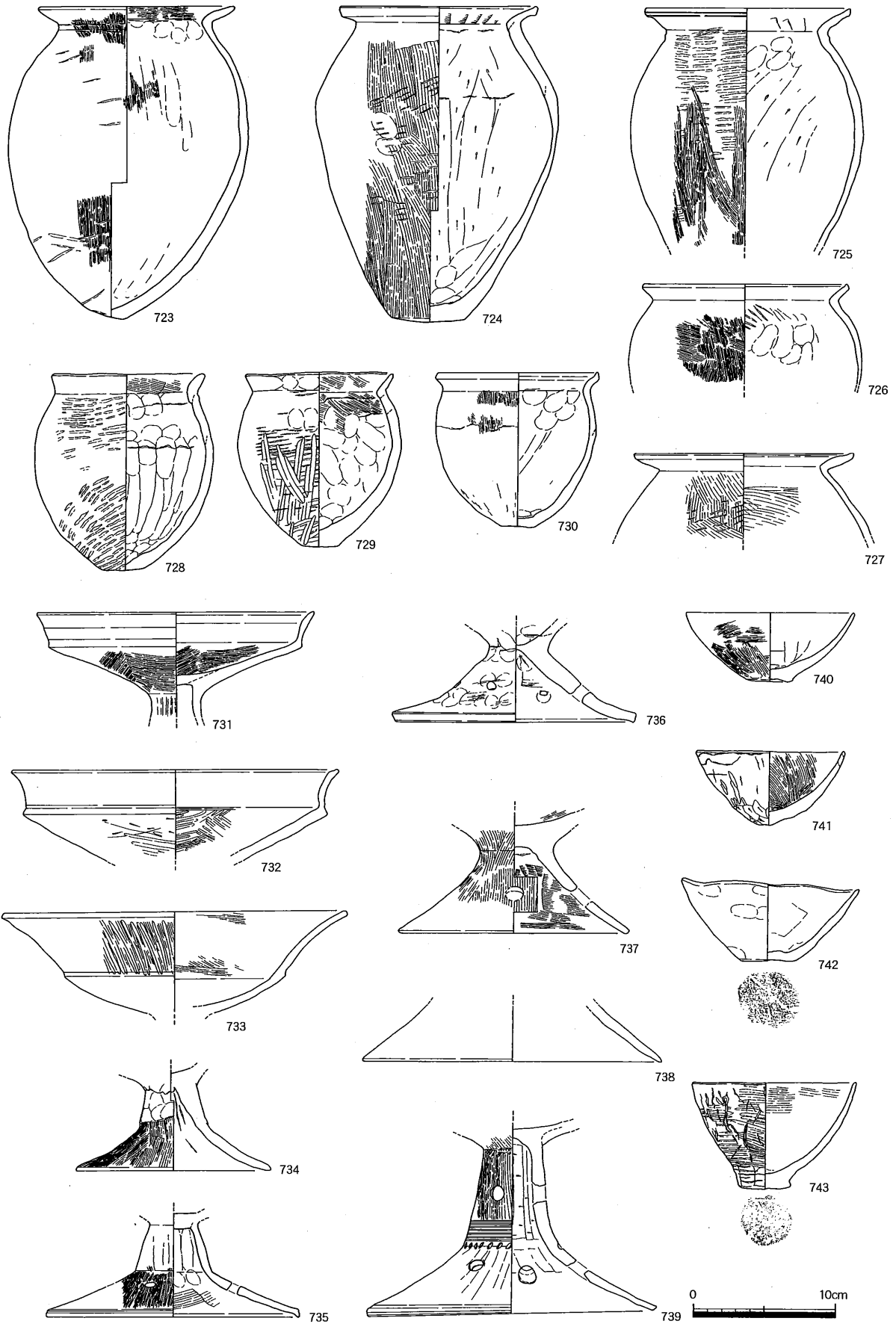
第103图 SRa02D群(4)·北半部(1)出土遺物



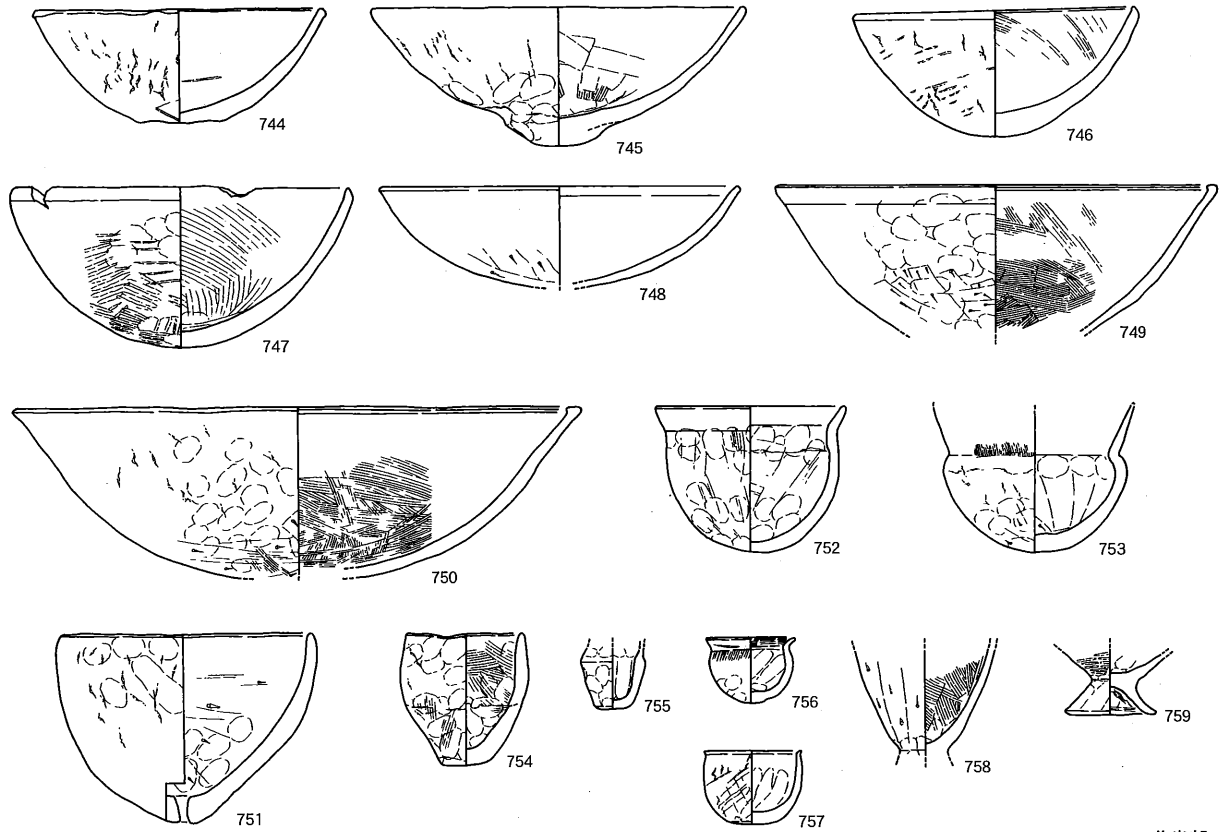
第104図 SRa02北半部出土遺物 (2)



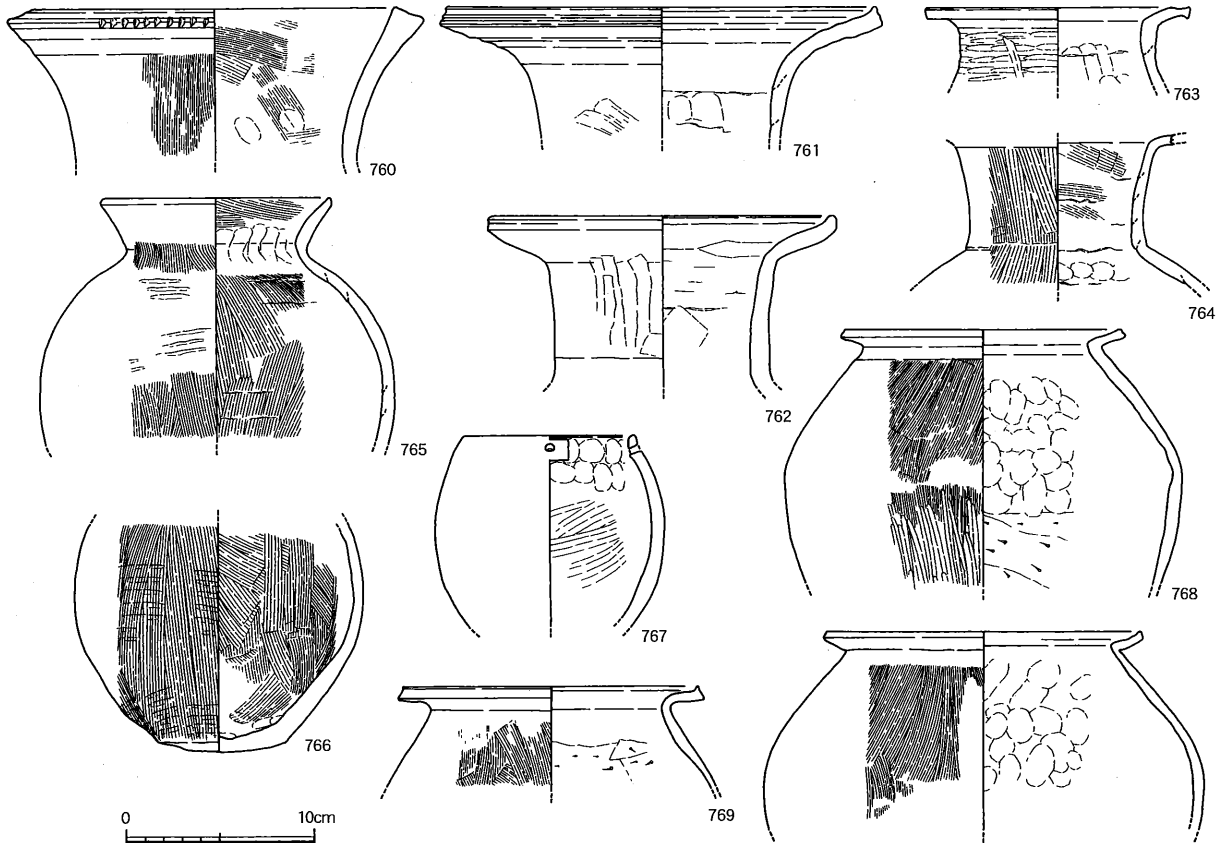
第105图 SRa02北半部出土遺物 (3)



第106图 SRa02北半部出土遺物 (4)

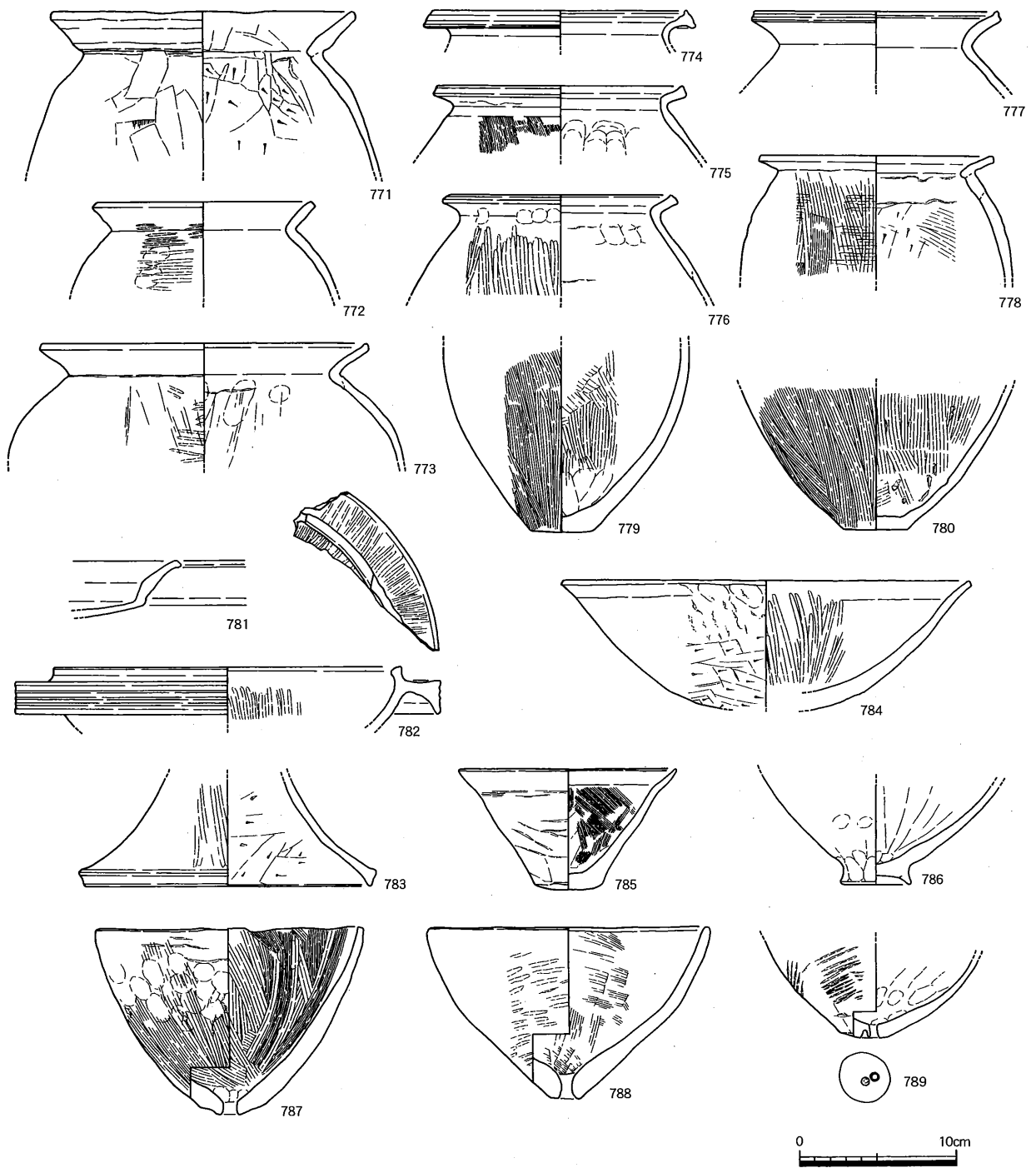


北半部

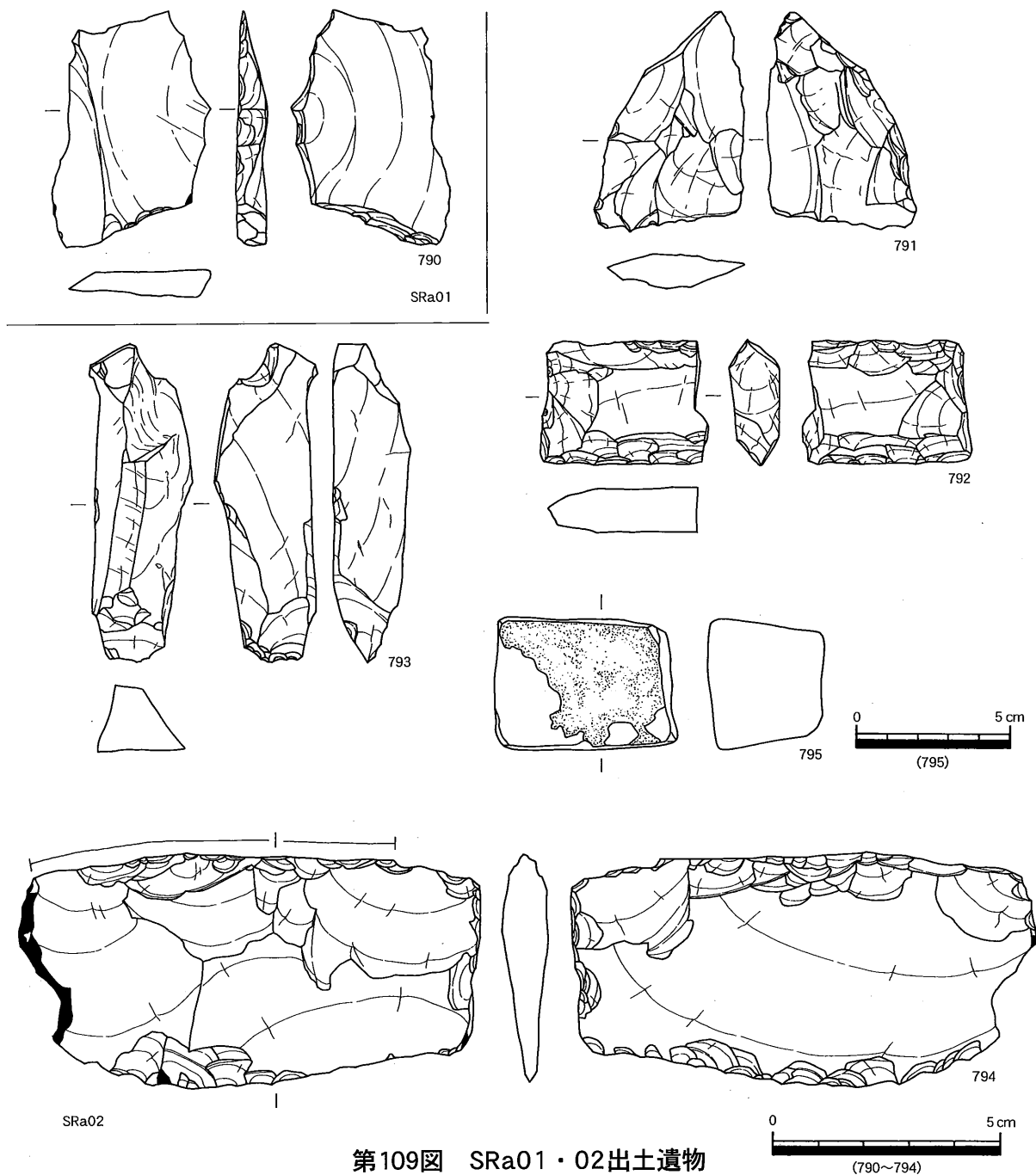


770  
南半部

第107图 SRa02北半部(5)·南半部(1)出土遺物



第108图 SRa02南半部出土遺物 (2)



第109図 SRa01・02出土遺物

転用したものかもしれない。

前記上層出土以外のSRa02の北半部（Ⅱ区）から出土した土器は、第104～107図702～759である。これらの土器も先に述べたように、本来B・C・D群の土器が少なからず含まれている可能性がある。

702～718は壺である。703は線刻土器である。体部上半部に縦線と横線とで描いている。何をあらわしたものかは不明であるが、住居跡を描いた可能性も考えられる。716～718は複合口縁の大型の土器で、718等は土器棺に使えるような壺の口頸部で、可能性として土器棺を作る際に不要な口頸部を廃棄した可能性が考えられる。また、複合口縁の口縁部が内傾するこのタイプは、高松市の円養寺墳墓群出土の土器棺に類似している。719～730は甕の資料である。727は形

状・調整等より土師器に含めるものかもしれない。731～739は高杯である。731・732は形状・調整等より下川津B類に含まれるものと考えられる。740～750は鉢である。鉢は甕同様かなり出土量が多く、また、残りの良いものが多い。大きさ的にかなりバラツキがある。752・753は小型丸底壺である。754～757はミニチュアの土器である。ミニチュアの土器は比較的多く、この河川で祭祀行為を行った可能性も考えられる。758・759は脚台付の製塩土器である。758はヘラ削りの手法等より弥生時代後期後半頃、759は丸味をもった体部、外面に細いタタキを施している点等より、古墳時代前期前半頃の製塩土器と考えられる。

SRa02の南半部（I区）から出土したのは、第107・108図760～789の土器である。

760～767は壺である。761は広口壺で下川津B類に類似する。767は弥生時代中期頃の無頸壺である。768～780は甕である。甕の中には下川津B類に類似する土器が注目できる。768・769・770等は下川津B類に類似している。772は形状、外面の調整等より土師器に含めるものかもしれない。773は形状より土師器の甕に区分した。781～783は高杯である。782は形状より弥生時代中期後半頃の高杯である。784～786は鉢である。787～789は甕である。789の底部には2孔あるが、1孔は貫いていない。

第109図791～795はSRa02から出土した石器である。795は砂岩製の砥石で、他はサヌカイト製の石器類である。791は先端部を損失した石鏃の未製品である。792は分割面が認められるため、楔形石器に分類した。793は楔形石器の削片である。正面には両極打法によるものと考えられる、上・下方向からの剥離痕が認められる。794は打製の石庖丁である。

#### SRa03（第97・98図）

I区西端部よりⅢ区南端部の第3遺構面上で検出した自然河川である。確認できたのは、河川の東岸部で、最深部及び西岸部については調査区より外れるため不明である。

SRa02の西方に位置し、I区では南北方向に伸び、Ⅲ区では僅かに西に振りⅨ区へと続く。河川の一部を検出ただけで、全体的に不明な点が多いが、断面を見る限り緩やかな傾斜を呈していることから、比較的川幅の広い自然河川の可能性が高い。隣接するSRa02との前後関係は、Ⅲ区南壁の土層からSRa02より後出する。東西長9.0m以上、南北長17.0m以上を測る。微高地からの深さは約2.0mを測る。

なお、Ⅲ区のSRa03の下位層では、微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる多量の弥生時代後期後半～後期末頃の土器からなる土器溜りを検出しA群と仮称した。

#### SRa03出土遺物（第110～115図）

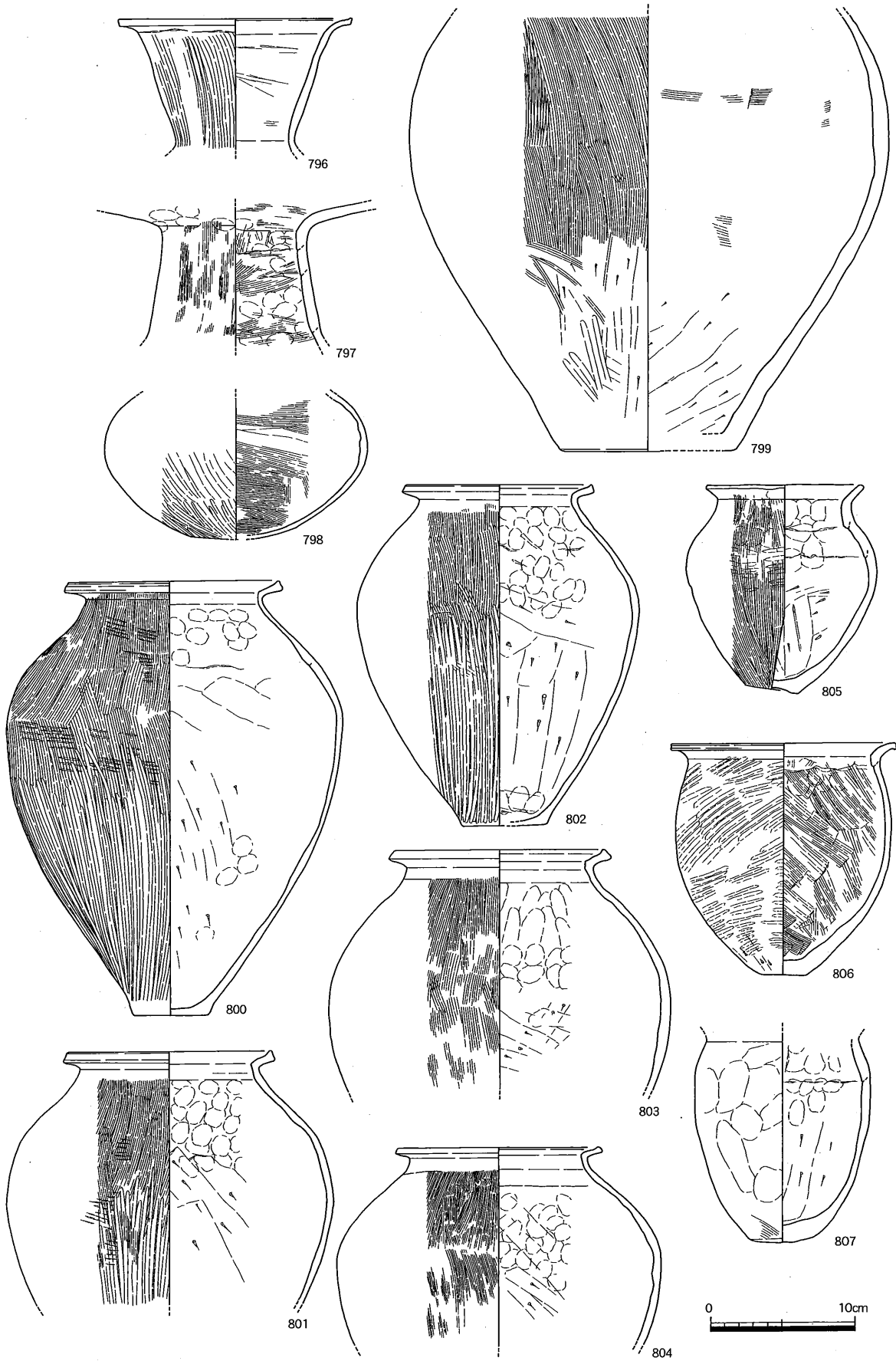
SRa03からは先に述べたように、微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の土器を主にした土器溜りA群を検出した。また、A群に属さない土器も多量に出土しており、A群の報告後にこれらの土器を報告する。

なお、全ての土器を図化するには時間的に無理があり、これらの土器の中から主要な土器を厳選した点を断っておく。

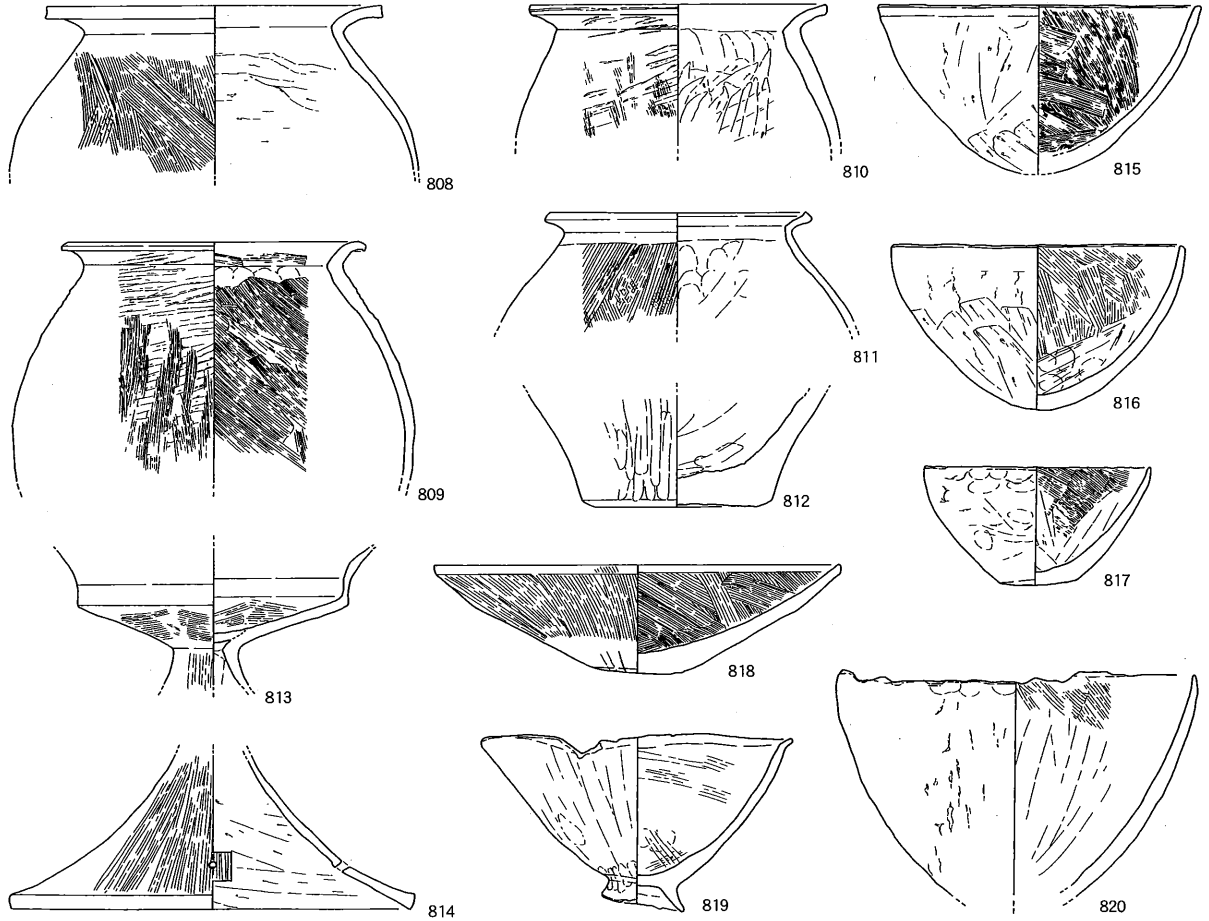
A群から抽出した土器は、第110・111図796～820の土器である。なお、全体的な傾向として、下川津B類に含まれる土器の比率が高い。

796～799は壺である。798は長頸壺の体部である。800～812は甕である。800～804は比較

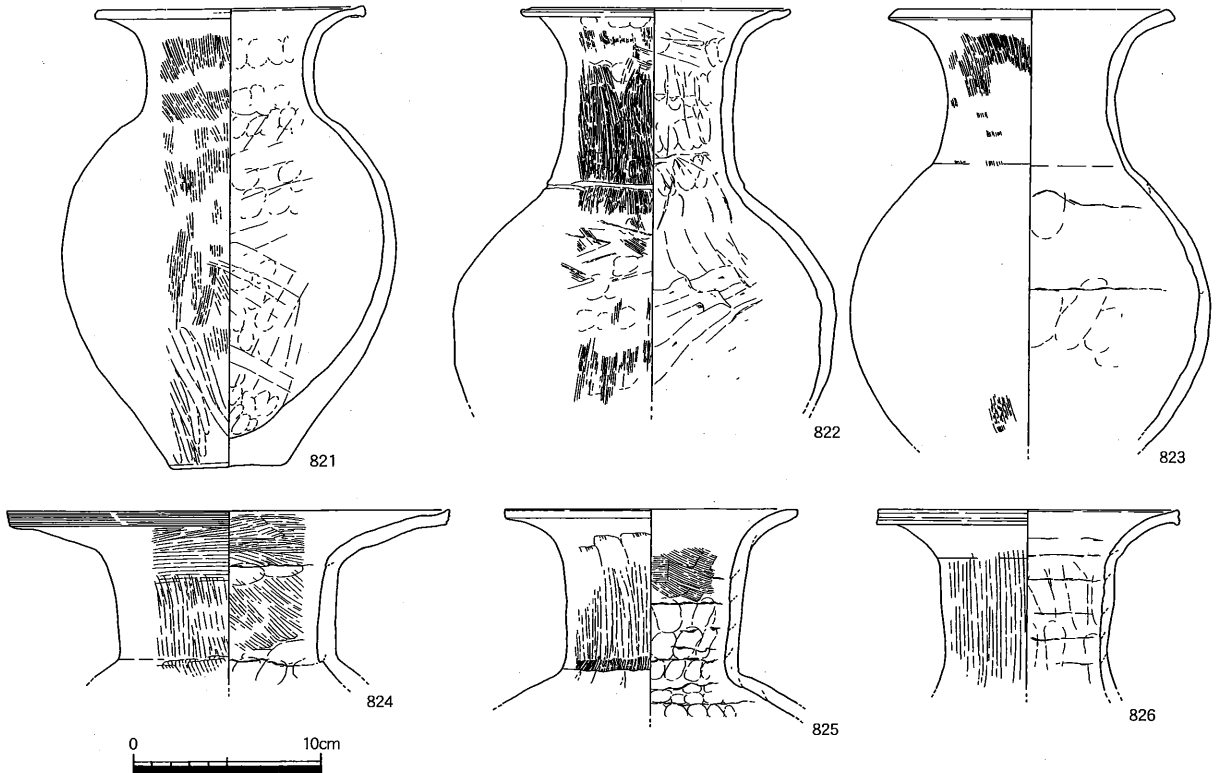




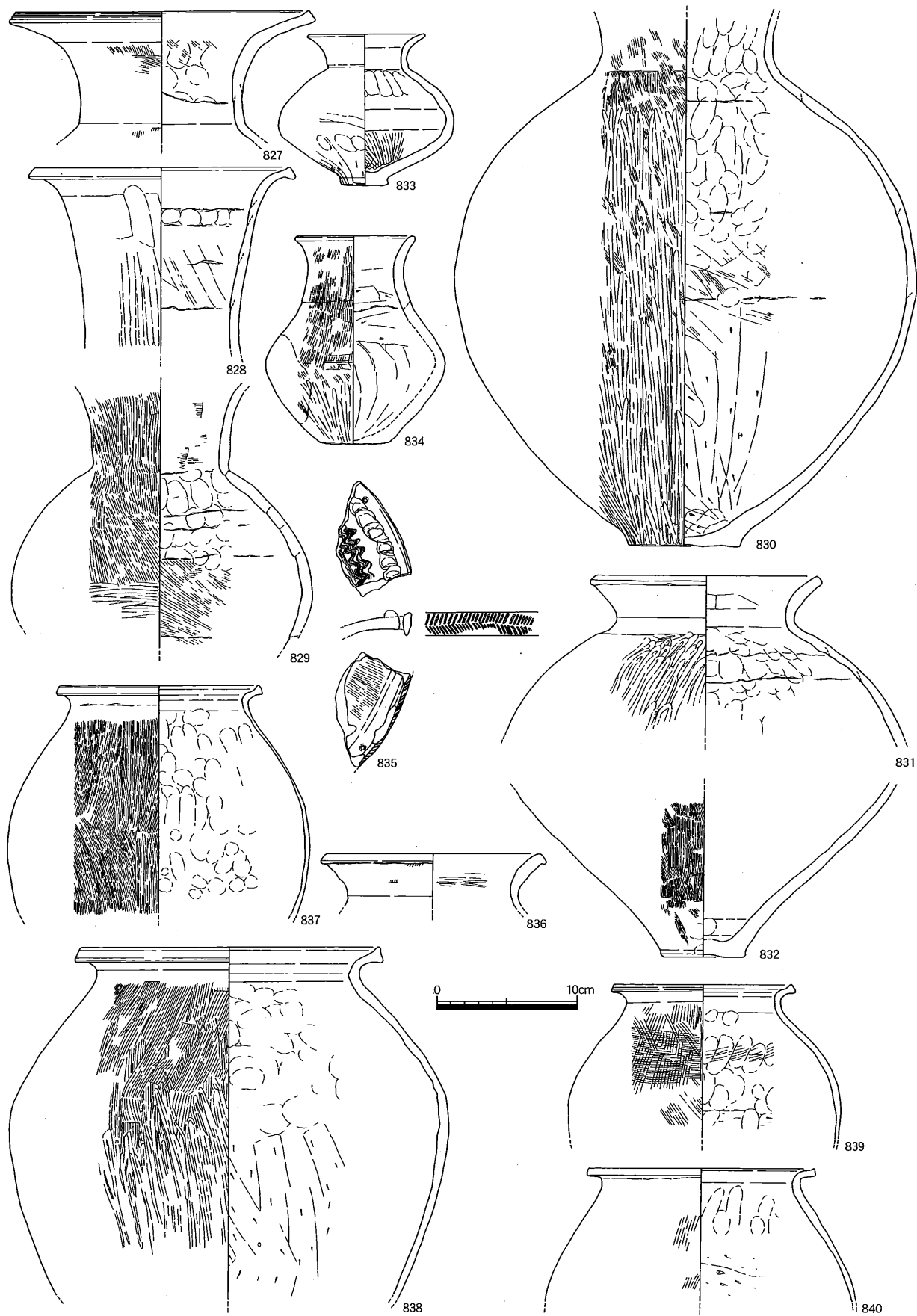
第110図 SRa03 A群出土遺物 (1)



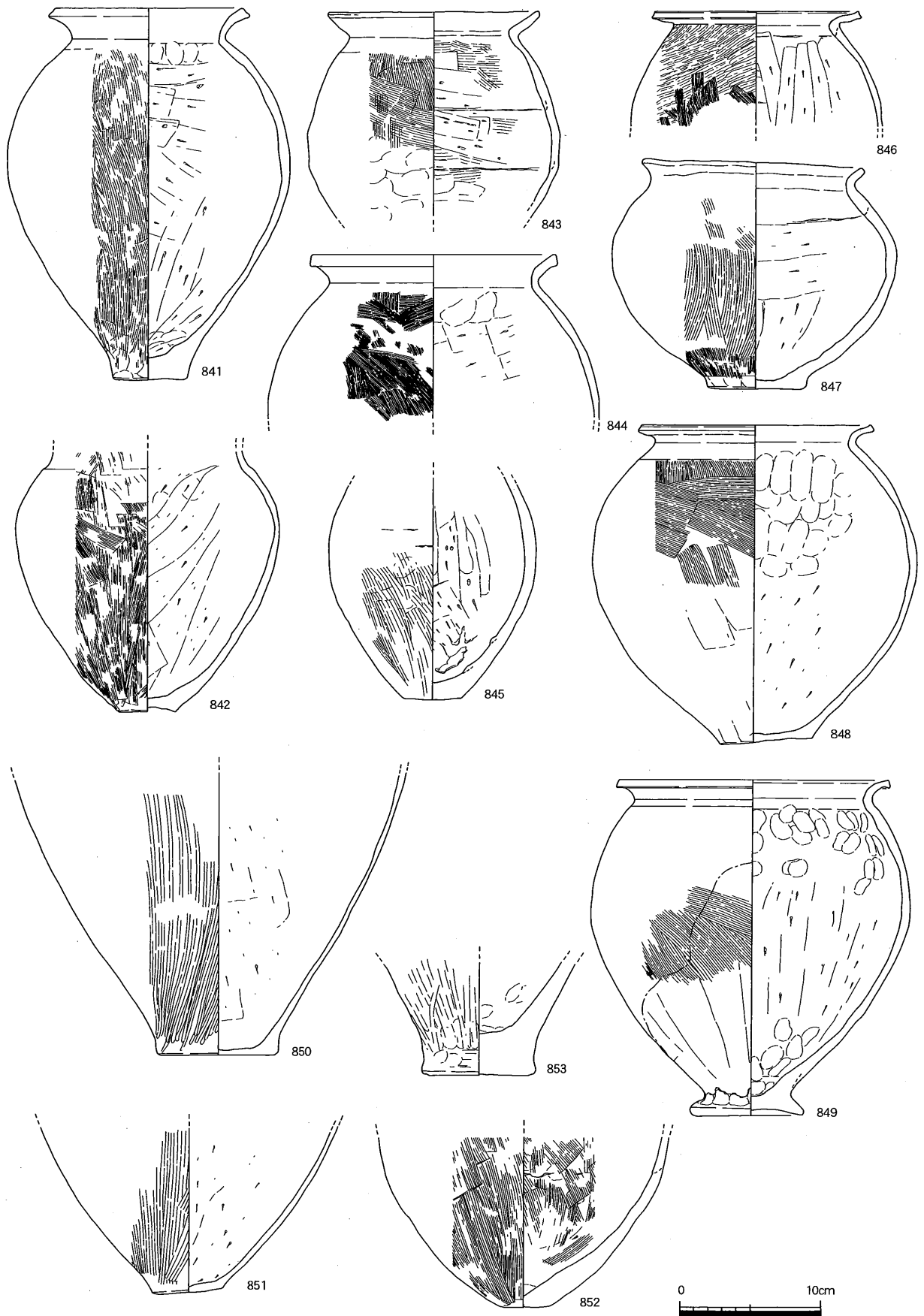
A群



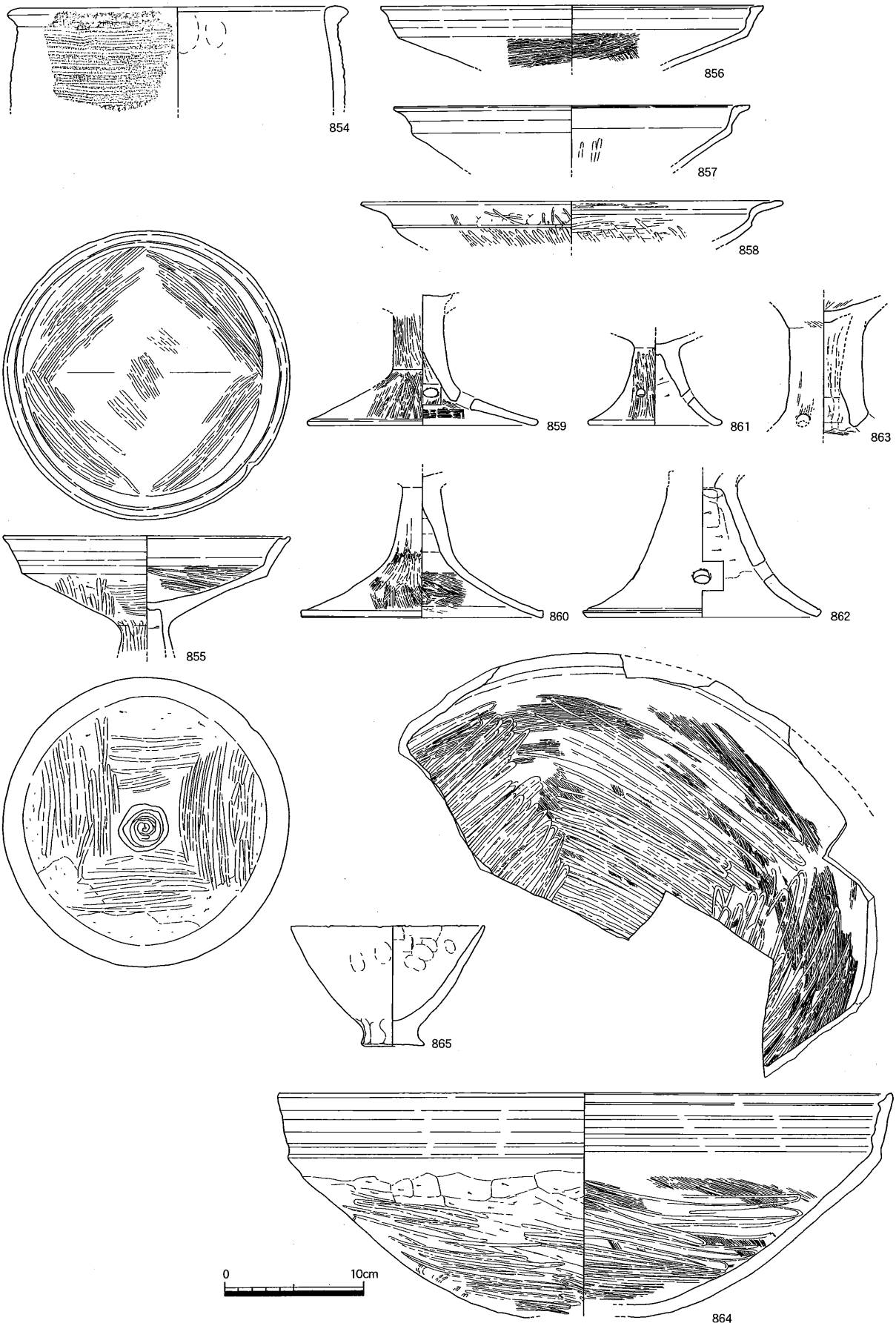
第111图 SRa03 A群 (2) · 03(1)出土遺物



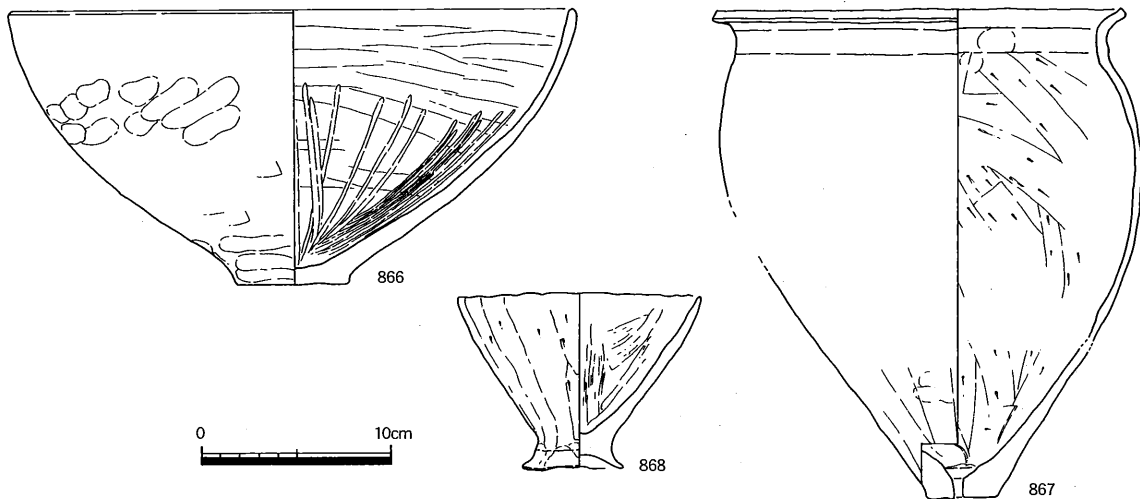
第112図 SRa03出土遺物 (2)



第113圖 SRa03出土遺物 (3)



第114図 SRa03出土遺物(4)



第115図 SRa03出土遺物 (5)

的残りの良い下川津B類の甕である。これらの中の801には焼成破損が認められる。813・814は高杯である。814の高杯脚部は、胎土・調整等より下川津B類に分けられる。

A群以外の土器としては、第111～115図821～868の土器があげられる。なお、A群同様に、傾向として下川津B類に含まれる土器の比率が高い。

821～835は壺である。835は弥生時代中期の壺の口縁部である。831は無頸壺の上半部である。836～854は甕である。837・838は下川津B類の土器である。839・840は下川津B類に類似する甕である。847～849は比較的器高の低い一群で、849は底部に台が付く台付の甕である。853は弥生時代中期頃の甕の底部であろう。855～863は高杯である。855～857は下川津B類の土器である。864～866・868は鉢である。864は大型の鉢で、胎土・手法等で下川津B類に含まれるものと考えられる。865・868は台付の鉢である。

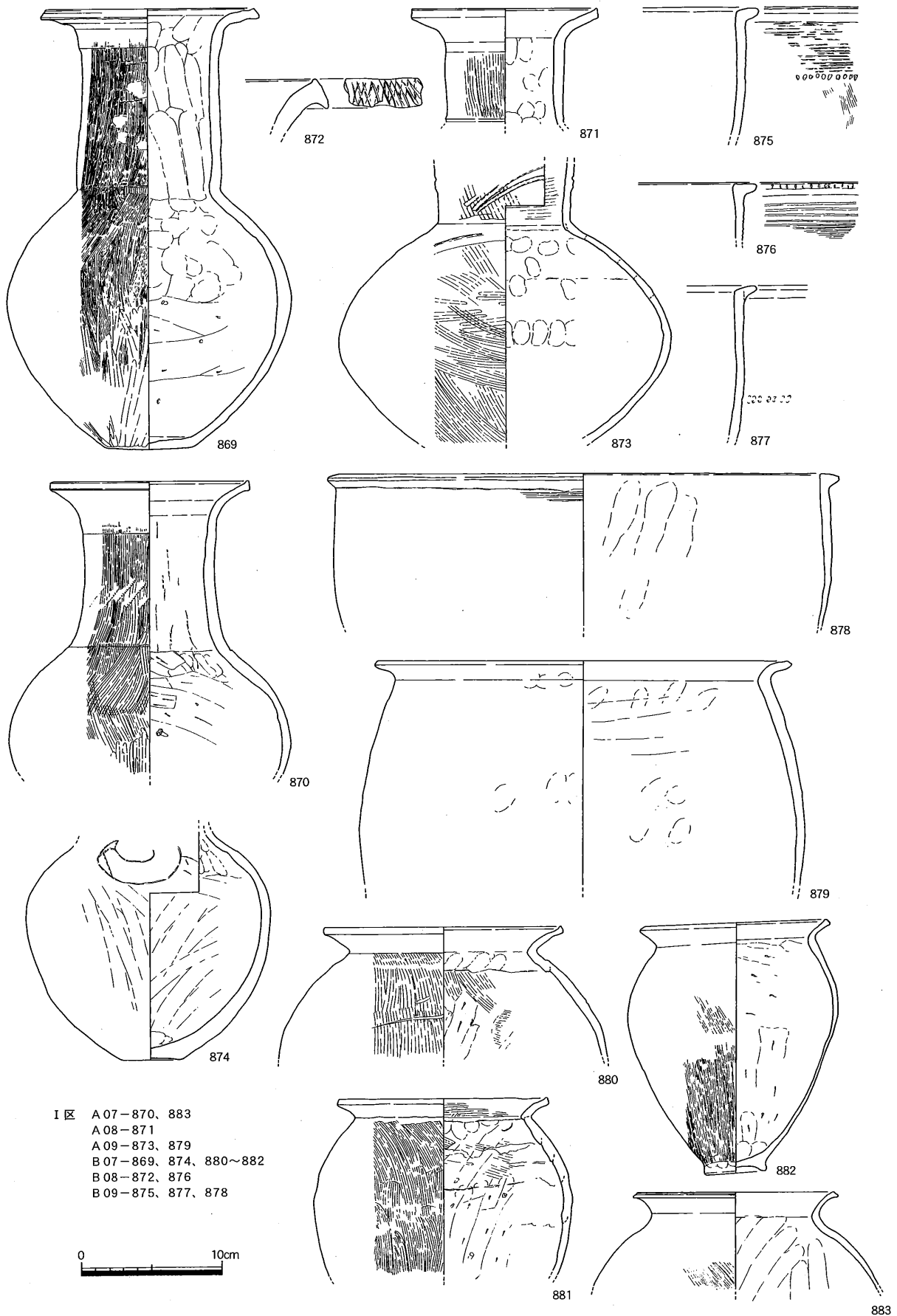
なお、第76図407の器台の主要な部分は、SRa03のA群より出土していたが、SDa64から出土した土器片と接合したため、便宜上、SDa64出土遺物として報告している事を断っておく。

### (9) 包含層出土の遺物

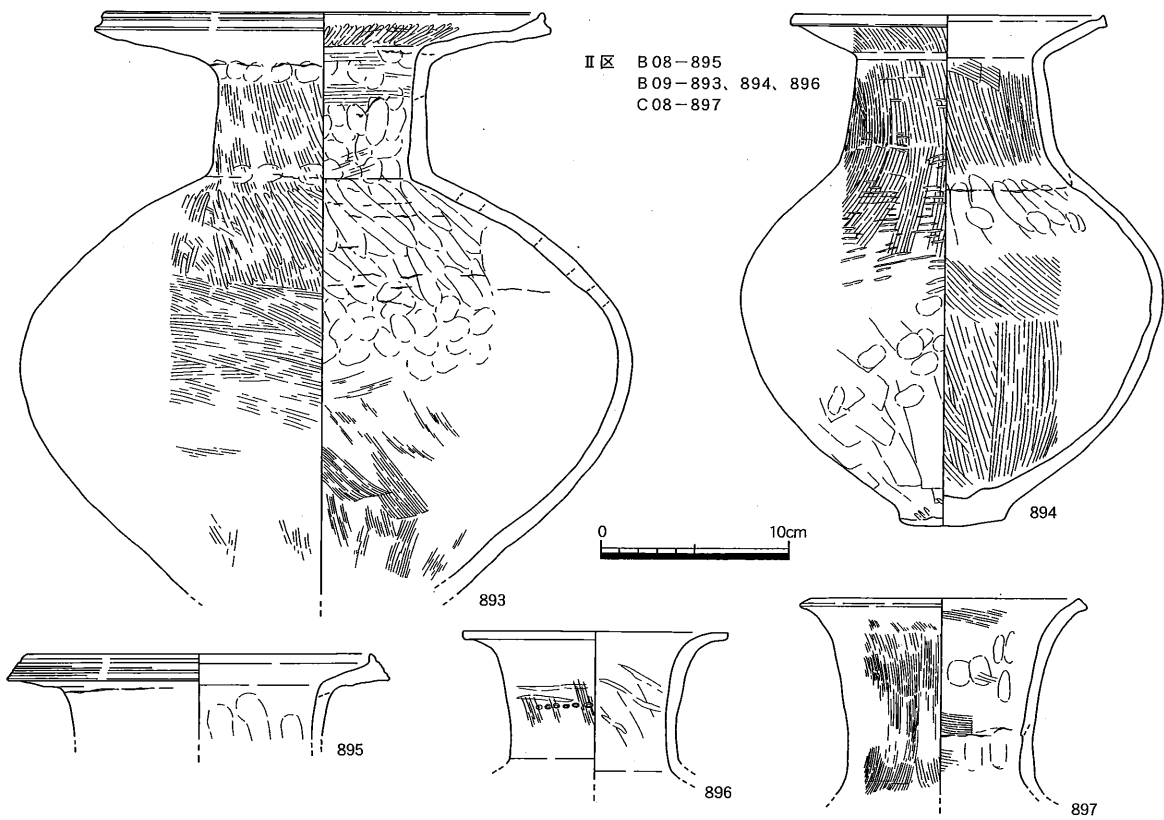
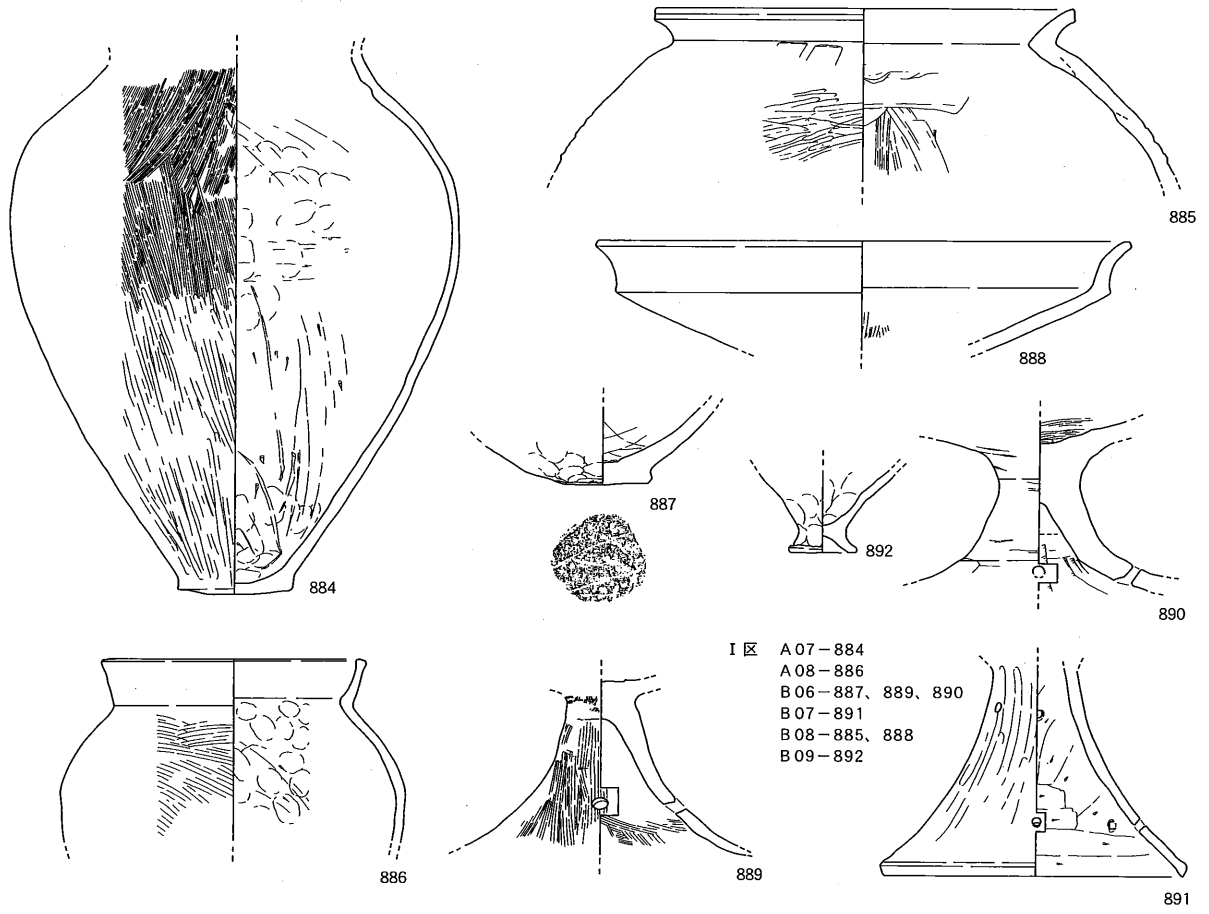
調査区のほぼ全域には、層厚約0.5mを測る褐色系の粘質土の堆積層が広がっている。堆積層はⅡ区の北壁断面に記載している、第7図5・6層が代表している堆積層で、地点により様相が変化しているところがあるが、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区及び南水路②③のほぼ全域に広がっている。この堆積層中からは、少量ではあるが弥生時代前期・中期や、古墳時代前期のものも含むが、弥生時代後期後半前後のものを中心にした多量の遺物が出土した。これらの遺物を調査区単位に報告する。なお、全ての遺物を図化するには時間的に無理があり、これらの遺物の中から主要なものを選んだ。また、挿図中には各調査区の内訳と、出土したグリット単位での内訳を記載している点を断っておく。

#### Ⅰ区包含層出土土器 (第116・117図)

Ⅰ区から出土した土器は、第116・117図869～892の土器である。869～874は壺である。869は下川津B類の長頸壺である。注目できるものでは873・874の線刻土器がある。873はヘラ状工具により、緩いカーブの線を描いているが、何を意図したものか判断できない。874も同

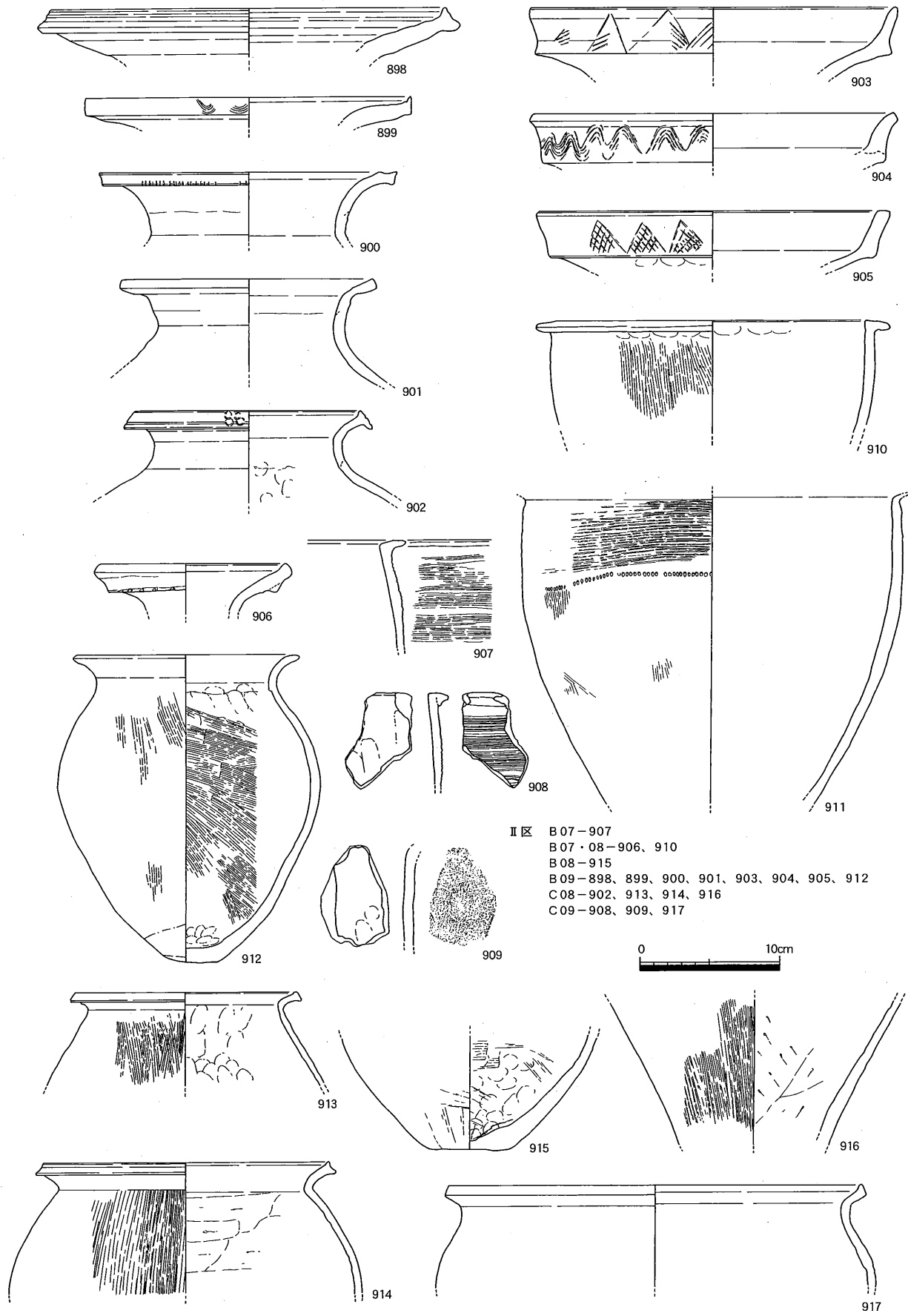


第116图 包含层出土遗物 (1)



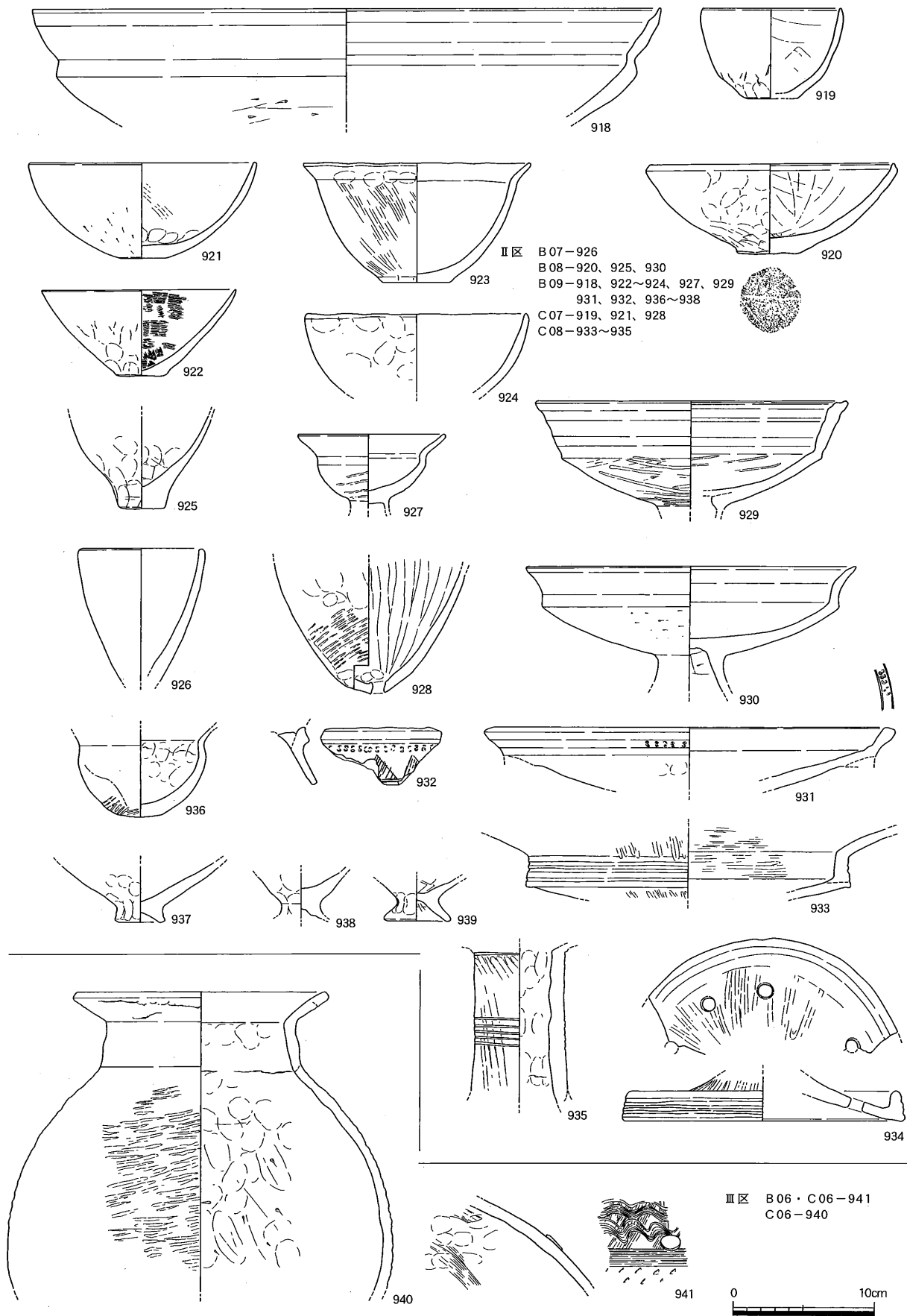
第117图 包含層出土遺物 (2)



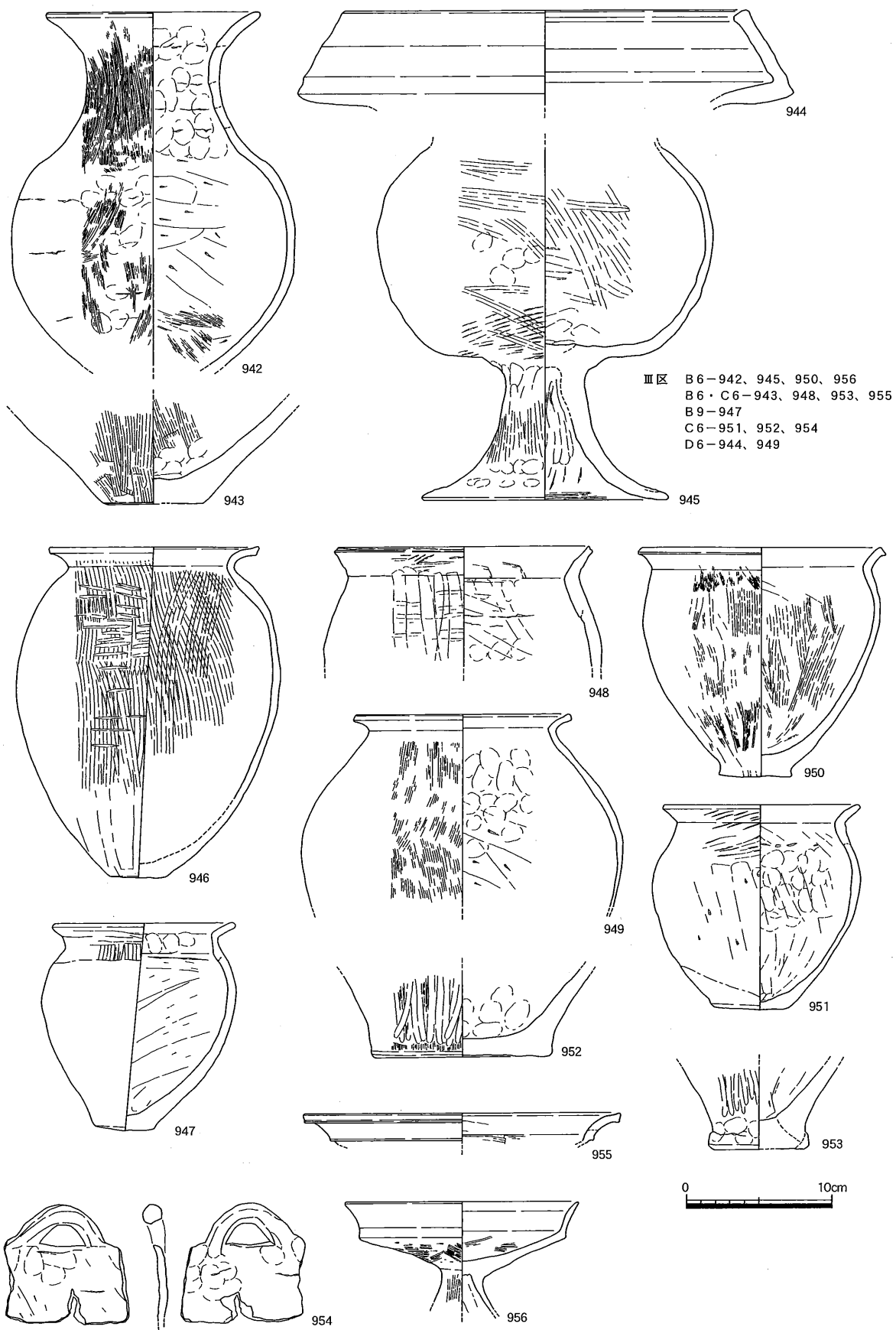


II区 B07-907  
 B07·08-906、910  
 B08-915  
 B09-898、899、900、901、903、904、905、912  
 C08-902、913、914、916  
 C09-908、909、917

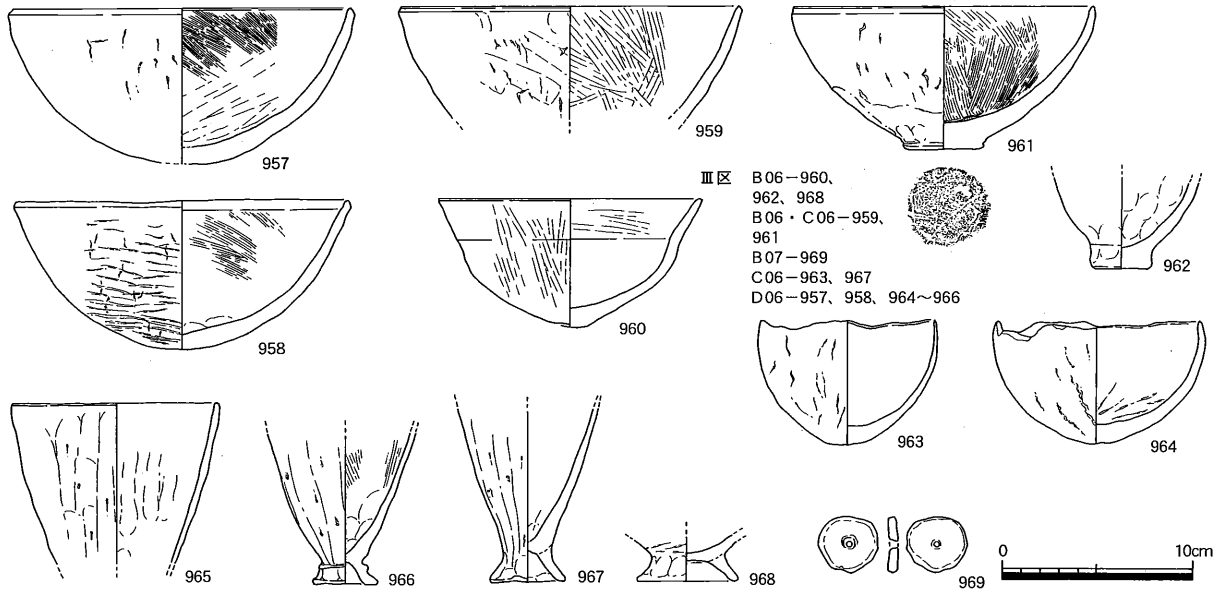
第118图 包含層出土遺物 (3)



第119图 包含層出土遺物 (4)



第120图 包含層出土遺物 (5)



第121図 包含層出土遺物 (6)

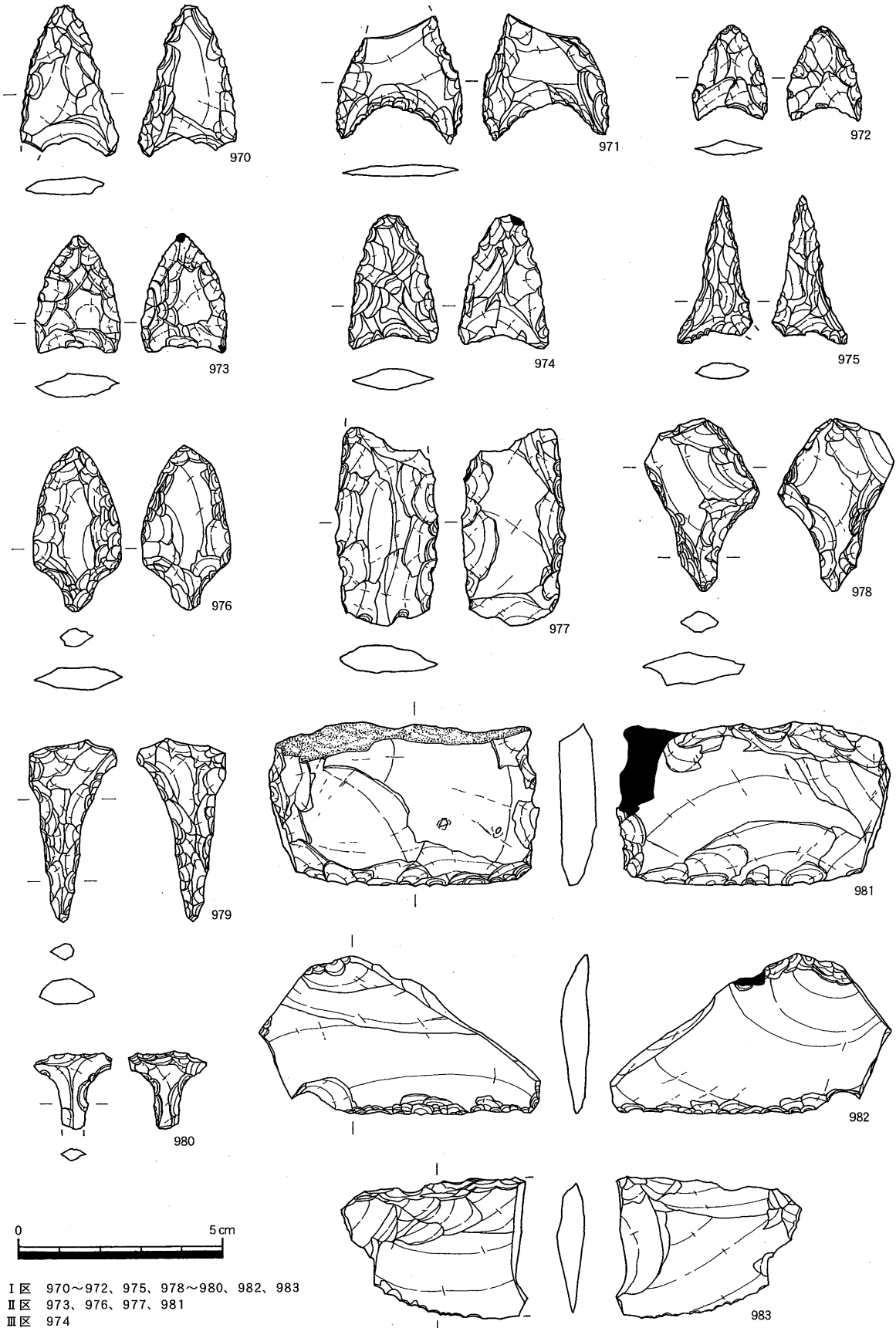
様に「勾玉」状の曲線を描いているが、頭部の部分が不鮮明なため、何を意図したものか判断できない。875～887は甕である。875～878は弥生時代前期後半の甕の上半部である。884は下川津B類に類似した甕である。886は布留系の土師器の甕である。888～891は高杯である。891は下川津B類の高杯脚部である。

### Ⅱ区包含層出土土器 (第117～119図)

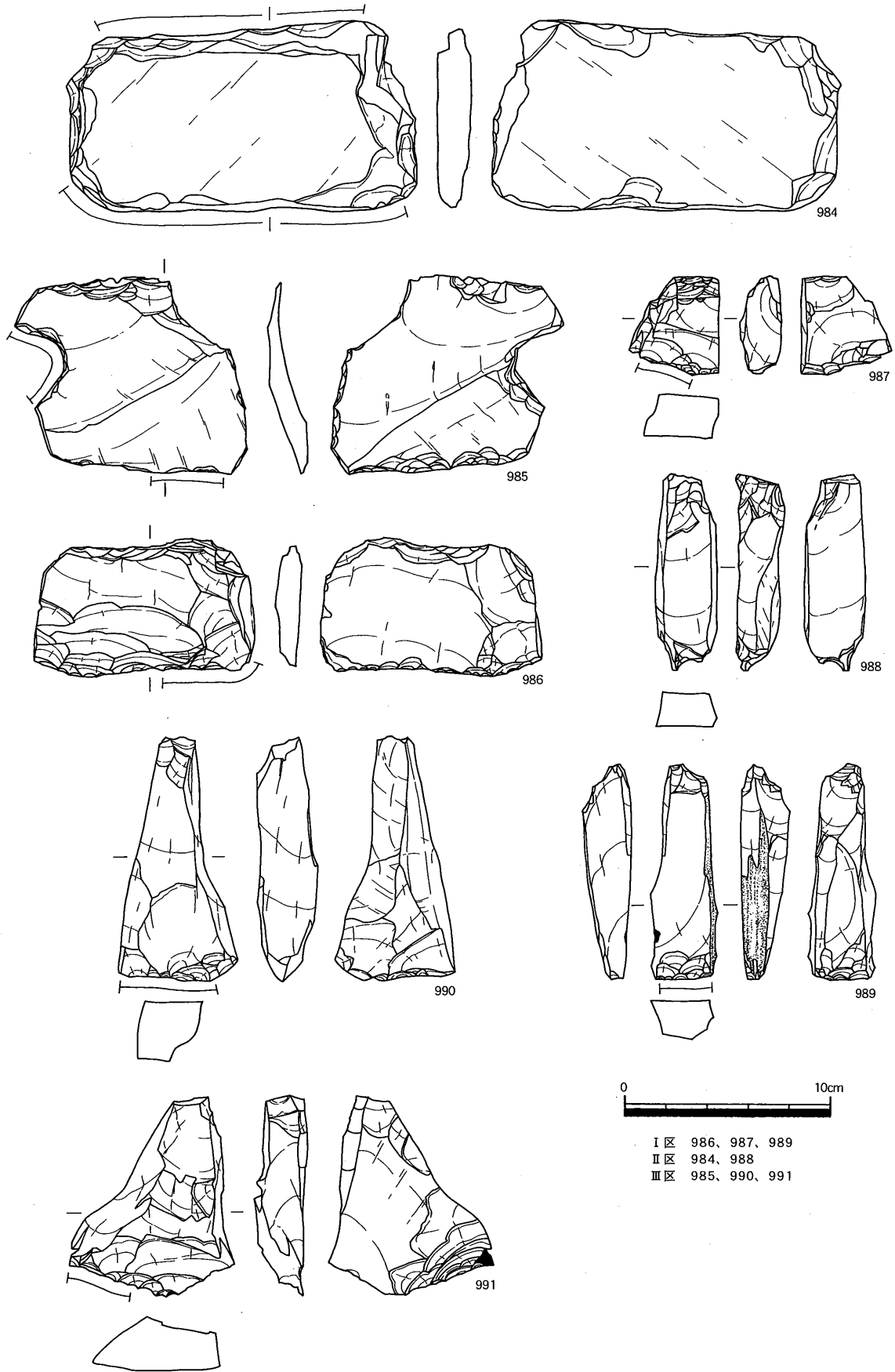
Ⅱ区から出土した土器は、第117～119図893～939の土器である。893～906は壺である。893は比較的大型の広口壺である。898は下川津B類の壺である。903～905は複合口縁の壺の口縁部である。903・905には鋸歯文を施している。907～916は甕である。907～911は弥生時代前期後半の甕である。913は下川津B類の甕である。917～927は鉢である。形態、大きさ等数種類に分けられる。918の大型の鉢は、下川津B類に類似する可能性がある。926・927は台付鉢である。929～935は高杯である。929は下川津B類の高杯である。931～934までの高杯は、形状より装飾高杯の可能性をもつ一群である。932は高杯の口縁部片で、表面には鋸歯文と刺突文を施しており、形状より装飾高杯の可能性がある。なお、931と932は、形状より同一固体の可能性もある。933・934は弥生時代後期前半頃の高杯である。937～939は脚台付製塩土器の脚台部である。形状より古墳時代前期～中期頃のものである。937は脚台部が小型化しており、脚台部が消失する直前の段階の製塩土器である。

### Ⅲ区包含層出土土器 (第119～121図)

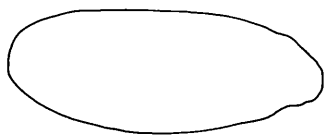
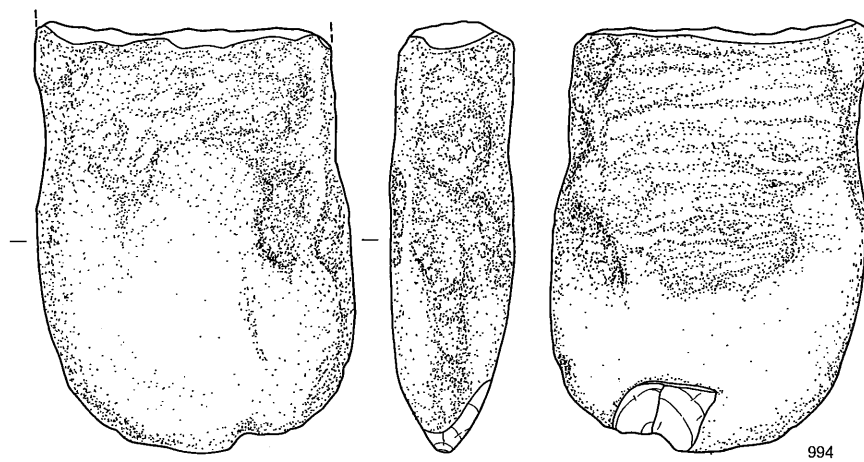
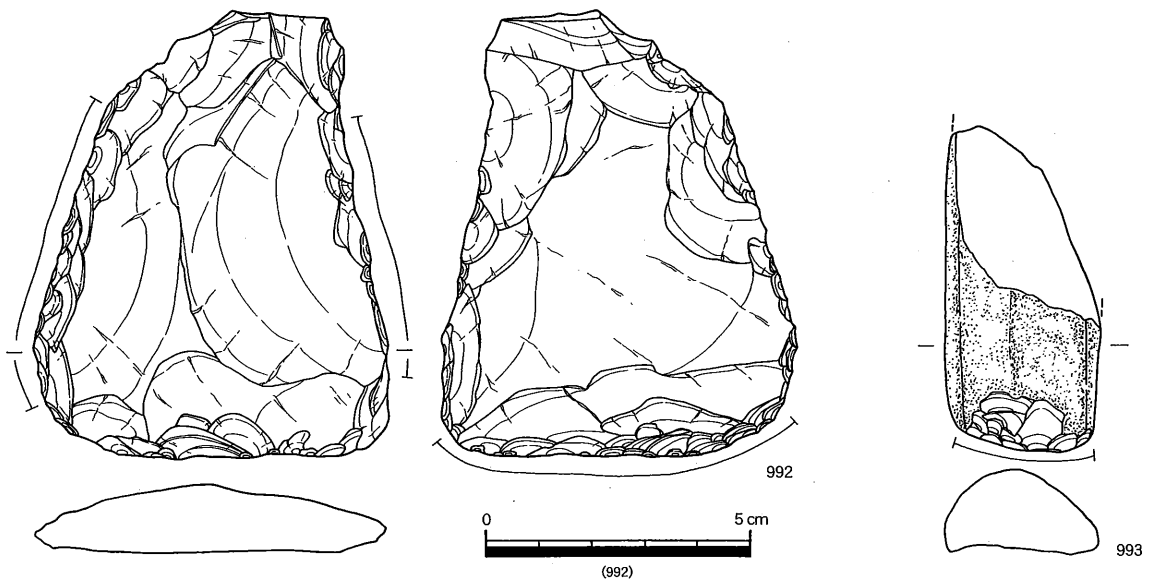
Ⅲ区から出土した土器は、第119～121図940～969の土器である。940～945は壺である。941は弥生時代中期中葉の壺の体部片である。944は口縁部が内傾している、大型の複合口縁の壺である。945は台付きの壺である。全体的に比較的粗雑な作りである。946～954は甕である。949は下川津B類の甕である。954は把手付きの甕である。955・956は高杯である。956は下川津B類に類似する高杯である。957～964は鉢である。965～968は脚台付製塩土器である。外面のヘラ削りの手法や形状から、965～967は弥生時代後期頃の製塩土器である。968は外面のタタキ及び形状より古墳時代前期前半頃の製塩土器と考えられる。



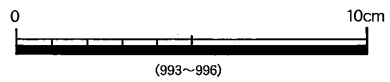
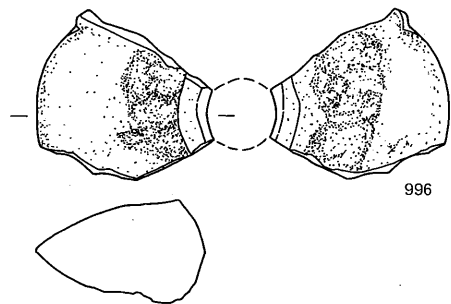
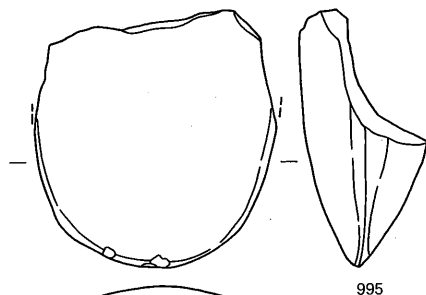
第122图 包含层出土遗物 (7)



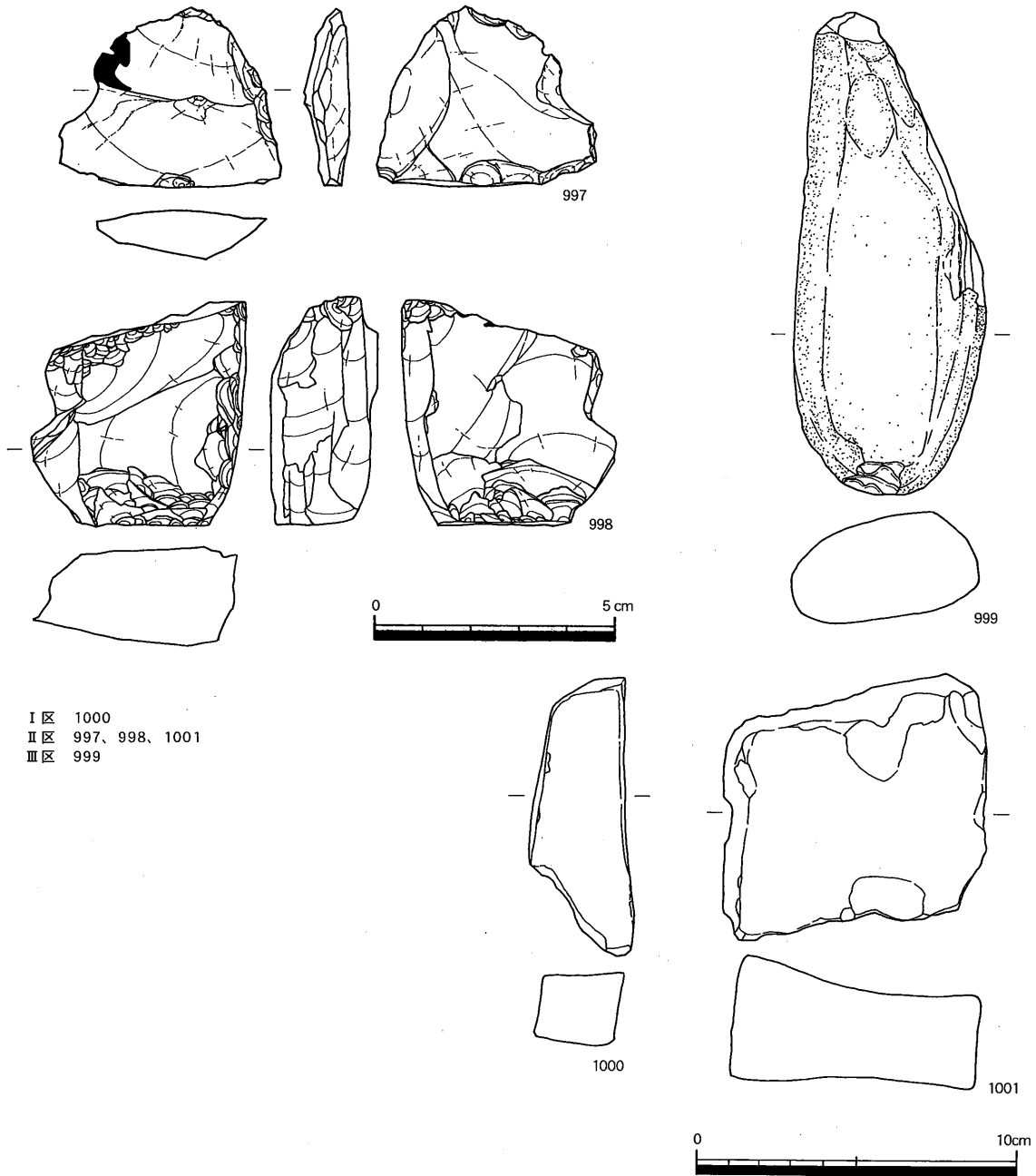
第123图 包含層出土遺物 (8)



I 区 992、993、996  
 II 区 995  
 III 区 994



第124图 包含層出土遺物 (9)



I 区 1000  
 II 区 997、998、1001  
 III 区 999

第125図 包含層出土遺物 (10)

包含層出土石器類 (第122～125図)

包含層からは多量の石器及び剥片類が出土している。これらの石器類は、おそらく弥生時代中期頃の遺構より遊離したものであろう。また、これらの石器類の組成・数量及び出土地点については、第11表を参照していただきたい。以下、器種ごとに報告する。

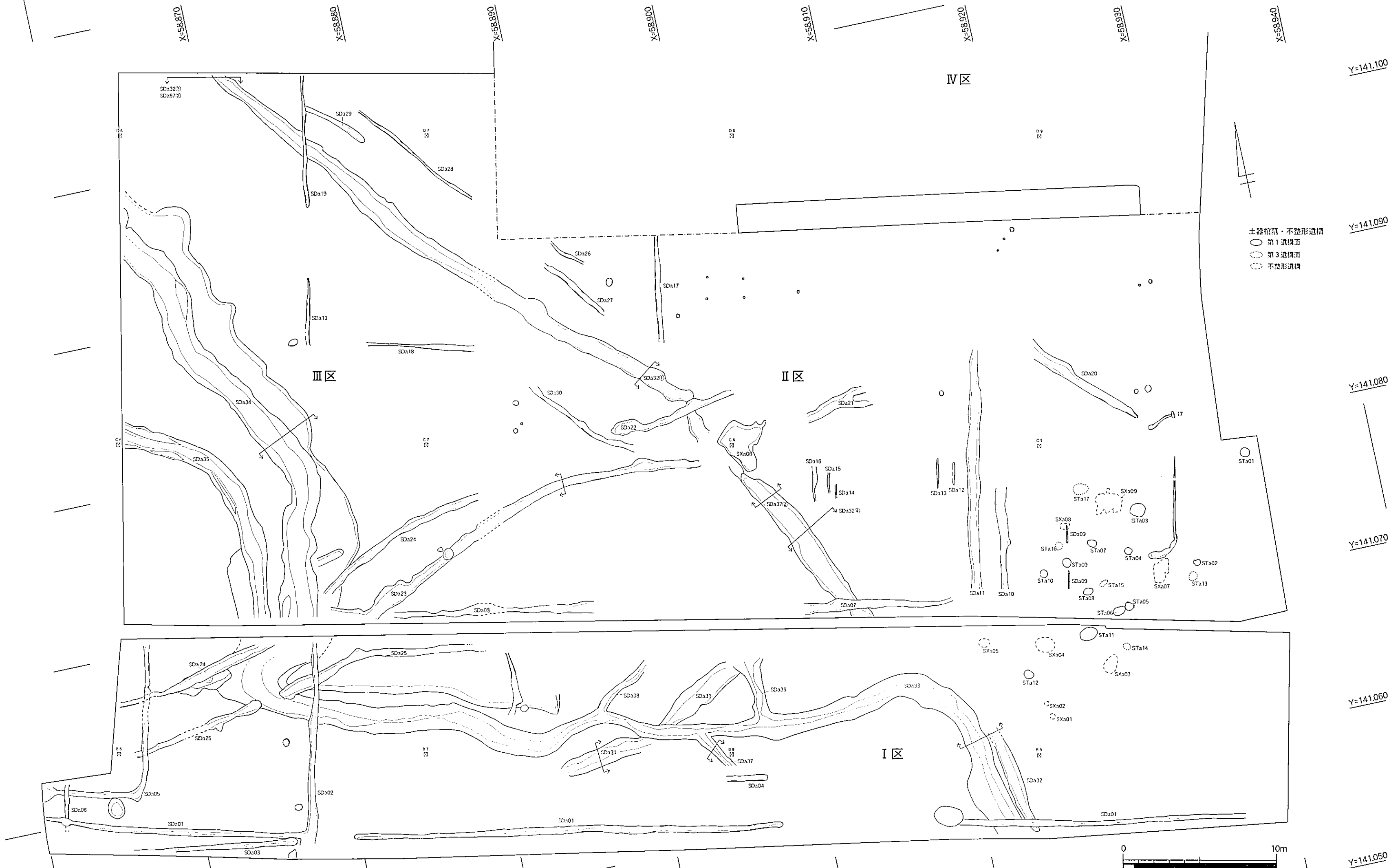
970～977はサヌカイト製の石鏃である。凹基・凸基・平基等の数タイプに分けられる。977は形状より石鏃の未製品と考えられる。978～980はサヌカイト製の石錐である。981～983はサヌカイト製の削器である。いずれも横長状の剥片を素材にもちいたものである。984・985は石庖丁である。984は緑色岩製の石庖丁の未製品である。986～991はサヌカイト製の楔形石器に係わる石器類である。986は楔形石器の素材である。987は楔形石器である。989～991は楔



形石器の削片である。992はサヌカイト製の打製石斧である。995は砂岩の大型蛤刃石斧の先端部である。996は環状石斧の破片である。環状石斧は出土例も少なく、貴重な事例になる。997・998はサヌカイト製の石核である。997はかなり風化している点と、調整状の手法等より、旧石器時代の翼状剥片石核と考えられる。この遺跡からは数点の旧石器が出土しており、おそらく東方の天神山周辺の段丘上には、この時期の遺跡が所在するものと考えられる。998は板状の形状を呈し、その木口面を作業面とし、縦長状の小剥片を剥ぎ取っている。999は棒状の叩き石、1000は砥石である。

(参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990  
『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅶ 下川津遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995  
平成6年度「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996  
平成7年度「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』



第126図 鹿伏・中所遺跡 第1・2遺構面遺構配置図



第127图 鹿伏·中所遺跡 第3遺構面遺構配置图

## 第IV章 自然科学分析

### 第1節 鹿伏・中所遺跡における樹種同定 I

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

#### 2. 試料

試料は、1区の堰状遺構01、堰状遺構02、堰状遺構03、堰状遺構04、およびⅢ区のSRa02から採取された杭状木製品、棒状木製品、有頭棒状木製品、板状木製品、柱状木製品、茄子型鋤頭部、柱材、部材などの木材55点である。

#### 3. 方法

カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 4. 結果

表1に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

#### モミ属 *Abies* マツ科 図版1

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で1分野に1～4個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、じゅず状末端壁を有する。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、モミ属に同定される。モミ属は日本に5種が自生し、その内ウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソの4種は亜寒帯に分布し、モミは温帯を中心に分布する。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

#### ツガ属 *Tsuga* マツ科 図版2

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は急である。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はスギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2～4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在す

る。わずかではあるが樹脂細胞が存在する。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、ツガ属に同定される。ツガには、ツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20~25m、径50~80cmである。材は耐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

### マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 図版3

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質より、マツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

### ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 図版4

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で1~15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

### ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版5

横断面：小型で丸い放射方向にややのびた道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合し散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は、単列の異性放射組織型である。

以上の形質よりヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

### コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版6

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1~数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

### コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 図版7

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が単独でおおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強靱で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

### コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科 図版8

横断面：中型から大型の道管が1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

### エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版9

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅の小型のものと8～10細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

以上の形質よりエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1.5mに達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

### ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch. ニレ科 図版10

横断面：中型から小型で厚壁の放射方向にのびた道管が年輪界にむけて径を減少しながら単独あるいは2～3個放射方向に複合してまばらに散在する散孔材である。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では数細胞幅で帯状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～4細胞幅である。多列部は平伏細胞からなり、単列部は直立細胞からなる。

以上の形質よりムクノキに同定される。ムクノキは本州（関東以西）、四国、九州、沖縄に分布する。落葉高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmぐらいであるが、大きいものは高さ

30m、径1.5mに達する。材はやや堅く密で強靱である。建築、器具、楽器、下駄、船、薪炭などに用いられる。

#### ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 図版11

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小块をなす。道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらいは直立細胞である。接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で1～6細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

#### タブノキ *Machilus thunbergii* Sieb. et Zucc. クスノキ科 図版12

横断面：やや小型から中型の道管が単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの柔細胞の中には油を含み大きく膨れ上がったものも存在する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔または少数ではあるが、数の少ない階段穿孔が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、しばしば大きく膨れ上がったものがみられる。

以上の形質よりタブノキに同定される。タブノキは、本州（暖地）、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ15m、径1mに達する。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、建築、家具、土木、器具、楽器、船、彫刻、薪炭などに用いられる。

#### カエデ属 *Acer* カエデ科 図版13

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、内壁には微細な螺旋肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞からなる同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～6細胞幅である。道管の内壁には微細な螺旋肥厚が存在する。

以上の形質よりカエデ属に同定される。カエデ属には、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、テツカエデ、ウリカエデ、チドリノキなどがあるが、放射組織の形質からウリカエデ、チドリノキ以外のいずれかである。北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または小高木で、大きいものは高さ20m、径1mに達する。材は耐朽性および保存性は中庸で、建築、家具、器具、楽器、合板、彫刻、薪炭など広く用いられる。

#### サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 図版14

横断面：小型の道管が単独ないし2個複合して密に散在する散孔材である。放射断面：道管の

穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く60を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で単列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8～10m、径20～30cmである。材は強靱、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

## 5. まとめ

樹種同定の結果、コナラ属クヌギ節20点、モミ属11点、コナラ属コナラ節5点、ヒノキ4点、ツガ属4点、コナラ属アカガシ亜属2点、ヤマグワ2点、マツ属複維管束亜属1点、ヤナギ属1点、ムクノキ1点、エノキ属1点、タブノキ1点、カエデ属1点、サカキ1点が同定された。

最も多いコナラ属のクヌギ節は全体の36%を占めており、杭状木製品、棒状木製品、有頭棒状木製品、板状木製品、茄子型鋤頭部、部材に使用されている。同じくコナラ属で材質が似ているコナラ節は、杭状木製品、棒状木製品、有頭棒状木製品に使用されている。いずれの樹種も概して弾性に富んだ強い材である。コナラ属のアカガシ亜属も弾力性があり強く硬い材であり、板状木製品、茄子型鋤頭部に使用されている。

次に多い針葉樹のモミ属は温帯性のモミと考えられ、全体の20%を占めている。杭状木製品、有頭棒状木製品、柱状木製品、柱材に使用されており、材質は耐朽性、保存性は低いが、軽軟であり加工が容易である。板状木製品、部材に使用されているヒノキは、材質は木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高い。杭状木製品、有頭棒状木製品に使用されているツガ属は、材質は木理概ね通直で肌目は粗い。耐朽性、保存性は中庸で、切削、加工はやや困難である。杭状木製品に使用されているマツ属複維管束亜属は、材質は水湿に良く耐える。

杭状木製品、柱材に使用されているヤマグワは、やや堅硬で靱性に富み、従曲性のある材である。杭状木製品に使用されているヤナギ属は、軽軟で切削、加工が容易な材である。ムクノキは杭状木製品に、エノキ属は杭状木製品に使用されている。いずれも強さ中庸で、従曲性のある材である。柱材に使用されているタブノキは、強さ中庸で耐朽性、保存性、切削、加工も中庸の材である。杭状木製品に使用されているカエデ属は、材質は耐朽性、保存性は中庸で、切削、加工はやや困難である。杭状木製品に使用されているサカキは、材質は概して強靱、堅硬である。

いずれも温帯中下部に生育する樹種であり、最も多いコナラ属クヌギ節は乾燥した台地や丘陵地に生育する二次林要素の落葉広葉樹である。モミ属、ヒノキ、ツガ属の針葉樹は、温帯の中間域に多く生育する。コナラ属アカガシ亜属、タブノキ、サカキは照葉樹林の主要構成要素である。このように、二次林要素、針葉樹、照葉樹林要素の多様な樹種が混在しており、人為的な里山もしくはその周辺環境が示唆される。

## 文献

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造。

文永堂出版, 290p.

島地 謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧。雄山閣, 296p.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成。植生史研究特別1号。

植生史研究会, 242p.

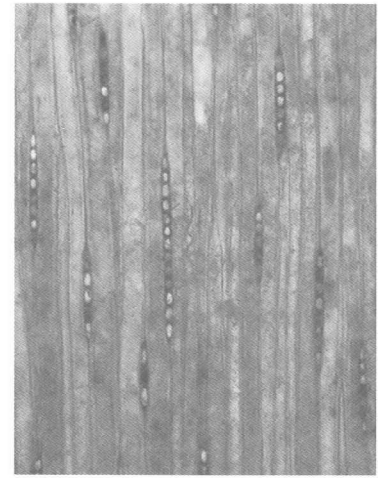
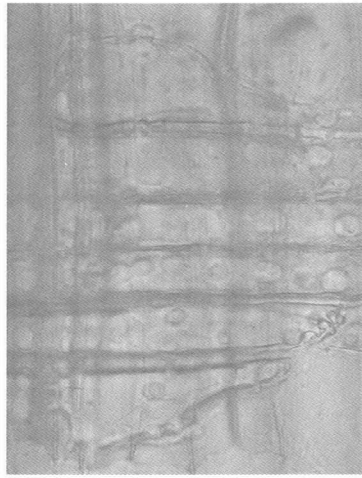
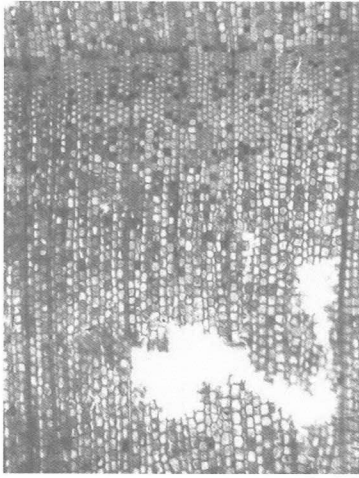


表1 鹿伏・中所遺跡における樹種同定結果

報告番号		注記番号	地区名	グリッド	遺構名	器種	結果 (学名/和名)	
1	596	R 2296	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構01 No.02	杭状木製品	Salix	ヤナギ属
2	586	R 2297	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構02 No.02	杭状木製品	Abies	モミ属
3	587	R 2298	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構02 No.03	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
4	566	R 2303	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構02 No.14	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
5	567	R 2305	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構02 No.17	部材	Chamaecyparis obtusa Endl.	ヒノキ
6	573	R 2307	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.01	有頭棒状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
7	572	R 2308	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.02	有頭棒状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
8	564	R 2312	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.08	板状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
9	603	R 2313	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.11	杭状木製品	Quercus sect. Primus	コナラ属コナラ節
10	604	R 2321	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.30	杭状木製品	Aphananthe aspera Planch.	ムクノキ
11	588	R 2322	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.31①②	杭状木製品	Quercus sect. Primus	コナラ属コナラ節
12	606	R 2323	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.32	杭状木製品	Celtis	エノキ属
13	589	R 2326	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.41	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
14	590	R 2328	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.48	棒状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
15	561	R 2329	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構03 No.49	茄子型鋤頭部	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属
16	592	R 2334	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.06	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
17	574	R 2335	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.07	有頭棒状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
18	568	R 2336	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.09	板状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
19	565	R 2339	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.12	板状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
20	594	R 2340	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.13	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
21	593	R 2343	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.17	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
22	575	R 2344	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.20	有頭棒状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
23	不掲載	R 2349	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.29	杭状木製品	Quercus sect. Primus	コナラ属コナラ節
24	591	R 2351	I 区	B06. B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.37	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
25	576	R 2359	I 区	B06. B07	SRa01 堰状遺構04 No.51	有頭棒状木製品	Abies	モミ属
26	不掲載	R 2391	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.01①	杭状木製品	Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節
27	691	D 1301	III 区	C06	SRa02 A群	板状木製品	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属
28	600	R 2406	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構02 No.12	杭状木製品	Tsuga	ツガ属
29	595	不掲載	I 区		SRa01 堰状遺構	杭状木製品	Acer	カエデ属
30	不掲載	R 2414	I 区	B07. B08	SRa01 堰状遺構04 No.08	杭状木製品	Abies	モミ属

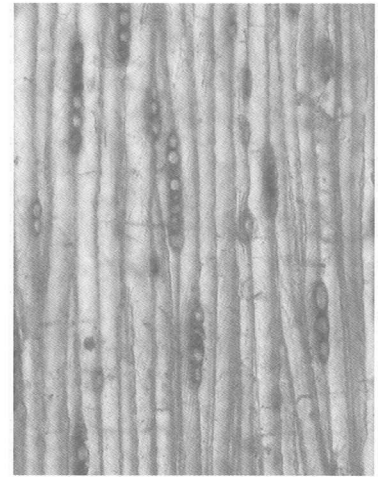
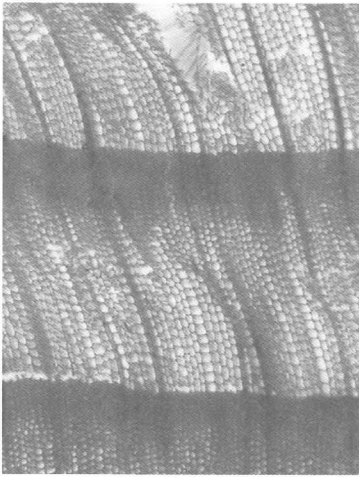
番号	実測番号	注記番号	地区名	グリッド	遺構名	器種	結果(学名/和名)
31	562	R 2403	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.35①	部材	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> コナラ属クヌギ節
32	580	R 2430	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.44①②	有頭棒状木製品	<i>Abies</i> モミ属
33	不掲載	R 2417	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.32	杭状木製品	<i>Abies</i> モミ属
34	582	R 2422	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.20①②	柱状木製品	<i>Abies</i> モミ属
35	585	R 2415	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.28①②	杭状木製品	<i>Tsuga</i> ツガ属
36	570	R 2409	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.21	板状木製品	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
37	569	R 2385	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.22	板状木製品	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
38	602	R 2382	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.14②	杭状木製品	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> コナラ属クヌギ節
39	608	R 2380	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.07	杭状木製品	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> コナラ属クヌギ節
40	577	R 2389	I 区	B06. 07	SRa01 環状遺構03 No.58	有頭棒状木製品	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> コナラ属クヌギ節
41	605	R 2387	I 区	B06. 07	SRa01 環状遺構03 No.51	杭状木製品	<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ
42	571	R 2375	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.15	有頭棒状木製品	<i>Tsuga</i> ツガ属
43	563	R 2386	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.25	板状木製品	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ
44	597	R 2373	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.05	杭状木製品	<i>Abies</i> モミ属
45	599	R 2308	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.18	杭状木製品	<i>Abies</i> モミ属
46	578	R 2393	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.19①	有頭棒状木製品	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> コナラ属コナラ節
47	609	R 2411	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.36	柱材	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ
48	584	R 2427	I 区	-	SRa01 環状遺構01~環状遺構04	杭状木製品	<i>Abies</i> モミ属
49	579	R 2427	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.18①②	有頭棒状木製品 ・杭状木製品	<i>Tsuga</i> ツガ属
50	583	R 2426	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.42	柱材	<i>Machilus thunbergii</i> Sieb.et Zucc. タブノキ
51	598	R 2379	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.23	棒状木製品?	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> コナラ属コナラ節
52	601	R 2407	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構02 No.13	杭状木製品	<i>Abies</i> モミ属
53	607	R 2410	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.34	杭状木製品	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ
54	581	R 2424	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構03 No.39①②	柱材	<i>Abies</i> モミ属
55	不掲載	R 2418	I 区	B07. B08	SRa01 環状遺構04 No.34	杭状木製品	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複維管束亜属

鹿伏・中所遺跡の木材 I



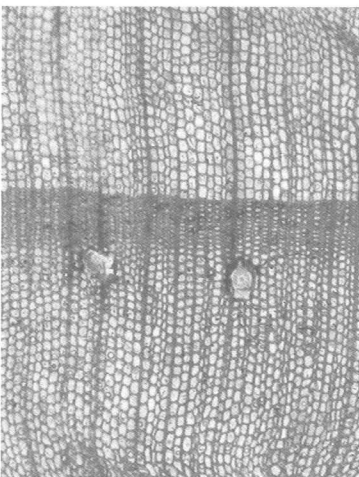
横断面 ——— : 0.5mm      放射断面 ——— : 0.05mm  
1.55 杭状木製品 マツ属複維管束亜属

接線断面 ——— : 0.2mm



横断面 ——— : 0.5mm      放射断面 ——— : 0.05mm  
2.25 有頭棒状木製品 モミ属

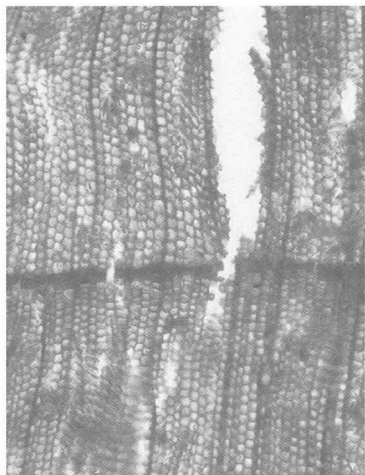
接線断面 ——— : 0.2mm



横断面 ——— : 0.5mm      放射断面 ——— : 0.1mm  
3.42 有頭棒状木製品 ツガ属

接線断面 ——— : 0.2mm

鹿伏・中所遺跡の木材Ⅱ



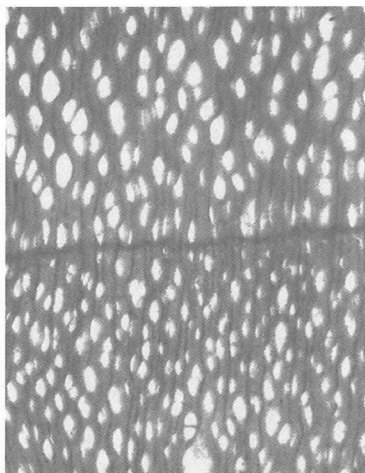
横断面 ——— : 0.5mm  
4.36 板状木製品 ヒノキ



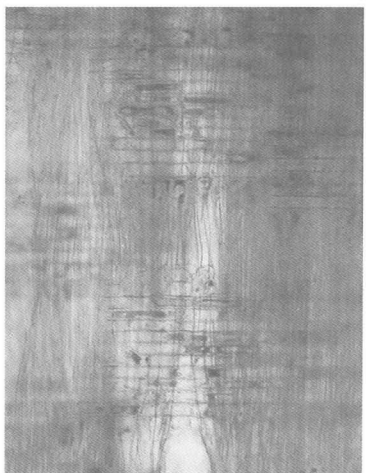
放射断面 ——— : 0.05mm



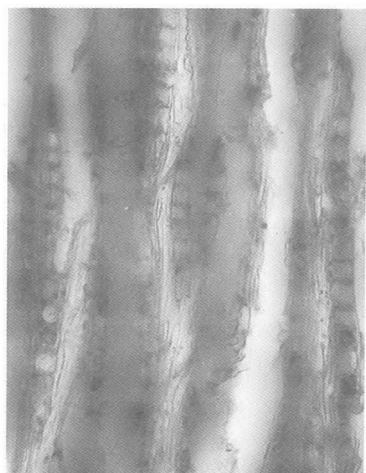
接線断面 ——— : 0.2mm



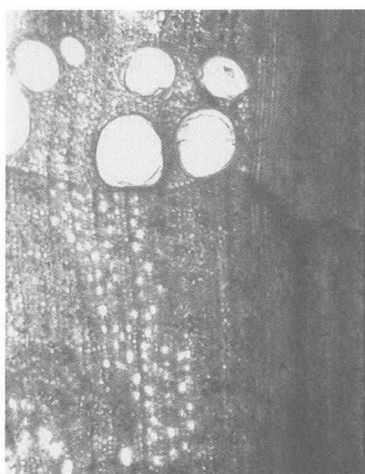
横断面 ——— : 0.5mm  
5.1 杭状木製品 ヤナギ属



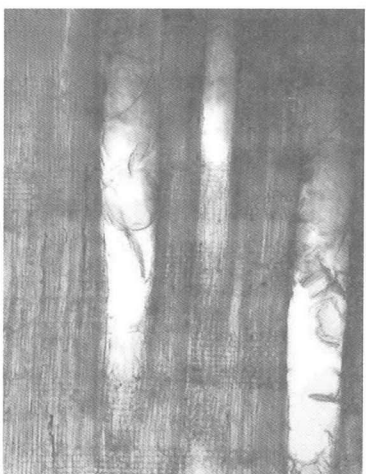
放射断面 ——— : 0.2mm



接線断面 ——— : 0.1mm



横断面 ——— : 0.5mm  
6.46 有頭棒状木製品 コナラ属コナラ節

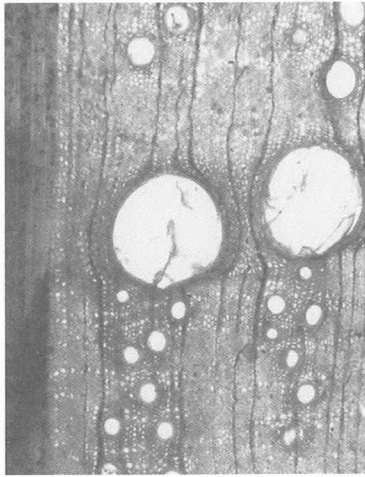


放射断面 ——— : 0.5mm



接線断面 ——— : 0.2mm

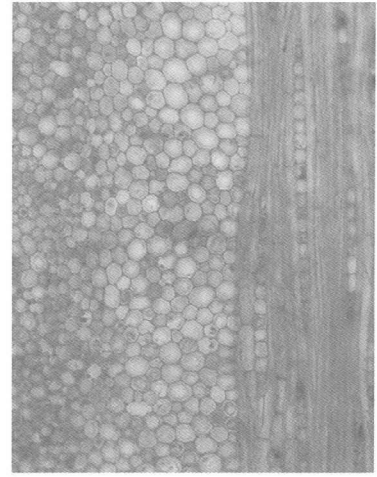
鹿伏・中所遺跡の木材Ⅲ



横断面 ——— : 0.5mm

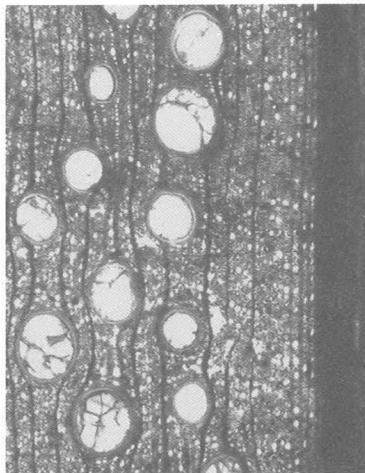


放射断面 ——— : 0.2mm

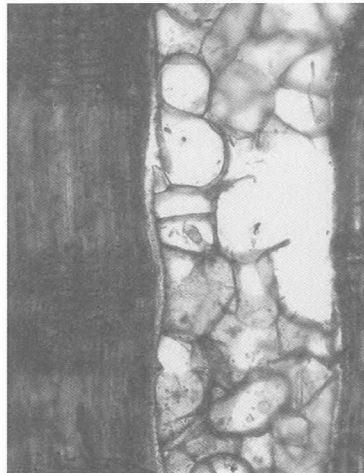


接線断面 ——— : 0.2mm

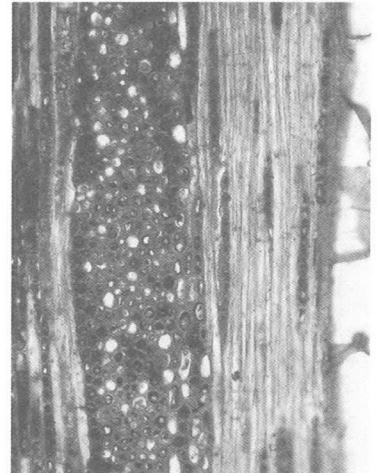
7. 4 杭状木製品 コナラ属クヌギ節



横断面 ——— : 0.5mm

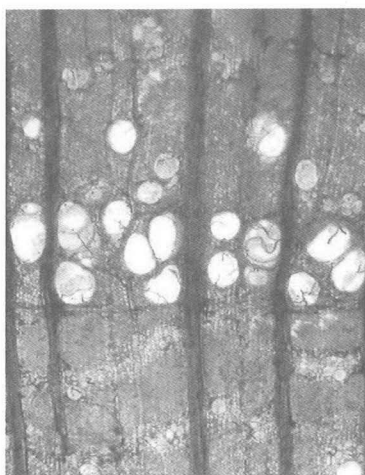


放射断面 ——— : 0.2mm



接線断面 ——— : 0.2mm

8. 27 杭状木製品 コナラ属アカガシ亜属



横断面 ——— : 0.5mm



放射断面 ——— : 0.2mm

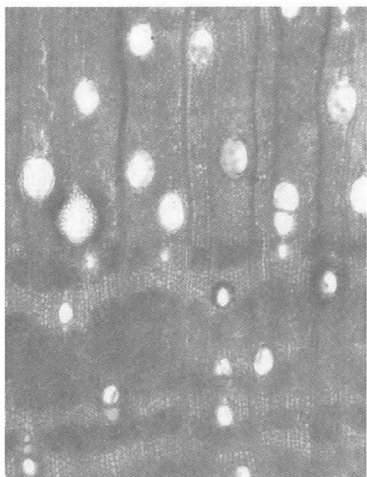


接線断面 ——— : 0.2mm

9. 12 杭状木製品 エノキ属



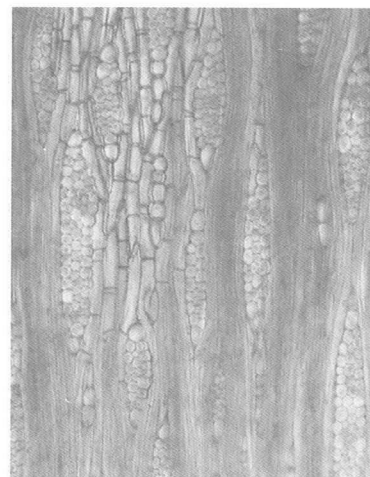
鹿伏・中所遺跡の木材Ⅳ



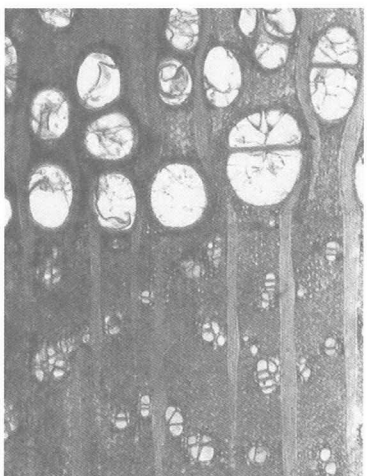
横断面 ——— : 0.5mm  
10.10 杭状木製品 ムクノキ



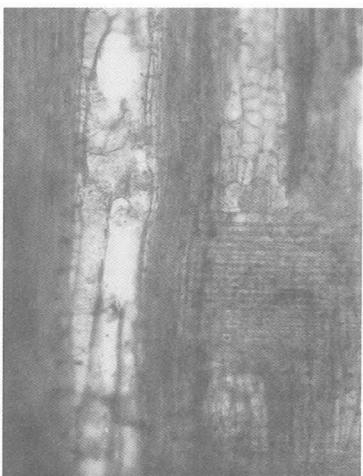
放射断面 ——— : 0.2mm



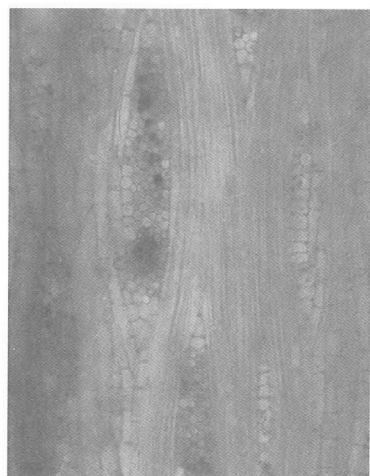
接線断面 ——— : 0.2mm



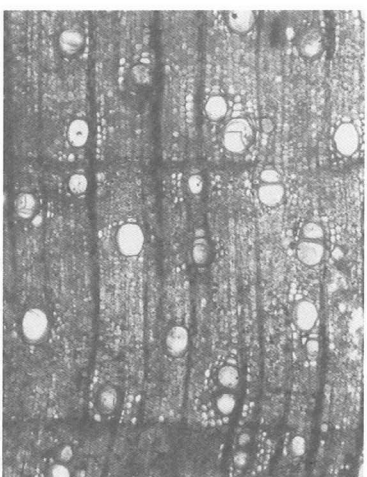
横断面 ——— : 0.5mm  
11.47 柱材 ヤマグワ



放射断面 ——— : 0.2mm



接線断面 ——— : 0.2mm



横断面 ——— : 0.5mm  
12.50 柱材 タブノキ

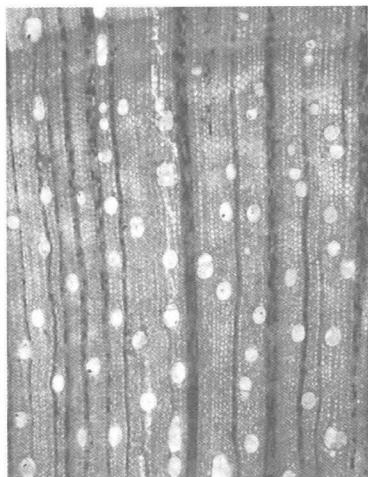


放射断面 ——— : 0.2mm

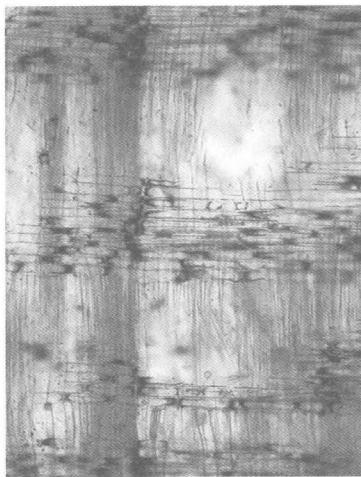


接線断面 ——— : 0.2mm

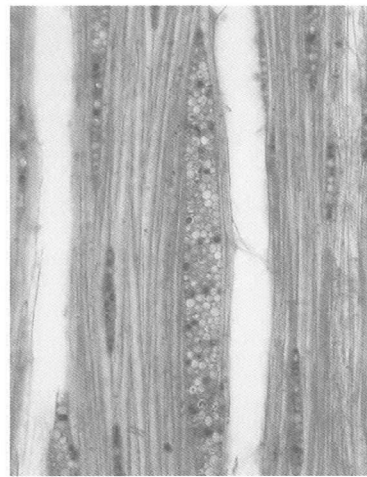
鹿伏・中所遺跡の木材Ⅴ



横断面 ——— : 0.5mm

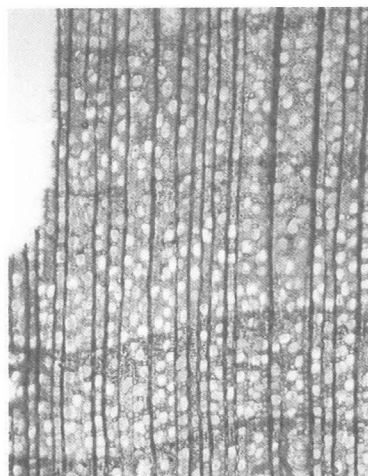


放射断面 ——— : 0.2mm



接線断面 ——— : 0.2mm

13. 29 杭状木製品 カエデ属



横断面 ——— : 0.5mm



放射断面 ——— : 0.1mm



接線断面 ——— : 0.2mm

14. 41 杭状木製品 サカキ

## 第2節 鹿伏・中所遺跡における樹種同定Ⅱ

(株) 吉田生物研究所

### 1. 試料

試料は香川県鹿伏・中所遺跡から出土した部材1点(第89図567)である。

### 2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

### 3. 結果

樹種同定結果(針葉樹1種、樹皮1種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

#### 1) ヒノキ科アスナロ属(Thujopsis sp.)

(遺物No.1A)

(写真No.1A)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

#### 2) ヤマザクラorカバの樹皮

(遺物No.1B)

(写真No.1B)

木口と柾目ではコルク組織とコルク皮層が交互に並んで密に詰まっている。板目では細胞が放射方向に規則正しく配列している。しかし桜、樺の皮は顕微鏡観察での判別は難しい。

#### ◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版 (1988)

島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社 (1982)

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ~Ⅴ」 京都大学木質科学研究所 (1999)

北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社 (1979)

深澤和三 「樹体の解剖」 海青社 (1997)

奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」 (1985)

奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」 (1993)

#### ◆使用顕微鏡◆

Nikon

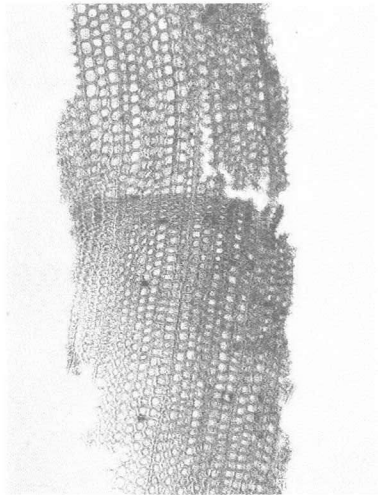
MICROFLEX UFX-DX Type 115



香川県鹿伏・中所遺跡出土木製品同定表

No.	品名	樹種
1	A部材 (本体) B // (皮)	ヒノキ科アスナロ属 ヤマザクラorカバの樹皮

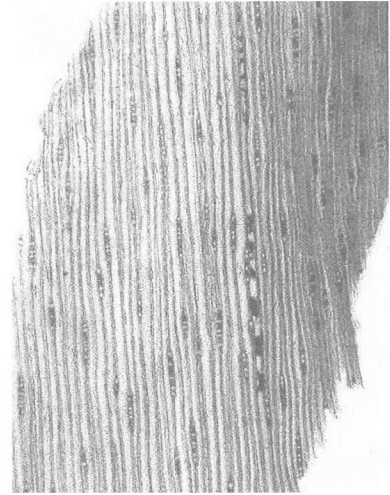
P-1



木口×40

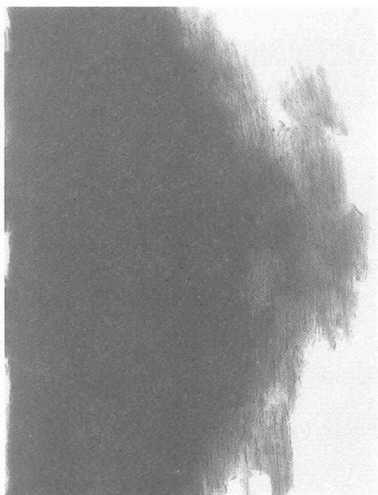


柁目×100



板目×40

No-1A ヒノキ科アスナロ属



接線断面×40

No-1B ヤマザクラorカバの樹皮

## 第V章 まとめ

### 1. 微高地上の調査

#### <住居跡>

確認した竪穴住居跡は28棟、掘立柱建物跡は6棟を数えるが、抽出できていない住居跡がまだ含まれているものと考えられる。特に掘り方が削平を受け、柱穴のみを残す竪穴住居跡などが考えられ、整理作業の段階でも数棟を復元したが、I区南東部・Ⅲ区北部等に分布する柱穴の密度を考えた場合、さらに追加できるものと考えられる。

検出した竪穴住居跡は、I区の南東部からⅢ区の北部にかけて、微高地の等高線に沿うように分布し、特に両端部の密度は高い。時期的な点では、弥生時代中期前葉～古墳時代前期初頭頃までの時期幅がある。大まかな傾向として、弥生時代中期前葉～後期前半頃の住居跡は、I区の南東部からⅡ区にかけて分布している。また、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の住居跡は、Ⅱ区の中央部からⅢ区の北部にかけて分布する傾向がある。形態上では円形・隅丸方形・多角形等の種類があり、傾向として弥生時代中期～後期前半の竪穴住居跡は円形を呈するものが主で、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭のもの、多角形・隅丸方形を呈するものが主である。次に時期が明らかな竪穴住居跡を一覧表に整理しておく。

第7表 竪穴住居跡時期別一覧

	弥生時代中期			弥生時代後期			古墳時代前期
	前葉	中葉	後葉	前半	後半	後期末	初頭
SHa	3	01・02・11	10	09・14	21	16・27・28	12

#### <土器棺墓群>

土器棺墓群は集落の南東辺にあたるI・Ⅱ区、南水路②の東部の南北10m東西22mの範囲内に集中して計17基を検出した。時期的には弥生時代後期後半頃の土器棺墓群である。土器棺墓は、次年度以降の整理を予定しているⅦ区・南水路①等でも数基検出しているが、この範囲で検出している土器棺墓群は密度も高く数も多い。そのため、この時期の集落に付属する中心的な墓域といえる。なお、この区域は弥生時代中期頃の住居が分布しているため、中期の遺構が廃絶した後の、弥生時代後期後半頃になって順次土器棺を埋葬していったものと考えられる。また、I区に隣接する南水路①の西半部からは2基の土器棺墓を検出しており、別グループの墓域が隣接するものと考えられる。

#### <土器棺の埋葬法>

土器棺の検出状況の特徴として、大多数の土器棺が第1遺構面（包含層上面）で土器棺の上部が検出できるのであるが、掘り方は第3遺構面（包含層下面）で検出している点がある。そこで、検出状況を考慮して、以下の埋葬工程を考えた。

- ①第3遺構面から土器棺の下半部が埋まる程度の浅い墓壙を掘削する。
- ②土器棺を据える。

③土器棺が埋まる程度の薄い盛土で土器棺を被覆する。

①～③の後、周囲に包含層が堆積し、土器棺を覆う盛土が埋まる。そして、包含層上面に古墳時代前期後半以降の第1遺構面が広がる。以上の工程が考えられる。

次に土器棺の据え方についてであるが、出土した土器棺は、水平に設置するものと、斜め上方に傾けるものとは大きく二つに分かれる。数的には斜め上方に傾けるものが主である。主軸は4基ほど南方向や西方向へ向くものがあるが、南東方向ないし北東方向に向くものが主である。なお、土器棺を設置する際に、墓壙の中で固定を図る必要上、他の土器を支えとして使用しているSTa11等の特徴的な事例もある。

#### <土器棺の属性>

土器棺には大型の壺・甕・鉢を使用している。組み合わせ方は大きく分けて①鉢（蓋）＋壺（身）②壺（蓋）＋壺（身）③甕（蓋）＋甕（身）のパターンに分けられる。身にあたる壺は口頸部を除くものが主であるが、STa11の224、STa02の200等、口頸部を残すものも少数ある。蓋にあたる壺は上半部を除き下半部を使う場合が多い。特異な事例では、STa15の組み合わせ方が注目される。この土器棺は③甕（蓋）＋甕（身）の合せ口であるが、合せ口部分の上位に縦割りにした甕を覆いかぶせている。おそらく、土器棺内に入る土砂や雨水を防ぐのを意図したものであろう。

なお、棺内の水抜きを意図したものと考えられる1～2cm程の小孔が223・230・233・238等の土器棺で確認できる。土器棺墓の埋葬方法を検討する上で一つの視点になろう。

## 2. 低湿地部の調査

#### <自然河川跡 ・ 堰状遺構等>

低湿地部の第3遺構面からは、弥生時代後期後半頃及び古墳時代前期前半頃の3条の自然河川跡（SRa01～03）と、複数の溝状遺構（SDa31～37・62～67）等を検出した。また、SRa01の河床面からは複数の杭材により構築された古墳時代前期の堰状遺構を検出した。

検出した河川跡は「第二章 第1節 地理的環境」で記載したように、遺跡南東の天神神社の周辺で確認できる埋没河川より派生した流路の可能性も考えられるが、次年度以降に整理作業を予定している遺跡の北辺部にあたるⅧ区・北水路①②・東水路①からは、遺跡の北・東方面に所在する開析谷から、南に流下してきている河川跡を確認しており、これらの河川跡との係わりについても、視野に入れておく必要がある。ただ、SRa01については、微高地を北西方向へ削り西へ蛇行しており、その形状から南東方向より北上している河川跡と考えられる。

SRa01の河床面で検出した5基の堰状遺構は、SRa01が北流する河川跡と考えられるため、堰の東側で水を溜め、南方へ導水する際の貯水施設と考えられる。そのため、この時期の水田域は微高地の南側に広がっているものと考えられる。構造的な点では、土層断面（第86図）を見る限り、周囲を土で盛り上げた畦状の形状をしていた可能性が高い。また、この5基の堰状遺構は、構築順の差により個々の堰の向きが異なる。この向きの差は、導水する水田域の場所の差に伴い、微妙に変化したものと考えられる。

SRa01～03等が埋没した後、低湿地部の第1・2遺構面上には、洪水砂と考えられる約0.5mの淡褐色の粗砂（第97図15・16・18層等）が堆積している。ラミナ状の堆積も確認できることより、短期間に堆積したことは間違いなく、この粗砂により低湿地部は現地盤の高さ近くまで埋まっている。このことから、低湿地部を埋める大きな洪水が、この遺跡に及んだことは確かである。洪水の時期を示す明確な遺物が出土していないため、時期については問題を残すが、少なくとも古墳時代前期後半以降である事だけは確かであろう。古墳時代前期後半以降に集落が廃絶するのも、こういった自然環境の変化によることも要因の一つと考えられる。

#### <自然河川跡・堰状遺構から出土した遺物>

Ⅲ区のSRa02・03、SDa67等では、微高地上の集落からの、廃棄遺物と考えられる大量の弥生土器の土器溜りを4地点で検出した。これらの土器は、弥生時代中期から後期前半の土器を少量含むが、主体になるのは弥生時代後期後半頃の土器で、河川跡が埋没した段階で廃棄されており、おそらく弥生時代後期後半に廃棄のピークがあるものと考えられる。また、これらの土器は優品が多く、当時の土器の様相を検討するうえでは良好な資料といえる。注目されるのは下川津B類や下川津B類に類似する土器の比率が高い点と、遺跡内で土器を焼いていた事を示す、焼成破損品が多数抽出できる点である。

SRa01の河床面で検出した堰状遺構からは、多量の杭材に転用した木製品を検出した。木製品の中には、住居跡の柱材を転用したと考えられる木製品及び性格不明の板材、有頭棒状木製品等が出土している。また、これらの木製品の中には一部炭化しているものが多く、おそらく微高地上の住居跡の中で、火災にあって不用になった部材を転用したのと考えられる。出土した木製品の類例は少なく、今後の資料の増加を待つてさらに研究する必要がある。

### 3. 集落の動向

最後に検出した主要な遺構のうち、弥生時代中期～古墳時代前期について時期別に区分し、その動向を簡単にまとめる。

#### <弥生時代中期>

微高地上に集落が開始される。この時期の住居跡は、SHa01～03・10・11等の竪穴住居跡である。住居跡の時期を細分すれば、中期前葉にあたるのがSHa03、中期中葉がSHa01・02・11、中期後葉にあたるのがSHa10である。主にⅠ区の南東端部からⅡ区にかけて分布する。なお、Ⅰ区南東端部のSHa04・05・06・07等もこの時期に含まれる可能性が高い。竪穴住居跡の分布域の西端部には、南北方向の溝跡であるSDa58が位置する。この溝跡は結果的に弥生時代中期後半頃の集落域の西限を画しているが、計画的なものかどうかは問題を残す。なお、この溝跡の北にはSDa54があるが、本来同一の溝跡であろう。

低湿地部ではこの時期の遺物が少量出土している。遺構としてはⅢ区の小規模なSDa62だけで、この時期の河川跡は見いだせないが、弥生時代後期後半以降に埋没しているSRa02・03の下位に、中期の河川跡が存在する可能性が高い。

### ＜弥生時代後期＞

この時期の住居跡は、SHa09・14・16・27・28等の竪穴住居跡である。住居跡の時期を細分すれば、後期前半がSHa09・14、後期後半がSHa21、後期末にあたるのが、SHa16・27・28である。また、出土遺物が少なく時期が特定できていない、SHa15・23～26等もこの時期に含まれる可能性が高い。

Ⅱ区の南東部及びⅠ区東部、南水路②の東端部の南北10m東西22mの範囲内に、後期後半頃の17基の土器棺を埋葬した墓域が設定される。この時期周辺に同時期の住居がみられない事より、居住域より若干離れた区域に墓域を設定したものと考えられる。

低湿地部ではSRa02・03、SDa64～67の河川跡や溝跡がこの時期にあたる。これらの河川跡や溝跡は、後期後半頃にはその機能は失われ、上面に集落からの大量の土器が廃棄される。また、河川跡が埋没したためか、Ⅲ区の北端部では後期末頃の竪穴住居跡が河川跡近くまで広がる。

### ＜古墳時代前期前半＞

微高地上の住居跡は極端に減少しSHa12が1基のみ確認できる。そのため、この時期集落は縮小傾向にある。住居跡以外ではSDa42及びSDa32下層溝がこの時期あたる。特にSDa32下層溝は、SRa01の下層部分に流下しており、後述する堰状遺構との関係が注目される。

低湿地部ではSRa01がこの時期にあたる。この河川跡の河床面で堰状遺構を検出している。遺構の構造から考えて、畦状をしていたものと考えられ、この遺構の東側で水を溜め、南方へ導水する際の、貯水施設と考えられる。そのため、この時期の水田域は微高地の南側に広がっているものと考えられる。なお、先述したSDa32下層溝は、微高地上の排水をこの貯水施設に流すための溝跡と考えられる。

### ＜古墳時代前期後半以降＞

この時期、微高地上にはSDa32等の溝跡が配される他、注目される遺構は見出せない。そのため、弥生時代中期から継続した本集落は他地域へ移動したのと考えられるが、他の調査区の整理作業が進んだ段階で再度評価を下す必要があるだろう。なお、SDa32は、直線的に伸びる溝跡であり、隣接する前期前半のSDa42及びSDa32下層溝の流水ルートを維持している溝跡と考えられる。

低湿地部ではSRa01～03が埋没し、その上面にSDa31～38等の第1遺構面上の溝跡群が伸びる。これらの溝跡のうちSDa33・34等はSRa02の流路方向と一致している事から、弥生時代後期後半頃からの流水ルートを維持している溝跡といえる。その後、低湿地部には、洪水砂と考えられる厚い淡褐色の粗砂が短期間に堆積する。この粗砂により低湿地部は現在の地盤の高さ近くまで埋まる。洪水の時期については問題を残すが、古墳時代前期後半以降である事だけは確かであろう。

### (参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990  
『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅶ 下川津遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995  
平成6年度「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996  
平成7年度「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』

# 遺物 觀 察 表

第8表 鹿伏・中所遺跡出土土器観察表

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	胎土			色調		調整		残存率	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
1	Sha01	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	-	-	-	灰白7.5YR8/2	斜行文、浮文	マツ	口縁部小片		
2	Sha01	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	-	-	-	灰白7.10YR8/2	ヨコナリ、縞彩文	ヨコナリ	口縁部小片		
3	Sha01	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	-	-	-	明赤褐10YR6/6	ヨコナリ、貼付実帯	オサエ	頸部小片		
4	Sha01	I区南水路②	上面	弥生土器	甕	-	4.4	-	明赤褐5YR5/6	マツ	マツ	底部8/8		
5	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	甕	-	-	-	明赤褐5YR5/6	マツ	マツ	口縁部小片		
6	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	甕	-	7.0	-	にぶい黄橙 10YR7/4	マツ	マツ	底部4/8		
7	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	-	6.9	-	灰黄褐10YR6/2、黒褐2.5Y3/1	オサエ後ナリ、オサエ後板ナリ	オサエ	底部8/8		
8	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	甕	-	5.4	-	褐5YR6/6、にぶい黄橙 10YR6/3	ナリ、オサエ後ナリ	オサエ	底部8/8		
9	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	台付鉢	11.8	-	-	灰黄褐10YR6/2、にぶい黄橙 10YR6/3	ハナメ、オサエ	ナリ	口縁部1/8		
10	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	台付鉢	-	-	4.9	にぶい黄橙 7.5YR6/4	オサエ後ナリ	ナリ、マツ	底部7/8		
11	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	高杯	-	-	-	にぶい黄橙 7.5YR5/4	マツ	ハラカス'後ナリ、絞リ痕	底部1/8	穿孔1穴、下川津B類	
12	Sha03	I区南水路②	上面	弥生土器	鉢	8.8	-	-	にぶい黄橙 10YR7/2	オサエ、ナリ	ナリ	口縁部小片		
13	Sha03	I区南水路②	上面	土製紡錘車	土製紡錘車	最大長 3.7、最大幅 3.4	最大厚 0.6	-	にぶい黄橙 10YR7/2	マツ	マツ	完存		
14	Sha03	I区南水路②	上面	土製紡錘車	土製紡錘車	最大長 5.3、最大幅 5.2	最大厚 0.8	-	褐灰10YR5/1	マツ	マツ	完存		
15	Sha03	I区南水路②	上面	土製紡錘車	土製紡錘車	最大長 4.9、最大幅 4.8	最大厚 0.8	-	灰白2.5Y8/2	マツ	マツ	7/8		
16	Sha05	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	8.0	-	-	にぶい黄橙 10YR7/4	ナリ、板ナリ	オサエ、ナリ	口縁部8/8		
17	Sha06	I区南水路②	上面	弥生土器	壺	-	-	6.9	灰褐7.5YR5/2	マツ、オサエ後ナリ	マツ	底部8/8		
21	Sha08	II区	-	弥生土器	甕	-	-	-	明赤褐5YR5/6、明赤褐5YR5/8	ヨコナリ、マツ	ヨコナリ、マツ	口縁部小片		
22	Sha09	II区	-	弥生土器	甕	-	-	-	にぶい黄橙 7.5YR7/4	ヨコナリ、櫛彩文	ヨコナリ、ナリ	口縁部小片		
23	Sha09	II区	-	弥生土器	甕	18.0	-	-	橙5YR6/6	ヨコナリ、凹線2条	ヨコナリ、マツ	口縁部小片		
24	Sha09	II区	-	弥生土器	甕	15.8	-	-	にぶい黄 2.5Y6/3	ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、ナリ、オサエ	口縁部3/8		
25	Sha10	II区	-	弥生土器	壺	10.4	-	-	にぶい黄 7.5YR7/3	ヨコナリ、波状文	ヨコナリ	口縁部小片		
26	Sha10	II区	-	弥生土器	甕	-	-	6.0	にぶい黄 7.5YR6/4	ハラカキ、ナリ	ハラカス'後オサエ	底部3/8	下川津B類	
27	Sha10	II区	-	弥生土器	高杯	26.0	-	-	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナリ、凹線2条	ヨコナリ、マツ	口縁部1/8		
28	Sha10	II区	-	弥生土器	ミナコト土器	-	-	2.1	にぶい黄橙 10YR7/2	オサエ	オサエ、ナリ	底部8/8		
29	Sha11	II区	-	弥生土器	壺	12.2	-	-	灰白10YR8/2	ヨコナリ、斜行文	ハラカキ	口縁部1/8		
30	Sha11	II区	-	弥生土器	甕	-	-	5.2	灰赤2.5YR6/4	マツ	マツ	底部2/8		
31	Sha11	II区	-	土製紡錘車	土製紡錘車	最大長 4.3、最大幅 4.3	最大厚 0.9	-	にぶい黄橙 10YR6/4	ハラカキ	ナリ	完存		

報告番号	報告機構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面			
32	SHa12	II区	-	弥生土器	壺	25.8	-	長石・石英(細)少, 雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ココナ, ハケ	ココナ	口縁部4/8		
33	SHa12	II区	-	弥生土器	壺	25.8	-	長石・石英(中), 雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/3	褐灰10YR5/1	ココナ, ハケ	ココナ, ハケ	口縁部1/8		
34	SHa12	II区	-	弥生土器	壺	-	9.0	長石(細)多, 石英(粗)少, 雲母(細)少	にぶい黄褐10YR4/3	灰黄2.5Y7/2	板ナ, ナ	オサ	底部2/8		
35	SHa12	II区	-	弥生土器	甕	-	-	石英・雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR5/4	ココナ	ココナ	口縁部小片		
36	SHa12	II区	-	弥生土器	甕	-	-	石英(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ココナ	ココナ	口縁部小片		
37	SHa12	II区	-	弥生土器	甕	18.6	-	長石・石英(中)少, 雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR7/4	ココナ, ハケ	ココナ, オサ	口縁部1/8		
38	SHa12	II区	-	弥生土器	甕	14.0	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	橙5YR6/6, にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR6/3	ココナ, 外, 妙々後ハケ	ナ, オサ後ハケ	口縁部1/8	煤付着	
39	SHa12	II区	-	弥生土器	甕	13.0	-	長石(細)少, 雲母(中)多	褐10YR4/6	褐10YR4/4	ココナ, ハケ, ナ, オサ	ココナ, ハケ, ナ, オサ	口縁部1/8		
40	SHa12	II区	-	土師器	甕	14.6	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	ココナ, ハケ	ココナ, ハケ	口縁部3/8		
41	SHa12	II区	-	土師器	甕	9.3	8.9	長石・石英(中), 雲母(細), 角閃石(細)少	にぶい橙7.5YR6/3	にぶい褐7.5YR6/3	ココナ, ハケ後ナ	ココナ, ナ, 板ナ, オサ	完存	黒斑	
42	SHa12	II区	-	土師器	鉢	9.2	5.2	長石・雲母・角閃石(細)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	オサ後ナ, オサ	オサ後ナ, オサ	底部8/8		
43	SHa12	II区	-	弥生土器	鉢	10.8	-	長石(中), 石英(粗), 雲母(細)少	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	マツ	マツ, ハケ	口縁部2/8		
44	SHa12	II区	-	弥生土器	鉢	12.0	6.6	長石(中)少, 石英・雲母・角閃石(細)少	橙5YR6/6	明赤褐5YR5/6	ナ	板ナ後ナ	口縁部4/8		
45	SHa12	II区	-	土師器	高杯	23.8	-	長石・石英・雲母(中)多	橙5YR6/6, 褐灰10YR5/1	橙5YR6/6	ココナ, ハケ	ココナ, ハケ	口縁部1/8		
55	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	14.9	-	長石・石英(中)多, 雲母・角閃石(細)少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ココナ, 斜格子文, 刺突文, 貼付突帯刻目, オサ, ハケ	ココナ, オサ後ハケ, ナ	口縁部8/8		
56	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	14.4	-	長石(中)少, 石英(粗)少, 雲母(細)多, 角閃石(細)	灰黄2.5Y6/2	黒2.5Y2/1	ココナ, 貼付突帯刻目, ハケ	ココナ, ナ, ハケ	口縁部8/8		
57	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	14.6	23.2	長石・石英(細)多, 雲母(細)少	灰黄2.5Y6/1, 黄灰2.5Y5/1	灰白2.5Y7/1, 黄灰2.5Y6/1	ココナ, ハケ, ハケ	ココナ, ナ, ハケ	底部8/8	黒斑, 穿孔3穴, 単位2箇所	
58	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	7.7	長石(中), 石英(粗)少	浅黄2.5Y7/3	黒褐2.5Y3/1	ハケ, ハケ	オサ, ハケ	底部8/8		
59	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	12.4	-	長石・石英(中), 雲母(中)少	明黄褐10YR7/6	褐灰10YR4/1, にぶい黄橙10YR6/4	ココナ, 刻目, ハケ後ナ	ココナ, マツ	口縁部1/8		
60	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	10.9	-	長石・石英(中), 雲母(中)少	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	ココナ, 貼付突帯, ハケ, ハケ	ココナ, オサ, オサ後ハケ	口縁部6/8		
61	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	7.3	長石(細), 石英(中)少	淡黄2.5Y8/3	灰黄2.5Y7/2	ハケ, マツ, ハケ	ナ	底部8/8		
62	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	7.4	長石・石英(中)多	橙2.5Y6/8	にぶい黄橙10YR6/4	ココナ, ハケ後ナ, マツ, ハケ	ココナ, オサ後ハケ	底部8/8		
63	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	10.4	-	長石(細)少, 石英(中)多	灰黄褐10YR6/2	褐灰10YR4/1	ココナ, 貼付突帯, ハケ, マツ	ココナ, ナ, マツ	口縁部4/8		
64	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	12.8	-	長石(中)多, 石英(中), 雲母(細)少	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	ココナ, 貼付突帯刻目, ハケ	ココナ, ナ, 板ナ後ナ	口縁部7/8		
65	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	7.4	長石(中)多, 石英(中)少, 雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/3	褐灰10YR4/1	マツ, ハケ	オサ後ハケ	底部8/8		
66	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	7.0	長石・石英(中)多, 雲母(中)少	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ハケ, ハケ	オサ, マツ, ハケ後ナ	底部4/8		
67	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	黄灰2.5Y5/1	灰白10YR8/2, 褐灰10YR4/1	ハケ, 貼付突帯刻目, マツ	ナ後板ナ, オサ後ナ	頸部1/8		
68	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	6.6	長石・石英(中)多, 雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	ハケ	ナ後ハケ	底部4/8		
69	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	14.4	-	長石(中), 石英(粗)	浅黄橙10YR8/3	灰黄褐10YR5/2	ココナ, 凹線, 刻目, ハケ	ココナ, オサ, 板ナ	口縁部1/8		



報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整			残存率	備考
						口径	底径		外面	内面	外面	内面			
70	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	13.6	長石・石英(粗)多	灰白10YR8/2	にぶい黄橙10YR7/2	オサエ後ハラシキ、ナリ	オサエ、ナリ後板ナリ	底部8/8	煤付着	
71	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ココナリ、刻目、ハケム	ココナリ、マツ	口縁部小片		
72	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/2	褐灰10YR5/1	ココナリ、洗線1条、貼付突帯刻目、ハケム、波状文、櫛描文、斜格子文	マツ	小片		
73	SHa13	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	褐灰10YR5/1	褐灰10YR4/1	ココナリ、貼付突帯刻目、ハケム、波状文、櫛描文、斜格子文	オサエ後ハケム	小片		
74	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	18.0	-	長石・石英(細)多、雲母(細)少	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	ココナリ、ハケム	ココナリ、ハケム、マツ	口縁部1/8		
75	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	-	6.2	長石・石英、雲母(細)多、角閃石(細)	灰黄2.5Y6/2、黄灰2.5Y5/1	灰黄2.5Y7/2、暗灰2.5Y5/2、黒褐2.5Y3/1	オサエ後ハラシキ、ナリ	オサエ後板ナリ	底部8/8	煤付着	
76	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	16.0	-	長石・石英(中)	橙2.5YR6/8、浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	ココナリ、ハケム、マツ	ココナリ、マツ、ハラシキ、ハケム	口縁部4/8	外面に黒斑	
77	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	14.5	-	長石・石英(中)	淡赤橙2.5YR7/4、灰白7.5YR8/2	にぶい黄橙10YR7/3	ココナリ、マツ、ハラシキ	ココナリ、オサエ後板ナリ	頸部3/8		
78	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	-	5.2	長石・石英(中)多、雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR7/3	にぶい黄橙7.5YR7/3	オサエ後ハラシキ、ナリ	ナリ	底部3/8		
79	SHa13	II区	-	弥生土器	甕	-	5.8	長石・石英(中)多、角閃石(細)少	橙5YR7/6、にぶい黄橙10YR7/2	灰黄褐10YR5/2	板ナリ、オサエ後板ナリ、ナリ	オサエ、ナリ	底部8/8		
80	SHa13	II区	-	弥生土器	高杯	24.6	18.4	長石・石英(粗)	赤橙10R6/6、灰白2.5Y8/2	赤橙10R6/6、灰白2.5Y8/2	ココナリ、刻目、ハラシキ、ナリ	ココナリ、ハケム、ハラシキ後ハラシキ、ナリ	脚部7/8	黒斑、円蓋充填	
81	SHa13	II区	-	弥生土器	高杯	-	9.8	長石・石英(細)少、雲母(細)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	オサエ後ハラシキ、マツ、ココナリ	紋り痕、ナリ、ココナリ	脚部6/8		
82	SHa13	II区	-	弥生土器	高杯	15.4	-	長石・石英(中)多	にぶい黄橙2.5YR6/4	にぶい黄橙5YR6/4	ココナリ、マツ	ココナリ、ハラシキ	口縁部1/8		
83	SHa14	II区	-	弥生土器	壺	25.0	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)少	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ココナリ、凹線2条	ココナリ	口縁部1/8		
84	SHa14	II区	-	弥生土器	甕	-	5.0	長石(粗)多、石英(中)、雲母(細)	橙5YR6/6	にぶい黄褐7.5YR5/3	マツ	オサエ、マツ	底部2/8		
85	SHa14	II区	-	弥生土器	甕	-	5.2	長石・石英(細)、雲母・角閃石(細)少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ハラシキ、ナリ	オサエ	口縁部2/8		
86	SHa14	II区	-	弥生土器	鉢	22.4	-	長石・石英(細)、雲母(細)少	明赤褐5YR5/6、にぶい赤褐5YR4/4	明褐7.5YR5/6	ココナリ、オサエ後ココナリ、ナリ、ハラスリ	ココナリ、ハケム	口縁部1/8		
87	SHa15	II区	-	弥生土器	壺	-	11.6	長石・石英(粗)多	浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/2	ハラシキ後板ナリ、オサエ、オサエ後ナリ	板ナリ、オサエ後板ナリ	底部8/8	煤付着	
88	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	-	-	長石(中)、石英(中)少	にぶい黄褐7.5YR5/4	にぶい黄褐7.5YR5/4	ココナリ、刻目、ナリ、櫛描文	ココナリ、ハラシキ、マツ	口縁部小片		
89	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	25.7	-	長石・石英(中)多、雲母(細)多	橙2.5YR6/6	黒褐5YR3/1	ココナリ、洗線、刺突文、ハケム、マツ	ココナリ、ナリ、オサエ	口縁部2/8		
90	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙7.5YR5/3	にぶい黄褐7.5YR5/3	ココナリ、ハケム	ココナリ、ハラシキ	頸部4/8		
91	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	-	7.9	長石(粗)多、石英(中)	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄2.5Y6/4	ハラシキ、マツ、ナリ	板ナリ、オサエ	底部8/8		
92	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	-	4.8	長石・石英(粗)多	明赤褐5YR5/6	褐灰10YR4/1	板ナリ、マツ、ナリ	オサエ、マツ	底部8/8		
93	SHa15	II区	-	弥生土器	甕	-	7.2	長石・石英(粗)多	灰黄褐10YR5/2、にぶい黄橙10YR7/2	褐灰10YR4/1	オサエ後ナリ、ナリ	ナリ後板ナリ	底部4/8		
94	SHa16	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	橙5YR7/8	橙5YR7/8	マツ、貼付突帯刻目	マツ	頸部小片		
95	SHa16	II区	-	弥生土器	甕	16.2	-	長石・石英、雲母(細)	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ココナリ、タタ	ココナリ、オサエ後ハラシキ後ハケム	口縁部3/8		
96	SHa16	II区	-	弥生土器	壺	-	3.8	長石(中)、石英(中)少、雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ナリ	ナリ	底部4/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量			胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面			
97	Sha16	II区	-	弥生土器	鉢	14.0	6.1	-	長石(細)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ナナ, オサエ	ナナ, オサエ後ナナ	底部8/8		
98	Sha16	II区	-	弥生土器	鉢	12.9	7.7	-	長石(細)少, 石英(中)少, 雲母(細)多	浅黄2.5Y7/4	橙7.5YR6/6	ハナ, ハナズリ, オサエ, ナナ	ハナ, ナナ	7/8	煤付着	
99	Sha16	II区	-	弥生土器	鉢	17.7	7.0	-	長石・石英(細)多, 雲母(細)多	橙7.5YR6/6, にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	オサエ後ナナ, ハナズリ	ハナ	完存	黒斑	
100	Sha16	II区	-	弥生土器	鉢	7.8	7.2	2.8	長石・石英・雲母(細)多	橙5YR7/6	橙5YR7/6	マツ	マツ	7/8		
101	Sha16	II区	-	弥生土器	ミョウ土器	4.5	2.4	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/2, 褐灰 10YR6/1	にぶい黄橙 10YR7/2, 黄灰 2.5Y5/1	オサエ	オサエ	完存		
102	Sha21	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)多	明赤褐2.5YR5/6	にぶい黄橙 10YR7/3	マツ	マツ	体部小片		
103	Sha22	III区	-	弥生土器	土製筋繩車	最大長 5.3	最大幅 5.3	最大厚 0.5	長石(細)少, 石英(中)多	にぶい黄橙 10YR7/3	灰白10YR7/1	マツ	マツ	完存		
104	Sha23	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(中)	浅黄2.5Y7/3	黒2.5Y2/1	ナナ	マツ	底部3/8		
105	Sha23	III区	-	弥生土器	土製筋繩車	最大長 3.6	最大幅 2.2	最大厚 0.7	長石・石英(中)少	褐灰10YR4/1	にぶい黄褐 10YR6/3	ハナ	ナナ	4/8		
106	Sha23	III区	-	弥生土器	土製筋繩車	最大長 3.4	最大幅 3.3	最大厚 0.8	長石(細)少	灰黄褐10YR6/2	灰白10YR7/1	ハナズリ	ナナ	完存		
107	Sha25	III区	-	弥生土器	壺	10.9	-	-	長石・石英(細)	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙7.5YR7/4	ヨナナ	ヨナナ	口縁部2/8		
108	Sha27	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)少, 雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	浅黄2.5Y7/3	オサエ	ハナ, マツ	底部4/8		
109	Sha27	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(中)	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	ナナ後オサエ, ナナ	ナナ	底部1/8		
110	Sha27	III区	-	弥生土器	甕	13.8	-	-	長石・石英, 角閃石(細)少, 雲母(細)多	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい橙7.5YR5/4	ヨナナ, ハナ	ヨナナ, ハナ, オサエ	口縁部1/8		
111	Sha27	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・角閃石(細)少, 雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	橙7.5YR6/6	ヨナナ, ハナ	ヨナナ, ナナ, オサエ	口縁部小片	下川津B類	
112	Sha27	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・石英(中)	にぶい橙7.5YR6/4	10YR7/3	ナナ	マツ	底部1/8		
113	Sha27	III区	-	弥生土器	鉢	-	-	-	長石・石英(細)多, 雲母(細)少	橙5YR6/6	明赤褐5YR5/6	ハナ, ナナ	マツ	底部8/8		
114	Sha27	III区	-	弥生土器	鉢	13.8	-	-	長石・石英・雲母(細), 角閃石(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨナナ, ハナ	ヨナナ, ハナ後ハナズリ	口縁部4/8		
115	Sha27	III区	-	弥生土器	鉢	19.4	-	-	長石・雲母(細), 石英(中), 角閃石(中)少	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨナナ, オサエ, ハナ, ハナ	ヨナナ, ハナ後ナナ	口縁部2/8		
116	Sha28	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨナナ, 雜面文, 斜行文, ナナ	ヨナナ, ナナ	口縁部小片		
117	Sha28	III区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(中)多, 石英(細)多	灰黄褐10YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/3	ナナ, オサエ	ナナ, オサエ	底部5/8		
118	Sha28	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・雲母(細)少, 石英(中)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨナナ, ハナ	ハナ, ナナ	口縁部小片		
119	Sha28	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨナナ, 凹線2条, オサエ, ハナ	ヨナナ後ハナ, ナナ	口縁部小片		
120	Sha28	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石(細)少, 石英(中)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨナナ, ハナ	ヨナナ, ハナ, ナナ, オサエ	口縁部小片		
121	Sha28	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ハナ, ナナ	ハナ	底部8/8		
122	Sha28	III区	-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・石英(中)	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	ハナズリ後ハナ, ハナ後ハナ, ナナ	板ナナ, オサエ	底部8/8		
123	Sha28	III区	-	弥生土器	高杯	-	-	-	長石・雲母・角閃石(細)少	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ナナ, ヨナナ	ナナ	底部小片	下川津B類	
124	Sha28	III区	-	弥生土器	鉢	12.0	6.3	-	長石・石英(中), 雲母(中)多	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ナナ, オサエ	板ナナ後ナナ	完存		
125	Sha28	III区	-	弥生土器	鉢	-	-	-	雲母(細)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい橙7.5YR5/3	ナナ, オサエ	ナナ	底部4/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	量			胎土	色詞			調整		残存率	備考
						口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面			
126	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	2.4	長石(細), 雲母(中)少, 角閃石(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	マツ	マツ	底部8/8		
127	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.7	6.1	-	長石・雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	褐7.5YR4/3	ナリ, オサエ	ナリ, 板ナリ	完存		
128	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.2	5.2	-	長石(中)少	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ナリ	ナリ, 板ナリ	口縁部1/8		
129	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.6	-	-	長石・石英(中)・雲母(中)多, 角閃石(細)多	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナリ, オサエ, ナリ	ハナメ	口縁部1/8		
130	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.5	6.4	-	長石・石英(細)	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい褐7.5YR5/3	ヨコナリ, ナリ, オサエ	ヨコナリ, ハナメ, 板ナリ	完存		
131	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.0	5.2	-	長石・石英・雲母(細)	にぶい黄褐 10YR5/3	褐灰10YR4/1	ヨコナリ, ナリ	ヨコナリ, 板ナリ	完存		
132	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	3.8	長石(細)少, 雲母(細)多, 角閃石(細)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	ナリ	ハラミカキ	底部8/8		
133	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.8	-	-	長石(中), 石英(細), 雲母(細)少, 角閃石(細)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ナリ	ナリ	口縁部2/8		
134	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	4.0	長石・雲母(細)少, 石英(細)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ナリ, オサエ	ナリ	底部1/8		
135	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	4.0	長石(細), 石英(細)少	灰黄褐10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/3	ナリ後オサエ	ハナメ	底部8/8	木葉底	
136	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄褐10YR5/2	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部小片		
137	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	-	長石(細), 雲母(細)少	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	ナリ後オサエ	ナリ	底部8/8		
138	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	ミニナリ壺	4.4	4.0	-	長石(細), 石英(中)少, 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ナリ, オサエ	ナリ	7/8		
139	SHa28	Ⅲ区	-	弥生土器	有孔土鉢	最大長 3.0	最大幅 3.1	最大厚 2.5	長石・石英(細)少	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	ナリ	ナリ	完存		
149	SBa03	I区・南 水路②	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.9	長石(細)多	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ハラミカキ, ナリ, オサエ後ナリ	オサエ後ナリ, ナリ, ハラミカキ	底部8/8		
150	SPa01	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(細), 石英(中)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	回縁2条, マツ	ヨコナリ	口縁部小片		
151	SPa04	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	12.0	長石(細)多	にぶい橙7.5YR6/4	-	ナリ	-	底部1/8		
152	SPa05	I区・南 水路②	-	弥生土器	鉢	19.6	-	-	長石(粗), 石英(中)少	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	オサエ, ナリ	ナリ	口縁部1/8		
153	SPa07	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	5.5	長石(細)多, 石英(細)	にぶい黄橙 10YR7/2	灰N4/	ハラミカキ, ナリ	マツ	底部2/8		
154	SPa08	I区・南 水路②	-	弥生土器	?	-	-	16.9	長石・石英(粗)多	橙2.5YR7/6, 灰白 10YR8/1, 褐灰 10YR6/1	橙2.5YR7/6, 褐灰 10YR6/1	ナリ, 列点文, ハラミカキ	ナリ, オサエ後ナリ	底部8/8	黒斑, 穿孔2穴1対 で2ヶ所	
155	SPa08	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(粗)多	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい橙7.5YR6/4	ナリ	オサエ後板ナリ	肩部小片		
156	SPa10	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(中), 石英(中)多	にぶい橙7.5YR7/4	橙5YR7/6	ヨコナリ, 櫛描文	ナリ	口縁部小片		
157	SPa11	I区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(中), 石英(粗)多, 雲母(細)少	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	波状文, 櫛描文, ナリ	ナリ	体部小片		
158	SPa13	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	6.0	長石(細), 石英(中)少	灰白10YR8/2	黄灰2.5Y6/1	板ナリ, ナリ	マツ, オサエ	底部2/8	底部黒斑	
159	SPa22	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	石英(粗), 雲母(細)少	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	ヨコナリ, マツ	ヨコナリ, オサエ	口縁部小片		
160	SPa35	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	8.0	長石(中), 石英(粗)	橙2.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	ナリ, オサエ	ナリ, オサエ	底部8/8		
161	SPa36	Ⅲ区	-	弥生土器	ミニナリ壺	7.3	-	-	長石(細)多, 石英(中)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	オサエ	板ナリ, オサエ	口縁部2/8		
162	SPa37	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	5.0	長石・石英(中)少	明赤褐2.5YR5/6	灰褐7.5YR5/2	ハラミカキ, ナリ, オサエ	ナリ, オサエ	底部8/8		
163	SPa43	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	10.0	長石・石英(粗)多	明赤褐5YR5/6	褐灰5YR4/1	ナリ	マツ	底部6/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面		
165	SKa05	I区・南水路②	-	弥生土器	壺	13.3	-	長石・石英(細)少	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ヨコナテ、ヘラカキ	ヨコナテ、ヘラカキ	口縁部小片	
166	SKa05	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	15.0	-	長石・石英(中)	明赤褐2.5YR5/8	明赤褐2.5YR5/8	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、マツ	口縁部1/8	
167	SKa05	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	11.6	-	長石・雲母(細)、石英(中)	橙2.5YR7/6	橙2.5YR7/6	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、マツ	口縁部1/8	
168	SKa05	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	-	10.0	長石(細)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ナテ	ナテ	底部2/8	
169	SKa05	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	-	6.4	長石・石英(細)多、雲母(細)少	にぶい橙5YR6/4	灰黄褐10YR4/2	板ナテ、ナテ、ヘラカスリ	ヘラカスリ	底部8/8	
170	SKa06	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	13.0	-	長石(細)少、石英(細)	にぶい褐7.5YR5/4	橙7.5YR6/6	ナテ、マツ	ナテ、オサエ、ヘラカスリ	口縁部1/8	下川津B類
171	SKa06	I区・南水路②	-	弥生土器	壺	-	1.8	石英・雲母(中)、角閃石(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/8	マツ	マツ	底部8/8	下川津B類
172	SKa07	I区・南水路②	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	灰白2.5Y8/2	暗灰N3/	ナテ、櫛描直線文、波状文、ヘラカスリ	ナテ、オサエ後ナテ	底部2/8	
173	SKa07	I区・南水路②	-	弥生土器	壺	-	11.0	長石(中)少、石英(中)多	浅黄2.5Y7/3	暗灰N3/	ヘラカスリ、ヘラカスリ後ナテ	ナテ、オサエ	底部4/8	
174	SKa08	I区・南水路②	-	弥生土器		8.6	-	長石(細)少、石英(粗)、雲母(細)	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナテ、ヘラカスリ	ナテ	口縁部2/8	
175	SKa08	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	15.9	14.6	長石(中)少、石英(粗)	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	ヨコナテ、櫛描直線文、波状文、ナテ、マツ	ヨコナテ、ナテ	口縁部2/8	
176	SKa08	I区・南水路②	-	弥生土器	甕	18.0	-	長石・石英(細)多	にぶい黄橙10YR7/2、褐灰10YR6/1、橙2.5YR6/6	灰白10YR8/2	ナテ、オサエ、櫛描文、刺突文、ハケム	ハケム、オサエ、ナテ	口縁部1/8	
177	SKa13	II区	-	弥生土器	壺	16.6	-	長石(細)多、石英(細)	にぶい黄橙10YR7/3	灰白10YR8/2	ヨコナテ、ハケム、マツ	ヨコナテ、オサエ後ナテ	口縁部1/8	
178	SKa14	II区	-	弥生土器	甕	-	-	長石(中)、石英(中)多	浅黄橙7.5YR8/4	灰白10YR8/2	刻目、オサエ、櫛描文	オサエ	口縁部小片	
179	SKa14	II区	-	弥生土器	高杯	-	-	長石(細)少	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部小片	
180	SKa14	II区	-	弥生土器	甕	-	5.9	長石・石英(細)多	明赤褐2.5YR5/6、褐灰2.5YR5/1	にぶい黄橙10YR7/2	板ナテ、オサエ後ナテ、ナテ	板ナテ、マツ	底部2/8	
181	SKa16	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	にぶい黄褐10YR4/3	にぶい黄橙10YR7/4	沈線13条、ヨコナテ後ヘラカスリ	ナテ、マツ	頸部1/8	
182	SKa16	II区	-	弥生土器	甕	20.0	-	長石・石英(中)多	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナテ、オサエ、板ナテ後ハケム	ヨコナテ、オサエ	口縁部1/8	
183	SKa16	II区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(細)多	灰白10YR8/2	にぶい黄橙10YR7/3	ヨコナテ、オサエ後ナテ、ナテ	ヨコナテ、マツ	口縁部小片	黒斑
184	SKa16	II区	-	弥生土器	甕	-	4.9	長石(細)少、石英(中)少	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR5/3	マツ	マツ	底部1/8	
185	SKa17	II区	-	弥生土器	甕	-	4.6	長石(中)多、石英(中)	褐灰7.5YR4/1	にぶい褐7.5YR5/3	ナテ、マツ、オサエ	ナテ	底部6/8	
186	SKa17	II区	-	弥生土器	甕	-	4.4	長石・石英(中)少	黄灰2.5Y5/1、にぶい黄橙10YR7/2	浅黄橙10YR8/3	オサエ後ナテ、ナテ	オサエ後ナテ	底部2/8	
187	SKa20	II区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ナテ、櫛描文、刺突文	ナテ	小片	
188	SKa26	II区	-	弥生土器	甕	-	7.0	長石(中)、石英(細)少	明赤褐5YR5/6	黒褐5YR3/1	ハケム、マツ、ナテ	ヘラカスリ、ナテ、マツ	底部1/8	
189	SKa26	II区	-	弥生土器	甕	-	8.0	長石・石英(中)多	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8	ハケム、ヘラカスリ後ナテ	ナテ	底部2/8	
190	SKa31	III区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(粗)	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、櫛描沈線、櫛描波状文	ヨコナテ、ナテ	底部小片	
191	SKa36	III区	-	弥生土器	甕	-	5.0	長石・石英(中)、雲母(細)少	褐灰10YR4/1	にぶい黄橙10YR6/3	マツ	オサエ	底部3/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面			
192	SKa37	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	10.9	23.9	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ、口縁端部凹線3条、 頸部凹線3条、ハケム、オサエ後へ ヘラカキ、ナテ	ヨコナテ、ナテ、オサエ、ハケム	口縁部5/8	へら記号	
193	SKa40	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.9	2.9	長石・雲母(細)	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ナテ、オサエ	ナテ	1/8		
197	STa01	Ⅱ区	-	弥生土器	鉢	36.4	-	長石・石英(細)多	にぶい褐7.5YR6/4	褐灰10YR5/1、に ぶい黄橙10YR6/3	ヨコナテ、オサエ後ヨコナテ、ヘラカス リ後ハケム後ヘラカキ、マツ	ヨコナテ、板ナテ、オサエ後ハケ ム後ヘラカキ	口縁部4/8	土器棺・黒斑	
198	STa01	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	8.6	長石・石英(中)	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	ハケム、貼付突帯	オサエ、ナテ、マツ	底部1/8	土器棺	
199	STa01	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	5.8	長石(中)、石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	ハケム、ナテ	ナテ	底部2/8		
200	STa02	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	29.0	-	長石・石英(細)、雲母(細)	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	ヨコナテ、ハケム、貼付突帯、ハケム 後ヘラカキ、マツ	ヨコナテ、ヘラカキ、板ナテ後 オサエ、ナテ、ハケム	口縁部3/8	土器棺	
201	STa02	Ⅱ区	-	弥生土器	小型壺	9.0	7.4	長石(細)、石英(中)	明赤褐5YR6/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナテ、ハケム	ヨコナテ、オサエ後板ナテ	底部8/8		
202	STa03	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石(粗)、石英(中)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナテ、ハケム、マツ	オサエ、ハケム、マツ	頸部1/8	土器棺	
203	STa03	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	8.5	長石(中)、石英(中)多	橙5YR6/8	橙5YR6/8	ハケム、ヘラカスリ後ナテ	マツ	底部8/8	土器棺	
204	STa04	Ⅱ区	-	弥生土器	片口鉢	36.5	19.0	長石・石英(中)	橙7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ、ハケム、ナテ	ヨコナテ、ナテ、オサエ後ハケム	口縁部4/8	土器棺	
205	STa04	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	9.0	長石・石英(中)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	貼付突帯、ハケム後ヘラカキ、ハ ケム、オサエ、ナテ	ヨコナテ、ナテ、ヘラカスリ	7/8	土器棺	
206	STa05	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	23.2	-	長石・石英(中)	橙5YR6/8	橙5YR6/8	ヨコナテ、器蓋文、斜行文、ハ ケム後ナテ	ヨコナテ、ナテ	口縁部1/8	207と同一?	
207・ 208	STa05	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	25.4	-	長石・石英(中)	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	ヨコナテ、器蓋文、斜行文、ハ ケム、ナテ	ヨコナテ、ナテ、ヘラカスリ	口縁部3/8	土器棺	
209	STa06	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石(中)、石英(粗)少、雲母(細)少	浅黄橙10YR6/6	浅黄橙10YR8/4	ハケム、ヘラカスリ、オサエ	ハケム	底部2/8	土器棺	
210	STa06	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	浅黄橙10YR6/8	浅黄橙10YR8/3	ハケム後ハケム、ヘラカスリ後ハケム	ハケム	底部8/8	土器棺	
211	STa07	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石(中)、石英(粗)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ハケム	板ナテ	底部2/8	土器棺	
212	STa08	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	5.0	長石(中)、石英(粗)	橙7.5YR6/6	暗灰N8/	ハケム、ハケム、ナテ	ヘラカスリ、オサエ	底部8/8	土器棺	
213	STa08	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	8.4	長石・石英(細)少	明赤褐5YR5/8	明赤褐5YR5/8	ナテ、ハケム後ハケム、オサエ	ナテ、ハケム後オサエ、ハケム	7/8	土器棺	
214	STa09	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	9.0	長石(細)	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙10YR8/4	ハケム後ハケム、ハケム	板ナテ、マツ	底部8/8	土器棺	
215	STa09	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)	にぶい橙 7.5YR7/4、赤橙 10YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/3、褐灰 10YR6/1	ハケム後ヘラカキ、ハケム後ハケム、 板ナテ後ヘラカスリ	オサエ後板ナテ	底部7/8	土器棺	
216	STa09	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	28.0	-	長石・石英(中)多、雲母(細)、角閃石 (中)少	にぶい褐7.5YR6/3	にぶい褐7.5YR6/3	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8	下川津B類	
217	STa09	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	19.4	-	長石・石英(細)少、角閃石(細)	にぶい褐7.5YR5/4	灰黄褐10YR6/2	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8		
218	STa09	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	10.0	長石(中)、石英(細)少	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい褐7.5YR5/3	オサエ後板ナテ、ナテ	-	底部2/8	鉄分付着	
219	STa10	Ⅱ区	-	弥生土器	片口鉢	45.0	-	長石・石英(中)少、雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケム後ハケム、ハケム後ナ テ	ヨコナテ、ハケム	口縁部4/8	土器棺	
220	STa10	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	9.0	長石・石英(粗)多	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	マツ、ハケム	ナテ、マツ、板ナテ、ヘラカス リ後ナテ	底部8/8	土器棺	
221	STa10	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	21.2	-	長石・石英(中)多	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナテ、波状文、マツ	ヨコナテ、オサエ	口縁部5/8		
222	STa10	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	6.0	長石・石英・雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ナテ	ヘラカスリ後ナテ	底部3/8	下川津B類	
223	STa11	Ⅰ区・南 水路②	-	弥生土器	壺	-	-	長石(細)少	橙7.5YR6/6	にぶい橙7.5YR6/4	ハケム後ヘラカキ、マツ	オサエ後ナテ後ハケム、ヘラカス リ	底部3/8	土器棺・穿孔有	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土		色調		調整		残存率	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	外面		
224	Sta11	I区・南水路②	弥生土器	壺	32.7	65.0	11.6	長石・石英(中)	にぶい燻7.5YR5/4	にぶい燻7.5YR5/4	ヨコナテ、流線4条、ハケム、ハラケスリ	ヨコナテ、オサ工後ハケム、ナテ、ハラケスリ	6/8	土器棺・黒斑	
225	Sta11	I区・南水路②	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母(中)多	にぶい燻7.5YR6/4	にぶい燻7.5YR6/4	ヨコナテ	ヨコナテ、板ナテ、オサ工	頸部7/8		
226	Sta11	I区・南水路②	弥生土器	壺	23.6	-	-	長石・石英(中)多	浅黄燻7.5YR8/4、 橙2.5YR6/6	浅黄燻7.5YR8/3、 褐灰10YR6/1	マツ、波状文、貼付円形浮文(2箇所)で7ヶ所、貼付突帯刻目、ハケム	オサ工後ナテ、板ナテ、マツ	口縁部8/8	土器棺	
227	Sta13	II区	弥生土器	壺	-	-	7.4	長石(細)少、石英(中)	橙5YR6/6	褐灰5YR4/1	ハケム、外ナテ、ナテ	ハケム、板ナテ、オサ工	底部8/8		
228	Sta13	II区	弥生土器	壺	-	-	?	長石・石英(粗)、雲母(細)少	にぶい黄燻 10YR7/3、橙 7.5YR7/6	にぶい黄燻 10YR7/3、橙 7.5YR7/6	貼付突帯刻目、オサ工後外ナテ、オサ工後外ナテ後板ナテ、ハラケスリ	オサ工後ハケム、オサ工	体部7/8	外面黒斑、煤付着、土器棺	
229	Sta12	I区・南水路②	弥生土器	鉢	43.2	-	-	長石・石英(粗)、雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ、外ナテ後ハケム	ヨコナテ、オサ工後板ナテ、マツ	口縁部小片	土器棺	
230	Sta12	I区・南水路②	弥生土器	壺	-	-	8.3	長石(中)、石英(細)多	にぶい燻7.5YR7/4	にぶい燻7.5YR7/4	貼付突帯刻目、ヨコナテ、外ナテ後ハケム、外ナテ後ハラケスリ	ヨコナテ、ハケム、オサ工	6/8	土器棺・穿孔有	
231	Sta14	I区・南水路②	弥生土器	壺	17.0	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)	にぶい黄燻 10YR6/3	にぶい黄燻 10YR6/3	ヨコナテ、刻目、ナテ	ヨコナテ、ハケム	口縁部2/8	232と同一?	
232	Sta14	I区・南水路②	弥生土器	壺	-	-	6.3	長石・石英(粗)多、雲母(細)	にぶい黄燻 10YR6/3	にぶい黄燻 10YR6/3	ハケム、ハラケスリ、外ナテ、ナテ	オサ工後板ナテ、ハラケスリ	底部8/8	231と同一	
233	Sta14	I区・南水路②	弥生土器	壺	-	-	6.6	長石(中)・石英(中)少、雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	にぶい燻7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケム後ハラケスリ	ナテ、ハラケスリ	頸部2/8	土器棺・体部に穿孔有	
234	Sta15	II区	弥生土器	壺	19.7	33.9	5.1	長石・石英(中)	にぶい燻7.5YR6/4	にぶい燻7.5YR6/4	ナテ、ハケム、ヨコナテ、外ナテ後ハケム	板ナテ、ナテ、ハケム	ほぼ完存	土器棺	
235	Sta15	II区	弥生土器	壺	-	-	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)	にぶい黄燻 10YR5/4	にぶい黄燻 10YR6/4	ハケム、ハケム後外ナテ、ナテ	ナテ、ハケム	体部5/8	土器棺	
236	Sta15	II区	弥生土器	壺	15.2	-	-	長石・石英(粗)、雲母(細)	浅黄燻10YR8/3	にぶい燻7.5YR7/4	ヨコナテ、外ナテ、オサ工	ヨコナテ、オサ工、ハラケスリ、板ナテ	口縁部4/8	土器棺	
237	Sta16	II区	弥生土器	壺	-	-	9.4	長石・石英(中)	にぶい黄燻 10YR7/3、橙 2.5YR6/8	にぶい黄燻 10YR7/4	ハケム、ハラケスリ、オサ工後板ナテ、ナテ、板ナテ	ハケム、オサ工後ナテ	底部8/8	土器棺・黒斑	
238	Sta16	II区	弥生土器	壺	-	-	8.8	長石・石英(粗)多	にぶい黄燻 10YR7/4	にぶい黄燻 10YR7/4	オサ工、外ナテ後ヨコナテ、ハケム、オサ工後ハケム	オサ工、ナテ、ハケム、オサ工後ハケム	体・底部 8/8	土器棺・穿孔・黒斑	
239	Sta17	II区	弥生土器	片口鉢	26.4	23.7	6.4	長石・石英(粗)	にぶい黄燻 10YR6/3	にぶい黄燻 10YR6/2	ヨコナテ、外ナテ後ハケム、外ナテ、外ナテ後ハラケスリ、ナテ	ヨコナテ、ハケム、ナテ	4/8	土器棺	
240	Sta17	II区	弥生土器	壺	-	-	11.7	長石・石英(粗)多	黄燻7.5YR8/8	黄燻7.5YR8/8	ハケム、ヨコナテ、貼付突帯刻目、刺突文、外ナテ後ハケム後ハラケスリ、ナテ	オサ工、板ナテ後ハケム	体・底部 8/8	土器棺	
241	Sta17	II区	弥生土器	鉢	-	-	-	長石・石英(粗)多、雲母(細)多	にぶい赤燻5YR5/4	にぶい赤燻5YR5/4	ヨコナテ、オサ工後板ナテ	ヨコナテ	口縁部小片		
242	Sta17	II区	弥生土器	高杯	-	-	-	長石・石英・雲母、角閃石(細)	明赤燻5YR5/6	明赤燻5YR5/6	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部小片	下川津B類	
247	Sxa01	I区・南水路②	弥生土器	壺	14.6	-	-	長石・石英(細)	にぶい燻7.5YR6/4	にぶい燻7.5YR6/4	ヨコナテ、刻目、ハケム、貼付突帯刻目	ヨコナテ、オサ工後ナテ	口縁部4/8		
248	Sxa03	I区・南水路②	弥生土器	壺	26.0	-	-	長石・石英(中)、雲母、角閃石(細)少	にぶい黄燻 10YR6/4	にぶい黄燻 10YR6/4	ヨコナテ、鑲嵌文、斜行文、オサ工、ハケム	ヨコナテ、マツ	口縁部1/8		
249	Sxa04	I区・南水路②	弥生土器	壺	22.6	-	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)少	橙7.5YR6/8	浅黄燻10YR8/3	ヨコナテ、鑲嵌文、斜行文、ナテ、ハケム	ヨコナテ	口縁部1/8		
250	Sxa04	I区・南水路②	弥生土器	壺	-	-	-	長石(粗)多、石英(粗)多	橙5YR6/8	橙5YR6/8	マツ、貼付突帯刻目	マツ	頸部2/8		
251	Sxa04	I区・南水路②	弥生土器	壺	14.3	-	-	長石(中)、石英(細)多、雲母(細)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ナテ	ナテ、板ナテ、ハケム	口縁部2/8		
252	Sxa07	II区	弥生土器	壺	22.4	-	-	長石(粗)少、石英(中)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8		
253	Sxa07	II区	弥生土器	高杯	-	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	明燻7.5YR5/6	明燻7.5YR5/6	マツ	マツ	3/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量			胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面		
254	SXa08	II区	I-	弥生土器	小型甕	-	-	3.0	長石・石英(中)	浅黄燧10YR8/4	浅黄燧10YR8/4	残キ、ナリ	マツ	底部8/8	
255	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	18.4	-	-	長石・石英(細)多	浅黄燧5YR6/6	浅黄燧10YR8/4、 橙7.5YR7/6	ヨコナリ、ハケ後板ナリ後刺突 文	マツ、オサエ、ナリ	口縁部7/8	
256	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	14.4	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナリ、竹管文、マツ	ヨコナリ、オサエ、マツ	口縁部2/8	
257	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	16.4	-	-	長石・石英(中)多、雲母(細)少	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナリ、凹線3条	ヨコナリ	口縁部5/8	
258	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	23.2	-	-	長石・石英(細)多	橙5YR6/8	橙5YR6/8	マツ、刻目文、円形浮文	マツ	口縁部3/8	
259	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	24.2	-	-	長石・石英(細)	橙7.5YR6/6、灰白 10YR8/2	明黄褐10YR6/6	ヨコナリ、籬雷文、斜行文、マ ツ	ヨコナリ	口縁部1/8	
260	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	-	-	8.0	長石・雲母、角閃石(細)少	黒褐10YR3/1	にぶい黄燧 10YR6/4	ハラカキ、オサエ、ナリ	ハケ、マツ	底部4/8	
261	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	-	-	8.0	長石・石英(細)、雲母(細)少	橙7.5YR6/6	にぶい黄燧 10YR7/4	オサエ後板ナリ、板ナリ	オサエ後板ナリ	底部5/8	
262	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	-	-	8.7	長石(細)少、石英(粗)多	橙7.5YR6/6	黄灰2.5Y4/1	ナリ	ナリ、オサエ	底部8/8	
263	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	15.6	-	-	長石・石英・角閃石(細)少	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、オサエ	口縁部1/8	下川津B類
264	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	16.4	-	-	長石(中)多、石英(粗)、雲母(中)、角閃 石(細)少	橙5YR6/6	にぶい褐7.5YR6/4	ヨコナリ、ハケ、ハラカキ	ヨコナリ、ハラカキ	口縁部1/8	
265	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	16.5	-	-	長石(粗)少、雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナリ、残キ	ヨコナリ、ハラカキ	口縁部1/8	
266	SXa09	II区	I-	弥生土器	壺	12.7	-	-	長石・石英(中)	橙5YR6/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナリ、マツ、ハケ、オサエ	ヨコナリ、ハケ、マツ	口縁部2/8	
267	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	-	-	3.8	長石・石英(細)少	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ハケ、ナリ	ハケ	底部7/8	
268	SXa09	II区	I-	弥生土器	三ツ子甕	7.7	6.9	2.8	長石・石英(細)少	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ナリ、オサエ	ナリ、オサエ	3/8	
269	SXa09	II区	I-	弥生土器	高杯	-	-	11.8	長石(細)、石英・角閃石(中)少	明褐7.5YR5/6	明褐7.5YR5/6	ナリ、ヨコナリ	ハラカキ	脚部1/8	下川津B類
270	SXa09	II区	I-	弥生土器	高杯	-	-	16.3	長石(中)少、石英(細)、雲母(細)少、角 閃石(中)少	にぶい黄燧 10YR6/4	黄灰2.5Y4/1	マツ、ヨコナリ、凹線2条	ハラカキ	脚部1/8	下川津B類?
271	SXa09	II区	I-	弥生土器	高杯	-	-	-	長石・石英(粗)多	橙7.5YR7/6	にぶい黄燧 10YR7/4	マツ、凹線2条	マツ	口縁部小片	
272	SXa09	II区	I-	弥生土器	鉢	-	-	-	長石・角閃石(細)少	黒褐10YR3/1	にぶい黄燧 10YR5/4	ヨコナリ、凹線2条、ナリ	ヨコナリ	口縁部小片	
273	SXa09	II区	I-	弥生土器	鉢	11.4	5.4	1.3	長石(中)、石英(細)少	明褐7.5YR5/6	明褐7.5YR5/6	ナリ、オサエ	板ナリ	5/8	
274	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	-	-	1.8	長石(粗)少、石英(中)	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	板ナリ	板ナリ、ナリ	4/8	
275	SXa09	II区	I-	弥生土器	甕	-	-	1.3	長石(粗)、雲母(細)	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ハケ	ハケ、ナリ	底部8/8	
276	SXa11	II区	I-	弥生土器	台付鉢	-	-	3.6	長石・石英・雲母(細)少	浅黄燧10YR8/3	浅黄燧10YR8/4	オサエ、ナリ、ハラカキ	マツ	底部8/8	
277	SXa14	III区	I-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)	にぶい黄燧 10YR7/4	にぶい黄燧 10YR5/4	ナリ、ヨコナリ、貼付突帯、オ サエ、ハケ	オサエ	体部小片	
278	SXa16	III区	I-	弥生土器	土製紡錘 草	最大長 3.8	最大幅 4.3	最大厚 0.9	長石(中)、石英(中)多	橙7.5YR6/6	橙5YR6/6	マツ	ナリ	完存	
283	SDa18	III区	I-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(中)	明赤褐5YR5/6	にぶい黄燧 10YR7/4	ヨコナリ	ヨコナリ、板ナリ	口縁部小片	
284	SDa23	III区	I-	弥生土器	高杯	-	-	-	長石(中)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ナリ	ナリ	杯部小片	
285	SDa24	III区	I-	弥生土器	甕	-	-	-	長石・石英(中)	にぶい褐7.5YR5/4	明褐7.5YR5/6	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部小片	
286	SDa24	III区	I-	弥生土器	甕	-	-	-	長石(中)少、石英(細)	橙5YR7/6	橙5YR7/6	マツ	マツ	口縁部1/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面		
287	SDa29	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)	外面	内面	外面	内面	口縁部小片	
288	SDa29	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	1.9	長石・石英(細)少	黒褐10YR3/1	褐灰10YR4/1	ナリ	ナリ	底部1/8	
289	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)、雲母・角閃石(細)少	灰黄褐10YR4/2	にぶい黄褐10YR5/3	ナリ	-	小片	
290	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	10.0	長石・石英(細)多	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙7.5YR7/4	ハケ、ハケ後コナリ、ナリ	ナリ	底部3/8	
291	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	3.0	長石(細)少、石英(細)少、雲母(細)多	褐7.5YR4/4	黒褐7.5YR3/1	ハケ、オサ、ナリ	ナリ、オサ	底部8/8	
292	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(細)、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/2	浅黄橙10YR8/3	楡描文、列点文、ナリ	ナリ	小片	
293	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	5.8	長石・石英(細)、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	マツ、板ナリ、ナリ	ナリ	底部8/8	
294	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	-	4.0	長石・雲母(細)少、石英(細)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	マツ	マツ	底部3/8	下川津B類
295	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	長石・石英(中)多、角閃石(細)少	橙7.5YR6/8	橙7.5YR6/8	コナリ	コナリ、ナリ	口縁部小片	
296	SDa32	Ⅱ区	-	土師器	高杯	-	16.3	長石・雲母・角閃石(細)少、石英(中)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ハケ後オサ、外半後コナリ	ハケ、ナリ、コナリ	脚部1/8	穿孔1穴
297	SDa32	Ⅱ区	-	土師器	高杯	-	-	長石・石英(細)少、雲母(細)多	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ナリ、ハケ	ナリ、絞り痕、オサ、ハケ	脚部4/8	穿孔4穴
298	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	長石・雲母(細)少、石英(細)少	橙7.5YR6/6	にぶい橙7.5YR5/4	コナリ、ナリ	コナリ、ハラカキ	口縁部小片	
299	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	鉢	-	-	長石・石英(細)少、雲母(細)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	コナリ	コナリ、ハケ	口縁部小片	
300	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	鉢	8.8	7.3	長石(中)少、雲母・角閃石(細)少	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	コナリ、ハケ、ハケ	コナリ、ナリ	3/8	下川津B類?
301	SDa32	Ⅱ区	-	弥生土器	鉢	16.0	-	長石・石英(中)、角閃石(中)少	にぶい赤褐5YR5/4	灰黄褐10YR4/2	コナリ、ハケ後楡描文、ハケ、マツ	コナリ、ハケ後ナリ、マツ	口縁部1/8	
302	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	小型壺	8.8	8.2	長石・石英・角閃石(細)少、雲母(細)多	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	コナリ、ナリ、ハケ、ハケ	コナリ、ナリ	7/8	
303	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	-	4.6	長石・石英(細)	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	板ナリ後ナリ	ハケ、オサ	底部7/8	へら記号
304	SDa32	Ⅲ区	-	弥生土器	土製筋罐	最大長5.0	最大幅4.8	長石(細)、石英(中)少	褐灰10YR5/1	灰黄褐10YR6/2	へらカキ	ハケ後ナリ	完存	
305	SDa41	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	19.7	-	長石(粗)少、石英(粗)	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	ハケ、マツ	マツ	口縁部1/8	
306	SDa41	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石(中)少、石英(粗)	にぶい黄橙10YR6/4	浅黄橙10YR8/3	刺突文、マツ	ナリ、マツ	肩部1/8	
307	SDa50	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	13.4	-	長石(細)少、石英(中)少	浅黄橙10YR8/3	黒褐2.5Y3/1	コナリ、オサ後ナリ	へらカキ	口縁部1/8	
308	SDa50	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)少	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	コナリ、波状文	コナリ	口縁部小片	
309	SDa50	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	19.9	長石(中)少、石英(中)多	浅黄橙10YR8/3	灰白10YR8/2	オサ、マツ	マツ	底部2/8	
310	SDa50	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	6.2	長石(細)少、石英(粗)多	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	マツ、へらカキ	ナリ	底部8/8	
311	SDa52	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	6.8	長石(粗)、石英(中)少	にぶい赤褐5YR5/4	灰褐5YR4/2	板ナリ、ナリ	ナリ	底部7/8	
312	SDa54	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	8.6	-	長石・石英(中)多	にぶい橙5YR7/3	灰白10YR8/2	コナリ、オサ後ハケ	コナリ、オサ後ナリ	口縁部1/8	
313	SDa58	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	13.4	-	長石(細)多	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	コナリ、凹線2条、ハケ後刺突文、ハケ、へらカキ後刺突文	コナリ、絞り痕後ナリ、ハケ	口縁部3/8	
314	SDa58	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	コナリ	コナリ	口縁部小片	
315	SDa58	Ⅱ区	-	弥生土器	甕	-	-	長石(粗)多、石英(中)少	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	貼付突帯刻目、マツ	マツ	口縁部小片	



報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		外径	内面	外面	内面		
316	SDa58	II区	-	弥生土器	甕	16.8	-	長石・石英・雲母(細)少	褐灰10YR4/1	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, ハケム後ハラカキ	ヨコナテ, ハケム後ハラカキ	口縁部1/8	
317	SDa59	III区	-	弥生土器	甕	-	4.5	長石・石英(細)多, 結晶片岩(細)少	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰2.5Y4/1	ナテ	ナテ	底部8/8	
318	SDa62	III区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)	にぶい黄7.5YR6/3	にぶい橙7.5YR6/3	櫛指洗線, 波状文	ナテ	頸部小片	
319	SDa62	III区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(中)	にぶい黄褐 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, ナテ	ヨコナテ, ナテ	口縁部小片	
320	SDa62	III区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(中)多	橙2.5YR6/6	灰白7.5YR6/2	櫛指洗線, 刺突文, ナテ	板ナテ	体部小片	
321	SDa34	III区	-	弥生土器	壺	29.2	-	長石・石英・角閃石(細)少, 雲母(細)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, 板ナテ	ヨコナテ, 板ナテ	口縁部1/8	
322	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	15.0	-	長石・角閃石(細)少, 雲母(細)多	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄2.5Y6/3	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部2/8	下川津B類
323	SDa34	III区	-	弥生土器	壺	23.7	-	長石・雲母・角閃石(細)少	にぶい黄褐 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR6/4	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8	下川津B類
324	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	25.4	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	にぶい褐 7.5YR6/3, 明赤褐 5YR5/8	にぶい黄橙 10YR7/2, 明赤褐 5YR5/8	ヨコナテ, 縞歯文, 斜行文, 刻目	ヨコナテ	口縁部1/8	
325	SDa34	III区	下層	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(細)少, 雲母(細)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナテ, 刻目	ヨコナテ	口縁部小片	
326	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	15.3	-	長石(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, ハケム	口縁部1/8	
327	SDa34	III区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・雲母(細)少, 石英(細)少	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ハラカキ後ハケム	板ナテ	体部1/8	
328	SDa34	III区	-	弥生土器	壺	-	4.6	長石(中), 石英(粗)	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰10YR4/1	板ナテ, ナテ	板ナテ	底部8/8	
329	SDa34	III区	-	弥生土器	壺	-	6.6	長石(細), 石英(中)	灰黄褐10YR6/2	褐灰10YR4/1	ハラカキ後ハラカキ, ナテ	ハケム	底部3/8	
330	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	-	3.0	長石・雲母(細), 石英(粗)少	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	ハラカキ後ハケム, ナテ	ハケム	底部6/8	
331	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	-	10.0	長石・石英(粗)多	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ハラカキ, ナテ	ハラカキ	底部2/8	
332	SDa34	III区	下層	弥生土器	壺	-	12.0	長石(細)少, 石英(粗)少	暗灰黄2.5Y5/2	暗灰黄2.5Y5/2	板ナテ, ナテ, ハラカキ	ハケム	底部1/8	
333	SDa34	III区	下層	弥生土器	甕	18.2	-	長石・石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	ヨコナテ, ナテ後ハケム	ヨコナテ, ハケム後ハラカキ	口縁部3/8	
334	SDa34	III区	下層	弥生土器	甕	14.8	-	雲母(中)多, 角閃石(細)少	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, ハケム	口縁部1/8	
335	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	11.6	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, マツ, ハケム	ヨコナテ, マツ, ハケム	口縁部4/8	
336	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	17.4	-	長石・石英(中)多, 雲母(細)少	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ヨコナテ, ナテ	ヨコナテ, ナテ	口縁部2/8	
337	SDa34	III区	下層	弥生土器	甕	15.0	-	長石・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ハラカキ後ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, 板ナテ, ハラカキ	口縁部1/8	
338	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	17.1	-	長石・石英(中), 雲母(細)	橙5YR6/6	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ, ヨコナテ後ハケム, ナテ	ヨコナテ, ヨコナテ後ハケム, ナテ	口縁部1/8	
339	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	15.0	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, ハケム	口縁部1/8	
340	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	-	6.8	長石(粗), 石英(粗)多	にぶい褐7.5YR5/4	明赤褐5YR5/6	ナテ	ハラカキ, ナテ	底部3/8	
341	SDa34	III区	-	弥生土器	甕	-	3.4	長石・石英(中), 雲母・角閃石(中)多	橙7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	ハラカキ	ハラカキ	底部8/8	
342	SDa34	III区	-	弥生土器	高杯	-	-	長石(粗), 石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐10YR6/2	ヨコナテ, ハラカキ	ヨコナテ, ハケム	口縁部小片	
343	SDa34	III区	下層	弥生土器	高杯	-	19.6	長石(中), 石英(中)少	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	ナテ, ヨコナテ	ハラカキ後ハケム	脚部2/8	
344	SDa34	III区	-	弥生土器	小型丸底壺	13.4	-	長石(中)多, 石英(粗), 雲母(細)少	橙7.5YR7/6	橙7.5YR6/8	ハラカキ, ナテ, マツ	ナテ, ナテ	体部2/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面	
345	SDa34	Ⅲ区	-	弥生土器	片口鉢	-	-	長石(粗)・雲母(細)	褐灰10YR4/1	ヨコナ	ヨコナ	口縁部小片	
346	SDa34	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	長石・石英・雲母(細)少, 角閃石(中)少	にぶい黄褐色10YR5/3	ヨコナ	ヨコナ	口縁部小片	下川津B類
347	SDa34	Ⅲ区	16.8	弥生土器	鉢	8.7	5.2	長石・石英(細)	にぶい黄褐色10YR7/3	ヨコナ, 凹線1条, 中エ, 外エ, 後エ, ハラカスリ, ナ	ヨコナ, 中エ後エ, ハラカスリ	底部4/8	
348	SDa34	Ⅲ区	23.8	弥生土器	鉢	-	-	長石・角閃石(細)少, 雲母(細)	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ヨコナ, ハナ	ヨコナ, ハナ	口縁部5/8	
349	SDa34	Ⅲ区	-	弥生土器	甌	-	2.5	長石(細), 石英(粗)	にぶい黄褐色10YR7/3	外エ後ナ	中エ後ナ	底部7/8	
350	SDa34	Ⅲ区	最大径3.6	弥生土器	土製紡錘車	最大径3.6	最大厚0.7	長石(細)少, 石英(中)	黒褐色5Y3/1	ナ	ナ	完存	
351	SDa47	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	7.8	長石(粗)多, 石英(中), 雲母・角閃石(細)少	にぶい黄褐色10YR6/3	ヨコナ, ハナ, ハラカスリ, ナ	ヨコナ, ナ, 中エ, ハラカスリ	底部8/8	下川津B類
352	SDa47	Ⅱ区	16.2	弥生土器	壺	27.1	5.8	長石(粗), 石英(細)少, 雲母(細)少	浅黄褐色10YR8/3	ヨコナ, 中エ, ハナ, ナ	ヨコナ, ナ, 中エ	7/8	
353	SDa47	Ⅱ区	17.2	弥生土器	壺	31.0	7.6	長石(中)多, 雲母・角閃石(細)少	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ヨコナ, ナ, ハラカスリ後ナ	ヨコナ, ナ, ハラカスリ後ナ	7/8	下川津B類
354	SDa47	Ⅱ区	14.8	弥生土器	壺	-	-	長石(中)多, 石英(中)	明赤褐色5YR5/6	ヨコナ, 沈線, ハナ後ナ	ヨコナ, 中エ後ヨコナ, 中エ後ハラカスリ	口縁部3/8	
355	SDa47	I区・南水路②	17.3	弥生土器	壺	-	-	石英(中), 雲母・角閃石(細)少	褐色5YR6/6	ヨコナ, 凹線2条	ヨコナ	口縁部1/8	
356	SDa47	Ⅱ区	17.0	弥生土器	壺	-	-	長石(細), 石英(中)少	にぶい黄褐色7.5YR7/4	ヨコナ, ハナ	ヨコナ, ナ	口縁部4/8	
357	SDa47	Ⅱ区	14.7	弥生土器	壺	-	-	長石(細), 石英(粗)多	褐色7.5YR6/6	ヨコナ, ハナ, ナ	ヨコナ, ハナ, ナ	口縁部4/8	絵画土器
358	SDa47	Ⅱ区	17.4	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)多, 雲母(細)少	にぶい黄褐色7.5YR7/4	ヨコナ, 凹線2条, ハナ, 櫛目直線文	ヨコナ, 板ナ後ナ	口縁部7/8	
359	SDa47	Ⅱ区	17.6	弥生土器	壺	-	-	長石(細), 石英(粗), 雲母(細)少	褐色7.5YR6/6	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
360	SDa47	Ⅱ区	18.9	弥生土器	壺	-	-	長石(細), 石英(中), 雲母(中)少	褐色7.5YR6/6	ヨコナ, 中エ後ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
361	SDa47	Ⅱ区	25.4	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄褐色10YR6/4	ヨコナ, 櫛目文, 斜格子文	ヨコナ, ナ	口縁部1/8	
362	SDa47	Ⅱ区	30.8	弥生土器	壺	-	-	長石(中)多・石英(中)少, 雲母(細)少	褐色5YR6/6	ヨコナ, ハナ, ナ	ヨコナ, ナ, 中エ, ナ	口縁部6/8	
363	SDa47	Ⅱ区	24.4	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(粗)多	浅黄褐色10YR8/3	ヨコナ, 縦線文, 斜行文	ヨコナ, ナ	口縁部1/8	
364	SDa47	Ⅱ区	23.5	弥生土器	壺	-	-	長石(中)多・石英(中)少	にぶい黄褐色10YR7/3	ヨコナ, 縦線文, 斜格子文, ナ	ヨコナ, ナ	口縁部1/8	
365	SDa47	Ⅱ区	12.2	弥生土器	壺	24.0	4.2	長石(中), 石英(細)多	にぶい黄褐色10YR7/4	ヨコナ, 中エ後ヨコナ, ハナ	ヨコナ, 中エ, ナ	底部8/8	焼成破損
366	SDa47	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	4.8	長石(粗)多, 石英(粗)	褐色5YR6/6	ナ, ハラカスリ, ハナ	ナ, 板ナ, 中エ	底部8/8	
367	SDa47	Ⅱ区	11.8	弥生土器	壺	22.4	7.0	長石・石英(粗)多	にぶい黄褐色10YR7/2	ヨコナ, ハナ, 列点文, 波状文, ハラカスリ, ナ	ヨコナ, ナ	4/8	
368	SDa47	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ヨコナ, ナ, 貼付突帯刻目	ヨコナ, 中エ後ナ	3/8	焼成破損
369	SDa47	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	9.2	長石・石英(粗)多	褐灰10YR5/1	ハナ, 刺突文, ハラカスリ後ナ, 板ナ後ナ	ナ, 中エ	底部8/8	
370	SDa47	Ⅱ区	-	弥生土器	壺	-	6.1	長石(中), 石英(粗)	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ハナ, 中エ	板ナ, 中エ	底部8/8	木葉底
371	SDa47	I区・南水路②	-	弥生土器	壺	-	6.4	長石(中)	褐色5YR6/8	ナ, ハラカスリ後ナ	ナ, 中エ	底部4/8	
372	SDa47	Ⅱ区	8.4	弥生土器	壺	14.2	-	長石・石英(粗)	にぶい黄褐色10YR7/2	ヨコナ, 中エ後ヨコナ, ナ, 板ナ, ナ	ヨコナ	7/8	黒斑
373	SDa47	I区・南水路②	13.4	弥生土器	壺	-	-	長石(細)少	明赤褐色5YR5/6	ヨコナ, ハナ, ナ	ヨコナ, ハナ, ナ	口縁部1/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土		色調			調整		残存率	備考
						口径	器高	底径	胎土	外面	内面	外面	内面	外面		
374	SDa47	II区	-	弥生土器	甕	12.6	-	長石・石英(細)	縹5YR6/8	縹5YR6/8	マツ	マツ	マツ	口縁部1/8		
375	SDa47	II区	-	弥生土器	甕	13.3	18.4	長石(中), 石英(粗)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナリ, オサエ, ハケム, 夕サキ, 板ナリ	ヨコナリ, オサエ, ナリ, ハケスリ	5/8			
376	SDa47	II区	-	弥生土器	甕	-	-	長石(中)少, 石英(粗)少, 雲母(細)少	明赤褐2.5YR5/6	褐灰10Y4/1	ヨコナリ, マツ, オサエ, ナリ, 刺英文	ヨコナリ, 板ナリ	底部8/8			
377	SDa47	II区	-	弥生土器	高杯	22.2	-	長石(中)多, 石英(中)少, 雲母(細)少	縹7.5YR6/6	縹7.5YR6/6	ヨコナリ, ハケスリ後ハケスリ	ヨコナリ, ハケスリ後ハケスリ	口縁部1/8			
378	SDa47	II区	-	弥生土器	高杯	-	-	長石・石英(粗)少	暗赤褐2.5YR6/8	暗赤褐2.5YR6/8	マツ, オサエ, 板ナリ, オサエ後ナリ	絞リ痕, マツ	底部1/8	穿孔6穴		
379	SDa47	II区	上層	弥生土器	鉢	8.9	14.9	長石(細), 石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナリ, ナリ, ナリ後ハケスリ	ヨコナリ, ナリ	6/8	木葉底		
380	SDa47	I区南水路②	暗褐色粘質土	弥生土器	鉢	11.3	6.8	長石・石英(中)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナリ, ナリ	ヨコナリ, ナリ	口縁部3/8			
381	SDa47	II区	上層	弥生土器	鉢	10.8	5.1	長石・雲母(細)少, 石英(粗)	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	ヨコナリ, ハケスリ, ナリ	ヨコナリ, ハケム	口縁部3/8			
382	SDa47	II区	上層	弥生土器	鉢	16.4	8.9	長石(細)多, 石英(中)	明赤褐5YR5/8	縹5YR6/8	ヨコナリ, オサエ, ハケスリ後ナリ, ハケスリ後ナリ	ヨコナリ, ハケスリ後ナリ	口縁部2/8			
383	SDa47	II区	-	弥生土器	鉢	19.5	11.6	長石(粗), 石英(中)	縹7.5YR7/6	明赤褐2.5YR5/6	ヨコナリ, マツ, ハケスリ後ナリ, ナリ	ヨコナリ, ハケム	6/8			
384	SDa47	II区	-	弥生土器	台付鉢	16.0	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナリ, マツ, ハケスリ	ヨコナリ, ハケスリ, マツ	口縁部3/8			
385	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	24.8	-	長石・石英(中)多, 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ, ハケスリ後ナリ	ヨコナリ, ナリ後ハケム	口縁部3/8			
386	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	23.6	-	長石・石英(粗), 雲母(細)少	にぶい赤褐5YR5/4	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナリ, 凹線3条, ヨコナリ, 板ナリ後ハケスリ	ヨコナリ, 板ナリ後ナリ	口縁部8/8			
387	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	25.6	-	雲母(細)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ	口縁部1/8			
388	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	24.0	-	長石・雲母(細)少, 石英(中)少	縹5YR6/6	縹5YR6/6	ヨコナリ, 刻目, ハケム	ヨコナリ, オサエ後ナリ	口縁部1/8			
389	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	15.6	-	長石(細), 石英(中), 雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ, ハケスリ後ナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケム, 板ナリ	口縁部2/8	下川津B類		
390	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(粗)	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	板ナリ後刺英文	オサエ後ヨコナリ, 板ナリ	頸部8/8			
391	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	16.7	-	長石・石英(細)少, 雲母(細)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, オサエ	口縁部2/8	下川津B類		
392	SDa64	III区	-	弥生土器	壺	15.2	-	長石・石英(粗)	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ヨコナリ, ハケスリ後ナリ	ヨコナリ, オサエ後ナリ	口縁部1/8			
393	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	15.1	-	長石・雲母(中), 石英(粗)	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケム, オサエ後ハケスリ	口縁部2/8			
394	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	14.1	18.3	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナリ, ハケム, ナリ後ハケム, ナリ	ヨコナリ, オサエ後板ナリ	底部8/8	焼成破損		
395	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	16.8	-	長石・雲母(細)少	縹5YR6/6	縹5YR6/6	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケム, ナリ	口縁部1/8			
396	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	17.4	-	長石・石英(中), 角閃石(細)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナリ, 夕サキ後ヨコナリ, 夕サキ後ナリ	ヨコナリ, オサエ, ハケスリ	口縁部1/8			
397	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	-	-	長石(粗), 石英(細), 雲母(細)少	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	オサエ後ハケスリ後ハケスリ, ナリ後ハケスリ	オサエ後ハケスリ後ナリ	底部8/8	外面煤付着		
398	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	12.7	-	長石・石英・雲母(細)少	褐灰10YR5/1	にぶい黄褐 10YR5/3	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケスリ	口縁部1/8	下川津B類		
399	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	19.6	-	長石(細)少, 石英・雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, オサエ	口縁部3/8	下川津B類		
400	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	14.5	-	長石・雲母(細)少, 石英(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケスリ	口縁部2/8	下川津B類類似		
401	SDa64	III区	-	弥生土器	甕	11.8	-	長石(中)少, 石英(細)少, 雲母(細)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ, ハケム	ヨコナリ, ハケスリ	口縁部3/8			
402	SDa64	III区	-	弥生土器	鉢	19.4	8.0	長石・石英(細)少, 雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナリ, ナリ	ヨコナリ, ハケム	口縁部6/8			

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面		
403	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	34.8	-	長石(細), 石英(粗), 雲母(中)	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナテ, ハウキ後ヨコナテ, ハウキ後へラカシキ	ヨコナテ, ハウキ後ヨコナテ, ハウキ後へラカシキ	口縁部1/8	
404	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	24.0	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナテ, ハウキ, マツ	ヨコナテ, ハウキ, マツ	口縁部1/8	
405	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.4	6.3	長石(中), 石英(細), 雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ナテ	ハウキ	口縁部4/8	
406	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	26.0	-	長石(中)少, 石英(粗)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナテ, ハウキ後ヨコナテ, ハウキ後へラカシキ	ヨコナテ, ハウキ後ヨコナテ, ハウキ後へラカシキ	口縁部1/8	下川津B類
407	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	器台	30.8	28.2	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	ヨコナテ, 銅文, 斜行文, 凹線1条, ナテ, ハウキ, 沈線12条, 刺英文, 凹線3条, 凹線1条	ヨコナテ, オサエ, ナテ, ハウキ, 板ナテ	口縁部4/8	透かし2段4方
408	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	長石(細)少, 石英(粗)少, 雲母(細)多	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ハウカスリ, オサエ, ナテ	ナテ	底部4/8	
409	SDa64	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナコト土器	-	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	オサエ	オサエ	底部8/8	
410	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	17.4	27.3	長石・石英(中)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハウキ, 板ナテ後ハウキ, ナテ	ヨコナテ, オサエ, ハウキ後オサエ, ナテ	口縁部3/8	
411	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	20.0	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ヨコナテ, ハウキ, オサエ後ハウキ	ヨコナテ, オサエ後ハウキ	口縁部4/8	
412	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	16.0	-	長石(中)多, 石英(粗)多	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, オサエ, ハウキ, マツ	ヨコナテ, 板ナテ, ナテ	口縁部1/8	
413	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	15.0	-	長石・石英(細)少	にぶい黄橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/4	ヨコナテ, ハウキ	ヨコナテ, ハウキ, オサエ後ハウキ	口縁部1/8	
414	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(粗)	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	オサエ	オサエ	底部3/8	
415	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	-	-	長石・石英(粗)	にぶい黄褐10YR5/3	褐10YR4/4	板ナテ後ナテ, ナテ	ハウカスリ	底部8/8	
416	SDa66	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	15.0	13.4	長石・石英(粗)多	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	ヨコナテ, オサエ, マツ	ヨコナテ, オサエ後ハウキ	底部8/8	
417	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	17.8	-	長石・石英(中), 雲母(細)少	黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y7/1	ヨコナテ, 貼付突帯刻目	ヨコナテ	口縁部1/8	穿孔2穴
418	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	12.0	-	長石・石英(中)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナテ, ハウキ	ヨコナテ, オサエ	口縁部7/8	
419	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.8	-	長石・石英(中)少, 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハウキ後ハウキ, マツ	ヨコナテ, オサエ	口縁部1/8	
420	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	13.6	-	長石(細)少, 雲母(細)多	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナテ, ナテ	ヨコナテ, ナテ	口縁部小片	
421	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	黒5Y2/1, 灰黄2.5Y6/2	にぶい黄橙7.5YR6/6	ハウカスリ後ナテ	ハウカスリ後ナテ	底部4/8	
422	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(粗), 雲母(細)少	黄灰2.5Y6/2	黄灰2.5Y4/1	ハウカスリ	ハウカスリ	底部4/8	
423	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石(細)多, 石英(中)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ハウカスリ後ハウカスリ, ナテ	ハウカスリ	底部8/8	
424	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.4	27.4	長石・石英(粗)多, 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハウキ, ハウキ後ハウカスリ, ナテ	ヨコナテ, オサエ, ハウカスリ後ナテ	口縁部2/8	下川津B類
425	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.0	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナテ, ハウキ	ヨコナテ, ナテ, オサエ	口縁部2/8	下川津B類
426	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	13.6	-	長石・石英(中)	橙7.5YR6/6	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナテ, マツ, ハウキ	ヨコナテ, オサエ, マツ	口縁部2/8	下川津B類類似
427	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.6	-	長石・角閃石(中), 石英(細)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナテ, ハウキ, ハウカスリ	ヨコナテ, ハウキ, ハウカスリ	口縁部1/8	下川津B類
428	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	11.5	-	長石・石英・雲母(細)少	明褐7.5YR5/6	明褐7.5YR5/6	ヨコナテ, ナテ, ハウキ後ナテ	ヨコナテ, オサエ, ハウカスリ	口縁部3/8	
429	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.5	-	長石・石英・雲母(細)少, 角閃石(中)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR5/3	ヨコナテ, ハウキ	ヨコナテ, オサエ, マツ	口縁部1/8	下川津B類類似
430	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.2	-	長石・石英(細)	にぶい黄橙7.5YR5/3	黒褐10YR3/1	ヨコナテ, ハウキ, マツ	ヨコナテ, 板ナテ, 板ナテ後オサエ	口縁部2/8	
431	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	15.4	21.1	長石(中), 石英(中)多	明赤褐5YR5/8	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハウキ	ヨコナテ, オサエ, ハウカスリ	底部8/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面	内面		
432	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	11.9	2.9	13.3	長石・石英(中)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ハケム, ナテ, オサエ	ハケム, ナテ, オサエ	体部5/8	
433	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	12.7	17.8	4.6	長石・石英(粗), 雲母(細)少	にぶい赤褐 2.5YR5/4	にぶい赤褐 2.5YR5/4	ヨコナテ, オサエ, ハラカスリ	ヨコナテ, オサエ, ハラカスリ	口縁部4/8	
434	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.4	27.3	4.4	長石・石英(中)多	にぶい赤褐5YR5/4	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナテ, 板ナテ, ナテ	ヨコナテ, ハラカスリ, ナテ	口縁部7/8	
435	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.4	22.6	4.4	長石・石英(中)	明赤褐2.5YR5/6	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナテ, ハケム, ナテ	ヨコナテ, オサエ後板ナテ, 板 ナテ, オサエ	底部8/8	
436	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	18.6	-	-	長石(粗)多, 石英(粗)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, オサエ, ハラカスリ	口縁部1/8	
437	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	11.1	-	-	長石(中), 石英(粗)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, ハケム, マツ	ヨコナテ, ハケム	口縁部7/8	
438	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	14.8	-	-	長石・石英(中)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ, マツ	ヨコナテ, オサエ	口縁部3/8	
439	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	4.7	長石(粗), 石英(粗)多	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/4	板ナテ, ナテ	ハラカスリ, オサエ	底部8/8	
440	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	4.7	長石・石英(粗)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ハラカキ, ナテ	マツ	底部3/8	
441	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	6.2	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐10YR4/2	明褐7.5YR5/6	ハケム後ハラカキ, ナテ, ハラカスリ	オサエ, ハラカスリ	底部8/8	
442	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	33.0	-	-	長石・石英(中)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナテ, ハケム	ヨコナテ, ハラカスリ	口縁部1/8	
443	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	24.4	-	-	長石・石英(粗)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, オサエ, ナテ	ヨコナテ, ハラカキ, マツ	口縁部2/8	
444	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	18.9	10.8	11.0	長石・石英(粗), 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハケム後ナテ, ナテ	ヨコナテ, マツ, ナテ	口縁部6/8	穿孔4穴
445	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	23.3	15.3	15.5	長石・石英(中)	橙5YR6/8	橙5YR6/8	マツ, オサエ	マツ, 絞リ痕	口縁部8/8	穿孔3穴
446	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	23.7	13.9	15.3	長石・石英(粗), 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, マツ, ハケム	ヨコナテ, ハケム, 絞リ痕, マ ツ	口縁部7/8	穿孔4穴
447	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	14.9	13.7	17.0	長石・石英(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR6/6	ヨコナテ, ハラカスリ, ハケム	ヨコナテ, ハラカスリ, 絞リ痕, ハラカスリ	6/8	穿孔上下3穴
448	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	13.7	-	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナテ, ナテ	ヨコナテ, ナテ	口縁部6/8	
449	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	12.2	長石・石英(粗), 雲母(細)	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙10YR6/3	沈線1条, ハケム, マツ	絞リ痕, オサエ	脚部2/8	穿孔3穴
450	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	18.6	長石・石英(中)少	明褐7.5YR5/6	明褐7.5YR5/6	刺突文, ヨコナテ	ナテ	脚部5/8	穿孔4穴
451	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR6/2	ナテ, ハケム	ナテ	接合部2/8	
452	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	13.8	-	-	長石・石英(中)多, 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐10YR6/2	ヨコナテ, ハラカスリ	ヨコナテ, 板ナテ	口縁部1/8	
453	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	21.3	9.1	5.4	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, マツ, ハラカスリ	ヨコナテ, ハケム, ナテ	口縁部4/8	
454	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	17.6	9.1	3.6	長石・石英(粗)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ナテ, オサエ	ナテ, オサエ後ハケム	完存	
455	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	18.8	9.0	4.6	長石・石英(中)多	にぶい橙7.5YR5/3	にぶい橙7.5YR5/3	オサエ後ナテ, ナテ	板ナテ	口縁部4/8	黒斑
456	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	16.4	7.0	2.7	長石(細)少, 石英(中)少, 雲母(細)多	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ナテ	ナテ	口縁部6/8	
457	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	16.6	7.6	3.4	長石(細)少	明黄褐10YR7/6	明黄褐10YR6/6	ヨコナテ, ハラカスリ後オサエ, ハラカスリ	ヨコナテ, 板ナテ後ナテ	7/8	
458	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	13.7	7.6	3.7	長石・石英(粗), 雲母(細)少	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8	沈線1条, マツ, オサエ	マツ	完存	
459	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	12.2	7.8	3.6	長石・石英(粗)	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	ナテ, ハラカスリ後ナテ	オサエ後板ナテ後ナテ	底部8/8	黒斑
460	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.7	5.9	3.2	長石(中), 石英(細)少	にぶい黄褐 10YR6/4	褐灰10YR4/1	マツ	マツ	7/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	高さ		底径	外面	内面	外面		
461	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	9.8	5.1	3.0	長石(細)・石英(中)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	オサ工後ハケ後ナリ、ハケ後ハケナリ	底面	底部4/8
462	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	台付鉢	11.3	-	-	長石・石英(細)多	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	オサ工	ナリ	口縁部2/8
463	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	蓋	つまみ径4.4	6.6	17.2	長石・石英(中)	赤褐5YR4/6、黄灰2.5Y4/1	明赤褐2.5YR5/6	ナリ、オサ工後ナリ、板ナリ、ヨコナリ	ナリ、マツ	つまみ部8/8
464	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.6	長石(粗)・雲母(細)・角閃石(細)多	橙7.5YR6/6	にぶい黄橙10YR6/4	ハケスリ、オサ工、ナリ	ナリ、オサ工	底部8/8
465	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	4.6	-	-	長石(細)少	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナリ、オサ工	ヨコナリ	底部6/8
466	SDa67	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	8.6	15.4	3.4	長石・石英(中)少、雲母(細)少	にぶい黄褐10YR5/4	にぶい黄褐10YR5/4	ハケスリ後オサ工後ナリ、ハケスリ、ナリ	ナリ	6/8
477	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	22.0	-	-	長石(中)多、雲母(細)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナリ、洗線2条	ヨコナリ、板ナリ後ナリ	口縁部2/8
478	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	23.4	-	-	長石・石英・雲母(細)多	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部1/8
479	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	16.6	-	-	長石(細)・石英(中)	灰白2.5Y7/1	灰黄2.5Y7/2	ヨコナリ、ハケム	ヨコナリ、ナリ、マツ、絞リ痕	口縁部2/8
480	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	17.2	-	-	長石・石英(中)少、雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナリ、ハケム	ヨコナリ、ハケム、オサ工	口縁部2/8
481	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	15.4	-	-	長石・石英(中)・角閃石(細)少	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	マツ、オサ工	マツ、板ナリ	口縁部1/8
482	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	壺	14.4	-	-	長石・石英(細)	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	ハケム、オサ工	ハケム、オサ工	口縁部2/8
483	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	壺	-	-	-	長石・石英(中)少、雲母(細)多、角閃石(細)	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ハケム後ハケナリ	オサ工、ハケスリ	体部8/8
484	SRa01	I区・南水路②・③	上層	土師器	小型丸底壺	11.4	7.9	-	長石・石英(中)少、雲母(細)多	灰白2.5Y8/1、灰白10YR8/2	灰白2.5Y8/1	ヨコナリ、オサ工後ヨコナリ	ヨコナリ、ナリ	底部8/8
485	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型丸底壺	-	-	-	長石(中)・石英(細)多、雲母(中)少	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナリ、ハケスリ後ハケム	ナリ	底部8/8
486	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型器台	8.8	1.7	7.0	長石・石英(細)少、雲母(細)多	にぶい黄褐7.5YR5/3	にぶい黄褐7.5YR5/3	オサ工	オサ工	口縁部3/8
487	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型器台	9.5	-	-	長石・石英・角閃石(細)少、雲母(細)	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナリ、オサ工	オサ工、ナリ	杯部4/8
488	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型器台	9.4	-	-	長石・石英(中)・雲母(細)少	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	ヨコナリ、ハケナリ	ヨコナリ、マツ、ナリ、オサ工	杯部3/8
489	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型器台	-	-	10.7	長石・石英(中)少、雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ナリ、ハケム、ヨコナリ	ハケスリ、オサ工、ナリ、ヨコナリ	脚部1/8
490	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	小型器台	-	-	10.6	長石・石英・雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4、明赤褐2.5YR5/6	にぶい黄橙10YR6/3	ハケム後ナリ、ヨコナリ	板ナリ後ナリ、ヨコナリ	脚部4/8
491	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	高杯	24.0	-	-	長石・石英・雲母・角閃石(細)少	にぶい黄7.5YR5/4	にぶい黄7.5YR5/4	ナリ、ヨコナリ、ハケスリ	ナリ、ヨコナリ、ハケナリ	口縁部1/8
492	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	高杯	-	-	18.1	長石・石英(中)少、雲母(細)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ハケム、ヨコナリ	ハケスリ、ヨコナリ	脚部2/8
493	SRa01	I区・南水路③	上層	土師器	鉢	9.6	-	-	雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ後ハケナリ、板ナリ	口縁部2/8
494	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	ミナチリ鉢	6.2	4.2	-	長石・石英(中)・雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ナリ、オサ工	ナリ、オサ工	7/8
495	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	鉢	18.8	6.2	-	長石・石英(中)少、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナリ、ナリ、オサ工	板ナリ後ナリ	7/8
496	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	鉢	-	-	-	長石(粗)多、雲母(細)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ハケスリ、ハケスリ後ナリ	ハケム、ナリ	底部8/8
497	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	鉢	13.7	7.8	4.4	長石・雲母(細)少、石英(細)少	橙7.5YR6/6	橙5YR6/6	板ナリ後ナリ	板ナリ後ナリ	底部8/8
498	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	鉢	12.0	6.1	3.7	長石(中)・石英・雲母(細)	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	ナリ	板ナリ後ナリ	底部8/8
499	SRa01	I区・南水路③	上層	弥生土器	鉢	7.8	4.2	2.3	長石・石英(細)少	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	オサ工後ナリ、ナリ	ハケム	完存

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面	内面		
500	SRaO1	I区・南水路②・③	上層	土師器	甕	10.6	13.8	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	オサエ、ハケ、オサエ後ナリ	オサエ、ハケ	底部8/8	外面に煤付着	
501	SRaO1	I区・南水路③	上層	土師器	甕	13.3	16.5	-	にぶい赤褐5YR5/4	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナリ、ナリ、ハラカスリ	ヨコナリ、ナリ、ハラカスリ	口縁部2/8	外面に煤付着	
502	SRaO1	I区・南水路③	上層	土師器	甕	12.0	-	-	にぶい黄褐10YR6/4	灰黄褐10YR5/2	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、板ナリ、ナリ	口縁部2/8		
503	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	15.6	-	-	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ、洗線2条、ハケ	ヨコナリ、ハケ、オサエ	口縁部3/8		
504	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	14.3	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	オサエ、ナリ、オサエ	ヨコナリ、ハラカスリ後ハケ	口縁部3/8		
505	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	13.6	-	-	灰5Y6/1	灰オリーブ5Y6/2	ヨコナリ、オサエ後ハケ後ナリ	ヨコナリ、ハケ後ハラカスリ	口縁部1/8		
506	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	19.0	-	-	暗灰黄2.5Y5/2	暗灰黄2.5Y5/2	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、ハケ、オサエ後ナリ、ハラカスリ	口縁部2/8		
507	SRaO1	I区・南水路④	上層	土師器	甕	14.0	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、オサエ、ハラカスリ	口縁部1/8		
508	SRaO1	I区・南水路④	上層	土師器	甕	15.2	-	-	灰黄褐10YR6/2	灰5Y4/1	ヨコナリ、オサエ後ハケ後ナリ	ヨコナリ、オサエ後板ナリ	口縁部2/8		
509	SRaO1	I区・南水路④	上層	土師器	甕	14.2	-	-	赤褐10R6/6、灰黄褐10YR6/2	赤褐10R6/6、灰黄褐7.5Y4/1	ハケ	ハケ、板ナリ後オサエ	口縁部1/8		
510	SRaO1	I区・南水路④	上層	土師器	甕	15.1	8.8	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	ヨコナリ、板ナリ	ヨコナリ、ハラカスリ	口縁部1/8	外面に煤付着	
511	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	16.4	-	-	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	ヨコナリ、ナリ後ハケ	ヨコナリ、ハケ、オサエ後ハケ	口縁部2/8		
512	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	14.4	-	-	にぶい黄褐7.5Y5/4	にぶい黄褐7.5Y5/4	ヨコナリ、ナリ後ハケ	ヨコナリ、ナリ、オサエ	口縁部1/8	下川津B類?	
513	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	黄褐2.5Y5/3	黒褐2.5Y3/1	ハケ、板ナリ	ハラカスリ	底部8/8		
514	SRaO1	I区・南水路④	上層	土師器	甕	-	-	-	にぶい黄褐7.5YR6/3	にぶい黄褐7.5YR6/3	ハケ	ハラカスリ	底部4/8		
515	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	灰黄褐10YR6/2	ハケ、マツ	ハラカスリ、オサエ	底部8/8		
516	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	灰黄褐10YR5/2	オサエ後ハケ	ナリ、ハラカスリ後ナリ	底部8/8		
517	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	15.6	-	-	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ、ハケ、オサエ後ハケ	ハケ、ハケ後ナリ	口縁部2/8		
518	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	明赤褐2.5YR5/6	にぶい黄2.5Y6/3	板ナリ、ナリ	ナリ	底部8/8		
519	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	10.6	10.1	4.4	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR6/3	ナリ、オサエ	ハケ、ナリ、オサエ	7/8		
520	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	オサエ、オサエ、ハラカスリ後ナリ	ナリ	底部8/8		
521	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	-	-	-	にぶい黄褐10YR5/4	にぶい黄褐10YR5/4	ヨコナリ、簡描文、刺突文、マツ	ヨコナリ、オサエ後板ナリ	口縁部小片		
522	SRaO1	I区・南水路④	上層	弥生土器	甕	16.6	11.6	-	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR5/3	ナリ、オサエ	ナリ、ハケ	4/8		
523	SRaO1	I区・南水路④	下層	弥生土器	壺	15.0	-	-	にぶい黄褐10YR7/3	浅黄褐10YR8/3	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、ハケ、ナリ、オサエ	口縁部1/8		
524	SRaO1	I区・南水路④	下層	土師器	壺	10.2	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	ヨコナリ、ハケ	ヨコナリ、ナリ、オサエ	口縁部1/8		
525	SRaO1	I区・南水路④	下層	弥生土器	壺	20.5	-	-	にぶい黄褐7.5YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	ヨコナリ、凹線1条、刻目、ハケ	ヨコナリ、ハケ、板ナリ、オサエ、ナリ	口縁部4/8	外面に煤付着	
526	SRaO1	I区・南水路④	下層	土師器	壺	-	-	-	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	ハケ後ナリ後ハラカスリ	オサエ後ナリ、ハラカスリ	頸部1/8		
527	SRaO1	I区・南水路④	下層	土師器	壺	-	-	-	灰黄褐10YR6/6	灰黄褐10YR6/2	ハケ、オサエ	オサエ、ハラカスリ後ハケ	体部3/8	下川津B類?	
528	SRaO1	I区・南水路④	下層	弥生土器	甕	-	-	-	黒N2/	にぶい黄褐7.5YR5/4	ヨコナリ、ハケ、ナリ	ヨコナリ、オサエ後ナリ、ハラカスリ、マツ	頸部1/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面	外面		
529	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	台付壺?	8.0	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄褐10YR6/2	ヨコナテ、ハケ後ハラシカキ	ヨコナテ、オサエ後ナテ	口縁部1/8	外面に煤付着、内面に炭化物付着	
530	SRa01	I区南水路③	下層	土師器	小型丸底壺	6.7	7.8	長石(細)、石英・雲母(細)、角閃石(細)少	灰黄褐10YR6/2、橙7.5YR6/6	ヨコナテ、オサエ、ハケ	ハケ	ハケ	4/8	黒斑	
531	SRa01	I区南水路②	下層	土師器	小型丸底壺	-	5.2	長石・石英(中)多	にぶい黄2.5Y6/3	ナテ	ナテ	ヨコナテ、ナテ、オサエ	底部2/8		
532	SRa01	I区南水路③	下層	土師器	小型器台	9.5	7.4	長石・石英(中)少、雲母(細)多、角閃石(細)	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ、ナテ、オサエ	ヨコナテ、ナテ、オサエ	ヨコナテ、板ナテ後ナテ、板ナテ、ハケ	完存		
533	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	高杯	-	-	長石・石英(細)少、雲母(中)多、角閃石(中)	にぶい黄橙 10YR6/4	ハケ、ヨコナテ	ハケ、ヨコナテ	ハラシカキ、ナテ、ハラシカキ	脚部4/8		
534	SRa01	I区南水路③	下層	土師器	高杯	18.6	-	長石・石英(中)、雲母(細)多、角閃石(細)	にぶい黄橙 10YR6/3	ハケ後ハラシカキ、ヨコナテ、ハケ	ヨコナテ、ハラシカキ	ヨコナテ、ハラシカキ	口縁部4/8	内・外面黒斑	
535	SRa01	I区南水路③	下層	土師器	高杯	22.2	-	長石・石英(細)、雲母(中)	にぶい橙5YR6/4	ヨコナテ、凹線1条、ハケ	ヨコナテ、ハケ後ハラシカキ	ヨコナテ、ハケ後ハラシカキ	口縁部2/8		
536	SRa01	I区南水路②	下層	土師器	高杯	23.6	-	長石(中)、石英(中)少、雲母(細)多、角閃石(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ、凹線1条、ハケ	ヨコナテ、凹線1条、ハケ	ヨコナテ、ハケ後ハラシカキ	杯部2/8		
537	SRa01	I区南水路②	下層	土師器	高杯	-	13.3	長石(細)、石英・角閃石(細)少、雲母(中)	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケ、オサエ	ヨコナテ、ハケ、オサエ	オサエ、ハラシカキ、ヨコナテ	脚部2/8		
538	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	高杯	-	19.0	長石・石英・角閃石(細)少、雲母(細)	橙7.5YR4/4	ナテ後ハケ	ナテ後ハケ	絞り痕、ナテ、ハケ、マツ	脚部1/8		
539	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	鉢	18.0	-	長石・石英(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ、ナテ後ハラシカキ	ヨコナテ、ナテ後ハラシカキ	ヨコナテ、板ナテ後ナテ	口縁部1/8		
540	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	甗	15.4	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ、ナテ後ハラシカキ、ハケ	ヨコナテ、ナテ後ハラシカキ	ヨコナテ、ナテ、ハラシカキ	口縁部3/8		
541	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	鉢	10.1	6.6	長石・石英(中)少、雲母・角閃石(細)	灰黄褐10YR5/2	ナテ、板ナテ	ナテ、板ナテ	オサエ後ナテ	完存		
542	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	鉢	11.6	5.5	長石・石英(細)少、雲母(中)	明黄褐10YR6/6	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、オサエ、板ナテ	完存		
543	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	ニ・チヲ鉢	9.7	5.7	長石(細)少、石英(中)少、雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	ナテ、オサエ	ナテ、ハケ	ナテ、ハケ	底部8/8		
544	SRa01	I区南水路②	下層	弥生土器	ニ・チヲ鉢	8.4	6.5	長石(細)多、石英(細)少	にぶい橙7.5YR6/3	ナテ	ナテ	ナテ後ハケ	底部8/8		
545	SRa01	I区南水路②	下層	弥生土器	鉢	10.4	6.7	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐10YR5/2	オサエ、ナテ	オサエ、ナテ	ハケ、板ナテ	底部8/8		
546	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	鉢	12.4	6.0	長石(粗)、石英(細)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ、ナテ、ハラシカキ	ヨコナテ、ナテ、ハラシカキ	ヨコナテ、ハケ後ハラシカキ	口縁部4/8		
547	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	鉢	7.4	-	長石・石英(細)少、雲母(細)	にぶい黄褐 10YR5/4	ナテ、ハラシカキ	ナテ、ハラシカキ	ナテ、オサエ後ナテ	口縁部1/8		
548	SRa01	I区南水路②	下層	弥生土器	ニ・チヲ鉢	6.2	4.3	長石・石英(中)多	灰黄2.5Y6/2	オサエ、ナテ	オサエ、ナテ	ナテ	完存		
549	SRa01	I区南水路②	下層	土師器	壺	11.0	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)少	浅黄2.5Y7/3	オサエ後ナテ	オサエ、ナテ	オサエ、ナテ	口縁部4/8		
550	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	壺	19.0	-	長石・石英・雲母・角閃石(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケ、オサエ	ヨコナテ、ハケ、オサエ	ヨコナテ、オサエ、ハラシカキ	口縁部1/8		
551	SRa01	I区南水路③	下層	弥生土器	壺	-	5.7	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)少	明黄褐10YR6/6	ハラシカキ、ヨコナテ	ハラシカキ、ヨコナテ	ハラシカキ	底部7/8		
552	SRa01	II区	-	弥生土器	壺	25.0	-	長石・石英(中)、雲母(中)少	明赤褐2.5YR5/8	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、板ナテ	口縁部2/8		
553	SRa01	I区南水路②	黒色砂混粘質土	弥生土器	壺	16.0	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	橙5YR6/8	ヨコナテ、刻目、オサエ、板ナテ、斜行文、マツ	ヨコナテ、刻目、オサエ、板ナテ、斜行文、マツ	ヨコナテ、板ナテ、オサエ	口縁部7/8		
554	SRa01	II区	-	弥生土器	壺	25.6	-	長石(細)多、石英(細)多	にぶい橙7.5YR5/3	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、マツ	ヨコナテ、ナテ、マツ	口縁部1/8		
555	SRa01	I区南水路②	明茶褐色砂混粘質土	弥生土器	壺	17.6	-	長石(細)少、石英(中)少	灰黄2.5Y7/2	ナテ、オサエ、櫛描文	ナテ、オサエ	ナテ、オサエ	口縁部小片		
556	SRa01	II区	-	弥生土器	壺	-	6.4	長石(細)少、石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/4	ハケ、オサエ、ナテ	ハケ、オサエ、ナテ	ナテ	底部8/8		
557	SRa01	II区	-	弥生土器	壺	-	7.8	長石・石英(中)多、 <small>くされ礫φ2mm多</small>	橙5YR6/8	ハケ、マツ	ハケ、マツ	マツ	底部5/8		



報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量			胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面		
558	SRa01	I区・南水路④	TR③の8層	弥生土器	鉢	11.0	5.9	-	長石・角閃石(細)少、雲母(細)多	にぶい黄褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ナリ、ヘラカスリ	ハケ	完存	
559	SRa01	I区・南水路④	TR③の8層	土製紡錘車	土製紡錘車	最大長4.6	最大幅4.5	最大厚0.9	長石・石英(中)少	灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/1	ハケ後ナリ	ナリ	完存	覆転用
560	SRa01	I区・南水路④	TR③の8層	縄文土器?	把手	最大長6.0	最大幅2.9	最大厚3.6	長石(中)多、石英(細)多、雲母(中)少	にぶい黄褐色2.5YR6/3	にぶい黄褐色2.5YR6/3	ナリ	ナリ	小片	
615	SRa02	B III区	-	弥生土器	甕	10.1	13.0	2.2	長石(中)少、雲母(細)少	にぶい黄褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR6/3	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ後ヘラカスリ	5/8	
616	SRa02	B III区	-	弥生土器	甕	-	-	4.2	長石・石英(粗)	褐灰10YR4/1	ヘラカスリ後ハケ	ナリ	ヘラカスリ後ハケ	底部8/8	黒斑
617	SRa02	B III区	-	弥生土器	把手付甕	-	-	-	長石(中)、石英(細)少	橙7.5YR7/6	ナリ	ナリ	ナリ	把手8/8	
618	SRa02	B III区	-	弥生土器	鉢	19.8	6.3	-	長石・石英(細)少、雲母(細)	明赤褐色2.5YR5/4	ヨコナリ、ヘラカスリ	ナリ	ヨコナリ、板ナリ	口縁部1/8	
619	SRa02	B III区	-	弥生土器	鉢	18.4	5.2	-	長石・石英(細)、雲母・角閃石(細)少	にぶい黄褐色10YR5/3	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ	ナリ	ヨコナリ、ハケ	口縁部5/8	
620	SRa02	B III区	-	弥生土器	鉢	14.4	6.7	-	長石・雲母(細)少、石英(粗)多	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ヨコナリ、ナリ	ナリ	ヨコナリ、ハケ、ナリ	口縁部3/8	
621	SRa02	B III区	-	弥生土器	甌	20.0	10.1	-	長石(中)多、石英(粗)多、角閃石(細)多	にぶい黄褐色10YR6/4	ナリ、板ナリ	ナリ	ナリ、板ナリ、ナリ	底部8/8	黒斑
622	SRa02	B III区	-	弥生土器	甌	17.4	10.5	-	長石・石英(粗)、雲母(細)多	にぶい黄褐色10YR5/3	ナリ	ナリ	ナリ、ナリ	底部8/8	黒斑
623	SRa02	B III区	-	弥生土器	甌	18.0	18.6	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄褐色10YR7/3	ナリ	ナリ	ナリ	底部8/8	黒斑
624	SRa02	B III区	-	弥生土器	台付鉢	-	-	9.0	長石・石英(粗)	にぶい黄褐色7.5YR5/3	ヘラカスリ、ナリ	ナリ	ナリ	底部6/8	
625	SRa02	B III区	-	弥生土器	製造土器	-	-	3.4	長石・雲母(細)少	灰黄褐色10YR5/2	ヘラカスリ、ナリ	ナリ	ナリ	底部8/8	
626	SRa02	C III区	-	弥生土器	壺	10.4	-	-	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐色10R5/2	ヨコナリ、ハケ、刺突文	ヨコナリ、絞り痕	ヨコナリ	口縁部1/8	下川津B類
627	SRa02	C III区	-	弥生土器	甕	16.0	-	-	長石・雲母(細)少	にぶい黄褐色10YR6/3	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ	ヨコナリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部2/8	
628	SRa02	C III区	-	弥生土器	甕	-	-	3.0	長石・石英(中)	にぶい黄褐色10YR6/3	ナリ	ナリ	ナリ	底部4/8	
629	SRa02	C III区	-	弥生土器	高杯	20.8	-	-	長石(細)、石英(中)多	灰白10YR8/2	ナリ	ナリ	ナリ	口縁部1/8	黒斑
630	SRa02	C III区	-	弥生土器	鉢	16.9	9.6	3.3	長石・石英(中)	にぶい黄褐色7.5YR6/3	ナリ、ナリ	ナリ	ナリ	口縁部1/8	黒斑
631	SRa02	C III区	-	弥生土器	鉢	12.6	5.3	3.1	長石・石英・雲母(細)少	橙7.5YR6/6	ナリ	ナリ	ナリ	6/8	
632	SRa02	C III区	-	弥生土器	鉢	9.2	4.3	3.7	長石(中)少、雲母(細)	灰黄褐色2.5Y6/2	ナリ、ナリ	ナリ	ナリ	口縁部6/8	
633	SRa02	C III区	-	弥生土器	甕	-	-	4.8	長石(中)、石英(粗)多、雲母(細)少	にぶい黄褐色10YR7/4	ハケ、ナリ	ナリ	ナリ	底部8/8	
634	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	26.0	34.2	6.6	長石(細)多、石英・雲母(細)少、角閃石(中)少	にぶい黄褐色10YR6/3	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部7/8	下川津B類?
635	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	24.8	-	-	長石(細)、石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄褐色10YR6/4	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部1/8	
636	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	16.4	27.8	5.0	長石・石英・雲母・角閃石(中)多	にぶい黄褐色10YR6/4	ヨコナリ、ハケ	ナリ	ナリ	底部8/8	穿孔1、黒斑、焼成破損、下川津B類
637	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	14.8	21.8	4.3	長石(中)、石英(粗)	にぶい黄褐色10YR6/3	ヨコナリ、ナリ	ナリ	ナリ	ほぼ完存	焼成破損
638	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	7.4	13.5	-	長石・石英・角閃石(細)多、雲母(細)少	にぶい黄褐色10YR5/3	ハケ後ヨコナリ、ハケ	ナリ	ナリ	体・底部8/8	黒斑
639	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	-	-	6.9	長石(中)、石英(粗)	にぶい黄褐色10YR7/2	ヨコナリ、ハケ、ナリ	ナリ	ナリ	底部8/8	
640	SRa02	D III区	-	弥生土器	壺	-	-	5.0	長石(細)少	にぶい黄褐色7.5YR7/4	ヨコナリ、ハケ、ナリ	ナリ	ナリ	7/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土		色調		調整		残存率	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	外面		
641	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	14.3	20.5	3.6	長石(細), 石英, 角閃石(細)少, 雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, ハクメ	ヨコナテ後ハクメ, オサエ, ナテ	7/8	
642	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)多	浅黄橙7.5YR8/6 2.5Y6/1	橙5YR6/8	外半後ハクメ, 外半, ナテ, マツ	ナテ, オサエ後ハクメ, 板ナテ, マツ	底部8/8	黒斑
643	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	19.0	-	-	長石・石英(中), 雲母(細)少	橙5YR6/8	橙5YR6/8	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8	
644	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・雲母(細)少, 石英(中)少	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, ナテ	ヨコナテ, 板ナテ	小片	線刻有
645	SRa02 D 群	Ⅲ区	上層	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母(細)少	橙5Y6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ後ハクメ後ナテ, 貼付突帯, ハクメ, 鋸齒文, 斜行文	ヨコナテ, ハクメ後ナテ, ハクメ, マツ	口縁部小片	
646	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)少, 雲母・角閃石(細)	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	ヨコナテ, 鋸齒文, 斜行文	ヨコナテ	口縁部小片	
647	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, 鋸齒文, 斜行文	ヨコナテ	口縁部小片	
648	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ヨコナテ, 鋸齒文, 斜行文, 刻目	ヨコナテ	口縁部小片	
649	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(細)少, 石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, 鋸齒文, 斜行文	ヨコナテ	口縁部小片	
650	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・雲母(細)少, 石英(中)	にぶい黄橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ヨコナテ, 菱形文, 斜行文	ヨコナテ	口縁部小片	
651	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	14.0	25.0	3.9	長石(細), 石英(細)多, 雲母(細)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナテ, 凹線1条, 外半後ナテ, 外半後ハクメ, マツ	ヨコナテ, オサエ	完存	穿孔1穴
652	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石(細), 石英(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 7.5YR6/6	ヨコナテ後ハクメ, ナテ	ハクメ, 板ナテ	底部8/8	
653	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	ヨコナテ, 鋸齒文	ハクメ, オサエ後ナテ	底部7/8	土器棺付?
654	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	13.5	19.5	-	長石・石英(細), 雲母・角閃石(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, ハクメ後ナテ, ハクメ	ヨコナテ, ハクメ後ナテ, ハクメ, ナテ	底部8/8	穿孔1穴, 黒斑, 付着
655	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	16.4	24.7	5.4	長石・石英(中), 角閃石(中)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ハクメ, 外半後ハクメ	ハクメ, 板ナテ, オサエ後ハクメ	底部8/8	焼成破損
656	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.5	22.3	3.5	長石・石英(細)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, ハクメ後ヨコナテ, 外半後ハクメ, ナテ	ヨコナテ, ハクメ後ナテ, ハクメ, ナテ	口縁部6/8	
657	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	11.9	19.7	2.1	長石(中)少, 石英(細)	にぶい黄橙 5YR6/4	にぶい黄橙 5YR6/4	ヨコナテ, 外半後ハクメ, ナテ	ヨコナテ, ハクメ, オサエ	口縁部6/8	
658	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.4	-	-	長石(細)少, 石英(細)少	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/2	ヨコナテ, 外半後ハクメ, ナテ	ヨコナテ, オサエ後ハクメ, マメ	口縁部1/8	
659	SRa02 D 群	Ⅲ区	上層	土師器	甕	14.8	-	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, ハクメ	ヨコナテ, ハクメ後ナテ	口縁部1/8	
660	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	25.4	-	-	長石・石英(細)	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	ヨコナテ, ハクメ後ナテ	ヨコナテ, ハクメ後ナテ	口縁部6/8	穿孔2穴一対
661	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	18.7	-	-	長石(細)多, 雲母・角閃石(細)少	にぶい黄橙 7.5YR6/3	にぶい黄橙 7.5YR6/3	ヨコナテ, ハクメ後ナテ	ヨコナテ, ハクメ後ナテ	口縁部6/8	下川津口類
662	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.6	5.1	4.8	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	ヨコナテ, ナテ	ナテ, 板ナテ, オサエ	口縁部7/8	
663	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.6	6.2	2.2	長石(中)少, 石英(細)少	にぶい黄橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ナテ, 外半	ナテ, ハクメ	口縁部6/8	
664	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.4	8.0	-	長石・雲母(細)多, 石英(中)	にぶい黄橙 7.5YR7/4	橙5YR6/6 赤褐5YR6/4	ナテ	ナテ, オサエ	完存	黒斑
665	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	24.1	9.7	5.8	長石(細), 石英(細)多	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	ヨコナテ, 外半後ナテ, オサエ, ナテ	ヨコナテ, ハクメ	口縁部3/8	
666	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	20.0	7.3	-	長石・石英(中)少	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	ヨコナテ, ナテ, ハクメ後ナテ	ヨコナテ, 板ナテ後ナテ	口縁部7/8	
667	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	18.0	9.4	-	長石(細), 石英(細)	にぶい黄橙 7.5YR5/4	にぶい黄橙 7.5YR5/4	外半後ナテ, オサエ	板ナテ後ナテ	完存	
668	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	16.6	8.6	-	長石・石英(細)多	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ, 外半後ナテ, ハクメ後ナテ	ヨコナテ, 板ナテ後ナテ	口縁部2/8	
669	SRa02 D 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	17.0	7.9	4.4	長石・雲母(細), 石英(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ヨコナテ, ナテ, オサエ後ハクメ後ナテ	ヨコナテ, ハクメ	口縁部7/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面	内面		
670	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	16.4	6.2	-	長石(粗), 石英(中), 雲母(細)	にぶい黄褐色7.5YR6/4	にぶい黄褐色7.5YR6/6	ヨコナリ, 板ナリ後ナリ, ハナナリ	ヨコナリ, 板ナリ後ナリ	完存	
671	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	14.0	7.0	3.3	長石・石英(細)少	明褐色7.5YR6/6	明褐色7.5YR5/6	ナリ, オサエ	板ナリ後ナリ	完存	
672	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	15.0	6.2	-	長石・石英(細), 雲母・角閃石(細)多	にぶい黄褐色7.5YR6/4, 明赤褐色7.5YR6/3	にぶい黄褐色7.5YR6/4	ヨコナリ, ナリ, ハナナリ	ヨコナリ, 板ナリ	底部8/8	
673	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	14.0	5.2	3.6	長石(細), 石英(中)	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	ナリ, 外ナリ後オサエ, 外ナリ	ハナメ	口縁部7/8	
674	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	16.1	6.8	2.5	長石(細), 石英(細)少, 雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヨコナリ, ナリ後ハナナリ, ナリ	ヨコナリ, ハナメ, ナリ後ハナナリ	完存	
675	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	片口鉢	31.0	22.1	-	長石・石英(粗)	灰白10YR8/2, 橙2.5YR7/6	灰白10YR8/2, 橙2.5YR7/6	ヨコナリ, 外ナリ, 外ナリ後ハナナリ, ナリ	ヨコナリ, ハナメ, ハナメ後ハナナリ	口縁部4/8	焼成破壊, 内・外面黒斑
676	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	台付鉢	8.3	-	-	長石・石英・雲母(細)多	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナリ, ハナメ, オサエ後ナリ	ヨコナリ, ハナメ, ナリ	口縁部7/8	
677	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	土師器	小型和底壺	11.7	7.3	-	長石・石英(中)	明黄褐色10YR7/3	明黄褐色10YR6/6	マツ, ハナメ, オサエ後ハナメ	マツ, ハナメ, オサエ	底部8/8	
678	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	-	-	6.8	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	ハナナリ, ナリ	オサエ	底部4/8	
679	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甗	21.6	20.6	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄褐色10YR7/2, 橙2.5YR6/8	にぶい黄褐色10YR7/3	ヨコナリ, 外ナリ後ナリ, ナリ	ナリ, ハナメ後板ナリ, 板ナリ, ナリ	底部8/8	穿孔2穴, 黒斑
680	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	甗	16.9	13.6	3.6	長石・角閃石(細)多, 石英(粗)	褐灰10YR5/1, 明褐色7.5YR6/6	褐灰10YR5/1, 明褐色7.5YR6/6	ナリ, 外ナリ後ナリ	ナリ, 板ナリ	底部8/8	黒斑
681	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナツブツ器	3.9	3.4	2.4	長石(細), 石英(中)	にぶい黄褐色10YR7/2	にぶい黄褐色10YR7/2	ナリ, オサエ後ナリ	ナリ	体・底部8/8	黒斑
682	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナツブツ器	-	-	4.6	長石・石英(細)少	浅黄褐色7.5YR8/3	浅黄褐色7.5YR8/3, にぶい黄褐色10YR7/2	オサエ, ナリ	板ナリ, ナリ	底部3/8	
683	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	土師器	土鈴?	-	6.2	-	長石・石英(細), 雲母(中)多	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	オサエ後板ナリ	オサエ後板ナリ	4/8	
684	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.4	長石・石英(細)少	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ナリ, オサエ	板ナリ, ナリ	底部7/8	
685	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.4	長石・石英・角閃石(細)	褐灰7.5YR4/1	灰黄褐色10YR5/2	ハナナリ, 板ナリ後ナリ, ナリ	板ナリ, ナリ	底部2/8	加熱を受けている
686	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	4.3	長石・雲母(細)少, 石英(粗)	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	マツ, オサエ, ナリ	ハナナリ後オサエ, ナリ	底部8/8	加熱を受けている
687	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.5	長石(細)少, 石英(粗)少,	にぶい赤褐色5YR5/3	にぶい赤褐色5YR5/3	ハナナリ, オサエ, ヨコナリ	オサエ	底部8/8	
688	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.2	長石・石英(細)少	にぶい褐色7.5YR5/3	にぶい褐色7.5YR6/3	オサエ	オサエ	底部2/8	
689	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.8	長石(粗), 石英(細)少, 雲母(細)	にぶい黄褐色10YR7/3	にぶい黄褐色10YR7/3	ハナナリ, オサエ, ナリ	ナリ	底部7/8	
690	SRa02 D Ⅲ区 群	Ⅲ区	-	弥生土器	製塩土器	-	-	3.1	長石・石英(中)	灰褐色7.5YR5/2, 赤10R5/8	灰褐色7.5YR5/2, 赤10R5/8	ナリ, オサエ	板ナリ, ナリ	底部8/8	
692	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	壺	28.1	-	-	長石・石英(中), 雲母(細), 角閃石(中)少	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい褐色7.5YR6/4	ヨコナリ, 凹線3条, ヨコナリ, ハナメ	ヨコナリ, オサエ, ナリ	口縁部8/8	
693	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(細)少	浅黄褐色10YR8/3	浅黄褐色10YR7/2	ヨコナリ, 斜行文, ナリ	ヨコナリ, 貼付突帯	口縁部小片	穿孔4穴
694	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	壺	-	-	4.8	長石・石英(粗)多	にぶい黄褐色10YR7/2	にぶい黄褐色10YR7/2	板ナリ, オサエ後ナリ	板ナリ, ナリ, ハナナリ	底部8/8	
695	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	甗	16.6	-	-	長石(中)多, 石英(粗)多	明黄褐色10YR6/6	明黄褐色10YR6/6	ヨコナリ, 外ナリ後ヨコナリ, 外ナリ後ハナナリ, ナリ	ヨコナリ, ハナメ	口縁部1/8	黒斑
696	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	甗	14.0	-	-	長石・石英(粗), 雲母(中)	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色7.5YR6/4	ヨコナリ, ハナナリ後ハナメ	ヨコナリ, ハナメ後オサエ	口縁部4/8	
697	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	甗	17.0	-	-	長石(細)少, 石英(粗)多	橙5YR6/6	橙5YR6/6	マツ	マツ	口縁部2/8	
698	SRa02 北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	甗	13.6	13.2	4.3	長石・石英(粗)	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	ナリ, 板ナリ, ハナナリ後ハナメ	ナリ, オサエ後ナリ, 板ナリ, オサエ	口縁部6/8	黒斑

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面		
699	SRa02北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	甕	-	-	長石・雲母(細)少、石英(中)多	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰10YR4/1	ハズカキ、ナリ	オサエ後板ナリ	底部8/8	穿孔1穴
700	SRa02北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	鉢	16.5	6.8	長石・雲母(細)少、石英(粗)	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ、ハナ後ナリ、ナリ	ヨコナリ、ハナメ	底部8/8	
701	SRa02北半部	Ⅲ区	上層	弥生土器	鉢	12.3	5.5	長石・石英(中)少、雲母(細)少	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR6/3	ヨコナリ、ハナ後ナリ	ヨコナリ、ハナ後ナリ	3/8	
702	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	26.2	-	長石・石英(中)多	赤橙10R6/8、にぶい 黄橙5YR7/4	赤橙10R6/8	貼付委帯、円形浮文、	ヨコナリ、ハナ後ナリ	口縁部1/8	
703	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	17.9	-	長石(中)、石英(粗)、雲母(細)多、角閃石(細)少	にぶい黄橙 10YR7/2、にぶい黄 橙10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、ハナ後ハナミカキ、 ハナ後ハナミカキ	ヨコナリ、ハナ後板ナリ、オサ エ、ハナ後ハナミカキ	口縁部5/8	絵画土器、焼成破 損
704	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.8	-	長石・石英・雲母(細)	にぶい黄橙 7.5YR6/4、橙 2.5YR6/6	にぶい黄橙 7.5YR6/4、橙 2.5YR6/6	ヨコナリ、ナリ、ハナメ、ハナ後ハナミ カキ	ヨコナリ、板ナリ、オサエ後ナ リ、ハナ後ナリ	頸部8/8	
705	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	13.4	-	長石・石英(細)少、角閃石(細)	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ、ハナ後ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、板ナリ、オサエ	口縁部1/8	
706	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.4	-	長石(細)、石英(中)	にぶい黄橙7.5YR6/3	にぶい黄橙7.5YR6/3	ヨコナリ、オサエ	ヨコナリ、オサエ	口縁部8/8	
707	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	18.6	-	長石・石英(粗)、雲母(細)	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ、凹線2条、ハナメ	ヨコナリ、オサエ、ナリ	口縁部3/8	
708	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	22.6	-	長石・石英(細)	にぶい黄橙7.5YR7/3	にぶい黄橙7.5YR7/3	ヨコナリ、凹線2条、ハナ後ハナ メ、ハナメ	ヨコナリ、オサエ後ハナメ	口縁部3/8	
709	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	17.6	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、オサエ、ハナメ	ヨコナリ、ハナメ、オサエ後ハナメ	口縁部1/8	
710	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	24.1	-	長石・石英(中)少、雲母(中)	にぶい黄橙7.5YR6/3	にぶい黄橙7.5YR6/3	ヨコナリ、凹線2条、ハナメ	ヨコナリ、ハナメ、オサエ後ハナメ	口縁部8/8	
711	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	24.4	-	長石・石英(細)少、雲母(細)多	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ、凹線2条、ハナメ	ヨコナリ、オサエ後ナリ、オサエ	口縁部4/8	
712	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	25.1	-	長石・角閃石(細)多、石英(粗)、雲母 (中)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナリ、ハナ後ヨコナリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部4/8	
713	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	15.0	-	長石(中)、石英(粗)多	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナリ、ハナ後ナリ	ヨコナリ、オサエ	口縁部1/8	
714	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	10.2	-	長石(中)、雲母(中)少	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナリ、ハナメ、オサエ後ヨコナリ	ヨコナリ、オサエ、板ナリ	口縁部3/8	
715	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	10.2	12.7	長石・雲母(細)少、石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナリ、板ナリ後ハナメ、ナリ	ヨコナリ、ハナ後ナリ後ナリ	口縁部7/8	穿孔2穴(単位2箇 所、内面に付着物)
716	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	41.4	-	長石(中)多、石英(細)、雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部1/8	
717	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、オサエ後ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ハナ後オサエ	頸部1/8	
718	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	29.6	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)多	橙7.5YR6/6	褐灰10YR4/1	ヨコナリ、ハナ後ヨコナリ、ナリ 後ヨコナリ、ハナメ、オサエ	ヨコナリ、ハナメ	口縁部3/8	土器碎片?
719	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	16.7	-	長石・石英(粗)多、雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、ハナ後オサエ後ハナ メ	口縁部1/8	
720	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	20.8	-	長石(細)、石英・雲母(細)少	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	ヨコナリ、凹線2条、ハナメ	ヨコナリ、オサエ後板ナリ	口縁部3/8	
721	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	16.2	-	長石(細)、石英(細)少	橙5YR6/6	明赤褐2.5YR6/8	ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、オサエ、ハナメ	口縁部4/8	
722	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	-	-	石英(粗)	にぶい黄橙7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR5/3	ハナ後ハナメ、ハナメ、ナリ	ハナメ、ナリ	底部8/8	
723	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	13.6	22.2	長石(細)少、石英(中)少	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	ヨコナリ、ヨコナリ後ハナメ、板ナリ 後ハナメ、ハナメ	ヨコナリ後ハナメ、オサエ、ハナ メ、ナリ	6/8	
724	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	13.9	22.5	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ、ハナ後ハナメ、ナリ	ヨコナリ、ハナメ、ハナ後ハナ メ、ナリ	口縁部8/8	
725	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.6	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ヨコナリ、ハナ後ハナメ	ヨコナリ、板ナリ、オサエ、ハナ メ、ナリ	口縁部1/8	
726	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	14.4	-	雲母(中)多	橙5YR6/6	灰黄褐10YR6/2	ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、ナリ、オサエ	口縁部5/8	
727	SRa02北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	甕	15.2	-	長石(中)、石英(粗)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、ハナメ	ヨコナリ、ハナメ	口縁部4/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調			調整		残存率	備考
						口径	器高		底径	外面	内面	外面	内面		
728	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	10.8	14.0	3.0	長石(中)、石英(粗)	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰2.5Y5/1	ヨコナテ、砂キ、ナテ	ハケム、オサエ、ナテ	ほぼ完存	
729	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	10.2	12.4	2.7	長石・雲母(細)少、石英(粗)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ナテ、砂キ後ハケム	ハケム、ナテ	底部6/8	
730	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	壺	11.2	11.0	2.3	長石(細)少、石英(中)少、雲母(細)多	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケム、ナテ	ヨコナテ、オサエ、板ナテ	口縁部5/8	
731	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	19.5	-	-	長石・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ、ハケム	ヨコナテ、ハケム、ナテ	口縁部1/8	下川津日類
732	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	23.0	-	-	長石・雲母(中)	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、ハケム	ヨコナテ、ナテ後ハケム後ハケム	口縁部2/8	下川津日類
733	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	土師器	高杯	24.2	-	-	長石・雲母(細)、石英(細)少	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ヨコナテ、ハケム後ハケム、マツ	ヨコナテ、ハケム、マツ	口縁部5/8	
734	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	13.8	長石(粗)、石英(中)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ナテ、オサエ、ハケム	絞リ織、ナテ	脚部3/8	
735	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	19.8	長石(中)、石英(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ナテ、ハケム、ヨコナテ	ナテ、オサエ、ヨコナテ	脚部2/8	穿孔2穴一対か?
736	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	17.0	長石(細)、石英・雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	板ナテ後オサエ、ヨコナテ	オサエ、板ナテ後ナテ、マツ、ヨコナテ	脚部8/8	穿孔4穴
737	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	15.8	長石・石英・雲母(細)少	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ハケム後ヨコナテ	ハケム、オサエ、ヨコナテ	脚部3/8	穿孔2穴一対
738	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	土師器	高杯	-	-	21.0	精緻	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	マツ	マツ	脚部1/8	
739	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	高杯	-	-	20.7	長石・石英(粗)	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ハケム、沈線7条、刺突文、板ナテ、ヨコナテ	板ナテ、ハケム、ナテ、ヨコナテ	脚部2/8	穿孔上段3穴十下段4穴
740	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	11.8	4.9	3.3	長石(細)、石英(粗)少	明褐灰1.5YR7/2	灰黄褐10YR6/2	マツ、ハケム、ナテ、オサエ	マツ、板ナテ、オサエ	口縁部6/8	
741	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	10.2	5.3	-	長石・石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ナテ、ハケム、オサエ	ハケム	口縁部2/8	
742	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	12.4	5.4	4.2	長石・雲母(細)少、石英(中)少	にぶい橙7.5YR6/4	明赤褐5YR5/6	ヨコナテ、ナテ、オサエ	ヨコナテ、板ナテ	7/8	木葉底
743	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	11.4	7.6	3.6	長石(中)少、石英・雲母(細)少	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	ヨコナテ、砂キ、砂キ後オサエ	ヨコナテ、ハケム、ナテ	底部8/8	木葉底
744	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	15.0	6.0	4.4	長石・雲母(細)少、石英(中)少	にぶい黄2.5Y6/3	黒褐2.5Y3/1	ヨコナテ、ナテ、ハケム	ヨコナテ、ナテ	4/8	
745	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	19.8	7.4	2.6	長石・石英(中)少	淺黄2.5Y7/3	淺黄2.5Y7/3	ヨコナテ、ナテ	ヨコナテ、板ナテ、ハケム	口縁部4/8	
746	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	14.5	6.9	3.2	長石(中)、石英・角閃石(中)少、雲母(中)多	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、砂キ後ナテ	ヨコナテ、ハケム後ナテ	底部8/8	
747	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	17.5	8.5	-	長石(粗)多、石英(中)	にぶい黄2.5Y6/4	にぶい黄2.5Y6/4	ヨコナテ、砂キ、オサエ	ヨコナテ、ハケム、オサエ	口縁部7/8	
748	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	18.7	-	-	長石・石英(中)少、雲母(細)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナテ、ナテ、ハケム	ヨコナテ、ナテ	5/8	
749	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	22.8	-	-	長石・雲母(細)	にぶい黄2.5Y6/4	明褐7.5YR5/6	ヨコナテ、ナテ、ハケム	ヨコナテ、ナテ、ハケム	口縁部2/8	
750	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	30.0	-	-	長石(中)、雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナテ、オサエ後ヨコナテ、ハケム	ヨコナテ、ナテ、ハケム	口縁部2/8	
751	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	鉢	13.0	10.0	-	長石(中)、雲母(細)少	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	ナテ、マツ	ナテ、ハケム後ナテ、ハケム	口縁部3/8	
752	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	小型丸底壺	9.8	7.8	-	長石(粗)多、石英(粗)、雲母(細)少	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナテ、オサエ後板ナテ	ヨコナテ、オサエ後板ナテ	完存	
753	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	土師器	小型丸底壺	-	-	-	長石(細)、石英・雲母(細)少	にぶい橙7.5YR6/4	灰黄2.5Y6/2	ヨコナテ、ハケム、ナテ、ハケム	ヨコナテ、オサエ後板ナテ	底部8/8	
754	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナブチ土器	6.1	7.0	2.5	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	板ナテ後オサエ、ナテ	ハケム後オサエ	底部8/8	
755	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナブチ土器	-	-	18.0	長石(細)少	にぶい黄2.5Y6/3	黄灰2.5Y4/1	ナテ、オサエ	ナテ、オサエ	6/8	
756	SRa02 北半部	Ⅲ区	-	弥生土器	ミナブチ土器	4.4	-	-	長石・石英・雲母(細)少	灰黄褐10YR6/2	にぶい橙7.5YR6/3	ナテ、ハケム、オサエ	ハケム、ナテ、オサエ	7/8	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量			胎土	色調			調整		備考
						口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面	残存率	
757	Sra02 北半部	Ⅲ区	弥生土器	ミコノリ土器	5.1	3.9	-	長石・雲母(細)少、石英(中)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR4/1	ナリ、板ナリ後ナリ	ナリ	6/8		
758	Sra02 北半部	Ⅲ区	弥生土器	製埴土器	-	-	-	長石(中)、石英・雲母(細)少	にぶい黄橙 7.5YR5/3	にぶい黄 7.5YR5/3	ヘラカスリ、オサエ	ハケム、オサエ後ハケム	体部3/8		
759	Sra02 北半部	Ⅲ区	弥生土器	製埴土器	-	4.8	-	長石・石英(中)多	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	オサエ、ナリ	ナリ、オサエ	脚部7/8		
760	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	19.0	-	-	石英・角閃石(細)、雲母(細)少、 長石・石英・雲母(細)多、角閃石(細) 少	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄 10YR6/3	ヨコナリ、刻目、ナリ、ハケム	ヨコナリ、ハケム、オサエ	口縁部1/8		
761	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	22.6	-	-	長石・石英(細)少	にぶい黄橙 7.5YR6/4	にぶい黄 7.5YR6/4	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部1/8	下川津B類?	
762	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	18.0	-	-	長石・石英(細)少	にぶい黄橙 2.5YR6/3	にぶい黄 2.5YR6/3	ヨコナリ、板ナリ、ナリ	ヨコナリ、板ナリ、ナリ	口縁部1/8		
763	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	14.0	-	-	長石(中)、石英(中)少	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	ヨコナリ、オサエ後ナリ	ヨコナリ、オサエ後ナリ	口縁部1/8		
764	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	-	-	-	長石・石英(中)多	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	ヨコナリ、ハケム	ヨコナリ、ハケム、ナリ	頸部8/8		
765	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	11.8	13.1	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、ハケム、オサエ	ヨコナリ、ナリ、ハケム	口縁部1/8		
766	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	-	6.7	-	長石・石英・雲母(細)	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	オサエ後ハケム、ナリ	ハケム、ナリ	底部8/8		
767	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	壺	9.0	-	-	長石・石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナリ、ナリ	ナリ、ハケム?	口縁部3/8	穿孔1(2個中トカ?)	
768	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	15.0	-	-	長石・石英(細)少、雲母(中)多、角閃石(細)	にぶい黄橙 7.5YR5/4	にぶい黄橙 7.5YR5/4	ヨコナリ、ハケム、オサエ後ヘラカスリ	ヨコナリ、オサエ、ヘラカスリ	口縁部2/8	下川津B類類似	
769	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	15.8	-	-	長石(中)少、雲母(中)	黒 7.5Y2/1	にぶい黄 7.5YR5/4	ヨコナリ、ハケム後ナリ	ヨコナリ、ヘラカスリ	口縁部1/8	下川津B類類似	
770	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	16.8	-	-	長石(細)少、雲母(細)多、角閃石(細)	にぶい黄 7.5YR5/4	にぶい黄 7.5YR5/4	ヨコナリ、ハケム	ヨコナリ、オサエ、ヘラカスリ	口縁部小片	下川津B類	
771	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	19.2	-	-	長石・石英(中)少、雲母(細)多	にぶい黄 7.5YR6/4	褐灰 7.5YR4/1	ヨコナリ、板ナリ	ヨコナリ、板ナリ、ヘラカスリ	口縁部2/8		
772	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	14.0	-	-	長石(粗)、石英(細)少	にぶい黄 7.5YR7/4	にぶい黄 7.5YR7/4	ヨコナリ、オサエ	マメ	口縁部2/8		
773	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	土師器	甕	20.6	-	-	石英(中)少、雲母(中)多	黄褐 2.5YR5/3	暗灰N3/	ヨコナリ、オサエ後ナリ	ヨコナリ、オサエ後ナリ	口縁部1/8		
774	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	16.0	-	-	長石・石英・雲母(細)少、角閃石(中)少	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい黄 7.5YR5/4	ヨコナリ、凹線2条	ヨコナリ	口縁部1/8		
775	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	15.4	-	-	長石・石英(細)少、雲母・角閃石(細)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	ヨコナリ、ハケム	ヨコナリ、オサエ	口縁部1/8		
776	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	14.9	-	-	長石(中)、石英(細)	にぶい黄橙 7.5YR7/4	にぶい黄 7.5YR7/3	ヨコナリ、ヘラカスリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部1/8		
777	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	15.2	-	-	長石・石英(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄 7.5YR7/4	ヨコナリ、ナリ	ヨコナリ、ナリ	口縁部2/8		
778	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	14.6	-	-	石英(中)少、雲母(中)	にぶい黄 7.5YR5/4	明赤褐 5YR5/6	ヨコナリ、オサエ後ハケム	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ後ハケム	口縁部2/8		
779	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	-	3.9	-	長石(粗)、石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ハケム	ハケム、ナリ	底部8/8		
780	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	甕	-	4.0	-	長石(中)少、石英(粗)少、雲母(細)多	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄 7.5YR6/4	ナリ後ハケム、ナリ	ヘラカスリ後ハケム	底部8/8		
781	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	高杯	-	-	-	長石(中)、石英(細)少	にぶい黄 7.5YR7/4	にぶい黄 7.5YR7/4	ヨコナリ、ナリ、マメ	ヨコナリ、ハケム、ナリ、マメ	口縁部小片		
782	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	高杯	27.0	-	-	長石(中)、石英(細)少、雲母(細)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄 10YR7/3	ヨコナリ、凹線4条、ナリ後ナリ	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ	口縁部1/8		
783	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	高杯	-	18.0	-	長石・石英(細)、雲母・角閃石(細)少	にぶい黄 10YR5/3	にぶい黄 10YR5/3	ヘラカスリ、ヨコナリ	ヘラカスリ	脚部2/8	下川津B類	
784	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	鉢	25.6	-	-	長石・石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄 10YR6/3	ヨコナリ、ナリ、ヘラカスリ	ヨコナリ、ヘラカスリ	口縁部2/8		
785	Sra02 南半部	Ⅰ区・南 水路③	弥生土器	鉢	13.8	7.7	4.3	長石(粗)少、石英(中)少	にぶい黄 5YR6/4	にぶい黄 5YR6/6	ナリ、板ナリ?	ナリ、ハケム、板ナリ	底部8/8		

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	器高		外面	内面	外面	内面		
786	SRa02 Ⅰ区南 前半部 水路③	Ⅰ区南 水路③	灰色砂	弥生土器	台付鉢	-	4.6	長石(中), 石英(粗)	にぶい燻7.5YR6/3	にぶい燻7.5YR6/3	ナリ	底部8/8		
787	SRa02 Ⅰ区南 前半部 水路③	Ⅰ区南 水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甌	17.0	-	長石(中), 石英(中少)	にぶい黄燻 10YR5/3	オサエ後ハナメ	ナリ	口縁部2/8		
788	SRa02 Ⅰ区南 前半部 水路③	Ⅰ区南 水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甌	17.6	-	長石(粗), 石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄燻 10YR6/3	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部3/8		
789	SRa02 Ⅰ区南 前半部 水路③	Ⅰ区南 水路③	灰色砂 下部	弥生土器	甌	-	3.2	長石(中)少, 石英(中), 雲母(細)少	灰黄 2.5Y6/2	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	底部8/8	穿孔2穴	
796	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	壺	16.0	-	長石(細)少	にぶい黄燻 2.5Y6/3	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部2/8		
797	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	壺	16.3	9.4	長石(細), 石英(中)多	明赤燻7.5YR5/6, 灰白10YR8/2	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	底部8/8	黒斑	
798	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	壺	-	-	長石・雲母(細)少, 石英(中)少	灰黄燻10YR5/2	板ナリ	ハナメ	底部5/8		
799	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	壺	-	-	長石(中)少, 石英(粗)少	にぶい黄燻 10YR6/4	ハナメ	ハナメ	底部3/8	焼成破損	
800	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	14.6	30.0	長石(細), 石英(中), 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	6/8	下川津B類	
801	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	14.0	-	長石(粗), 石英(中)少, 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部3/8	焼成破損, 下川津B類	
802	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	12.8	23.5	長石・石英(中), 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部5/8	下川津B類	
803	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	14.4	-	長石・石英(中), 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部2/8	外面に煤付着, 下川津B類	
804	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	13.8	-	長石・石英(中)少, 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部1/8	外面に煤付着, 下川津B類	
805	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	10.4	14.4	長石・石英(粗)	燻5YR7/6	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部8/8		
806	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	15.4	16.1	長石・石英(中)	燻5YR6/6	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	底部8/8	焼成破損	
807	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	-	4.3	石英(中)少	にぶい黄燻 10YR7/3	板ナリ	オサエ後ハナメ	底部8/8		
808	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	17.6	-	長石(細)少, 石英(粗)少	にぶい燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部8/8		
809	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	15.2	-	長石(細)少, 石英(中)少	明赤燻5YR5/6	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部1/8	外面に煤付着	
810	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	15.4	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄燻 10YR7/3	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部2/8		
811	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	13.4	-	長石・石英(細), 雲母(中)少	灰黄燻7.5YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部1/8	下川津B類	
812	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	17.2	-	長石(粗), 石英(中)少, 雲母(細)少	灰黄2.5Y6/2	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部1/8		
813	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	高杯	-	-	長石(細)多	にぶい黄燻 10YR6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	5/8		
814	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	高杯	-	21.0	長石・石英(雲母(細)少, 角閃石(細))	にぶい黄燻 10YR5/3	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	脚部2/8	穿孔1, 下川津B類	
815	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	鉢	17.0	-	長石・石英(粗)多, 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR7/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部3/8		
816	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	鉢	15.0	8.8	長石・石英(細), 雲母(細)少	にぶい燻7.5YR5/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	完存		
817	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	鉢	11.8	6.3	雲母(中)少	にぶい黄燻 10YR6/3	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	底部8/8		
818	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	鉢	21.4	5.8	長石・石英(中)少	燻7.5YR6/6	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	3/8		
819	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	-	10.0	長石・石英(粗)	にぶい黄燻2.5Y6/4	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	底部8/8		
820	SRa03 A 群	Ⅲ区	第25層暗灰色粘土	弥生土器	甌	18.6	-	長石(細)多, 石英(粗)	灰黄燻10YR6/2	オサエ後ハナメ	オサエ後ハナメ	口縁部2/8	内・外面に黒斑	

報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考	
						口径	器高		底径	外面	内面	外面			内面
821	SRa03	I区・南水路③	灰色砂層TR北壁の16層	弥生土器	壺	14.0	19.6	5.7	長石・石英(中)多	にぶい黄橙 10YR6/3, 赤 10R5/6	にぶい黄褐 10YR6/3, 赤 10YR5/4	ヨコナテ, ハケ後ナテ, ハケ後ナテ	ヨコナテ, オサエ後板ナテ	底部8/8	
822	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	13.4	-	-	長石・石英(粗), 雲母, 角閃石(細)	にぶい黄 2.5YR6/3	にぶい黄 2.5YR6/3	ヨコナテ, オサエ後ナテ, ハケ後ナテ	ヨコナテ, オサエ後板ナテ, ナテ, ハケナテ	口縁部7/8	
823	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	14.1	-	-	長石(中), 石英(中)少	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	ナテ, ハケナテ, マツ	ナテ, オサエ後ナテ	口縁部2/8	
824	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	23.4	-	-	長石・石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ヨコナテ, 凹線3条, ハケナテ	ヨコナテ, ハケナテ, オサエ	口縁部5/8	
825	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	15.5	11.0	-	長石・石英(粗)多	にぶい黄 7.5YR6/4	にぶい黄 7.5YR6/4	ヨコナテ, 板ナテ?, ハケ後ナテ, ハケナテ	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	口縁部1/8	
826	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	15.8	-	-	長石(粗)少, 石英(細)少	橙 7.5Y7/6	橙 7.5Y7/6	ナテ, ナテ後ハケナテ	ナテ	口縁部小片	
827	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	20.6	-	-	長石・石英(粗), 雲母(細)少	にぶい黄 7.5YR6/4	にぶい黄 7.5YR6/4	ヨコナテ, 凹線2条, ハケナテ	ヨコナテ, オサエ後ハケナテ, ナテ	口縁部1/8	
828	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	18.8	-	-	長石・雲母(細), 石英(粗)	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	口縁部4/8	
829	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	-	-	-	長石(粗)多, 石英(粗), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ハケナテ, ハケナテ	板ナテ後ナテ, オサエ, ハケナテ	頸部6/8	
830	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	-	-	7.9	長石・石英(粗)多, 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ハケナテ, ハケナテ, オサエ	オサエ, ナテ, ハケナテ	底部8/8	
831	SRa03	I区・南水路③	青灰色粘土	弥生土器	壺	15.6	-	-	長石(粗), 石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR6/2	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	ヨコナテ, 板ナテ, オサエ, ナテ	口縁部2/8	
832	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	-	-	5.5	長石(細), 石英(粗)	にぶい黄 7.5YR7/4	にぶい黄 7.5YR7/4	ハケナテ, ナテ	ナテ	底部8/8	
833	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	8.3	10.8	3.3	長石・石英(細)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 7.5YR6/4	ヨコナテ, ナテ, 板ナテ, オサエ, ハケナテ	ヨコナテ, ナテ, ハケナテ, オサエ	7/8	
834	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	8.2	14.8	5.0	長石・石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナテ, ハケナテ, ハケナテ	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	完存	
835	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	-	-	-	長石(細)少, 石英(中)少	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, 縁ナテ, ハケナテ	ヨコナテ, 貼付突帯刻目, 波状文	口縁部小片 穿孔穴	
836	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	15.2	-	-	長石(粗)多, 石英(中), 雲母(細)少	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ヨコナテ	ヨコナテ	口縁部1/8	
837	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	14.0	-	-	長石(粗), 石英(中), 雲母(細)少	浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/4	ナテ, ハケ後オサエ, ハケナテ	ナテ, ナテ後オサエ	口縁部1/8	下川津5類に類似
838	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	20.9	-	-	長石(中), 石英・角閃石(細), 雲母(細)少	にぶい黄 7.5YR6/4	にぶい黄 7.5YR6/4	ヨコナテ, ハケナテ, ハケ後ナテ	ヨコナテ, オサエ, ハケナテ	口縁部8/8	下川津5類
839	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	12.4	-	-	長石(粗)多	にぶい黄 7.5YR6/4	にぶい黄 7.5YR6/4	ヨコナテ, ハケナテ	ヨコナテ, ハケ後オサエ, ハケナテ	口縁部6/8	
840	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	16.0	-	-	長石(中)多, 石英(粗)少	にぶい黄 7.5YR5/3	にぶい黄 7.5YR5/3	ヨコナテ, ハケナテ, マツ	ヨコナテ, オサエ, ハケナテ	口縁部2/8	
841	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	13.2	26.2	4.9	長石・石英(粗)多, 雲母(細)少	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	ヨコナテ, ハケナテ, オサエ, ナテ	ヨコナテ, オサエ, ハケナテ	底部8/8	焼成破損
842	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	-	-	4.0	長石(中), 石英(中)多	黒2.5GY2/1	にぶい黄橙 10YR6/4	ハケナテ	オサエ後ハケナテ	底部4/8	
843	SRa03	I区・南水路③	青灰色粘土	弥生土器	壺	14.7	-	-	長石・雲母(細)多, 石英(粗)少	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	ヨコナテ, ハケナテ, オサエ	ヨコナテ, ハケ後ハケナテ	口縁部6/8	
844	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	16.7	-	-	長石・石英(粗)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ヨコナテ, ハケナテ	ヨコナテ, オサエ, ハケナテ	口縁部1/8	
845	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	4.0	-	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ナテ, オサエ後ハケナテ	ナテ, ハケナテ, ナテ	底部8/8	
846	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	14.2	-	-	長石・雲母(細), 石英(細)少	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄 7.5YR5/3	ヨコナテ, ナテ, ハケナテ	ヨコナテ, ハケナテ	口縁部3/8	
847	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	15.0	16.4	6.8	長石(粗)多, 石英(粗)	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	ナテ, ハケナテ	ナテ, ハケナテ	底部8/8	焼成破損
848	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	16.1	21.6	6.4	長石(細)多, 石英(中)少	にぶい黄 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	ヨコナテ, 板ナテ後ハケナテ, ナテ	ヨコナテ, ハケナテ, ナテ	7/8	
849	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	壺	19.2	23.8	8.0	長石・石英(細)	橙 7.5Y7/6	橙 7.5Y7/6	ヨコナテ, ハケナテ, 板ナテ, ナテ	ヨコナテ, ナテ, ハケナテ	口縁部7/8	



報告番号	報告遺構名	調査区	層位	種類	機種	法量		胎土	色調		調整		残存率	備考
						口径	高さ		外面	内面	外面	内面		
850	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甕	-	8.4	長石(中)、雲母・角閃石(細)少	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR6/4	へろカキ、ナデ	底部8/8	下川津B類	
851	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甕	-	4.8	長石(中)、石英・雲母・角閃石(細)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	へろカキ	底部6/8	下川津B類	
852	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甕	-	3.4	長石・石英(中)	にぶい黄橙10YR6/4	へろカキ	オサエ後へろカキ後ナデ、オサエ後ナデ	底部6/8	焼成破損	
853	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甕	-	7.0	長石・石英(細)	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	オサエ、ナデ	底部5/8		
854	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	甕	24.2	-	長石(中)、石英(中)少	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ、オサエ、ナデ	口縁部小片		
855	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	24.0	-	長石(細)多、石英・雲母(細)少	にぶい黄橙10YR5/3	にぶい黄橙10YR5/3	ヨコナデ、へろカキ	杯部8/8	下川津B類	
856	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	27.0	-	長石・石英(中)、雲母(細)、角閃石(細)少	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナデ、へろカキ	杯部1/8	下川津B類	
857	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	25.2	-	長石・石英(中)多、雲母(細)少、角閃石(細)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ、へろカキ	口縁部1/8	下川津B類	
858	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	29.0	-	長石・石英(中)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ、へろカキ	口縁部1/8		
859	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	-	16.4	長石(細)多、石英(中)少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	絞リ痕、へろカキ、ヨコナデ	脚部7/8		
860	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	-	16.8	長石(中)少、石英(細)少、雲母・角閃石(細)	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ナデ、へろカキ、ヨコナデ	脚部1/8		
861	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	-	9.6	長石・石英(細)、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	へろカキ後ナデ、へろカキ、ヨコナデ	脚部2/8	穿孔3穴	
862	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	-	17.0	長石(細)、石英(中)	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	ナデ、へろカキ、ヨコナデ	脚部7/8	穿孔4穴	
863	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	高杯	-	-	長石(細)多、石英(中)、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	マツ、絞リ痕、ナデ、へろカキ	脚部8/8	穿孔3穴	
864	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	鉢	43.6	-	長石・石英・角閃石(中)、雲母(中)少	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ、へろカキ後へろカキ	口縁部1/8	下川津B類	
865	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	台付鉢	13.7	8.6	長石・石英(中)少	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙7.5YR6/4	ナデ	口縁部7/8		
866	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	鉢	29.9	14.5	長石(細)少、石英(中)少	淡黄橙10YR8/4	橙7.5Y7/6	ヨコナデ、ナデ、板ナデ後ナデ	7/8		
867	SRa03	I区・南水路③	青灰色粘土	弥生土器	甕	21.2	26.0	長石(中)、石英(中)少	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナデ、ナデ、板ナデ	口縁・底部8/8		
868	SRa03	I区・南水路③	淡黒色粘土	弥生土器	台付鉢	12.7	8.8	長石(中)少、石英(中)	淡黄 2.5Y7/3	淡黄 2.5Y7/3	ナデ、へろカキ後ナデ、オサエ後ナデ	底部7/8		
869	包含層	I区・南水路③	南壁の36層	弥生土器	壺	14.9	31.6	長石(細)多、石英(細)少、雲母(中)、角閃石(中)多	にぶい黄橙10YR6/4	橙7.5YR6/6	ヨコナデ、へろカキ後へろカキ、へろカキ	6/8	下川津B類	
870	包含層	I区・南水路③	黒色砂混粘質土	弥生土器	壺	13.9	-	長石(中)、雲母(細)多、角閃石(中)多	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	ヨコナデ、ナデ、絞リ痕、へろカキ	口縁部8/8		
871	包含層	I区・南水路③	包含層	弥生土器	壺	8.1	-	長石(中)多、石英(細)多、雲母(細)少	灰白色2.5Y7/1	灰白色2.5Y7/1	ヨコナデ、ナデ	口縁部2/8		
872	包含層	I区・南水路③	包含層	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)少	灰黄2.5Y6/2、橙2.5YR7/6	灰黄2.5Y6/2	ヨコナデ	口縁部小片		
873	包含層	I区・南水路②	包含層	弥生土器	壺	-	-	長石・石英(細)	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	へろカキ、ナデ	頸部5/8	線刻	
874	包含層	I区・南水路③	南壁の36層 No.2	弥生土器	壺	-	4.0	長石・石英(中)	にぶい黄橙7.5YR7/4、赤褐2.5YR4/6	にぶい黄橙10YR6/4	ナデ、板ナデ、オサエ	体部8/8	絵画土器、焼成破損	
875	包含層	I区・南水路③	包含層	弥生土器	甕	-	-	石英(細)多、雲母(細)少	にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/3	マツ、欄描直線文、刺突文、へろカキ	口縁部小片		
876	包含層	I区・南水路②	包含層	弥生土器	甕	-	-	長石・石英・雲母(細)	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	ナデ	口縁部小片		
877	包含層	I区・南水路②	包含層	弥生土器	甕	-	-	長石(中)多、石英(粗)多	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	ナデ、刺突文、マツ	口縁部小片		
878	包含層	I区・南水路②	包含層・暗褐色粘質土	弥生土器	甕	36.6	-	長石(中)、石英(細)少	にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/3	ナデ、マツ	口縁部小片		